# 日米必戰論

（原名無智の勇氣）

# 日米必戰論

（原名無智の勇氣）

# 例言

一、本書は現今米國に於て喧傳せらるゝ文學的軍事上の一大著述にして、其刊行既に數十版に上り、英國を始め他の歐洲諸大陸にも風行しつゝあり。

一、本書の大意は頃日米國大統領タフト氏の下したる教書並に現今米國に於て專ら唱道せらるゝ所の國防は不完全なりとの説に一致す。

一、米國の一般製造工業者は本書の刊行を其好機會として大に兵器軍艦等自己の製作に資せんとして活動を始めたり。

一、原文を意譯するに當り其一言一句を苟くもせず敢て誤謬なからんことは譯者の切に希望せし所なり、然れども本書の文學的趣味は寧ろ行文の含蓄最も深く、字句險澁にして咀嚼し難き所に存す、故に往々數句若くは一段落の間に於

て其全意を概見する能はざるものあり。

一、本書上下兩編二十一章、上編は之を哲學より說き起しダルビンの適種生存の原則を敷演し、日米兩强國の衝突の免るへからさる理論を辯し、下編は主として將來に起るべき日米の必戰を豫想して痛論せり。

一本書は十二月六日を以て其稿を起し三十日を以て終る憾むらくは此短時日に於て未だ其行文の妙を描寫する能はざることを、又軍事上の術語の如き之を專問の士に問ふに遑あらざりしは是れ譯者の最も遺憾とする所なり。

一、本書原名は題して『無智の勇氣』と云ふ、其全編の目的とする所は日米兩國の將來に起るべき大衝突に在り。去れば譯者其全體の目的を一見明瞭ならしむるが爲め更に之を『日米必戰論』と改稱す。

明治四十三年十二月卅一日

譯者識

# 小引

本書はポーツマウス條約調印後間もなく脱稿したるものなり、而かも立論及び結論の是非を證明するに必要なる時日を假らんと欲して筐底に藏めて今日に及べり。枝葉の細目に就て多少の更正を加へし外、總て曩に起稿せるものと同一なり。爾後の出來事は當時に於ける余の確信を證明したるを以て、余は本書を世人に提供するを正當なりと思惟するなり。

千九百九年三月　　ホーマー、リー

---

## 合衆國前陸軍參謀長退職陸軍中將　アドナ、アール、チャフィー氏の序

著者足下、『無智の勇氣』余之を歡迎す。

原稿を反覆一讀したる結果、吾人は本書出版の曉、其必ず我國の中央政府、及び各州政府の官吏、並に多數在野の識者に對し興味を與ふることの甚大なるべきを信ず。即ち是等の人々は、本書の二十一章中に提供せらるゝ『續き書』の如き、重要なるものは未だ曾て見しことなかるべければなり。思ふに米國に於て出版せられ

たる軍事的文學中、本書の如く合衆國の歴史、及び戰爭の學術を研究する人々の注意を喚起すべき價値あるものは、他に之れあらざるべし。而して米國の政体は『人民のもの、人民の爲に、人民に依て』といへる主義の上に立てるものなれば、本書に於て他の重大事件と同じく國家の軍事を左右する人民を警め『自らを知れよ』との忠告を與へたるは、實に其當を得たるものなり。

抑も合衆國が外國の襲擊を受くるの機會なしといふ一般の信念は悉く『出鱈目』なり。此言極めて野卑ならんも、寧ろ能く吾人の目的を言明したるものなり。之を要するに如何なる國にても合衆國の如く外國の攻擊に幾多の機會を與ふるものはあらざらん、海上に於て米國の抵抗を排除すべき準備を爲すに足るべき重大なる原因あらば、米國は必ずや彼等の侵略する所とならん。世界は一の大なる舞臺にして多數の役者は其上に立てり、ポーカーの『カルタ』遊びに於て、スペートの全部が一人の手に來る時、勝利は彼の手に歸すべし。列國民はやがて『カルタ』を弄ばむ、而して太洋を隔てたる外國に於て我手に在る三個の札に對し、充分なる準備を爲すの餘地あるべし、三個の札とは海軍、海岸要塞、及び民兵是なり。

米國が世界の戰爭的賭事に於て動員すべき兵力は、極めて尠きを以て殆んど無用

の札に類するなり。されば戰爭の遊びに於てポーカーの『カルタ』遊の如く『手を見せよ』と攻めらるゝ場合には、民兵は何の用をかなすべきや、此時は既に『一時借りの借用證』は貨幣の價値を失ふ時なり。此場合に於て民兵は果して死地に乘込むべきや、苟も戰鬪に關する民兵の價値を信ずるものあらば、著者足下が引用せる華盛頓の文字に注目せよ、吾人は其勞を省かんが爲め玆に之を抄出せん。曰く

『常備軍のみ近代戰爭の攻守兩戰に關する出來事に對抗し得べし、若し之に他の代用を試むるも是れ空虛にして失敗に終らんのみ』

『如何なる民兵も常備軍に抵抗するに必要の習慣を養成し得ざるべきなり、實戰に必要なる堅固の態度は、不斷の訓練に依てのみ養成するを得べし』

『余は之に對し異論を挾むべき一例證だに發見せざるなり、されば今後斯の如き危險なる防禦力に、米國の自由を一任せられざることを熱心に希望せざるを得ず』

吾人は我國民兵の軍事上の熱心と經驗とを蔑視するが故に、華盛頓の此一句を引用するものに非ざるなり、何となれば如何なる小努力と雖も吾人を助くるを得ればなり、されど民兵の組織を可能ならしむる所の一致の感情は、寧ろ社交的のものの

にして更に一層眞面目の感情、即ち國家に對する義務の觀念より發するに非ざることは、何人も能く知る所なり。蓋し華盛頓の言は今日尚ほ實施せらるゝ方法と同一の陸軍募兵法の下に募集せられたる義勇兵の狀態を指摘したるものなるか故に、其言は當時にも今日にも適用するを得べきなり。

此等の言は今日の事情に適用して眞實なるが如く、未來永刧にも亦華盛頓か其國人を欺く人に非ずとせられ、其大なる經驗と聰明とにより、將來の危險を戒めたりとせられ、國民に敬慕せらるゝ間必ず眞實ならん。

華盛頓は今日行はるゝ流行說の意味に於て、海岸防禦の爲め要塞建設の必要を主張したる人に非ず。固より其時代に少數の城砦あり、猶今日に至り多數に增加せる城砦の如く、敵の注意をして之を發見するに困難ならざる傍道の上陸地に轉せしむるの用を爲せり。敵軍にして米國を攻擊せんとするや、先つ上陸地を求めて上陸するならん。今や各國の攻擊的兵備は非常に進步せり、若しも全能の神が敵軍よりも偉大なる働を爲して海濤を左右し、敵の目的を妨ぐる場合もあらばいざ知らず、然らざれば敵軍は必ず上陸し得ん。而して一たび上陸することありとせん乎、訓練せられし陸兵の外は、敵軍が我供給線路を遮斷するを妨け得るものあらざ

るべし。而かも一たび敵軍にして我供給線を遮斷し得んか、合衆國に於ける第一流の都會も、亦其城砦も忽にして降服せんのみ。蓋し世界に於ける幾多の都會も是れと同一の場合には同一の運命に陷らん。されば海岸防備は今日の狀態にて足れり、何故に尙ほ幾百萬弗を無用の事業に投せんとする乎。思ふに要塞增設の辯護として一國防主張者なる軍人は云へり、海軍防備は二個の目的を達す、第一經驗に依り巨砲を製造するの學術を保存進步せしむること。第二陸軍工兵の熟練を證明すること。

重大なる戰爭に對し訓練なき兵力に依賴する事は、大なる過ちなりとの結論に達せんか、吾人は容易に國民が斯くも海岸防備に依賴するの理由を發見するを得べし。蓋し國民は此國が無盡藏の自然の富源を有し、且つ人工的に驚くべき富を作りしを以て、甘じて防備費を投せんとするなり。即ち國民は戰爭に伴ふ一切の事項に對し、進んで金錢を投ずるの覺悟あればなり。

されど戰爭に於て金錢が萬能力たりといふ、普通の信念は大に變更せざるべからず。蓋し最も大切のことは凡ての男女が軍事を愛し、平時及び戰時を問はず其義務を感ずる事是なり。從來貧弱なる或る國が優勢の國と戰ひ殆んど破產するま

で尙ほ屈せざりし例は決して尠しとせず。現に吾人の目前にも多年戰ふべき理由(事實なりや想像に過ぎざりしやは別問題として)に依り勇敢なる人々が起ちし際の如き彼の一大富力は之を威壓するに足らざりし一例(譯者曰く日露戰役を指す乎)あるに非ずや。該戰爭は一人種の權利を發展せんとするに對し、之を制限せんとするの結果として起れるものなり、海牙會議の如きも到底之を止め得べからざりしなり。

貴著上編の後半は戰爭を誘起すべき問題を論じ其說智慮に富めり。米國市民及び各州議員等は、貴說と同一の見解により、米國の天地及び榮光を眼界に收容する所の政治家の指導に從ふは、最も能く國の爲めに盡す所以なることを知らん。夫れ林檎の甘酸を知るに最も能き方法は之を食するに在り、一見以て如何はしき林檎は忽ちにして之を檢出すべし。

本書上編の數章は吾人の見る所を以てすれば、下編に在る『林檎』を食せむが爲めに自然に之に近づく階梯を示せるなり、而して讀者は本文と地圖とを綿密に研究して其甘酸を味はざるべからず。

米國人は一般の軍事に冷淡なるを以て陸軍の價値及び其目的を知らず、多くの讀

者は林檎の味を佳美なりとせず、其無智の勇氣を振て足下の我が實際及び將來の軍事的立脚地に就て、充分に證明せし問題に對し、或は答へて云はむ、請ふ敵をして其爲す所を試みしめよ、吾等も亦何事を爲し得べきかを示すを得んと。政治家及び所謂軍事通は、ナポレオンの格言を繰返すならんか、曰く國家の境界は大河川に非されば山脈、然らざれば沙漠なり。軍隊の進軍に取りて是等の障害物中最も困難なるものは沙漠にして次は山嶽なり、廣き河川の如きは第三位に在りと。

吾人は此序文の末尾に於て貴著中の一二句を引用するを適當なりと思ふ、曰く『國民は個人の混合團体なるが故に活動の動機となり、又は個人の一部分を爲す所のものは廣き意味にて云へば、國民活動の動機と爲り又は國民の一部分を爲すなり』

『國民をして誤謬より脱せしめんとせば、須らく其智識を開發せしむるを要す、個人が眞理を認め得る程度に從ひ、國民も亦た亡滅に導かるべき虚榮心よりして免ることを得べし』

合衆國退職陸軍少將　ジエー、ピー、ストーリー氏序

「無智の勇氣」とはホーマー、リー氏の作に係る有名なる著書の表題なり、されど此表題は本書の目的の範圍を示さゞるなり、但し本書は軍事的著述にして合衆國の識者にして愛國者たるものは、必ず精讀せざるべからざる所のものたり。

本書は二編に區別せらる、上編は歴史の先例に依て證明せられたる人生不變の性情に基つき、一種の哲理的演繹を爲せるものなり。人類が其原始の野蠻狀態より進化して今日に至れる經過を見るに、宛かも引力の法則の如く不變なる法則に從ひ來れるを知るなり、如何なる國民と雖も武力を以て安全を護らざれば決して平和の祝福を被る能はず、國民にして物質的に富裕ならんか、是れ一層或る尙武的人民の手に落るの危險を加ふるものなり。間斷なき平和と獨立とは常に高價なり、されど其價格は不當ならず。

或る少數の理想家は、文明の進歩と共に戰爭及び其驚怖すべき事態の止むべきを想像すれども、文明の進歩は人性を變化せざるなり、而して人性は戰爭をして避くべからざるものたらしむ。

抑も人の性情が全然變化するまでは、地球上の戰爭は到底止む時なからん、平和を賞讃する言語は國家の防禦に何等の價値なし、平和の福音を餘りに八ケ間敷唱へ

んか、却て軍事上の必要に應ずる努力を麻痺するに至らんも知るべからず。

有史以來平和を最も、熱心に愛せしものは支那人なり、而して支那は今や如何なる代價を拂ふも平和を欲するてふ主義の論理的報酬を受けつゝあり、今の漢民族は滿洲人に隷屬し、國の運命は外人たる滿族に支配せられ其最も美麗なる沿岸の領土は無情にも更に外人に奪取せられたり。

歐洲中基督教を以て誇る各國も、從來亞細亞及び亞弗利加に於て、土人より酷薄なる多大の貢賦を要求したること、宛かも中古時代の盜賊的豪族の非道なる行爲に似たるものあり。

我合衆國に於ても亦一世紀間に亘れる不名譽の歷史は、承服せざる民族(土人)より領地を奪取して殆んど寸土をも餘さゞりしを示す、又過去十年間に我國はヒリッピン群島の反亂を鎮壓せり、然るに此反亂は米國の獨立よりも更に正しき理由を有したりき、蓋しヒリッピン人の立脚地より見れば言語、風俗、宗教を異にせる外國の支配より脱せんとの熱心なる希望に基づけるものなればなり。然るに米國は其名譽に對し又人類の利益に對し合併の行動を取ること能はざりき。

本書の下編は上編に於ける原則を合衆國の現狀に對し論理的に適用したるもの

なり、リー氏の公にせる論據にして確實ならんか(吾人は其然るを疑ふべき理由を有せず)獨逸にして若し太西洋上の主權を握らば、二週間以内に我東海岸に向て二十五萬の大兵を上陸せしむるを得べし。

今や日本は太平洋上の主權を有せり、一旦開戰の上は米國は充分なる石炭運搬船隊を組織し得るまでは日本と雌雄を爭ふ能はず、日本は三ヶ月以内に太平洋沿岸に向つて四十萬の軍隊を輸送し而して殆んど何等の抵抗を受けずしてシアトル、ポートランド、サンフランシスコ、ロスアンゼルスを占領するを得ん。

日本一たび太平洋沿岸に據らん乎、山岳及び曠原の保障は東方よりの攻擊に對し最好の城壁たるべし、而かも米國は只此方面よりして、其失へる領地を回復すべく企圖するを得べきなり。

地球上に於て防禦力の尠なき又富裕の捕獲物としては、未だ曾てヒリッピン、布哇、パナマ運河、アラスカ及び太平洋沿岸の諸州の如きはあらず。

リー氏は曾て東洋に淹留せしことあり、最も注意して此問題を研究し、明かに黃禍の恐るべきを認む。されど今を距る約六十年前、合衆國の特使は、左手に橄欖の枝を持ち、右手に拔き放ちたる劍を提げて、海圖なき日本の沿岸に到着せり。此時に於

てパンドラの箱(譯者曰く希臘神話に依れば最初の土人パンドラは、神より一の箱を授けられ之を開きたるに忽ち總ての幸福は飛去れりと云ふ)の蓋は開かれ、米國人民は熱心に之を拍手喝采せり。

著者が米國一般の沿岸防備問題に關し、海岸要塞の眞の價値に就て、正當の見解を有するは實に驚嘆に値す。蓋し要塞の唯一の作用は直接に敵艦の襲擊に對して港灣を防禦せんとするに在るのみ。上陸するに堪ゆる有力なる敵軍に對しては要塞は何等の防禦力なく、寧ろ我が弱點たるべき場合なきに非るべし。例せば旅順の露軍に於ける如し。又リー氏が華盛頓の戰時に民兵を使用するを不可とせる莊重なる警告に對し、大に世人の注意を喚起せしは國家に對する一大貢献なりとす。過ぐる一百二十五年間に於て、米軍の失敗及び屈辱は、華盛頓の判斷の確實を證明せり。

民兵組織の方法は實に其効力を滅亡すべき癌腫なり、單に民兵の名稱を變ずるのみにして從來の組織を存置せば、到底本來の無効力の呪ひを免るべからず。リー氏は米國の安全、及び其平和と幸福とを危險ならしむる所の若干の狀態を明かに指摘せり。

リー氏の著述を忠實に而かも公平なる精神を以て熟讀せば必ずや何人も氏と同一の結論に達すべきなり。

本書が米國の輿論を喚起して、今日最早無視するを得ざる此重大問題に關し、充分に眞面目なる研究を誘致するに至らんことを希望せずんばあらず。

尚武的精神の衰微及び西半球の支配權(モンロー)

合衆國の權利及び利害に深き關係ある主義として今後亞米利加兩大陸を以て歐洲諸國の將來の殖民地と認むるを許さず、吾人は公明を好むか故に且つ合衆國と該諸強國との間に友誼的關係の有するを認むるか故に、吾人は玆に該諸國が若しも其系統(譯者曰政治系統若しくは國家的權勢と云ふの意)を此兩大陸の如何なる部分に向つてなりとも擴張せんと試むることありとせば、吾人は此擧を以て吾人の平和及び安寧に危險なるものと見做すべきことを宣言す。

謹んで本書を、イリユー、ルート卿に献ず

# 日米必戰論目次

## 上編

下編

# 日米必戰論 上編

## 第一章

望月小太郎譯

人の信念の千態萬狀なるは、宛かも地球上の過去現在に生滅せる人類の無數なるが如し。蓋し人の信念なるものは、固と一秒時間に過ぎざれども、尙ほ其瞬間に於て、之を是認し、之を否定し、若くは之を疑惑しつゝあり。斯く人類の見解の區々なるが故に、論爭と誤謬とは常に寰宇に充滿し、幾多の一時的理想は、或は建設せられ、或は破壞せられ、誤り易き法律、憲法、若くは鬼神をも作出するに至る。

抑も眞理は、科學以外に於て之を全知すべからず。唯其見解に近づくを得べきのみ。而して十分之に近接せんとするには、主として經驗的智識と誤謬拋き演繹とに據るのみ。即ち吾人が愛憎の念を去りて、公平の心を把持するに在り。

斯る見解の下に於て吾人は本書を著はさんと欲す。故に讀者は豫め其贊否愛憎の觀念を去りて、虛心坦懷に本書を靜讀せられんことを望む。何となれば吾人の

將さに論述せんとする所は、頗る讀者の感情を刺激すべきものにして、讀者の見解如何によりては、大なる賛同をも受くべく、又大なる反對にも遭ふべしと思惟すればなり。

讀者にして若し公平なる觀念を把持せずんば、其見解は徒らに吾人が所說の眞理を曲解するのみならず、吾人の所說に反對せんとする理由すらも發見せずして已むに至るべし。公平にして完全を求むる人は、感情を一方に固執せしめず、能く人類一般の精神を以て自己の見地となし、以て冷靜に世間一切の事物及び一時的諸般の制度を觀察し、濫りに感情を激動せしめず、凡ての人類に對するに同一の尊敬と斟酌とを以て之に莅むべきなり。如何なる書籍に對しても正當に之を解釋せんと欲せば、須らく先づ過去に於て固執したる思想の僻見を其根蒂より一掃し去るに在り。

本書中の主張に關しては世間既に完全なりと思惟せられたる幾多の論據に反對するもの多きが故に、一見或は不可能の如く又或は信ず可らざる如く見ゆることあらん歟。彼の虛僞にして危險なる信念と雖とも一たび國民に崇拜せらるゝ時は如何に眞理の矢を以てするも、殆んど之れを貫穿すること能はざるものなればな

り。

人類間に普及せる數種の道德中に在りて、特に愛國心なるものは世間一般に具体的に發展せられ、而して其應用の途も亦萬樣なり、從て種々なる奸策に利用せらるゝことあり、故に愛國心なるものは漫りに、國民の崇拜物となれる時は、却て其眞價を減失し、愛國心なる上衣の下に幾多の罪惡は包藏せられ、國民は爲めに欺罔せらるゝに至る。『愛國心てふ美名の下に、奸譎の徒は最後の避處を見出す』と云へる古語は最も雋味あるを覺ゆ。此の奸譎の徒の避處たる以外に愛國心なるものは之を三種に區別することを得べし。其二種は虛僞なるものにして、極めて普通に行はれ、其一種は眞實なるものにして、稀に見る所なり。而して其二種なる虛僞的愛國心の中最も普通に世に行はれ、最も多く誤られたるものは、他の國民に對して頑迷固陋の念を懷き、徒らに輕視侮蔑の態度を執り、殊に或ものに對しては殆んど仇敵の觀を以てするが如きもの之れなり。次に普通に見るを得べき虛僞の愛國心とは國民的虛榮心即ち是れなり。詳言すれば自國の大功業も將た其大罪惡も共に之れを誇稱し却て自國民の缺點を看過し一切の失態を愛國心なる偶像の下に隱蔽するが如きは其好例なり。

愛國心にして徒らに他國に對する侮蔑若しくは僻見に外ならずとせば、眞正の愛國心なるものは遂に衰亡せんのみ。又眞正の愛國心を鼓舞せんが爲めには必ずしも敵愾心を惹起せしむるの要なし。

個人若しくは國民の懷ける愛國心の眞價を知るの時機は、戰時にあらずして却て平和の時機にあり。平時に於て國家の福利に冷淡なるもの、安ぞ能く戰時に於て國家の用を爲すを得ん。常に國庫の信用を盜み黃金を奪ひ恬として耻づるを知らざるの徒が、戰時に於て稱讃すべき愛國心を發揮する如きは殆ど想像すべからざる所なり。要するに是等は稱して消極的賣國奴と謂ふべきのみ、純粹なる愛國心は政治的德操にして商業的虛榮必とは正反對なり。則ち徒らに國家の富を誇りて之を愛國的擧動なりと妄信する如き者は、所謂愛國心の賊にして斯る虛榮心は決して國家に對する義務の負債を償却するに足らざるなり。

愛國心なるものは平和の時代に於て潛伏せざるが故に虛僞の愛國者と眞正の愛國者とは之れを區別するを難きにあらず。眞正の愛國者には二個の特色ありて他の人々と截然區別せらる。縱し其身卑賤ならんも、苟くも此の特色にして存在せんか、自ら功名に醉ひ富貴に傲れる者の中に於て嶄然一頭地を抽くを見ん。

國家の爲めに死するは國家の爲めに生くるに比して愛國の點に於て必ずしも讓るものにあらざれども、國家に對する利益に至りては同一なりと謂ふべからず。然るに『戰時に於て死せよ』との命令中には彼の怯懦なるもの、奸譎なるもの、賣國奴も能く其惡罪を隱蔽するに適切なる避處を發見するを得べし。然り、平和の時に於て其愛國的活動を怠り、之れを戰時まで繼紹するが如きは、眞に國民的價値の絕無なるものなりとす。

視よ戰後に於て、懦者と勇者と區別し能はざる如く、凡そ國家戰敗の後には、之が原因に對して明確なる識別を爲すこと難し。何となれば勝者も局外者も共に敗者の說明に對しては多くの顧慮を須ゐるものに非ざればなり。然れども平時に於て準備の缺乏せるが爲めに一大戰敗を招くは、彼の戰時に於て怯懦なるが爲めに敗北を來すものと、其結果は則ち同一なり。されば平和の時代に在りて適當なる戰備を爲すに反對する者の如きは、國家に對し明らかに愛國心を缺きたるものにして、彼の戰時に於て戰鬪の義務を避け、若しくは其職務を拋棄する者と其國家に損害を與ふる點は寸毫も異る所なきなり。若し夫れ眞個に愛國的精神を有する人々に對しては、本書は、一種特別の感情を與ふるならん。何となれば本

書は即ち斯る人々が懷抱する思想の發露に外ならざればなり。或は本書を看て憤怒の念を起すものあらん乎、吾人は將さに謂はんとす、彼等にして若し其憤怒の念の因りて來る所以を探尋せば從來彼等が愛國心と看做したるものは其實一片の虚妄に過ぎざりし事を發見するに至らんと。

次に本書の通讀に際し注意すへき第三の要點は、讀者が人爲的制度もしくは一時的思想を以て、永遠の眞理と對抗し若くは混同せざらん事是なり。

凡そ國家の存立なるものは、人民が未知の原初より未知の終末に到達せんとする偶然なる其道途を謂ふにあらざるなり、國民の存立なるものは、世界の大夢中に生ずる誤謬なる幻想にあらざるなり、却て實に宇宙の生命即ち國民其ものゝ一部を形成し、萬古不易の法則を以て支配せらるゝものなり。

夫れ國家の滅亡は避け得べからざる事情に由るに非ず、只國民が往々この事情を認識するを欲せずして、遂に豫防の方法を講せざるが故のみ。人は前車の覆轍に由りて教訓を受くるを欲せずして、却て滅亡するに至る。是を之れ知らずして彼等國民はこの無識より生ずる勇氣を以て、其紀念碑、憲法及び其虚榮心と神祇とを併せて、自らも亦共に此世界より永遠に埋沒し去らる。

# 第二章

幾多の哲學書に於て、國民の發生、育達、及び衰頽は、個人生命の歴史と比較せらる。即ち國民も亦搖籃より出でゝ生長し、智力を發展し、活力を蘊蓄し、遂に一定の時期に至りて、衰頽し死滅し忘却せられて、『時』てふ悠遠なる塋域に葬られ終る。

個人の生命と、國民の生命との類似は、幾多の事實に於て立證せらる。されど兩者必ずしも一點一劃の差違なしと謂ふ可らず。人の身體は理性力なき原子の集合によりて組織せられ、年齡と疾病と衰退とは、遂に之を亡ぼし去る。然るに國民の政治的組織は、理性的の集合體にして、各原子は推究力を有するものなるが故に、若し國民の發生及退歩を支配する法則に從はん乎、國民的生命は普通に賦與せられたるものよりも必ずや一層長久に、又偉大に繼續することを得べけん。而して個人の生命と國民の生命とを比較する時は結論に於て、吾人は玆に一の悲しむべき眞理を發見すべし。即ち個人若くは國民にして苟くも生育發達せん限りは、彼等は活力を養ふが故に疾病及び衰頽に勝つ事を得るなり、即ち間斷なく成育發達する時期は之を個人に於て分たん乎、幼稚、青年、成人の時期と稱し、次に成育發達の減

退を老年又は疾病と稱し、其全く廢滅するを死亡とは是れ謂ふなり。國民の發育、衰退、亡滅の順序も亦實に個人と運命を同ふするものなれども、不幸にして吾人は之を目して何等の名稱だも附せざるなり。

抑も肉體上の活力なるものは、個人に於て健康狀態を組織するが如く、國民に於ても亦然り。個人に於ても、國民に於ても、其健全と否とは持久力の如何によりて表現せらるものなり。即ち知る容知なる精神も、靈妙なる技術も、個人の天壽とは何等の關係なきが如く、幾多の學者識者を輩出せる國民も必ずしも其一事のみを以て、其國家存在の長短をトすべからず。

個人生命の長短は疾病老衰に對し奮鬪力の多寡如何に據る、其最も少なきものは自然に除却され、之を最も完全に保存するものは生存するなり。國民に於ても亦然り、天地創造の太初に於て原子細胞が曉天のエーテル中に浮游せる時より、天地終焉の黃昏を經て悠遠の暗黑に消え去るまでも、此法則は變らずに行はるゝものなり。

人間の政治的生命の濫觴に關しては固より正確に知得すべからざるも、是れ必ずしも絕對に不可思議の問題にあらず。想ふに原始時代に於て人類が間斷なき個

個の爭鬪をなしつゝあるの時、即ち氷河時代以前に旣に蓊鬱たる寂寞の森林に於て、極めて重大なる一戰鬪の人類間に行はれたるを知るに難からず。彼の勇敢なる石器時代の一人類が其附近の山林を彷徨して、自己に敵對したる他の凡ての人類を殺戮し、又は征服し盡したる時、玆に初めて人間の統治權を生じ、之れと共に社會的秩序を爲し平和の端緒を示すを得たりき。即ち彼の勇敢なる一人が粗末なる石斧の最後の一撃に依り、自己の周圍に死者と服從者とを見たるの時、所謂國民なるものは初めて發現したるなり、彼の一人は最初の君主なりき、而して其石斧は彼が最初の立法なれ。且つこの石斧こそ、爾後永久に此世界に於て國民を建造し若くは滅亡する所の方法を示すものなりけれ。

戰爭——勝利——國民。戰爭——破壞——滅亡。是れ即ち國民生存の悲しき約語にして、人類社會ありて以來今日に至るまで一定不變の順序なり。六千年の昔、一群の蠻人がイラムの山地を降り、劍を揮つてチウラニー民族たる牧羊者を打つて一丸となし、以てカルデア帝國を形成したりしより、最近十年前日本の武士が東海の一孤島より起りて、亞細亞の大陸に新帝國を刳り取るに至るまで、曾て此法則の中止、若くは變化せられたることなし。

凡そ地球上に存在する國家又は國民にして戰爭の生みたるものにあらざるはなし、其出產は皆戰爭てふ痛苦を經て來れるなり。而して戰爭により生れたる國民は終に避く可らざる運命に從ひ防備なき國土の荒墟中に死滅し了れるなり。肉體の活力は人の生存競爭に於ける勢力を示すが如く、勇武的活動力は國民の實力を形成す。理想、立法、憲法の類は固是れ一時的の閃光に過ぎずして、唯此武勇的活力の存在する期間に於てのみ發現し得るものなり。個人に於て成人とは即ち肉體的活力の絕頂に達せるを示すが如く、國民の戰鬪的成功とは其實力發展の絕頂に達したるを謂ふ。人の肉體的活力の衰亡は疾病若しくは老衰を意味し、死を以て其終末となすが如く、國民戰鬪力の退步は即ち其衰亡を示す。若し斯る場合に至らば速かに國力復興の方法を講ずるに非ずんば、國家は玆に衰頽し終局の運命は曾て幾多の國家に來りしものと必ずや一轍の亡滅に了らんのみ。然も誰か其國家が繁榮の絕頂に達し、國民を擧げて偉大を自負する時に於て、已に脆弱なる殿宇の破壞を想像し得るものあらんや。

人類の歷史を解剖するに、紀元前十五世紀より現代に至る凡そ三千四百年―即ち三十四世紀―の間に於て平和の時期として數ふべきもの僅々二百三十四年に過

ぎず。(譯者曰く此數字に從へば世界は十三年六ヶ月戰鬪繼續し、其間僅かに一年間平和ある譯なり)國家の興廢存亡は斯の如くして反覆接踵し來り、何れも大將軍を以て建築師となし、兵士を以て石工となし、劍を以て鏝となし、旣に亡びたる他の國家の遺跡よりして幾多の築材を收束し來り、以て新國家を建設したるなり此等の膨脹發展は一に是れ武力の活動と其歩武を同ふしたるなり。

抑も是等國民が偉大の絕頂とは發展の最極に到達したる時なり、個人の生命に於て停止の時なきが如く國家の生命に於ても亦停止の時なし、(譯者曰く個人も國家も生命の停止の時は即ち死の來る時なり) 國家の存在は一定せる千古不滅の法則によりて支配せらる、曰く國家の疆域は曾て一分時と雖も同一なる能はず、若しも擴張せずんば則ち縮少せんのみ、此の擴張及び縮少の狀態によりて、國民の興廢存亡は之をトするを得べけん。

國家擴張の絕頂は即ち衰頽の始めにして、國家的優勝の觀念が凡て個人的優勝の觀念に征服せらるゝの時なり、而して國家建造の要素たる國家的觀念の廢れたる時には國家は全然破壞の要素たる社會的、經濟的、寄生蟲に咬殺せらるゝに至る、斯る狀態に至りて尙顧みざる國民は、遂に爲すなきの最後に終り、幾多前代國家の亡

跡を追ひ人類の間より永遠に謝し去るなり。

近時亡國の跡を憑弔することは世人の一好事となれり。或は柳陰の孤塚を發ひて萬古の沈默を破り、或は曠漠無人の荒野に不朽の木乃伊を探り、時に風濤相打つ海角に古帝國の哀歌を聞く。然れども亡國の表徵として殘留するものは極めて尠なし、げに過去の帝國の多くは其亡滅と共に現世には大理石像の斷片、古宮廢殿の荒趾、ドロイッドの石器をすら遺さゞるなり、宛かも水草を逐ふ遊牧の民と一般、空しく消亡して何等の痕跡だも印せず。

或る學者は此議論に反對し、極めて皮相の見解を以て、支那帝國を其漠然たる神秘の帳中より引き出し、以て永く平和の中に建造せられ且現存する所の國家として吾人に紹介す、然れども不幸にして此見解は眞に其學者の迂愚を示すのみ、何となれば國家の擴張及び縮少の法則は、西洋各國民の間に於ると同一に亦支那帝國の發展を支配すればなり。

支那の政治的發展の歴史は、單に他の人類の歴史と類似せるのみならず、其内には自ら世界の政治的前途に就て嚴肅なる豫言を包含するものあり。支那は其邈焉たる往古より近代に至るまで、自己の發展と文明とを開拓して世界の他の文明

と接觸して利益を蒙らざりしなり、然れども支那の政治的進化と發展とに於ては、西洋に於ける幾多國民の運命を支部したると同一の方法を經過し來り、其興廢存亡の循環を見たることと尙西洋に於けると毫も異ならざるなり、支那も亦他の邦國と均しく他の政治團體を併呑したる後、初めて今日の大を成すに至れるものにして、是等合同されたる他の政治團體も亦同一の隆替興亡を經過したるものに非ざるはなし。

勇敢なるイラム山の住人等が其山嶽を出でゝ、メソポタミアの平原に於てカルデア帝國を建設したる時に當り、今の支那帝國と稱する地域内に於て、既に數個の小國家ありて、其南、北、西の三方は悉く野蠻民族に圍繞せられたりき。而して此等小國中更に進んで統一的帝國を建て、以て現帝國の先驅を爲したるものは、陝西の平原にありし一小國なりしなり。即ち此小邦を基礎として現今の大帝國は膨脹し來れるなり、而かも此帝國は今や破壞に傾きつゝあり、其破壞も亦年月を經たるが故に非ず、寧ろ國民虛榮に驅られ安逸を貪り、尙武の氣象を失ひし結果と謂はざる可らず。

支那國民の發展に伴ふ興亡盛衰の轉化は、縱令其中間、時に數千年を隔つることあ

りしも原因結果等の關係に於て、一定の軌道を經過せり、支那民族の發展は譬へば猶ほ靜かなる湖上に石を投じ、其波紋の外部に延大するが如し。即ち初代の帝國建立者によりて一小石片の投せられたるより、初めて支那人種の發展を見るを得たるなり、即ち各波上の凸處は發展の一期を示し、凹處は衰頽の一期を示せり、而して互に其張弛を爲しつゝ遂に今日に至れり。戰爭の法則は常に支那帝國の發展の千差萬別なる各方面を支配したり。即ち決して歐洲各國の夫れと異なることなく、皆戰鬪を經て茲に至れり。支那帝國なる偉大の建築物は主として戰爭に從事したる人の手に成れり、歷朝二十五代の建立者は皆軍人なり。而して各朝其將に亡びんとするや、必ず四方の敵軍より終局の悲しき豫報を聞けり。支那帝國を長久ならしめたるには、若干の理由及び條件なくんばあらず。他の古大國にして、殆んど支那帝國の如く大なるものも、其存在の期間を支那帝國のそれに比較せば、宛かも人世の一代と數世紀とを比較するが如し。此長久の理由果して如何、普通世上に行はるゝ意見は、支那帝國が斯の如く永續したることに關し何等の解釋を與へず。彼の支那人の特性及び其法律、習慣が長久の素因を爲せりと說明するが如きは一顧の價値だにあらざるなり、是れ只事實に基づかざる空漠なる想像說と

謂ふのみ。

吾人を以て之を觀れば、過去數千年間支那人種を保存したる所以のものは、自然の形勝たる周圍の境遇に因れり。周圍の境遇とは人の近づき難き山岳を以て包まれ、人跡稀疎なる沙漠若くは廣大無邊にして交通至難なる海洋に圍まれたるを指すなり。即ち北及び西北に當りては『戈壁』『沙漠』の兩大沙漠あり、更に其北方には通過し難き西比利亞の森林あり、西北には『世界の屋根』と稱せらるゝパミール高原と、雪嶺の峻嶽高峰あり、南方には瘴癘の氣深き山林と印度洋あり、東方には即ち一望際涯なき太平洋にして此大洋に交通の開けたるは僅かに近時の事のみ。而して十九世紀に至るまで、支那は孤獨の狀態に於て全く他邦の襲來を免かるゝを得たり。宛かも無限の空間が其國境と歐洲諸國民との間に横はれるが如くなりき。世界の他の人類は支那を以て、東方の極端に存在する不可思議なるカーセーー國として空しく其想像に存したるのみ。

斯の如く支那人種も亦其の政体も共に國家長久の因由たらず。一千年間の盛衰を通じて支那帝國の永續したる所以のものは唯彼等が孤立の狀態にありたるが爲めなり。若し支那にして他の有力なる國民に圍繞せらるゝこと、今古の歐洲及

び中央亞細亞諸帝國の如くなりしならんには、或る一定の時期に於て他の諸國の如く亡滅して纔かに人種論の昔物語中に其記臆を止めたるに過ぎざりしならん。

古來支那の衰頽に陷りしは大約六回にして、其衰時に際しては政道の陵夷、秩序の紊亂極めて甚しく、若しも希臘の古勇將ゼノホンの兵の如き一萬人を以てせば必ずや支那全國を征服するを得べかりしなり。然るに幸にも支那國民が衰頽に遭遇せし時期に於て彼等を襲擊するものは僅に水火の難、飢渴の厄、或は北方に在りて游牧せる韃靼人種ありしのみ。而かも此民族は固と政府なく帝王なく、野生の蠻民に過ぎざりき。支那人民は朝廷の交迭ありし每に是等邊疆に棲息せる蠻民に攻擊せられたり、而して新紀元の開始せらるゝ每に、其遭遇したる大事業は是等襲擊者の番旗を帝國の國境より驅逐するにありき。

第四及第五回の衰微に當りては支那は全然自衞の力を失し、さしもの大帝國も是等沙漠の蠻民の爲めに征服せられたり。而して支那帝國の革命の此二時期こそ、吾人が支那帝國の今日の現狀を攻究するの好材料なれ。蓋し其狀態は根本的に同一なればなり。

此時期に於ては宋朝滅亡し、元の蒙古朝設立せられ、又次で明朝解體せんとするや、支那人民は北方の國境に閧聲を擧げつゝありし滿州の騎人に對し自衞の策を講ずるの必要ありき。

今や支那國民の衰頽狀態は、第四第五に於る革命時代の防禦力なきに比して、何等の差異なき時代なるが、其備ふべき敵は單に北方よりのみ來らずして又東、南、西の方面よりも來らんとするなり。此等の國民の征服的道德は、無邊の美田を蹂躪して荒蕪と化せしめたる蒙古、及び滿州族の道德と異なるなく、又之に優る所もなし。別語之を云へば支那人民(政府若しくは朝廷と云はず、何となれば朝廷及び政府は人種又は民族の一時的の遊戲物、又は一時の道具に過ぎざればなり)は今方さに彼等が曾て邈焉たる太古の時代に當り、陝西の平野に集合して伏羲の統治の下にありし以來の、最も危急存亡の時機に遭遇しつゝあるなり。

支那人は國民として果して今や發現せんとする內部の擾亂を鎭定するに堪え、其發展の第七期に入ることを得べきか、或は徒らに最後の突貫をなして、忽ち亡國の運命なる永久の忘却に陷るべきか、支那人が過去に於て曾て能く遊牧の蠻民に抵抗したる時には、今彼等が帝國の邊疆に無情にも逼迫しつゝある歐洲、或は日本國

の力に抵抗せんとして備へつゝあるよりも、比較的に優等の抵抗力を有したりき、若しも今日の支那民族中より明朝の創立者たりし、勇武なる僧將軍の如き人傑の蹶起するあるにあらずむば、此最古の大帝國が世界の舞臺に終焉の告別をなすべき時は蓋し眼前に迫れりと謂ふべし。

# 第三章

風雲の如く極めて變化多き地球上に興亡せる過去の諸帝國に就て之を攻究するは蓋し無益の業に非ざるべし。何となれば古人が實驗の結果として月蝕を豫報することを得たるが如く、吾人も亦國家存亡の歷史に就き、同一なる原因結果の循環により、又本末終始の理法によりて、各國民が廻轉する圓環の中に現はれ來る所の明暗の各方面を理解することを得るなり。

吾人は今斯の如き見地に立ちて、各國民中に嶄然頭角を顯はせる北米合衆國を攻究せんとす。米人は此共和國を以て、基礎の鞏固なること宛かも『時』の風塵中に屹立する金字塔と見做せるなるべし。斯る國民の自負心も國家が實際に偉大なる勢力と、人類進化の發展に向ひ他國にも劣らざる功績を有する限りは、必ずしも之を非難するものに非ず。但し吾人が研究せんと欲する所は、米國人が『無智の勇氣』に驅られて、不知不識の間に米國の偉大なる眞個の基礎を破壞し、之に代るに其紙製の建築物を以てせんと欲するに似たること之なり。例せば祭禮の花車を飾り立てゝ、國民は其金色燦爛たる周圍に意氣揚々として舞蹈せしめられ、曾て其醜耻な

る將た孱弱なる態度を顧みるの暇もなきこと之なり。

吾人が自己の死に就て自覺し能はざるが如く國民も亦然り。他人に對しては偉人若しくは其偉人を生みし社會も終には死の最後の免る可らざることを熟知するも、憐れむべし自己の死に瀕することは瞬間の短かきにも係はらず、終に之を悟ること能はざるなり。他の巨大なる帝國の滅亡せんとするに對し、平然として之を目送することを得れども、自國も亦何れの日にか同一の運命に遭遇すべしとは、夢にだも想ひ及ばざるなり。北米合衆國と雖も、他の國民に比して『時』及『時の勢力』に對し異なれる關係に立つものにあらず。同一なる事情の下に生れたる此國は、又他國と同一なる原因に從ひ其生命を長短せられん。今日に至るまで此共和國の歷史は他の諸國民を生み、其發育を助けたる原動力と何等相違ある事情の下に立たざるなり。合衆國の生れたるは戰場にあり、爾後其生育發展をなしたるも亦戰爭に因れり。吾人は今是等の歷史的事實を詳說するの必要を認めず。唯何れの國も同一の戰爭に依りて起り、同一の戰爭に依りて發展する原理を記憶すれば足れり。即ち米國も亦他の幾多の國家と均しく戰爭の獲物、即ち防禦なき種族の征服によりて建設せられたるものなり。其發展の跡を追懷せば他國民

の發展に比して、更により多く博愛的ならず、又より多く無慈悲ならず、我國は他の諸大國と同樣に、弱肉強食の理に從ひ今日の大を致せしのみ。但し我邦が敵として戰ひし所のものは、同等もしくは同等に近き實力ある國民に非ずして、頗る微弱なる人民若しくは野蠻の土人なりしかば、遂に我國人をして十分の兵備を爲すの必要を感ずること無からしめ、寧ろ適當なる兵備の必要に反對の主張を普及せしめたり。即ち米國の擴大なる發展が容易なりし事は、却て今後尚ほ一層の偉大を爲すべき基礎に關して、今世に行はるゝが如き謬見を生せしめたり。換言せば米國民は其自身を見るや甚だ英雄的なれども寧ろ誤謬の見解を取れり、彼等が他國民の抵抗力を見るや又往古の寂寞なる山河を保障とし、又徒らに燐灼たる鬼神の援助を以て戰ひたる野蠻人を見ると同一の觀念を以てせり、合衆國の人民は過去數十年間に他國との關係の全然變化したるを覺悟せざるなり。そは此國の發展の波紋が已に遠く擴大したるが爲め、遂に他の強大國と接觸するに至れるが故のみにあらず、實に交通運輸上の近來の發達が全世界をして千八百三十年(譯者曰、此年始めて英國リバプール及びマンチエスター間に鐵道を建設す、是より宇內交通機關を一變す)に於る米國に比して甚だしく縮少せしめられたる

が爲めなり。今や世界の最も遼遠なる地方より華盛頓に達するは七十年以前に元老院議員が各州より華盛頓に到りしよりも一層容易なり。されば米國が今後其偉大なる程度を更に進めんがために、米國の根據地より數月里程を離れたる王國を破り、若しくは尙ほ未だ發達せざる共和國若しくは蠻族を併呑するの必要なし。

米國人民が少壯國民としての成功有爲の時代は已に過ぎたり。往年の蠻民の敵に對し兵備を怠りしが如く、今や東西より强大なる兵力ある邦國の迫侵せんとしつゝあるに關らず、尙ほ平然として防備を弛廢し、其運命の如何を顧みざるものゝ如し。此悲劇否、樂觀の夢は一大困厄に陷るに至りて始めて覺破せられ、而して其後に於て米國民も其國民の自負心に對する懲罰を了解し、一般普及の法則の活動より生ずる所の末期を自覺するに至るべし。

世人が國家興亡の原理を解せざる所以のものは、他なし各人私利私慾を是れ事とし、國家は只自己生存の保護のために存立するものと曲解するが故のみ。吾人は跼蹐せる商估の小天地を脫し、肩摩轂擊せる市街の綺羅を離れ、自己中心の利慾を去り、超然として其繊塵の達せざる高所に立つまでは、決して古今興亡の理を大觀

するを得ざるべきなり。抑も風塵の街道にありては、唯其國を組織せる個々の分子を見るのみにして、國家其物を見る能はず。唯個々の小野心と各其利益のために互に盲動競爭するを見るのみにて、祖國全體を通じたる遠大の運命を了解するを得ざるなり。蓋し世人自らは自負傲慢にして、其叫びや神の耳に達せりと信ずれども、實際に於ては屋上にも及ばざるなり。されば米國共和政治の未來を考察せむとせば、單に政治家の室より之を視ふべからず、騷然たる群衆の來往する道途より之を視るべからず、學者の立場に於てのみ之れを察すべからず、何となれば是等は總て國民生活の熱狂せる幻影及び病體の產物に過ぎざればなり。須らく其觀察は世界歷史の最高處に著く可し。而して國民生活に屬する經驗的智識に基き判斷を下さゞる可らず。變轉極りなき個人其ものは之を眼中に留むるの價値なきなり。宛かも個人の身體は無數の細胞原子により組織せられ此等の原子は終始新陳代謝して止まざるが如く、國家を組織する個人も亦新陳代謝して止むことなし、故に吾人は個人の休戚に着眼するを要せず、全體なる國家の興廢存亡こそ是れ實に關心すべき唯一問題なり。

米國共和政治の將來は單に前述せる原則によりて豫定せらるゝのみならず、又此

國の過去に於る行動は自ら其前途の方向を照透せり蓋し此國は其制止すべからざる勢を以て、駸々として進んで已まざる發展の結果として、最早劣等なる國民と接觸するの時機なく、其發展力に於ても米國合衆國に優る所の國民と接觸するの機會に到着せり。吾人は已に近代に於る交通運輸の發展が世界を縮少し、將來に於る國民發展の一波瀾は、必ずや他國民より出づる同一の波瀾に對し衝突することを說けり。此波瀾の衝突は即ち是れ戰爭なり。

若し北米合衆國にして其設立者が希望したるが如き、國力の偉大と國基の永久とを獲得せんと欲せば、又若し世界を通じて我憲法の原則法律の公平、及び人類の改良に及ぼす希望を益々汎く傳播せんと欲せば、我國と接觸し我前途を遮斷せんとする他の强大なる國民に對して、之を抑壓し得るだけの兵力を具備せざる可らざるなり。世界縮少の結果として、又世界各國接觸する機會の增加する結果として、戰爭の準備は間斷なく怠るべからず、而して其準備や國民發展と比例すべきなり。

古來各國の形勢を觀察するに、衰亡の機は發展の完成の時期に次ぎて來るを例となす。從て軍備の弛怠と、尙武心の衰亡とは、自ら國家衰運の前徵として發生す

るを見るなり。然らば軍備の弛怠と尙武心の減退が極度に達するの日は、必ずや其國の滅亡するの日ならざるはなし。獨り我合衆國は此例外に在るもの丶如し、即ち戰鬪力の衰微は必ずしも其れ程の國家の衰運を意味せず、寧ろ我國は現今戰鬪力の自然的衰退を更に人爲的に速めつ丶あるの奇觀を呈せり。單に人民が軍事的の事業に冷淡なるのみならず、又組織的努力を以て現在の軍備を破壞せんとするの行爲あり、更に軍備の潜勢力とも云ふべき尙武の氣象をすら一掃せんと企てつ丶あり、試みに見よ我合衆國内に生存する無數の人民は上下を問はず、唯各人其私利を營むに汲々たるのみ。彼等は合衆國の寄生蟲たり、即ち彼等の見る所を以てすれば、此國は彼等が自らを肥大ならしむる道具なり、富國强兵は其理想にあらず、彼等は唯國家の肥肉を啖ひて、自己幼蟲的の貪慾を充たさんとするに過ぎざるのみ。

若し夫れ愛國心を必要なりとせば、そは我共和國創立の主義、即ち純粹にして頑强なる勇氣により、自ら劍戟を揮ふて以て國家の基礎を建てたる、當時の精神の如きものこそ正に愛國心の理想なれ。我祖先は七年の獨立戰爭により、自己の血を流して以て、十三州獨立の基礎を鞏固ならしめたりき。されば斯の如くにして建設

せられたる此國家を永久に維持し、其勢力を無限に發展せしめ、其理想を把持して、以て創立者の希望を完成せんことは、是れ眞個の愛國心に非らざらんや。米國人民の愛國心は正さに此理想に向ひ發揮せられざるべからず。

曩きに商業主義に就て論じたる所、又論ぜんとする所に就て、讀者の誤解を招くことなからんことを希望す。若しも工業を發達し土地に潜藏せる富源を開くを以て國家眞正の偉大に伴ふべき一要件に過ぎずと見做し、之を以て國家存在の目的と看做すことなくんば、是れ實業主義の正當なる解釋にして、吾人の贊同する所なり。

抑も實業主義なるものは、目的を達する手段に過ぎずして目的其ものにあらざるなり。人體は食物によりて養はるゝが如く、國民は實業によりて養はるゝなり。人は食はんが爲めに生活せず其志を成就せんが爲めに前進する間、肉體を維持せんとして食物を取るなり。

工業主義と國家との關係は、工業主義は國家を建設し其理想を保存するに足る力を與ふるの食物なり。此力によりて世界列强の間に馳騁し、彼等と輸贏を爭はんとするなり。若しも之に反し實業主義を以て方便に非ずして目的なりとな

し、却て國家を以て實業發展の方便に使用するに至らんには、亡國の機は既に此間に發生せるなり。人若し人生に於て一の希望なく目的なく、單に食せんがために生活せば吾人の嫌惡と輕蔑とを招かんのみ。國民も亦實業を以て其目的となす時は、列國民中にありて貪慾者と見做され野卑傲慢恰かも肥滿せる豚と同一視せらるゝに至らんのみ。如斯目的なき貪慾心は實業發達の副產物にして、吾人は之を名づけて商業主義と云ふ、實業主義と商業主義との差異は、前者は人類の需用を滿たさんが爲めに、個人が實業に從事するを意味するものにして後者は實業の發達を利用して、個人の貪慾心を滿足せんとする者なり。而して今や米國人は此商業主義の擒となれり、商業主義は國民自然の向上心を抑制し、前途の發展を停止するのみならず、共和國の存立をも危ふせんとしつゝあり。

更に又一方に於て吾人は軍國主義を以て方便に非ずとは爲さず、寧ろ是れ實業主義と同一なる意味に於て國家存立の一條件なるのみ。唯二者の異なる點は下の如し、軍國主義は國家を興し之を維持する原動力なるに對し、實業主義は國家發展に必要なる富力の供給をなすに留まる。但し實業主義にして正當の軌道を脫し、所謂商業主義と轉化墮落するに至らば遂には國家終局の腐敗を招くに至らん

のみ。

之を要するに商業主義は、自然的貪慾主義にして國家を蠶食し終れば、即ち自らも共に消滅し了るものなり。之に反し軍國主義は地球上に於ける凡ての國家を建造し、其發展を促し、而して人類の平和を保持するものなり。軍國主義たる、人をして其最も愛重する自己の生命をも其把持する所の軍國主義以上に愛すべきものと爲さしめず、然るに商業主義は何等の遠慮もなく凡ての主義名譽を拋ち唯賤劣極まれる財產を獲得して之を誇らんとするものなり。

國民が非常に富み且つ傲慢となり、同時に其富を保存し、其虛傲心を支持すべき軍備を有せざる時は、眞に危險なる地位に陷るなり。國民の富及び奢侈心は、其軍備と反比例をなすものにして、方に破滅の時期に近づきつゝあるなり。而して玆に二國ありと假定せよ、一は富國にして尙武心を缺き、他は貧國にして尙武心を有し、各々國家發展の結果遂に相接觸し相衝突するに至らん乎、蓋し戰爭は避く可らざるなり、而して富國弱兵の國は必ず貧國强兵の國に破られ、長へに人類の活動界より其跡を滅するに至るべし。

# 第四章

國民の發達を支配する法則は、不易不變なると共に單純なり。唯人智の開發窮りなきと、其政治的狀態の變化とにより、之を說明する方法の異なるのみ。一國民の政治的境界は之と其疆を接し、又は利害の關係ある或國に對し、其武力が優勢なる場合に於て始めて擴大せらる。即ち今も亦古の如く野心ある國民は、一層有力なる國民と衝突を試み其國境が彼等の發展の障害となる時は彼等は是れを破壞して他國を併吞するに至るものなり。

元來國民の政治的境界は、其區劃一時的のものに外ならず。一層强力なる國民に接する方面は縮少し弱國に對する方面は膨脹しつゝあり。即ち武力の發展と之に對抗すべき力なき國民の縮少及び其亡滅は、武力を有する國民の慾望野心如何と、天賦の需要供給の關係及び一國民として人民の有する際涯なき慾望心とによりて定めらる。

世運の進步に伴ひ種々なる發明の結果、世界は次第に縮少せらるゝと共に、人類の生存競爭は一層激烈とならざるを得ず。如何なる强國と雖も最早昔日の如く

土人、蠻社、又は小弱國を亡ぼすのみにては、其版圖は擴張すること能はざるべし。何となれば斯る弱國は、已に業に或る强國の勢力範圍に加へられたればなり。大統領モンロー は此原理を認めたるを以て、其主義を發表して西部大陸の侵犯すべからざる宣言を爲せり。卽ち西部兩大陸を歐洲諸國發展の範圍よりして之を脫出せしめ、以て合衆國をして歐洲諸戰鬪國の境界が益々擴張せらるゝに當り米國の自然的發展と其衝突を避けんと試みたり。米國又は歐洲の如何なる政治家と雖も、未だ曾てモンロー以上に、能く國家發展の前途を洞見したるものはあらず。然れどもモンロー時代に於ては、機械の發明が世界の政治的發展に、如何なる變動を起すべきかを豫測すること能はざりしなり。人性はモンローの當時と永刧變ることなしと雖も、此世界は日に益々縮少せられ、時間は殆んど輕蔑せらるゝに至れり。モンロー時代に於ける如く渺茫なる太西洋は最早歐洲と米大陸とを分離せざるなり。寧ろ人智の靈妙は、太西洋を化して一の小河と爲し、歐洲諸國の艦隊が、今日之を橫斷するは、モ・ンローが華府よりボストンに旅行したるよりも少なき時間にて達するなり。太平洋も亦古の如く果もなき海原にあらずして、其潮流は綠茶や陶器や人形の濱邊を洗はざるなり。曾て此等東方の笑める霞は今

や全く露れ神秘の奥は悉く闡かれたるのみならず、其土地さへも泰西諸國の銃劔もて耕耘せられたり。（譯者曰く日本は今や詩的未開國に非ずとの意）彼等は黄金の羊毛を獲んと欲して二つの眠れる龍の牙を折り散らし、其中より巨大なる軍隊と迅速なる艦隊とは發現し、彼等勇氣の標榜たる金鵄の如く飛躍せんとす。（譯者曰く泰西の神仙譚に黄金の羊毛を尋ねて龍と戰ひ其牙を折れる中より軍隊の飛び出だせる神話あり、著者は支那を龍に擬らへ、日本を金鵄に擬らへたる者なり）

モンローは斯る變化の起るべきことを豫想し得ざりき。されば彼の宣言は原則としては今日も尚當時の如く正確なりと雖も、之を永久に有効ならしむべき設備を缺きたるが爲め、交通法の改革と軍事及び政治上の狀態の變化と、共に事實上全く効力なき空言と化し了れり。然れども一般米國人はこの形勢の變化を了解せずして、現に尚モンローの如く太西洋及び太平洋は米人に取りて巨大なる大洋にして、如何なる勁敵も之を橫斷する勇氣なしと思惟せり。故に我邦人は其新責任と、之に伴ふ危險に比例して準備せる陸海軍なきに關らず、何等の努力も爲さずして、安全に外國の襲擊を免れ得べしと信ずるものゝ如し。是れ實に一種の

自負心にして、此自負心こそ、本章に於て之を論せんと欲する所以にして、吾人は之を稱して『距離の勇氣』と云はんとす。距離は浬數によりて較量せられざるなり、ナポレオンは歐洲の凡ての都は英國の海岸よりも巴里に一層近きことを發見せり。（譯者曰く奈翁の眼中歐洲大陸なく只英國海峽の渡る可らざるありしのみの意）。而して南阿戰爭に於ては英軍はポーツマウスよりケープタウンへの五千浬は、ケープタウンよりプレトリアに到る數百浬よりも近きことを發見せり戰線に近き第二策源地と本策源地との距離は、浬數を以て計量すべからず、寧ろ軍隊、兵器、食糧を輸送する時と、難易と、力とによりて量らる。換言せば戰地の軍隊と其本策源地との距離は哩數によりて之を量らず。交通の便、不便、敵の攻擊を受くるの危險ありや否や、及び本策源地より戰地に至るまでの輸送線の多少によりて定めらるゝものとす。茲に千哩を距つる二個の地點あり鐵道を以て連絡せらるゝとすれば之を他の田舍街道以外交通の便を缺ける百哩を隔つる地方と比較して其實千哩の地は百哩の地よりも近しと云はざるべからず。海は敵の艦隊の襲擊なき時は最も能く交通便宜を與ふ。蓋し近代蒸氣船の速力と其輸送力によりて然るのみならず、其線路は敵の海岸に上陸地ある丈け、多くの交通線路を設くるを得

べきを以てなり。

合衆國が歐洲より距離の遠きを以て、敵の來襲を受くること無しと主張する論者は、其例を那翁の莫斯科遠征、及び日露戰爭に於る露人の失敗を以て長距離に於て戰爭を爲したるより生ぜる結果なりと說くを常とす。然れども其實は此兩戰とも距離は決して彼等の失敗の原因たらざりき。且つ莫斯科戰爭は最近若くは將來の戰術及び現今の歐羅巴と米國との軍事上には何等の參考とならず、巴里より莫斯科に軍隊及び食糧を供給せん爲めには數月を要したり。然るに今や華盛頓紐育、ボストンは歐洲大陸より僅かに七日路なるのみ、日本軍隊を海路米國に送らんと欲せば、曾て日本が滿洲に出兵せしに比して、より以上の困難を感ぜざるなり。

ガスタバス、アドルフハス、フレデリック大王、及び其他幾多古來の雄將の戰爭は其本據地を距る數週間の距離に於て行はれたり。奈翁の以太利、西班牙、墺地利及び獨逸に於る戰爭は懸軍敵地に入り、其策源地を距る數週、否、或る場合に於ては數ヶ月間の距離に於て戰はれたり。

メキシコとの戰爭に於て合衆國の軍隊は其供給の本策源地より數ヶ月間の距離

に於て活動したり。又南北戰爭に於ても北軍は其食糧庫より數週間の距離を離れて屢々活動せしことあり。即ちグラント將軍のヴィックスバークの戰に於る如き、バーンサイド將軍がルイスビルより、ノックスビルに進軍したるが如き、シャーマン將軍がチャッタヌーガーよりアトランタに前進し、更に北方に進みたる如き、バンクス將軍のテキサス州に於る進軍、シャーマン將軍のミスシッピー州横斷の如き、皆其例なり。ニユーオルレアンス市に於る北軍は、糧食をニユーヨーク市より仰ぎたり、其距離實に三千六百哩なりとす。

前述の事實は之を今日合衆國と歐洲諸國と、軍事的の距離を比較すれば、一層の興味を覺へん、蓋し此距離は纔かに十日間に過ぎざればなり。グラント將軍がミスシッピー州に在るや、バーンスバーよりヴィックスバーグに進軍するに際し二十日間を要したり。然るに今日は同數の軍隊をブレーメンに於て乘船せしめ、太西洋を横斷して米國の海岸に達するも、尙ほ之に要する時期は其の一半のみ。千八百六十五年に北軍第四軍團が、カーターース停車場よりナッシユビルまで即ち三百七十三哩の距離を運搬するや、千四百九十八臺の車輌を要したり。今や一の軍團を一切の必要なる設備と共に獨逸より合衆國に輸送せんと欲せば、ハンバー

グ、アメリカン、若くはノルドドイッチエ、ロイド汽船會社の汽船五隻を要するのみ。若しも此等の汽船二十五隻を使用する時は、獨逸より米國海岸に向ひて七萬五千の軍隊を總ての設備と共に輸送することを得べく、而して之に要する時日はグラント將軍をしてワシントンよりアッポマトックスに、同數の軍隊を進軍せしめたる時日の一半のみ。獨逸參謀本部の調査に據れば獨逸が合衆國に向ひて二十五萬の軍隊を二週間を以て輸送することを得べしと。

千八百六十五年のバージニアに於る戰爭に、グランド將軍の率ゐたる十二萬五千の軍隊に物資を供給するに當り、實に千八百臺の貨車を要し。之を牽引したる馬匹は其數二萬五千に達し、之に依りて二萬噸の供給品を運搬し得たり。然るに歐洲より米國に向ひて、今日同一の貨物を汽船ドイチエランド、アメリカ、若くはカイゼルウイルヘルム等にて運搬する時は、之に要する時間はグラント將軍の輸送力の比例に從ひ、ラピダン河の南岸よりジエームス河の北岸に達する距離を、敵軍の妨げなくして輸送するに要する時間よりも一層尠なきなり。

米共和國の孤立とは此種類の狀態を云ふものにして、實際には存在せざるなり。米國々民が敢て誇らんとする唯一の孤立狀態とは、有力なる艦隊及び移動し得る

軍隊とによりて纔かに保存するを得るなり。故に此實力存在せざるか、若しくは敵國に對して劣等なるか、將又一たび戰ふて破壞せらるゝ乎の場合に於ては合衆國の防禦なるものは全く滅裂せんのみ。米國民が全然外患の虞れなき國民的の獨立を計らんと欲せば、歐洲諸國の海軍の何れよりも二倍以上の艦隊を要し、歐洲若しくは亞細亞に於ける或る一國の最大常備軍の半數以上の陸軍を要するなり。現今の狀態は英國のみにても太西洋に於て米國海軍の三倍を有し、太平洋に於ては英國艦隊は米國に比して、十倍以上に相當するなり。獨逸、佛蘭西の如き亦太平洋上に於て米國太平洋艦隊の四倍の勢力を派遣し得べく、同時に太西洋に於て米國艦隊を威壓して一隻たりとも、其根據地を出でゝ太西洋に向ふを得ざらしむる丈けの優勢を有するなり。此點を一層明瞭に解釋せんと欲せば、現今の海陸軍の狀態に於て米國と此等諸國の一との間に起るべき戰爭を想像するに如くはなし。英、佛又は獨逸は東洋に於て單に領地を有するのみならず、海軍根據地、造船所及び軍隊を有す。其一たび旗鼓の間に相見ゆるや、此等諸國は何れも直に太平洋に向ひて、米國艦隊に幾倍するの艦隊を出動して、以て米國艦隊を破壞するに足るの力を集中するを得るなり。然かも米國艦隊は太西洋より之を應援すること能

はざるなり。强て之が應援を爲す時は、殘留の太西洋艦隊は全然無能の狀態に歸し、敵國の太西洋艦隊の爲めに全滅せらるゝの危險を冒さゞる可らず。太平洋及び太西洋に於て、互ひに米國艦隊の補充を爲すに必要なる時日は四ヶ月を下らず。(譯者曰くパナマ開鑿後は固より形勢一變する時なり)從つて本國の海岸より纔かに六日間の距離を有するに過ぎざる敵は、陸軍を輸送して以て、米國の諸港及び海軍根據地を占領するを得べし。故に若し米國艦隊にして太平洋艦隊を援助せんと欲せば、太西洋方面に於て全然再起の機會を失ふに至らん。

米國太平洋艦隊の全滅と共に、比律賓、布哇、サモア、アラスカ等は敵の掌中に落ちん而して太平洋沿岸に於る都府は破壞せられ、最早や米國の國旗は、太平洋を超えて飜るを見ざるべし、要するに人類の智識は廣大無邊の世界をして益々狹隘ならしめ、各國は如何に遼遠なる土地と雖も之れに對して戰爭を起すことを得るなり。蓋し運輸の困難は最少限度に減せられ、太洋は遼遠なる土地に向ひて遠征の便宜を與へ、寧ろ斯る遠征をして有効ならしむ。

戰時二百五十哩の距離に向ひて、一切の設備を爲せる軍隊を引率することは、寧ろ容易なる事業と思考せらる。然るに實際に於ては獨、佛、英何れの國にても、數日を

以て米國海岸(二千五百浬以上)に向ひて有力なる軍隊を上陸せしむる事を得るなり。日本がカリフォルニアに陸軍を上陸せしめんとせば、ロスアンゼルスより桑港に向ひて陸兵の行軍を爲すよりも一層短日月に之れを實行することを得べし。若しモレタニア、又はドイッチエランド型の一隻を以てせば、一定期間に於て歐洲より米國海岸に向ひ、軍隊を輸送し得る實力は、千八百十二年英米戰爭に於て凡ての英國艦隊が輸送し得たる、それよりも一層大なり。

此種類の汽船は、一切の設備を有する一旅團の兵を歐洲より合衆國に向ひて、僅々六日間を以て輸送し得らるべし。日本及び獨逸の商船全部を宣戰の布告と共に陸軍の輸送船に轉用せん乎、一ヶ月にして二十五萬の軍隊を米國の海岸に上陸せしむることを得べし。

渺茫たる大洋によりて隔離せらるゝが故に國家安全なりとの妄想を懷き、以て自ら慰藉せる米國民は一たび實戰とならば、此距離が直ちに破壞せられて、其抵抗力は纔かに幾週間若くは幾ヶ月を以て計算せられ年の終りに於ては其軍旗は屈辱の汚塵中に壞敗し去るを見ん。

太西洋航海汽船の速力が、一節を増加する毎に太西洋は縮少せられ、歐洲の武裝せ

る國境は益々我と近接せん。

今や太洋の大なる城壁は、全然其跡を絶ち、纔かに之に對する空想の殘存するのみ空想的防禦と平和の幻夢とは、是より須らく血と鐵とを以て準備せる軍人に其地位を讓らざる可らず、軍備の程度は西半球に於る我國の主權を圍繞せる危險と困難とに比例せざる可らず。

モンロー時代に於る如く大洋の横斷は數週若くは一ヶ月を要せず船舶は暴風雨のために海上に漂はず、又徒らに潮流の爲めに飜弄せらるゝことなし、巨大なる甲鐵艦は大洋を横斷して直行し、其時間の正確なる、天體に於ける日月星辰の運行と異ならず。

昔者國民の運命と兵卒と其彈丸とを乘せたる脆き船舶が、底知れぬ海中に覆沒せる如き慘劇は全く其跡を絶ちて、嘗て難破の船具に激して咆哮したりし風も、今や三千浬を隔つる人と談話し、時に三軍を叱咤する國王の號令の聲と相響應しつゝあり。

# 第五章

米共和國は科學的發見に於て他に卒先したるのみならず、其活動よりして近代發明の最も重要なるものを產出せり。故を以て米國の經濟的方面に向へる行徑は變化せり。科學及び一般智識の進步によりて、社會及び政治的組織も變化せり然れども軍事的組織に至りては、何等の進步もなかりき。此點に就て世界一般の社會狀態の變化、及び國際的關係の移動は宛かも大空を走る片雲の如く、國民に對して何等の印象をも與へず。僅かに其飛影を殘留するのみ。

近代米國人の軍事的効力に對する觀念は、英雄的行動を連續して必ず勝利を以て終結すべしと云ふにあり。此夢想的英雄、演壇的の勇氣は過去の軍事的成効に關する眞個の歷史に據るにあらずして、唯一片の迷想に由るのみ。されば米國人の所謂軍事的行動は、泡沫の如きものにして假想の色素を以て彩繪せられたるに過ぎず。米國人は實際に於て近時の兵學が他の人事の如く變化進步しつゝあることを否定し、依然として殖民時代の放任的軍事組織を固守せり。否、當時の形骸を墨守しつゝあるのみ。而して曾て米國をして勇壯ならしめたる個人の戰鬪力は

今や殆んど其跡を絶たんとす。要するに是れ國家の行徑及び社會の進化に於て國民的武力の保存及び其破壞を司とる所の法則の然らしむる所なるのみ。其理如何。

國民の社會、工業、倫理、及び政治的組織が益々複雜となるや、人民の活動は國民的より個人的の成功に轉化せられ、人民が其習慣的武力に關して自ら欺きつゝあることは益々暴慢となり益々背理のものとなるなり。本章には北米合衆國に於て現下盛に行はれつゝある、この國家的自欺の念に就き大に之を論せんとす。而して人類の進歩が總て自然の法則に依りて支配せらるゝ如く、國民武力の發展又は破壞も全く之に依るものなることを明にせんと欲す。

蓋し國家が國民に對し强制的徴兵の方法を執るにあらざれば、其人種若くは國家の戰鬪力は其社會組織の益々複雜となり、經濟的活動の益々煩雜となるに比例して減退するものなり。

而して國民が眞個の戰鬪力に關して自ら欺くことは、實際の戰鬪力の減少と同比例を以て進むものなり。

戰鬪力に關して國民の自欺心の極端に達する時は、社會政治及び經濟問題が往々

複雜となり、人民の理想が國家的觀念より離れて、個人的となれる時なり。斯る狀態は尙武的と云ふべきものゝ正反對なるにも拘らず、不思議にも其中に軍事的自負心の醞釀せらるゝを見る。國家の狀態の此程度に達するときは、國民の腐敗は是より發生し、愛國心は着々消滅し去るべし。

政治家に取りて最大なる困難事業は、人民をして道德を堅固にし、且つ國家的若くは尙武的精神を保存せしむるに在り、斯る思想は國民の心裡に於て如何に不愉快に感ぜらるゝとも、決して忽諸に附す可からず、凡そ國家の建設に對して責任を有し、萬難を排して之を保存するの實力あるものは獨り軍事あるのみ。國民戰鬪力の退步は直ちに國家運命の終末を語るものなり。而して國家組織せられて始めて玆に人類の進化を期待するを得べし、既に國家が兵力に依りて興起すとせば凡ての人類の進步、就中個人の自由の如きも皆現在世人が極力破壞せんと企圖しつゝある國民的戰鬪力に依りて贏ち得たりと謂はざるべからず、此の戰鬪力は吾人が數多の國家に分離する以上は、每に其優劣を以て、人類の偉大を示し、又國民を擧げて亡國の鬼と化せしむることゝならん。

國家兵力の强弱は決して一定不變のものにあらず。寒暖計が時々刻々に一日中

の寒暑の變化を示すが如く、兵力も亦常に强弱の變化を示せり。如何となれば兵力の强弱は比較的にして、幾多の條件により定めらるゝものなればなり、其條件とは人間の飢渴若くは喧囂なる狀態を指すのみならず、海や、山や、風や、又は岩石の間に積む所の塵土をも指すなり。

戰爭の舞臺たる土地の高低、其地理的關係及び氣候、交戰國との戰鬪力の比較、兵器及び學術の優劣、其他幾多臨時の他の條件たる兵數、武裝、訓練、戰術等に於て斷えず軍事力の改革を行ひ、他國との調節を保たんとするに取り參考とすべきものなり且つ是れと同時に日新月步の機械的發明、及び科學的發見に一致するを要す、是れ實際の戰術に年々多少の影響を及ぼせばなり。若しも全く國家の兵制にして、憲法によりて定められ、軍人ならざる政治家の意見により牽制せらるゝ一定不變のものたらしめば早晩兵力も尙武の精神も共に消失し去ること必然たり。

古今を問はず、戰爭は決して機械的のものにあらず。單に兵器のみの戰鬪なるものは決してあり得べからず。孰れの場合に於ても勝敗の數を定むるものは兵士なり。司令官の智力及び命令を解し、之に服從するものは、即ち戰爭の運命を定むるなり。若し軍隊の統帥にして一人以上ありとすれば、其數多き丈け反比例に其

効力を減するものなり。是等は世人の容易に理解し得る所のものなり、然れども此以外に於て更に世人の認識を要する一事あり、他なし、器械術若くは科學の進歩發明の結果として、戰術上多大の變化を來すと同時に、交戰當事者の精神上にも一種の調節を要すること是れなり。別語之を云へば武器の種類及び應用益々複雜となれる結果として、軍隊の訓練及び共同精神を益々增進するの必要あり。是れ戰術の進歩と共に義勇軍の効力益々減少せんとする所以なり。

人種及び國民に於て戰鬪力の退歩する原因は、世人の一般に了解せざる所なり。古代に於ては戰鬪力は止むべからざる必要よりして來れり。然るに此必要の去ると共に戰鬪力も亦自ら退歩せり。他日國家の再び戰鬪力を必要とする時機の來るあらんも、直ちに其戰鬪力の復活を期待すべからざるなり。於是乎、殆んど不可抗の軍事的偉大と、優勢の地位に達したる國民の如きも、往々にして尙武の精神を消失して顧みざるなり。而して若しも此退歩にして遂に一定の程度に下る時は國民は其富、其版圖、其人口の如何に拘らず、或は名もなき、而かも好戰的國民の爲めに亡ぼさるゝことあり。

蓋し國民の戰鬪力を支配する法則は人爲に屬せず自然の原則に屬するものにし

て、各種の生物を支配す。海に捿息する最下等動物たるプロトゾアより、人の作れる帝國に至るまで、總てこの法則に從はざるべからず。

吾人は今戰鬪力を分類して左の三種と爲さんとす。

一、生存の爲めの戰鬪力

二、征服の爲めの戰鬪力

三、領土保全又は主權維持の爲めの戰鬪力

生存の爲めの戰爭に於て國民の軍事的天才は其絕頂に達す。蓋し是れ人生の凡てのものに共通なる戰鬪力なればなり。且つ國民として生存の困難が他の人種若くは自然に對して困難なれば、其れ丈け其軍事的精神は益々十分の發達を爲すなり。是れ即ち稀代の人傑たる征服者が、屢々荒涼たる沙漠の中、若くは絕海の孤島より倔起する所以なり。

生存的戰鬪に於る成功に次いで來るものは征服の爲めの戰鬪なり、若しも第一種の戰鬪力は消極的と云ふを得べくんば、第二は積極的と云ふべし。

譬へば繭中の赤き蛹蟲の化して蛾蝶となるが如く、生存的戰爭に打勝ちたる國民は一轉して征服的戰爭に從事し、其勢ひ宛かも猛鷲の双翼を張りて中天を搏つが

如し。
第三の程度に至りては國民の戰鬪力は自然に退步に傾くなり。而して其結果たる、國家の瓦解は新らしき理想の制度によりて益々其速力を進む。即ち戰鬪力の退步と共に商業主義の發展を生ず、蓋し商業主義も一の爭鬪なれとも、其性質の卑俗にして名節を重せず、英雄的精神を缺き、國民の活動に於て戰鬪的理想を最上の地位より最下の地位に陷らしめ、國民は有効なる軍備の何物たるを解せざることとなり、而して軍事的精神即ち、戰鬪力を形成する所の直覺心も亦、全く其跡を絶つべし、且つ國民にして一たび前述の如き地位に墜ち、軍備の形式ありて精神なき詐欺的狀態に達したらんには、軍事的精神は再び永久に恢復することと能はざるものなり。
國民が一たび戰鬪的理想に復歸せんとし、及び自存の爲めに奮鬪を企つる時は、其機既に晩しと雖も其運命の非を示す所の一の深淵の目前に現はるゝを自覺せん、軍事的怠慢と之れが輕蔑とにより生じたる此深淵を跳越して曩日の戰鬪的理想に復歸し得たる國民の數は古來甚だ稀少なりとす。斯の如く戰鬪力が其最後の衰微の時期に入るや、之に繼いで來るものは戰爭に對する忌避の時代にして、遂に

國民の滅亡を招くものなり。

米國民が外國の襲擊を退けんとするに當りて、果して最も有効的に努力することありや否やを定めん爲めには二個の原因に就て之を研究するを要す。第一は之に類似せる他國の狀態を研究すべし。第二に米國の現狀より演繹し來るべし。

凡そ人類が國家的團體を形成したる當初より今日に至るまで、外國の襲擊者に對して國民が協同一致して猛然として之を擊退すべしとは、各國民共有の自負心なり。此自負心は『時』と雖も之れを消滅せしむる能はず。又彼等國民より流出する血の洪水も之を洗ひ去る能はず。世に外敵襲擊の凱旋的馬蹄の響を聞かざる國民はなけれども、彼の世界の軍事誌を繙けば好戰人種が一たび其軍隊を移動するや軍事的に衰頽せる國家の人民が蜂起的に之れを擊退し得たる例は殆んど皆無なり。何となれば斯の如き烏合の衆は、宛かも暴風雨の一過する如く、指揮者もなく、智謀者もなく、やがて其の痕跡をも滅了するに至る。

人類の戰爭に於て擧國民の蜂起的とは嚴密に云へば初期の專制時代を指すものにして、此蜂起的戰爭は僅かに其專政時代に於て可能なりしのみ。一國の文明が

益々弘布して個人の政治的地位を高め自由を强大ならしむるに至りては擧國人民の協同的抵抗力の如きは益々減少するなり。只た外寇を擊攘せんと云ふ觀念の迷信として民間に存在するのみ、然り是れ只だ國民の自負心を示す所の神仙譚のみ。斯る感情は古代に於て可能なりしならんも、訓練一致を要する軍隊の設備と共に其跡を絕ち、學術的戰爭の行はるゝとともに益々減少しつゝあるなり、蓋し近代の戰術は、國民の潜勢的軍事力をして實際の力を現出せしむることとなり。而して之を擧國一致と豫定の方法とを以て法律家、醫師、若くは技師よりも一層學術的に敎訓せられたる人々が、之を統一的に豫定通りに利用するに在り。

今米國が外寇の襲來を擊攘せんと欲せば、現在國内に行はるゝ所の理想よりも遙かに異なりたる理想を把持して之を行はざる可らず。即ち軍人的精神の閃光を以て國民活動力の源泉、及び平素は黯黑にして遺忘せられたる國民の靈魂の殿奥を照らさゞる可らず。是れ實に數月の日子の能くする所にあらずして、多大の星霜を要するなり。軍隊は訓練によりて此精神を受け、理想的名譽によりて向上的精神を養成せざるべからず。是れ商業によりて富者となれるものゝ精神、若くは黄金を以て購ひ得る精神にあらず。只夫れ獨り血のみを以て求め得る所のもの

なり。

此準備や須らく平和の時に於て着手せざるべからず。一たび他國の來襲を受けば、擧國一致を圖るべき政府の機關は夙く既に破壞せられ國民勢力の泉源は、全國に散逸し去るに至らん。宛かも是れ飛散せる彈藥に點火すると一般に、其抵抗力は微かなる光焰を放つに過ぎずして、空しく一片の白烟と硫氣とを發するのみならん。

固より米國が襲擊せらるゝ場合に於て一の防禦力なしと云ふは正當にあらず。即ち斯る說は明かに實際ならず。乍併此防禦たるや、我米國の如く他の異人種を包有し、且つ富める人民の爲す所の防禦と同一ならんのみ。此防禦は幾多の場合に於てアラモデアン的にして勇敢ならん。否、グラカイ主義なるもあらん。然れども結局は倒れたる野草と、喧々囂々たる『擾聲』の防禦に過ぎざるなり。されば義勇軍の決して敗北せずと云ふことに、何故に米國人が尙ほ重き信念を抱きつゝあるかは、這は實に是れ軍事上の『謎』なり。されど是れ事理を解せず徒らに醉生夢死して、輕佻浮薄の心を以て人の向上心を律する國民は悉く然るものなり。義勇軍なるものは中世紀時代の制度にして、唯戰爭の武器が往時平和の時代に於

て使用せると同一なる時代的戰爭に於てのみ有効なり。要するに戰爭の機關が幼稚にして、戰術は單に手と手を以て戰ひし如き單純なる場合に於て有効なりしのみ。

南北戰爭以後に至るまでは、米國人の使用したる武器は、曾て平和の時代に於て山野を馳驅して狩獵したる人々が使用したるものと同一なりき。而して一たび義勇軍の創始せらるゝや彼等は聯隊を作りて狩獵に從事せるのみ。唯だ其目的が禽獸を逐はんが爲めにあらずして、彼等と等しく訓練なき同胞の殺戮をことゝせるに過ぎず。されば遺傳と實行とにより眞に愛國者と云ふに恥ちざる人々が輙もすれば揚言して外寇にして來らば我等は直に屋裡に掛くる我等の武器を提げて其の襲撃者を鏖殺せんと叫びしも强ち怪しむに足らず。思ふに是れ彼等が眞に執らんとせる行動なるや疑ひなし。去れど此頑迷なる愛國者は果して此舉動を以て如何なる點まで進軍することを得ると爲すか。斯る健氣なる愛國的精神も、古風の武器の切れ味を一層改良すること能はざるぞ是非なき。

加之、近代に於る武器の變化は極めて急激にして現在の兵器は、次の時代に於ては最早無効に歸する程なり。

戰爭は最早過去に於ける如く、華やかなる英雄的行爲にあらず。今日、否、明日の軍隊は眞面目にして宏大なる機械なり。此英雄的行爲は少しも演劇的に非ずして沈默にして實に恐怖すべき行爲なり。此戰闘的機械は其各部分を作成すべく數年を要し、之を組織すべく猶數年を要し、之を圓滑に有効に活動せしむる爲めには更に又數年を要す。而して一たび其活動を開始するや、何物と雖も之れに抵抗する能はず。唯一層優良にして有力なる同様の機械のみ之に對抗し得るなり。

近代の戰爭は曠漠なる原野に於て展開され、戰闘者は之れを見るを得ず。此處彼處の青き雲、遠く近く聞ゆる銃砲聲、是れぞ近世的軍隊の沈默的英雄的事業なれ。斯る遠距離の間に展開する軍隊の戰爭に於ては如何に愛國心に富める義勇兵と雖も何等の用を爲さず。蓋し彼等は其戰術を知らざればなり、彼等を死に導く士官は曾て戰場に於て軍隊を見ることなく、其軍事的知識は唯米國獨立戰爭に於るバンカーヒルの戰役や、同じくコンコルド役の一分兵士（譯者曰く、一分兵士とは一分間に召集せられたる軍隊の名なり）のみに過ぎず。

されば一たび唸り來る彈丸が、空間を劈破して軍隊を屠るや彼等は直ちに遁逃して後に隱るゝも何人か之を非難することを得ん、是れ實に何等の援助なき死の瞬

間、恐怖の心の起る時なればなり。

嗚呼義勇軍の時代は遠き昔の夢となれり、而して急激に募集せる義勇兵を以て、他國の常備軍と戰はんとする國民の運命は、既に定まれりと謂ふべし。

南北戰爭が四年を繼續し、其間に於て勇敢高尚なる記憶を殘したるは無理ならぬことなり、乍併此光明の背後には若干の黯黑點を存せり、而して此黯黑點は人々の考慮を欲せざるものなり。故に南北戰爭によりて與へられたる最も貴重なる教訓は死者の再び古塚を出でざるが如く永久に睡眠せり。されば吾人は縱し米國民の幼稚にして、脆き勇氣を壓伏するの好事柄なりと雖も、此永久に睡眠せる記憶の墳墓を發掘することを欲せざるなり。

南北戰爭に於ては義勇軍の歷史は、一たび眞面目なる戰爭時期に入るや忽ち終りを告たり。即ち莫大の恩惠を與へて兵卒を募集したること、及び軍隊間に謀反ありし事等の歷史は始まれり、北軍の義勇軍に就て單に一二件を言はゞ以て其全班を知るに足らん、抑も千八百六十一年乃至五年に於る北軍は、軍規に觸れ又は無能のため免職されたる士官の數は、實に戰爭に死したるものよりも多かりき。何等の理由なくして退職を命せられたるものは、是れ當時病死せるものよりも多かり

き。之を要するに不名譽及び無能者は士官の中に於て戰場及び病氣に斃れしものよりも其數多大なりき。彼の無能なる士官の爲に導かれて戰場に斃れたる十萬餘の無名の兵卒に就き、誰か其戰死の記錄を作るに忍んや。されど吾人は寧ろ是等の士官を非難せず。何となれば是等の罪惡は自己の罪惡にあらずして、現今猶存在せる軍隊組織の無價値より來れるものなればなり。

義勇兵は秩序なき訓練なき平和的生活より、不意に軍隊に招かれたるものにして軍人としての職務に就て殆ど無智なり。他の事柄に就ては如何に熟練したるものと雖も、戰爭に關する技術の原則を知らざるなり。蓋し此學術は國家を建設するのみならず、其繼續の時期と、地球上に於る勢力の大小とを確定し、又亡滅に際して其亡ぶへき所以の審判を下す。

夫れ軍隊は一種の有機物にして生ける個人の如く、心臟あり腦髓あり。此軍隊の心臟及び腦髓は之を組織せる士官なり。其靈魂は彼等を鼓吹する所の精神なり、されば軍隊の價値は豫じめ靈魂の性質によりて之を測らざるべからず。義勇軍は極めて此精神に幼稚なるものにして、若し此精神なき時は軍隊は烏合の衆に過ぎざるなり。其員數の如何に多く、其武器の如何に精鋭なりとも、是れ殆ど彼等に

取りて何等の効能なし。

抑も兵士の精神は、獨り訓練と名譽と軍人的行動によりて、之を發揮することを得るなり。是れ實に義勇兵に制服を穿たしめ、其購ひ來れる勇氣を以て之に加味し群衆の歡呼により、一時の名譽を與へて作り上げ、二十四時間内に製造し能ふものにあらざるなり、若し眞に軍人的の精神を作らんと欲せば、幾多の星霜を經て人間の弱點を除き去り、其靈府の奥より絞り出す所の嚴肅なる訓練を必要とするなり。即ち規律正しき訓練によりて形成せられ、其生命は殆ど機械的に殆ど不合理的に捧げらるべきなり。故に訓練の趣旨としては、戰場に於ては個人の念を去り、個人の存在を破壞せざるべからず。斯くして初めて人間は其偉大の絕頂に達し死中に一點の靈犀を求むることを得ん。

次に米國義勇軍の有効なること、及び襲擊に對し擧國一致を以て、干戈を執る所の人々の勇武と忠實とを判斷せんとするに當り、南北戰爭の記錄を再び應用せんとす千八百六十一年より六十五年に至るまでに、北軍に於ては二十萬の逃亡者ありたり。即ち戰爭の末期に於る全軍の五分の一に相當せる逃亡者ありしなり。即ち應募せる兵士の十二人に對し一人は逃亡者なりき。而して北軍が逃亡によりて

失へる數は戰場に死したるもの丶四倍なりき。此悲しむべき事實に對し此等の註解を加ふるは無益なり。

米國民は其傲慢なる精神に驅られたる時、又は武裝なき空想的なる愛國者の軍隊の大なる强き世界を破壞すべしとの想像を抱くに至りたる時に、須らく是等の事實の眞義を考ふるは蓋し必要ならん。

科學が戰術に入ると同時に、義勇者は撤廢さるべき運命を有す。何となれば義勇兵たることを廢止するの後、二三年を經て初めて眞の兵士と爲ることを得るなり民兵に至りては別に先つ其絲の如く紊れたる謬見を除くの必要あり、而して後、初めて兵士となることを得、是れ義勇兵よりも一年多くの星霜を要す。

砲術所に就ても射擊場裡に牡牛の眼や鶉の双翼を射るは必ずしも軍人としての砲術に熟達したるものに非ず。動物を二三百ヤードの距離に獵する人は、千ヤード以上に人を獵する所の戰術とは何等の關係なし。前者は熟練にして後者は學術的なり。軍人的の射擊者は千差萬別なる空間と地理的狀態の下に距離を計算せざるべからず、千ヤード以上の範圍に於て、氣候と風力と濕度とを計算せざるべからず。二千呎の速力を有する銃砲を以て風は一時間十二哩の速力にて吹くと

きは、彈丸に對して十八呎の差角を置かざるべからず。溫度一度に對しては一時の差を設け、溫度十五度毎に十四吋の差を設けざるべからず。乍併、單に射擊のみにては如斯に熟達するも決して兵士となるを得ず、否、是れのみにては決して近代戰爭的の成功を保證し得ざるなり。有効なる軍隊を構成せんと欲せば、他に等しく緊切なる要素あり。

銃砲、ピストル其他同樣なる素人生活的聯想は國民に取りては單に消極的のみならず積極的に有害なり。是の如きは近代の兵士の必要なる智識と義務に對して過てる觀念を與ふればなり。正則なる軍隊の三年の訓練を經たる後、其二割五分は適當なる射擊者として採用することを得る程度なり。素人生活の散彈的射擊が戰爭の要素なりと信ずることは、無智なる國民の虛榮心の暗澹たる沼中より燃え出づる黃色の燐火に異ならじ。

此不注意にして眠れる國民に對し、最後の時の鐘の鳴らざる以前に之を自覺せしめざるべからず。軍事的義務を盡すに於ては究竟の目的を棄てゝ其末に走り責任を避くる等のことある可らず。勿論多數の國民及び市民の射擊者は、國民の戰鬪力に於る財產として計算することを得べきも、此財產たるや、山嶽の谿谷に存在

する石炭、及び鐵鑛の如けんのみ。其有効的に利用せらるゝまでは其れ自身に於ては何等の價値なし。米國は其富と自負心とに醉ひ實際の力と其れ等とを區別せず。然るに日本は米國に比して其富は尠なけれども軍隊的に云へば四十倍の力あり。獨逸、佛蘭西、及び日本は一月以内に教育ある士官によりて學術的に訓練せられたる軍隊を動員することを得べし。若し米國に於て之を爲さんとせば三年を要す。普佛戰爭に於て獨逸は戰鬪準備ある五十萬の兵士、十五萬の馬匹、一千二百の大砲を五週間に戰場に送れり。合衆國は三年を以てしても同一の軍隊を動員すること能はざるべし。而して近代的戰爭は三年を繼續すること極めて稀なるを記臆せよ。

豈啻陸軍なきのみならんや、米國には軍隊的組織なく、武器武裝なく、戰爭の準備なし。又參謀官なく、軍隊及び供給品輸送の準備なく、而して國民の戰鬪力は最も變り易き而して汚濁なる夏期の洪水(譯者曰く商業主義の跋扈)によりて洗ひ去られたり。

戰鬪的精神は各人生れながらにして之を有すれども、兵士は之を作らざるべからず。然れども兵士は機械を以て作るを得ず、手を以て作るべからず。仕立屋の作

れるものにあらず、二十四時間內に配合して仕上ぐべきものにあらざるなり。兵卒は一定の言語を以て、若くは勇氣や自負心を以て作られず、少くとも十二人の人が三十六ヶ月間を費して、然る後一人の兵士をして其義務を盡すに適當ならしむるを得、若し十分に敎官の型に似せしめんとせば、更に多大の勞力を要するなり。軍隊に應募する人は、其將官が職務に屬する義務を十分に知ることを要求するの權利あり。何となれば無數の生命は將官の手に委せられ、彼等兵士は其國の祭壇の上に供へられたるものなればなり。彼等は個人の自負心を滿足せしめんが爲めにあらず、國家の敵と戰はんが爲めに戰場に送らる。病に斃れんが爲めにあらず。若し彼等にして死すべくんば唸り來る彈丸の爲めにせよ。將官の無智の爲めに斃るべからざるなり。

普通の生活に於て內障眼を除去する爲めに、眼科の熟練者を屠牛者に求むるを得ず、理髮者は外科醫の働きを爲さず。農夫は航行の船を繰縱せず。石工は法廷に立ちて辯護士の役を爲さず。水夫は山に行くの價値を定めず。書記は技師の働きを爲さず。然るに米國に於ては戰時にありて此等の人々は他の各種階級の人々と共に、義勇士官の資格を以て、三十一日間に科學中の最も複雜なる戰術を學ばん

とするなり。

世界に於る最も劇しき殺人者は無智なる軍隊士官なり。其人を殺すや、彈丸を以てし、疾病を以てし、怠慢を以てす。彼は兵卒を飢渇に陷らしめ、之を怯懦と爲し、失踪者と爲し、罪人と爲すなり。憐むべし死者は彼等の無智の爲めに葬られ、生者は彼等の無能の悲しむべき活ける標本と爲るなり。

# 第六章

黄金萬能の信念は斬新の事にあらず、是れ猶太人と等しき古き觀念にして、富が人間社會に勢力を有し個人的努力の最高なる目的とせらるゝ處に行はる。如何なる國民も富を以て政治的勢力の淵源と爲し、各種階級の標準と爲し、社會高位の徽章とせらるゝ場合には、遂に富を以て武力の淵源と看做すに至るなり。愛國心を金錢に換へ、利益を以て神祇を計算する國民は、然かく信せざるを得ざるなり。富――虛榮心を有し、同時に兵備なき國民は、戰爭を惹起して必らず自ら其破壞を招くなり、此法則や極めて古く且つ普通なるを以て、宛かも地球の重力、海の潮、死の不可避等に對すると同しく、世人は恬として之を注意せざるなり。又世人は國民の富める者は必ず傲慢となり、富で驕るものは必ず國防を缺くに至ることを自覺せざるなり。而して吾人が前章に論せる如く、國防なき國民は早晚退步の懲罰を免れずんばあらず。富は國力の基礎たらずして、却て其破壞に於て最も顯著なる原動力となることあり。國民の實力を增加せず却て其統治者の責任を增加し、防禦をして益々必要とならしむ。抑も國民の富は實力にあらずして危險の泉源なり、

是れによりて生ずる所の傲慢心は眞に猶太的なり、從つて商業、金錢、及び抵當品は、海陸軍よりも一層大なる財産にして實力の淵源と誤認せらる。是れ寧ろ國民をして軟弱ならしめ從つて空論家や、巾幗者流や、其他富に附屬せる惡産物を發生するなり、富を以て人の希望、正義、報酬、否富其ものゝ價値等が人間慾望の標準と見做さるゝに至ては腐敗は是れより生じ、愛國心は其跡を絶つべし。

類例を以て推理を下すことは屢々過つことあり、然り、類例は幾多の誤解の泉源なり、若し人あり類例的推理よりして演繹し、若くは一般の原理を樹てんと企つるものあらば、必ずや彼は誤謬の深淵に陷らんのみ、類例が眞個の確實なる理論に達する時は、唯種々なる條件の下に於て兩者の同一の原因が、同一なる結果を生ずる場合に於てのみ然るなり。例へば多少正確に左の如く論ずるを得べし、曰く噴火山は其伊太利に在ると、爪哇に在ると、昔と今とを問はず、多少變化せざる同一なる方法を以て、灰及び熔岩を噴出すと。而して此噴火山的原因及び結果は、地理及び年代の差別あるにも拘らず、常に同一なるが如く、人類間に於ける平和の時に爆發すると異るところなし。

人間の制度慣習を論ぜんとする場合に臨みて、類推的論法は只其比例とすべき狀

態の同一なる場合に於てこそ、始めて之を應用するを得べきなり。人間の歷史に就て之を觀るに、一の時代は其前時代と比較して、自ら極めて賢しと考ふるものなり。然るに其事實如何と云へば、却て頗る暗黑なること彼の中世の如く、若くは近代の文明が往古の希臘、羅馬、印度、支那の文明に比較せらるゝ如し。之と等しく後に來る宗敎は、其先行者の努力を無益と爲し、我のみ神の御心に恊へりと主張す。何れの時代にても其時代の習慣を以て善良と爲し、其先行者を嘲笑し、其道德も之を古に比し一層純潔にして、其公平ならざるをも完全と思考す。斯く變遷し易き自負心の總目錄は通じて無限に然るなり。而して其自負心なるものは沙上に書かれたる文字の如く、『時』てふ無限の大海に浮みて、渾沌と虛無とに歸するが如く變化多きものなり。

しかはあれ、斯く沙上に屢々書かれたる足跡を尋ねて、以て吾人は人生の不變なる特色を洞察するを得べし。此特色とは人類をして政治的團体と爲し、又時の進むに迨びて、其破壞の止むなきに至らしむること是れなり。此特色は人類の本能にして學說、倫理、風俗、宗敎等の自由なる變化によりて、一時影響を受くるのみ。即ち此人類の本能とも云ふべき興廢存亡の理に從ひ、吾人は現在と未來とに就き之を

類推して判斷を下すことを得るなり。此推理を爲すや、吾人は沙丘の如き過去の事蹟に基きて之を爲さず、寧ろ之を形成破壞する所の潮流とも云ふべき根本の大勢に基きて之を爲すなり。

本書に於ては紙數に限ある爲めに、各國民に關して明細に其形成、破壞及び其遂に悲しむべき終滅の原因を研究すること能はずと雖も、讀者は多大の勞力を費さずして富が其國民の力と耐久力に如何なる貢献を爲せしか、又如何なる程度に其基礎を破壞し國家組織の柱梁を腐蝕したるかを察知することを得べし。

學說、倫理、宗敎、風俗等と異り、富なるものが國民の存在に對して有する關係は決して偶然一時的のものにあらず。又一時刻若くは一種族の政治的產物にあらず。蓋し是れ如何なる地方の人も、如何なる時代に於ても決して異る所なし。其結果や不易不變にして、バロ王の帝國、若くは朝鮮、支那、羅馬、印度、西班牙等に適用するも其原則は變らず。而して同一の必然なる結果を以て、我北米合衆國にも其感化を及ぼすべし。富及び國家の興亡に關する法則の適用は決して變ることなし。

戰爭に於ける原動力としての富は、若干の潛勢力を有し、一種の從屬的の力たるは論なきも、戰時に於ては實際に征服力たるが如きの觀を示すは、只表面の現象のみ

にて、眞理は之と反對なり。抑も富と戰鬪力との間に於る衝突は只唯一の憐むべき終局あるのみ。即ち猥りに紫衣を着けて、其豪奢に誇りたる波斯人の運命に過ぎざるなり。再言すれば斯る衝突は、紙製の甲冑を着けたるものと、實際的戰鬪者との間に起れる鬪爭のみ。死せるキッド(譯者曰くカスチールの勇將にしてムール軍と戰ひし有名の將軍)の屍体に鎧裝して飾られたる敵と、生けるムール人との如し。一方には雷鳴と煙とに對して、他方には電光と火と相對するのみ。イサスの戰爭、羅馬の陷落、乃至マレンゴー、セダン、遼陽の戰は即ち是れ黃金と銅鐵、脂肪と筋肉、虛榮と訓練との限りなき對照的墓標なりとす。

ミダス(譯者曰く希臘の神話中にある呪はれたる裁判官のことを云ふ)と等しく金力に屈服せる國民は、軈て之より救はれんことを希望するなり、然れども彼等はバクトラス(譯者曰く小亞細亞にありて黃金の砂上を流ると稱せらるゝ河の名)の水を以て、之を洗ひ去ることを得ざるなり。彼等の迂愚を洗滌せんには國民の心臟より流れ出る涓滴によりてのみ浴し能ふなり。戰時に於る富は如何に無限なりと雖も、武器彈藥を準備し、兵士の給料を拂ひ、其給する衣食運搬の設備を爲す以上の働きを爲さず。無限の黃金力も國民の勇氣、克己心、訓練、軍事的智識を購ふこと

を得ざるなり。黄金を以て購ひ得たる勇氣とは、商業主義の最も大なる深淵に沈淪せる國民の觀念に於てのみ浮動する所のものなり。實際如何なる人類の擾亂時代にも勇敢なる行動が、其前後に於て金銀に擁せられて實顯せし例證のあることなし。黄金は戰爭の爲めに人を募集し得ん。然れども筋肉より衷心まで訓練し得たる人々に對して、金力を以て勝利を占めんとするは不可能なり。戰爭の費用は必ずしも交戰國間に同一なるものにあらず武器に對する費用は各國ともに同一なりとするも戰爭の費用は之と異れり。蓋し是れ國民の富と比例すべし、英國若くは米國の軍事費は他の國民の軍事費よりも幾層倍なりとす。合衆國にして今日日本が露國との戰に於て出動せし、同數の兵卒を、同時間同境遇の下に戰場に送りたらんには、月給のみにても殆んど日本人の全部の戰費と同一ならん。而して全國の戰費は米國の富が日本の富と比較して大なるが如し、加之、軍政上の腐敗より生ずる失費は、更に其費用を增大すべし。

南北戰爭に於ては殆んど二億弗は賞與に費消せられたり。今日の如き物價の騰貴せる時は給與金は其當時の三倍ならん。卽ち日露戰爭に於る日本人全体の費用に相當するのみならず、其の當時は米國人にあらざる人々の比較的に少數なり

しを以て、愛國心も亦比較的に其比例高かりき。現今に於ては移住民の數は實に全國民の五割以上に達す。然らば今日の戰爭の痛苦と犧牲とに向つて、是等の人々を應募せんと欲せば、更に多數の黃金を要するならん。蓋し彼等が收穫の多き豐饒なる土地と看做す所の國土の爲めに、却て其有利なる勞働を棄てゝ死せよと彼等を招くことは、實に莫大の黃金を要するや必せり。

軍事費は單に國民の富と比例するのみならず、個々の兵士の要する費用も、生活費と給料の增加とに比例す。國民の富裕及び節儉により其度を上下する所の石工の給料は、米國にては一日四弗より五弗に達す、日本は四十五仙、歐洲は九十仙、他の勞力も亦之に比例す。富裕なる國民に行はるゝ生活費の高きときは、高き賃銀を必要とするのみならず、戰爭及び平和時代に使用せらるゝ材料、食物、彈藥の價格は、トラストの高めたる價格と比例し、若くは其以上に高價ならしむるものなり。

例へば平和の時代に於て、歐洲國民が三十五萬乃至五十萬の兵卒士官、及び二百萬乃至五百萬の豫備軍、及び之に相當なる馬匹及び銃砲を維持せんとすれば、之に要する金額は米國が豫備軍なくして五萬の軍隊を支持するに費す所の金額と同一の金額を要するに過ぎす。日本は今日米國が五萬の兵卒に費すと同等の金額を

以て、一百萬以上の常備軍を平和の時代に支持することを得べきなり。平和の時代に於てすら、米國か軍備に要する費用は斯の如く大なり。故に戰爭に於ては一層多大なるを見ん、蓋し戰時の準備費は國民の富に比例するものなればなり。千九百一年より同七年に至る平和の數年に於て合衆國政府は海陸軍費として十四億弗を費消せり。之れ實に日淸及び日露戰爭に於て日本が費したる軍費の總額、及び其間の平和時代に於る日本軍隊を支へたる、全體の費用を以てせるものに超えたり。然るに今日にては合衆國は一の陸軍を有せざるなり。而して海軍も亦其海岸を防禦するに必要なる防備の一半を有するに過ぎず。

貧は奢侈を生ます、節儉は富の生兒にあらず、貧は一切の人間の努力を產出し、富は各種の腐敗を釀生す。平時に於て富める國民は戰時に於ては益々貧となるなり腐敗は國民の富と直接の比例を爲す。若し國民が衰微の時代に在る時、例へは印度、支那、西班牙の如きは、此比例は益々大なり。國民の富は退步するも腐敗は過去の最大なる富裕の時に比例して存在するものなり。

富める國民は貧なるも節儉にして戰鬪的なる國に對し、戰を開いて破產するに至る。過度なる國民の富は遂には戰爭に對し無能力となり、戰爭に於て國家の破滅

をも防禦する能はざるに至るべし。其の弊や奢侈によりて怯懦となり、婦人主義學術主義と化し、尚武的傾向と軍事的實力とを亡滅するに至るなり。其結果軈て人間生活の各方面に現出し、國民議會より討論會、社會主義、理想主義、世界主義等其他あらゆる人爲の巧智を以て、其希望と失敗とを經緯して織り成せる、無數の美麗なる錦繡中に絢爛たるなり。

富は之を眞實に其相當なる從屬的資格に於て見る時に限り、國民の陸海軍に於る原動力となるものなり。即ち富は戰鬪艦を作るに必要なれども之と戰鬪するに必要ならず。武器を買ふを得れども、勇氣を買ふを得ず。彈藥は製造すれども、愛國心は製造する能はず。然るに富が國民生活の最も力あるものとなり、個人的努力の中樞となるときは、軍事力を組織する原動力は滅亡し去らん、噫國民が戰爭に於て苦しむ所の貧は、寧ろ是れ富の過剩より生ずる所の貧なるのみ。

富を以て人民の名譽と希望とに全然從屬ならしめて初めて國民の偉大を增加する爲めに利用することを得るなり。人民の勇氣及び道德が富と全然分離せられて後、初めて一國を自由なるものとし或は富めるものと看做すことを得るなり。乍併若し富にして凡ての主人となるときは遂に國家の衰頽となり、如何なる語を

以てするも、其弊害を適當に形容すること能はざるに至る。富が自己を防禦するに無能なりと云ふ思想は、不愉快なる思想なり。故に人類も否、國民も其富の無力と云ふことを知るを欲せず。商業主義の憐れむべき詭辯家は、一切の奢侈と美術とを以て飾られたる大なる市街を誇り、無數の工場、技藝、科學、教育、工場の聲、金滿家、憲法、統計を指して富力を例證するを常とす。而して其人は論して曰く、是等の富力即ち此無限なる文明の潛勢力を缺ける國民團體、若くは箇人は如何にして戰爭に於て撲滅せられざらんと欲するも得べけんやと。

嗚呼斯る思想――如何に憫笑に堪えたるよ――然れども人は故意に戰爭の力と平和の力とは同一なるものにあらずと云ふ事實を、單に其欺かんと欲する人に對して之を掩ふて知らしめず、自己に對しても亦之を掩ひつゝあり。戰爭に必要なるものは平和に對しては何等の必要なし、戰時の人才は平和の人才と何等の關係なきことは、海の潮流と其洗ひ去る所の沙上の波痕と、何等の關係なきが如く、又百年の老柏と之を一瞬間に打ち僵す所の電光と、何等の關係を有せざるに均し（譯者曰く潮流と電光を戰時に比し、沙痕と老柏を平時に比せし意）。

商業的緻密の動作は富を蓄積するに必要なり、然れども此動作は富の建築物若く

は蓄積したるもの丶破壞を防ぐには何等の力なし。又富は人の實力を麻痺するのみならず、富其ものゝ力には限りあるものなることを忘却せしむるなり。されば茲に二箇の戰鬪者が同時に此誤解病に罹りたる以外に於ては富なるものは自滅的のものにして、却て其富力の葬らるべき石棺の美を飾るに過ぎざるなり。借問す、希臘の大理石を以て建てられたる市街の裡、若くは紫色を帶べるダリヤス、埃及、或は印度の諸帝國を彷徨し、殊に其富、學者、商人、及び燦爛たる兵士を見たる人々が、彼のエパイラスの峻岳、マセドニアの荒涼たる山上より降下せる無髯の一青年(歷山大帝)が、悉く是等民族を征服し得べしと思惟せるもの幾人かありや、と。亞細亞の豪奢なる各國に於て、誰か毛皮の衣を纏ひたる匈奴人を怖れたるものあらんや。 羅馬人にして誰か犬齒的のゴス人や、バンダル人――、其富は彼等の蔽へる毛皮と、其手に持てる刀槍とに過ぎざりしバンダル人――、を怖れたるものあらんや。是等の蠻人の富は、樹木の葉や、夏天の雷、地上の石器に過ぎざりしなり。今を距る十三世紀以前に於て憂鬱なる癲癇病者が、アラビヤの山岳、海邊、及び遊牧の種族の中に倔起し、世界の最大帝國をも微塵の如くに破壞し、印度より佛蘭西に至るまで、政府を倒し、法律、政治、風俗、習慣、宗敎等を變化すべき勢力を發現せしこと

を誰か想像し得んや。然れども是れ事實なり、而して富てふ脆弱なる建物は、憐れむべし、一日にして亡びたるなり。

誰か巨大なる支那帝國、印度、波斯、否、全亞細亞歐羅巴に於て、韃靼人種の半神秘的なる人類より、神の鞭の出でんことを豫想したるものあらんや。然れども是れ亦事實なり。オルカンの荒涼たる河岸に於て成吉斯汗が沙漠の九個の荒地より、其の牝牛の尾の如き蕃旗を立てゝ世界を卷席したるは即ち是れなり。而かも彼が卒ゐし兵數は彼が荒らせし市街の數よりも尠なかりき、彼の收入は彼の才智と騎者の勇氣と、荒れし原野にある牝馬の乳に過ぎざりき。

一世紀以前に於て、歐洲民は平然として佛國民自身の破壞を目擊したり、君主制度は屠られたり、貴族は斷頭臺に上れり、商業は破壞せられ製造所は倒れたり、國內には貧民の飢餓に迫れる者を以て充滿せり、國民の富は共和國の燎火となりて燃上がれり。俄然其色青褪めたる一短軀の偉人は此飢えたる、國民、商業、製造業と其收入なき國民とを奪ひ取り、其貧を以て意外にも歐洲全土を奄有したり。

今より數年前突如として山嶽の圍繞せる島國に於て、其人民はトロイの圍に使用したる如き古き武器を以て互に戰ひつゝありき。其島國全體の收入は米國の一

市の收入にだも及ばず、全帝國の耕地はイリノイス州の一半に達せざりき、而かも彼等は勃然として起ちぬ、其貧力を揮ふて十年以內に地球上に於る、二個の最も虛榮にして廣大なる二大帝國の臟腑を剔抉せり。全世界は其老眼を刮して此新たに上れる太陽(日本の勃興)を一瞥して驚きたり。宛かも是れ未知の慧星の忽然として東海の表に現はれたるを見て喫驚して嚇けるなり。

古往今來世界の史上に起れる斯の如き出來事に徵するも富を以て軍事の原動力と爲すことの無益なるを知るに足らん。孰れの時代にも其武器の異なりあり、社會的及び人種的方面の變化あり、東洋も西洋も時の古今を問はず、此結論の動かす可らさるを證明せん。蓋し是れ富は如何に巨大なり。とするも國民に供するに戰鬪の眞個の材料を以てすること能はさるなり。世界の富力を悉く併有するも國民の一致若くは災禍に遭遇して恐れざる忍耐力を供給する能はざるなり。然るに凡て勝利を獲得せんには、必ずや行動の一致と大膽なる目的とを要することは現今も將來も常に異ならざるなり、富によりて支配せらるゝ國民は其の靈魂まで富の奴僕となれるのみならず、國家其ものが已に奴僕となれるなり。政府は其進むや幾多の迷路に入れり、無數個人の利害は國家の利害以上に認められ、國家とし

ての屬望は存在せざるに至るなり。共和政治が個人の利害を保護せんとするに使用する手段は、其團體を構成する人々の生命の如く、朝、夕を知らざるものなり。然るに此果敢なき行動に對して、國家の偉大は犧牲に供せらる、若し斯る國民にして他國より戰鬪を開始せられんか、直に一擧にして破られんのみ。平和の時代に商業的企圖を實行すると同一の方法を以て戰爭を企てんか、其結果たるや國民の土崩、瓦解、亡滅あるのみ。

之に反して個人を以て單に國家の偉大を助長する一器具なりと看做す軍國にありては、其目的は猛勇にして曾て阻喪せず、其步趨は邁往直進して滯礙せず、其氣力は熱烈にして困憊せず、於是乎財力も人類も共に其計畫を妨止するを得ず。何となれば是れ組織的にして、其計畫や單純なるも其實行や激烈にして、何物も容赦する所なければなり。財政上の學說も彼等を恐れしめず、收入及び商業は到る處に之を利用す、金滿家も經濟學者も彼等の心を畏怖せしむるを得ず、其課稅や印紙稅は之を物質に對して徵收せず、寧ろ國民の靈魂、感情、及び其慾望に向て之を賦課す其の手段方法や無盡藏なり。されば是等の事實を自ら悟らざる國民は終に艱難に陷りつゝ擊攘せられて亡滅するに至るは誠に自然の數のみ。

# 第七章

遼遠なる過去の時代より現在に至るまで、國民生活の歴史及び傳記を繙けば其間一定不變の要素ありて存在することを視る。即ち其國の大小と文野とを問はず苟くも政治的團體として生存する以上は、必らず此要素の支配を脱する事態はざるなり。抑も國家の發展と破壞と其方法形式は時代によりて各其趣きを異にすれども、其發展を促し若くは退歩を招く根本的の原動力に至りては、何れの國家と雖も同一にして變ることなし。國家國民又は其他の社會に於て個人が改革の原動力なる如く視ゆる場合なきに非れども、其實個人と唯自己一定の特色を以て此根本的原動力に着色するまでにして此根本的原動力は幾代を通じても、依然として其作用を改むることなきなり。

然るに世人の多は、其判斷を確乎たる事實の基礎に置かずして、徒らに根據なき希望の上に建設す。是等の人々は蓋し無益なる粗糠の如きものにても其信念又は議論に幾何かの滋味を添ふべしと思考する時、例へば三合の粗糠を得んが爲めに、十斛の麥を苅取るをも辭せざるべし。這種の人は自ら眞理を討究し他人をして之

を識らしめんとするに非らすして、唯漫りに自已の見解と同樣なる見解を他人に強いんと力むるに過ぎず。一世の附和雷同を買へば其餘のことは彼等の問ふ所にあらざるなり。斯くの如くして一人の自負心が眞理の標準の如く思惟せられ多數の判斷力は、此一個の迷想の爲めに支配せらるゝ如き實例決して乏しからざるなり。されば生ける國民軍の大將は、死せるシーザー大王よりも常に大なる魔力あり。フロックコートにシルクハットを戴ける泰平無事なる市長の命に背くを得ざるも之が爲めなり。凡て人類の行動を支配すべき原動力は其數多からずして其變化も亦長日月の間に徐々として行はるゝのみ。氣候及び地形、文明の程度幷に其種類、法律、風俗、習慣、其他各種の局部的、又は一時的生活狀態は、是等原動力の發現に種々の變化を生ぜしむ。

人類の多くは其判斷力を外面の些事にのみ置き、以て之を根本的法則の如く思惟するを常とす。されど是等は夏日の羽毛の如く耐久力なきものなりとす。然どカも普通には人類の根本的特徵は變化せらるゝものと看做され、各時代の經驗的智識も殆んど無用の長物視せらる。

更に人類が其微弱なる蟻螻の如き努力を以て、自家の作爲したる定式又は制度を

以て、人世の缺陷を塡充せんとするは殆んど無用の業たり。而かも彼等の自負心の強きや平然として斯の如き事業に從つて嘗て其愚を覺らず。昔者昂然として太陽に命じて、ギペオンの地に止まれと言へるものあり。（譯者曰く舊約聖書中にヨシアが敵地征服中太陽を止めし事あり）今は自己の淺薄なる學說を以て、國民の盛衰消長を支配すべき、自然の偉大なる勢力に適用し、其活動を抑壓して死海の如く永久に潮流の作用を止めて、以て自然力を無視せんとするものあり。

人類は個人としても亦國民としても、其生存を維持せんか爲めには、之を支配する自然の法則に從つて努力せざるべからず。即ち出來得る限り其痛苦を避け生活狀態を改良し、最後に於て必然到着すべき破壞をも遷延せしめんとせば、人類又は其淺薄なる自負心に何等の顧慮をも拂はざる自然の法則を理解し、之に違背することを避けざるべからず。而して此法則が如何に人類の行動を支配するかを探尋せんとせば、經驗的智識に據らざるべからず。

發明家は決して發明を爲すものに非るなり。彼等は唯開闢以來存在したる法則及び勢力を新しき方法に適用したるに過ぎず。科學者も亦決して創造し得ず。

彼等は單に自然界に既存せる元素と其狀態とを世人に知らしむるのみ。是の如く學者、詭辯家、其他の輩は數千年の歳月を費して人類に贈るに一も其實質的遺物を以てせしことなし。而かも彼等自ら悟らず、世界を支配すべき各種の法則及勢力の否定する所なるを顧みず、强て無より有を作出せんとし、或は其病的腦隨の星霧中より自然界に知られたる元素を强て創作せんと努む。世界自身の立場より之を觀ば彼等の所謂發明と云ふが如きは、暴風雨の夜に飛翔する所の雁背に止れる一匹の細蟲に異ならざるなり。

政治的團體の組織繼續及び其破壞を支配する諸勢力に關し、玆に國際的仲裁及び武備解除を論ずべし。是等は其問題自身としては批評の價値だになし。されど之を誤解するより生ずる弊害あるが爲めに、殊に米國の如く敎育の廣く行はれたる國に於て、而かも事の眞僞を判斷する智識の比較的缺乏したる人民に取りては、此研究は最も必要なりとす。如何なる國にても善惡を聞くに足る敎育あるも自ら進んで之を識別すべき學力なき人衆ほど、頑迷固陋なるはなし。米國に於ても低度なる敎育が一般に普及せる爲め、種々なる學說宗敎には其遵奉者あり、高弟あり、空想家にも之に伴ふ從者あり、如何なる妄想無稽のものと雖も、相應の尊信者を見

ざるはなし。若し是等の迷信にして單に個人に有害なるのみならば、敢て深く顧慮するに足らずと雖も、此妄想が普く天下に傳播せられて、國民の福利に干渉するに至りては、進んで彼等の希望の空漠にして沙上の樓閣に過ぎざる事を指摘するの必要あり。吾人は此種類の妄想者中に、彼の國際仲裁々判主張者、及び武備解除論者を數へんとす。是等の人々は彼等の唱和者たる政治家、文學者、僧侶、詭辯家其他の勞力者を率ゐて昏迷せる米共和國をして『ブルポデングネジアン』(譯者曰く八幡の八幡知らずの如き比喩)の沼中に導かんとはしつゝあり。而して其處に磅礴せる恐るべき瓦斯を免るべき方法とては絶ゑて知ることなし。

本書の初めに於て已に論じたる如く、國民は其發生、育達、及び死滅に至るまで總ての生物、即ち動植物及び人類を支配すると同一の法則に依りて支配せらる。所謂生存競爭、優勝劣敗の原則是れなり。此法則は生命と時とに對して一般に行はる原因結果の關係に於て曾て變化せず。唯國民存亡の期限に關して變化するのみ即ち此法則を知りて之を遵奉するの眞僞如何によりて、國民生存の期限は長短せらるゝなり。然るに此法則を遮斷し、或は否定し、或は破壞せんことは人の自負心より來る愚擧なり。此愚擧を敢てせんどする者は世に乏しからず、其結果や頗る

危險にして而かも結局は無効なり。

學說上より云へば國際的仲裁は自然力の不可抗なる原則を拒み、之に對して投機師の法則を代用し、彼の古英國王カヌート的虛榮心を以て、潮汐の干滿を止めんと命ずるが如く、畢竟人生の洋上に坐せんとするものなり。政治的團体の存在を支配する自然的法則を停止して、之に代ふるに國際的仲裁を以てせんとするものは獨り自然法の活動と其應用とを知らざるのみならず、戰爭の原因及び其眞義をも全然誤解するものなりとす。凡て國民は其時期に於てこそ異れ、其內部には火の如き活力を鬱積し或は將さに一大爆發を見んとして氤氳磅礴たる如き狀態を呈することあり。數國民が同時に此の如き鳴動を起し、熔岩の如く人類を噴出せんとする場合は容易に之れ無しと假定せんも、若し一國の政治界にて斯る原動力の發生じたる時は、其結果として戰爭の現れ來ることを免れざるなり。

されば戰爭の起因は之を國家と國家との爭端中に索むべからず。寧ろ一國民否諸國民の胸臆中に存在するものなり。故に此胸臆中より政治上工業上、其他革命的憤懣の聲を聽くことあらば、是れ早晚戰爭と稱する人類間の破壞を豫想することを得べきなり。國際的仲裁の如きは此戰爭の遠因と近因とを區別せず、猥りに其

近因のみを目睹せり、是れ宛かも是れ噴火口と天上とに搖曳する層烟を認めて噴火の原因と爲すが如し。

戰爭は國際的爭論を原因として生じ來れる結果にあらず、寧ろ國際的不和の生じ來れる以前に、早くも已に戰爭を釀成すべき原因の存在するを認むるを要す。即ち國民間の爭論又は不和が戰爭の原因を爲すに非ずして、將に來らんとする戰爭の前徵即ち其先驅たるに外ならず。是を以て仲裁若くは其他の手段に依りて爭論を調停するは、假令十分に成功することあるも、唯或る時期の間、戰爭の來るを遷延するに過ぎざるなり。

一の國際的爭論を調停することの可能なるや否や、及び其可能の程度如何は、當該係爭國の一方に於て國家の擴大を爲すべき時機の來ることの遲速如何によりて察するを得べし。但し所謂時機とは必然戰爭と爲るべき危機の熟したる時を云ふなり。假令國際的爭論の起るも戰爭の危機は極めて遼遠にして、殆んど注意に價せざることあり、從つて仲裁の必要を思はしめざることあり。而かも時として二三强國の爭論が戰爭の破裂前に明瞭し而して直ちに宣戰の布告となることあるか故に、歷史上にては普通國際間の爭論そのものを以て直ちに戰爭の原因の如く

看做すを常とす。
戰爭の起るべき眞因は、根本的にして一時的のものにあらず。又人心の發作的憤怒より起れる暴風雨に非ずして、實に一國民が其進化の階段として、必然免るべからざる猛烈なる現象なり。即ち一の政治的團体が次第に其發展の偉大を來し若くは其興敗存亡の變遷の時期を特表するものなりとす。
國家は其性質上一時的のものなれども、之を支配する自然の法則は誠に恒久不變なり。人は自已の制裁上必要なりとする法律を、任意に改廢することを得べきも而かも自然界より發する命令に對しては、嚴に之に服從するの一あるのみ。人の作れる法律は臨時の便宜に過ぎずして、空虚なり、浮華なり、自然の法則は破るべからざる定命なり、永遠不滅なり、然るに國際的仲裁なるものは此の狀態を全く顛倒し、永久のものに換ふるに一時的のものを以てせんとし、不易不變の嚴粛なる原則に代ふるに、人爲的空虚の迷想を以てせんとするものなり。
大凡國際的仲裁なるものは、單に戰爭の原因より生ずる結果に關係するを得るのみにて、到底戰爭の原因たる根本的要素に接觸することを得るものにあらず。即ち國際的仲裁は、戰爭の原因が其結果を生じ國民の感覺を(刺激するに至りて)後ち

初めて活動するものにして、時既に遲し。勿論或る二國民間に爭端起ることあるも、其原因が戰爭となるべき性質のものより來らざることもあらん。此の如き場合には其爭端は、唯空烟と虛聲とを發して落着することもあるなり。

國際的仲裁が時に斯る一時的爭端を調停し得ることあるを以て、宛かも自ら其存在の理由を發見したるものとなし、徒らに辯論を弄して以て宇內の靜謐を計らんと企圖せるは、彼の頓機翁が風車を攻擊せんとする勇氣（譯者曰く、泰西の諷刺小說にドン、キホーテーなるもの紙砲を以て風車を襲擊すると云ふことあり、卽ち空しき勇氣の意なり）にも及ばず、彼等は徒らに地上に隱現する恐ろしき虛影と鬪爭すると何ぞ擇ばん。

試みに一步を讓り國際仲裁論者が云ふ如く、根本的事情に從屬して發生し來れる結果を以て、戰爭の原因と見做さん乎。別言すれば戰爭を誘致する所の戰爭開始の直前に起る出來事を以て、戰爭の原因なりと承認せん乎。國際的仲裁論者は更に大なる不可能の見地に立つことを發見せん。仔細に之れを研究するに、二國民が戰爭に從事するとせんか、其順序は次の如し。數十年若くは數百年の間、兩國は各自其自國の利益と、其國力膨脹との交叉點に向つて進み、兩者の進線が漸く相迫

りて相接觸するや、優勝劣敗の競爭は終に玆に開始せらるるなり。而して是等の諸線が益々接近すれば、其兩國利害の關係は益々重大となり、幾多の困難は兩者の不和を誘發し、此不和の輕重と及び其繰返さるゝ度數とは、兩者の接觸點に達するまでの距離の多少と反比例し、軈て是等の諸線が逼迫して、全線の會合點に至つて破裂するなり。

此避くべからざる時期は蓋し交叉の角度と、二國民が其交叉點に向つて進む速力とを計りて、略ぼ豫定することを得べし。例へば其交叉の角度が鋭角なる場合、及び進歩の速度が比較的に大なる場合には、戰爭は數年若くは數十年を出ずして起るべし。之れに反して交叉の角度が鈍角にして、進行の速度が比較的に小なる時は戰爭の起るべきは幾世紀の後にあらん。

而して如何なる國民若くは種族と雖も、全く併行線に傍ふて動くものにあらず。或は幾世紀間は宛かも併行しつゝありと看ゆることあらんも、世々變遷する所の境遇及び種々の條件は、知らず識らず諸線の角度を移轉し、又進行の速度を變化せん。例へば甲國民が衰微の狀態に入りて其進行を中止し、却て曾て進行し來れる線に傍ひ退却することあらん乎。其周圍なる乙丙等の諸國民は、乍ちに鋭角度と急速

力とを以て進行し始めん、而して其程度は甲國民の退却、及び其防禦力の減退と正比例を爲すを見ん。

且つ夫れ國民の由て進むべき交叉線は、國內の特殊の事情の其端を發するが故に國民其もの丶中に於て交叉の角度と速度とを決定することを得べし。即ち其人民の需要と缺乏の如何、內部の經濟狀態、及び衰微の方面、軍國主義と商業主義と孰れか優勢なる、政治は中央集權なるか、地方分權なるか、其他無數の要素は、此角度の交叉と速力とを決定するに與つて力あらん。而して國民は內部の事情如何により、其目的とする理想と偉大なる絕頂とに達せんとして、迅雷的に突進することともなり、又匍匐的に徐行することともなるなり。

若し仲裁を以て戰爭を止めんとせば、萬國民が過去に於て進み來り、未來に於て進み行くべき、交叉點の接觸を妨ぐることに努力せざるべからず。果して然らば仲裁論者は、アルキメデルの槓桿の如き大なる槓桿を以て、各國民進步の是等の諸線を、其本源の角度若くは接觸點に近き位地、即ち最初の爭論と最後の破裂との間に起るべき交叉線を、並行線の狀態に轉動せしめ得べき乎。蓋し仲裁論者は戰爭の原因及び目的が根本的事情に存することを否定するものなるが故に、結局彼等

は此兩線接觸の交叉點に於て、戰爭を防止せんが爲め、其大槓桿を揮つて最後の瞬間に兩線の會合を妨げ、以て種々に交叉し來る其國民的利害の接近より生ずる不和と、國際的困難とを排撤せんとするものなり。更らに一歩を讓り、國民利害の交叉進路を杜絶するを得べしとするも、斯る企圖は全く一時的糊塗にして、徒らに時期を延長するに過ぎざるなり。國と國との間に起る爭論は、其兩國民が共通の目的點に向つて進行する、程度の增加如何によりて生ずるものなれば、爭端其ものを解決せんと努力したりとて、決して國民の進步又は發展を停止せしめ得るものに非ず。又其國民的進步の原由に對して、何等の力を及ぼすこと能はざるべきなり。戰爭は人の向上的努力の複合的例證に過ぎず。個々人の努力を合して一と爲し其希望を更に遠大にして高尙なる地點に進み、單に各自の爲めのみならず、民族全体の爲めにせんとするの企圖を遂行するに外ならず。數國民が共通の目的點に向つて競進する爲めに生ずる困難を、一時融和したりとて之に依りて戰爭を避くる能はず。何となれば國民將來の進步、又は優勢なる政治的團体として存續せんが爲めに、必要已むを得ざるものなればなり。此目的點たる或は政治上、地理上、商業上、若くは論理上の關係に存するもあらん。其如何なるものに存在するにもせ

よ、一たび之を獲得支配するの必要ありと多數國民の認識する以上は、彼等は此點に向つて努力せずんば止まず。從つて之に關聯して起るべき國際間の爭論なるものは、畢竟其利害衝突の表現に外ならざるなり。憐むべし自負と盲目にして此理由を看破する能はざるものは、是等國民的爭端は單に將に來らんとする戰爭の豫告に外ならざることをも覺らず、而かも其漸く之を覺るの時や時既に後れたることを。

斯くて今時の傾向と仲裁論者とは、唯此豫告の遠吠を緩和するを以て能事了れりと爲す。其遠吠の原因の尙ほ存在するや、否や、其否は濡ひ人間情慾の饞涎は流れつゝありや、否やは問ふ所にあらず。彼の吠聲の稍々靜まり、平和を勸告する高札が國際道の傍らに掲げらるれば、玆に其目的は達し得たりと思惟す。されど吾人は此の容易に自ら滿足する所の仲裁哲學も、亦多少其由來する所あるを否定すること能はず。何となれば是れ人の迷信的怯懦心に本づけるものなればなり。人類は此心あるが爲めに電光よりは雷鳴に驚き、出火よりは窓外の渦卷く烟に驚き噴火口を流るゝ熔岩よりは天を蔽ふて來る降灰に驚くなり。若し是等の恐怖心を一時にても除却するを得ん乎、人は敢て驚く可からざる事件に對し、恐怖して地

を穿ち身を隠すの愚を學ばざるべきなり。

仲裁の勞苦は人類の行動にして又其希望なる以上は、吾人は强ち之を非議せんとせず。されど畢竟是れ一時の方便のみ。彼等は此の浮華空虛にして變轉常なき方便に信賴し、却て不易不變の原則あるを顧みざるなり。曲說に似たらんも吾人は主張す。平和は仲裁に依りて生ずる能はざるも、戰爭の準備は却て平和の時期を延長することを得べしと。されど人類の全体を支配する不變の法則を遵奉し、萬世を通じて渝ることなく適用せらるゝを知り、且つ國民に對する此法則は個々の人、及び下等動物の其れと比較して其異なる所の點は唯時と應用の方法とにあるのみなるを自覺し、以て戰爭の準備をなし又平和を延長しつゝあるなり。之に反して仲裁論者は自然法の秩序ある結果を否定し、而して普通人の自負心以上の自負心を有するが故に、其名詮自稱仲裁なるものは、或る程度にては自由自在なり。されば仲裁論者は其命令を以て人爲以上の天然の法則に代用せんとする而已ならず、人間が必要上制定し維持せんとする、法律の應用にも反對せんとするものなり。

仲裁論者は國際上の人事統御に於る動的勢力の適用を否定し、前述せる國民利害

の接近より生ずる困難が、一定の形式によりて決定せらるゝことあるが故に、是等交叉線の直觸によりて起る、最後の破裂も亦同樣なる方法を以て、落着せしめ得べしと信ずるものなり。彼等は戰爭の原因は政治的團體の進化に基くものにして其結果にあらざることを了解し得ざるが故に、仲裁論者は爭論か接觸點を離れて生ずる場合と、之に接近して起る場合とを區別することを知らず。彼等は共和政治若くは其他の自由政治に於て、即ち人民の聲の聞かるゝ國体に於ては、此爭論は接觸點に近づくに從つて、益々政治家の勢力範圍を脫し、學理よりするも實際よりするも、最早や道理の制裁に服することの頗る尠きに至るを理解せざるなり。加之、此爭論が交叉點の銳角に於て發生する時は、更に新方面の發展を促し、其個々の人々の困阨、又は憤懣に當つて勃發する情慾は、凡て國家の行動を支配するに至るものなり。

凡そ人民が選擧權を有する政体に於て、國家の道德は人民の道德と比して、其差大なるものにあらず。如何なる共和政治と雖も、其國民多數の有する動機、野心、愛憎缺點以外に超脫するものにあらず。彼の國際的事件に關し、動的勢力の制裁に依らずして仲裁を代用せんとするものは、先づ之を自國民其ものに試むべし。即ち

ニ仲裁を以て凡ての法律の厲行に代用し得べき筈なり。國民が其法律を厲行せんとするに當り、個人若くは社會の力に勝る制裁力に依賴するを要せざる時代に到達せば、其時こそ初めて軍隊の力に換ふるに、仲裁を以て國際問題を解決することを得べし。然れども正義公平の道を厲行するに於て、若くは立法に從順ならしむるに於て、國家が其權力を使用せざるが如き時代は、何處に何時に發生すべきや不幸なる地球上に斯る黃金時代は果して何れの時にか來らん。個人の仲裁が法律に代り、人を支配せんが爲めに人の作れる法律、法廷、刑罰が悉く廢れて、人と人との間に於る任意の仲裁の行はるゝ如き時代は、果して何れの日にか來るべき。仲裁を以て個人の間に於ける罪惡、僞善を絢へる種々なる紊亂を解くことを得て而して後、初めて之を社會若くは國民に應用し得べきなり。是の如くにして國際的仲裁は個人より國民に移り自然の發達を遂ぐるを得ん。蓋し國民は個人の集合体なるが故に、罪惡、虛僞、墮落の集合体なり。是等の罪惡にして個人刺激の基礎たる限りは、國民の行動も亦之れに因りて支配せらるゝは蓋し已むを得ざればなり。

されば商人が其欺かんとする華客と仲裁する時、トラストが利益を捲上げんとす

る人民と仲裁する時、牡牛と熊とが其將に剝れんとする仔羊と仲裁する時(株式の賣手買手が素人を欺くを云ふ)盜賊が其掠奪せんとする人と仲裁し、人殺しが其被殺者と仲裁し、一切の罪惡目錄を通じて皆此法則の行はるゝ時に至らば、社會は能く其立法を廢し、國際的虛僞、盜賊、殺人者等を仲裁に委することを得ん。されど個人の罪惡幷に其國民の罪惡は、法律を厲行する國家の權力の消長に從つて增減すると反比例なるを如何せん。見よ千九百〇六年米國にては一百萬の人口に對し百十八人の殺人者ありしに、英國にては九人、獨逸にては五人の割合なることを。凡ての法律は之を實行するや權力執行を豫定す。從つて此權力の退步する丈、罪惡は比例的に增加するものなり。

仲裁論者が二國民間に起れる國際的爭論を決定することに於て、權力の應用を誤解するが故に、彼等は之を審判すべき其手段と權力との區別を爲すこと能はざるなり。

# 第八章

常備軍は世界の平和を威嚇するものなりと云ふ信念は、極めて怪訝に堪えざるなり。蓋し常備軍の組織によりて始めて平和の時期は永續せらる。然るに斯る誤解より近代の平和に關して、國民武備解除の學說さへ胚胎すれるに至れり。戰爭の原因を以て武備に歸するは、宛かも人の行爲の善惡に對して、人其れ自身が其責任なしと云ふに同じ。換言せば彼は自已の發意に依りて之を行ひしにあらず却て唯自已が偶然にも所有せる其死せる武器の奴隷となりしに過ぎずと論ずるが如し。

近代の文明は火藥の發明と共に初れり。火藥の細粒が四方に飛散するや、宛かも地上に落下せる小なる樫の實の如く、國民力なる樫木は各處に發生して武備の裝置となり、而して國民及び個人の存在を侵迫する幾多の轉變と暴風雨とより之を保護して後、始めて人類の技藝、學術は隆昌せらるゝなり。

彈藥の歐州に使用せらるゝ以前には、常備軍と稱するものなく、從つて事實上平和なるものは存在せざりき。僧侶を除くの外、總ての人民は兵士と看做され悉く其

首領の召集に應じて、直に戰鬪に從事するの準備なりき。即ち全國民は皆現時男子の少數が常に戰爭の準備を爲す如くに組織せられたり。現時少數なる人民の職業たるが如くに、戰爭は凡ての人民の職業なりき、各人は悉く廉價なる武器を有し、之を使用するや殆んど熟練を要せず、故に如何なる時にても直に戰爭に從事することを得たり。軍事的義務は國民の小部分に限らずして全部悉く之を負ひたるを以て、國民は何れも平和の職業を以て從屬的のものとなし、戰爭を以て第一重要の職務となせり。此の如く當時の人々は戰爭の爲めに自己の職業を廢止するの責任ありたれば、連續して平和の職業に從事する能はざりし。

即ち其勞働の時期は確定ならず、從つて職業に對して何等奮勵の動機なかりし。於是乎、國民は其富を開發し又人民の熟練、智力、美術、科學等を進歩せしむること能はざりき。

武器の發明は常備軍の組織を必要としたり。何となれば此等の武器は餘りに高價にして個人の購買し得る所にあらず、又之れを使用するに當りても個人の熟練を要せしのみならず、團體的訓練を要すればなり。故に國家が軍隊の爲に武器を準備し、訓練の爲に之を集合する必要よりして、遂に常備軍なる特別の制度を定め

たり、而して一朝一夕を以て新兵を集めて之れを戰地に輸送すること能はざるに至れり。斯くて國民の大部分は(特に軍事に訓練せられたるものゝ外)其注意を平和的職業に傾注し、小部分は常に其保護の爲に訓練せられつゝあるを安全となすの確信を抱きて、多數は皆其職務に就くを得たり。而して、彼等の熟練と才智の產物なる工藝は、新らしき活氣を以て隆盛に赴き、復た舊時の如く深夜若くは不時に戰地に進軍し、傷死飢渴、若くは烏合の群衆を惱殺する所の病魔の爲めに斃死するが如き恐怖的思想に動かされず、居常孜々として平和の職業に從事することを得たり。於是乎、始めて秩序ある文明と進步とは人類間に來れるなり。

斯くの如く凡ての國民は、其軍備に關し順序ある一大變化を受けたり。即ち武裝なき國民的民兵の狀態より、一轉して武裝準備と徵兵の制度とを採用するに至れり。各國共に嬉んで此軍費を負擔せる所以のものは、文明と人類の進步なる報酬を得ればなり。而して人類は恒久なる蓄積的報酬を以て、單に其富を生ずるのみならず、其幸福と智識とを增加し、其兵備に對して負擔する所のものよりも以上に多大の福利を享有するに至れり。

即ち知る國民の歷史に就て之を觀察すれば、其文明の進步なるものは、永久なる武

裝の利用及び其戰鬪力を全然實業力と區別せる結果せり生ずる事を。常備軍の武裝解除とは其實全國民の武裝を意味せるなり、即ち國民の最少部分をして有効なる程度に訓練し、全國民を保護するの方針を執らずして、全國男子が同一の利益を保存する任務に召集せらるゝなり。而して有効的に軍事を遂行するに必要なる人員は、其訓練の熟達、及び有効なる程度に反比例をなすものなり、即ち極めて少數なる國民も、其武力を高度に發展せしめば、以て非武備主義國の男子の全般を戰場に出さしめ、而して之を全滅することを得るなり。

國家自衞の準備を爲し、人生の各方面の發達を圖り、又他國を征服するの手段を講ずるは、比較的に之を研究すべし。國民武力の大小、及び其効力の有無を論せんとせば、利害の關係ある他國の武裝と對照して、之を論定せざるべからず。

武器の發明は又武備力を普通の政治的生活と全然區別するに至らしめ、而して常備軍の必要を生じたり。乍併此新たなる武器の製造方法の進歩に從ひ、其價格漸く低廉となりて廣く一般に用ゐられ、遂には各家庭に於ても之を所有するに至れり。此間暫らく狩獵及び戰爭の武器には差別なく、特に新開國に於て、土人と動物に對する爭鬪の盛んに行はるゝ場合は、擧國皆軍人たるの狀況を呈し、再び戰爭は

全國の男子により、時の必要に應じて行はるゝことゝなり、常備軍の制度も亦た廢るに至れり。

奈翁戰爭後歐洲列國間には二方面の新活動を生じたり。之によりて列國間に平和の時期を延長し、戰爭の數を減却したり、第一はショーンホルストが普國に於て平和の時に徵兵法を實施したること。第二は各小邦弱國の合併、及び統一により大國家の起るに至れることこれなり。即ち獨逸、伊太利、墺地利等の統一せられたること、合衆國に於ける聯合的統一的の發達せること、又英帝國に於ては無數の小國と亡滅に瀕せる國民との併合せられたるが如し。

然りと雖とも、小國の合併により戰爭の數を減じたる事實は、更に所謂人類道德の進步とは何等の關係なし。抑も國際的戰爭の多少は人類が幾多の小邦に分離せられたる多少と正比例をなす。即ち强國が其優勢なる力を以て、隣邦の合併を實行するに際しては、一時戰爭は之に伴ふて行はるべきも、結局は其數を減せん。從つて國家の數の減ずると共に、其武力も更に增加せざるべからず。數の上より云へば戰爭は減ずるならん。乍併其結果は比較的大となるなり。

近代の科學と發明とは、戰術に關する新紀元を開けり。されど戰爭に關する原因

結果の理法は毫も變らざるなり。

近代の武器及び器械的發明は、國民全体に對しては、數百年前彈藥の發明以後に生じたると同一の狀態を生じたり。即ち軍事と普通生活とを全く分離せしめて、軍事主義と之に伴ふ危險と弊害とを除却し得たり。彈藥を戰術に使用したる一事を以て、國民は其使用に熟練したる常備軍を置くの必要を感じたる如く、戰爭に新學術の應用せらるゝ毎に、軍隊に於ける士官、及び兵士は特別なる訓練を要す。戰術に學術を應用すること盛なれば、其れ丈、軍隊即ち戰爭の機關を取扱ふ人々の訓練を、一層完全にするを要す。

斯く解釋し來れば、戰爭に用ゐる學術、及び機械的發明の復雜なるに從つて、國家の武裝的訓練、及び組織も一層長日月を要し、又之を完全とするの必要を生ず。國家の武裝解除は文明の進步によりて生ぜず。寧ろ學問の進步すると共に益々發明の數を增加し、單に戰爭に關する發明のみならず、凡て人類活動の他の方面に於ける發明の數をも增加するが故に、武裝解除の問題は益々不可能となるなり。凡て人類の發明及び學術は、其方法こそ異なれ、必ず戰術に關係し若しくは利用せらるゝものなり。戰爭の爲めに是等の學術を利用することは、將來に於ける國民

の力を強固ならしむるものなり。故に軍隊は戰術に關係する所の學問に對して綿密なる長時期に亘れる訓練を必要とするや明瞭なり。是等の學問は調和して活動せざるべからず、然らざれば其結果は渾沌たる狀態を生じ、一部に於て無智なる應用を爲す時は、全部をして無力と化せしめん。國家が此智識を得んとするには唯一の方法あるのみ。卽ち戰術に關係せる學問を統一し、之を實地に應用するの智識を獲得することなり。故に戰爭に應用せらるゝ科學、及び機械的發明の益々複雜となり、國家の平時的武備と戰時的武備の間に大差なき程度に至れば、之と同一の比例を以て、國家勝利の機會は增加し來るものなり。是れ殆んど一種の目的の眞理として見ることを得べし。

今日の學問上より論ずれば、戰爭に於て義勇軍若くは民兵は、之を用ゐて常備軍に抵抗する能はざることを明示せり。されば各國民が常備軍の數を增加し、長く訓練したる兵卒を以て之を組織し、今日の如き短期の兵卒を廢止するに至る時機は蓋し遠きにあらざるべし。

斯る傾向を以て觀察せば、常備軍と共に豫備兵を使用することは結局失敗に終らん。此危險は年々比較的に增加しつゝあり。豫備兵既に然り、況んや文明生活中

より直に募集せる義勇兵及び民兵に依頼せんとするに於てをや。之を使用せんとする國民は全然其失敗に歸すべきは多言を要せざるなり。

一の連鎖中の最も微微弱なる一環が、其鎖の全體の力を定むるが如く、或る一大國の武裝の大小、及び其精鋭如何は、凡ての他國民の武裝の程度を限定すべし。又此等諸國が世界の舞臺に活動せんとする程度に從つて、其武裝の大小、及び精鋭如何を定むるなり。例へば他國が軍備を增加し若くは現狀維持の主義を執るに當り、一國のみ武裝の減少を實行することは、該政府の破壞を招き祖國の屈辱を來す所以なり。一國の國際的地位の高きに比例して、其武力を增加するの必要あるのみならず、平時編制と戰時編制の區別も亦文明的學術、及び發明の進步と共に減少するに至らん。されば將來の必要は、各强大國に於ては武裝の減少にあらずして、寧ろ武裝準備の增加にあらん。

本書の前章に於て、吾人は近時交通機關の發達は、世界の大さをして二代以前の合衆國の面積の一半に減せしめたることを云へり。されば國民は空間(距離)を湟渠となし、以て自ら安全なりと思惟する能はず。

今や世界の國民は互に其肩を摩して立てり。人種的反感の複雜なる野心を以て

活動の舞臺に於て戰はんとしつゝあり。而して其舞臺の大さは、歐洲人民が數年以前に互に權力を占めんが爲に戰ひし舞臺と異なることなし。されば一方より見れば戰爭の原因は、無數の小國民を各强大國に統一したるにより除却したる如くなれども、又一方より見れば世界は人の發明力によりて縮少せられ、且つ各國民は單に人種の異れるのみならず、文明的理想及び目的に於て異なるあり、而して是等は殆んど相接近して存在するも合併の望みなきを以て、吾人は未だ戰爭の危險が全體に於て減少したりと云ふを得ざるなり。されば過去に於ける如く將來に於ても、平和は武裝的平和ならざるべからず。

吾人は武備解除の問題に就いて尙ほ講究すべき一方面を剩せり、即ち經濟方面是なり。論者曰く、武備の增加は國民の財政的負擔を增加し、且つ國民の多數が不生產的事業に從事するが故に、終に國家の貧困を招かざるを得ずと。

抑も人は自已の議論を强いて維持せんとの無益なる企を爲すを以て、雄大なる問題を滑稽なるものと化し去り、之を自已の腦裡の水平線に携へ來り其原形にては彼等の手に餘るにも拘らず、容易に之を破壞し終らんと力むるは眞に憫然と云はざるべからず。此の種類の論戰に於て最も重寶なるものは計算家なり。彼等は

國民の進化を弗と仙とに化し去れり。其結果は彼等が欲する所の目的に依つて或は大地震となり、或は理想的となるなり。所謂斯の如経濟論者は年々豫算の數字を堆積して、聲を揚げて國民は其武備の負擔の爲めに貧困に陷りつゝありと絕叫し。國民を視ること猶ほ放蕩者が富を浪費して貧困に陷ると同一の狀態にあるが如く論述せり。

這般の議論はアダムスミスの時、早く己に打破せられたりと信せしも恐らく人世の終末まで常に或る自稱經濟家に附き纏ふこと、猶バンコーの幽靈の如くなるものと見ゆ。事實より云へば國民が武備のために費す所の金額は假令千倍の增加をなすとも其の富は一文たりとも減少するものにあらず否一仙と雖とも國家は貧困に陷るものにあらず。豫算なるものは富の表示の總計に過ぎず。されば豫算の大小如何は國民の富を毫も增減するものに非ざるなり。

個人は通貨によりて其富を計算すれとも國家は通貨の由りて代表する所のものによりて之れを計るなり。個人は金錢を浪費して貧に陷るも國家は然らず。國家の貧に陷るは金錢の由りて代表する所の富源を枯らし、又は富を產出する國法を破損するにより始めて貧に陷るなり。されば國家の武備は其貧の狀態を示す

にあらずして、寧ろ生產力を表號するものなり。一人の兵士は自ら國家の富の種々なる程度を代表す、是れ兵士は國民亡滅の豫言的表號にあらずして、國民の保護者たるの地位に立つものなり。

國家の富は其領土內の富源、其人民の智力、其生產の方法、及び最後に其人口の多少に因るものなり。故に三千八百萬の人口を有する佛國の富は、二億萬の人口を有する印度の富よりも極めて大なりと謂ふべきなり。

此の事實を攻究すれば國民の武備は人民の大多數をして生產的努力より退かしむるが故に國民を貧ならしむると云ふ說は殆んど價値なきの言辭となる。武備解除論者の一般に解釋する所によれば世界人民の三分の二は不生產者として階級せらるゝなり。

然るに事實如何と云ふに、獨逸帝國は其人口との比例上、列國中に於て最大なる軍隊を有するも不生產者として看做さるべき全体の軍隊は、國民の一分一厘七毛に過ぎず。殘餘の九割八分八厘三毛は普通の職業を執りつゝあり。獨逸の人口の一分一厘七毛が軍事に關係して過去三十年間に於る各種發明の結果は、殘餘の國民生產力を十倍に增加したり。是の如く機械的發明の結果として人の生產力が

益々増加するを以て今後の國家は實業の發達せざる爲めに困難を感せず、却て實業主義の過大の發達の爲めに困難するに至るべし。

收穫遞減法は、國民の所有せる領地の自然的生產のみに應用せらるゝものなり。而して是等の領地は國民の强弱如何によりて、大となり又小となる、其所有期限も長きあり又短きあり、一方は組織的開發を爲すを得べく、他は單に表面の開發のみを爲すの相違を見ん。之に反し生產力の法則は、文明の進步に對して二二が四と云へる幾何學的率を以て增加するものなり。將來に於ける事業は一國の自然的富源を開發する人民の勘きに非ずして、却て器械的發明を十分に利用すべき自然的富源の減少にあらん。蓋し國民中軍人となりて生產的職業を離るゝ人の數は、殘餘の人民が機械的發明を利用すべき、知識の進步と自然的富源の減少とに比例するものなり。

國民進步の法則は次の如く論ずるを得べし。曰く、國民にして實業的生產と政治的發展との平衡を保持せんとせば、生產方面を離れて軍事に從事すべき男子の數を左の比例を以て之を定むるを要す。

一、軍人の數は其軍人となりし人々の生產力を器械的發明の結果に依りて之を

償し得べき程度以下に增加せざること。
二、是の如く產業界より除きたる人々の數は其國民の自然的富源を增加し又は之を維持するに必要とすべき人員を超過すべからざること。
換言せば國民の生產力は、文明の進步と幾何學的比例を以て增加し、一國の富源は人口及び生產力の增加と反比例を以て減少す。されば他の國民に打勝ち之れを併呑する國民は、此平衡を保持する有力なる國家となるべし。唯土地の獲得に作ひ來る自然的富源は今後國民の偉大となるべき第一の要素たりと謂ふの意なり。本書の始めに於て吾人は國家の境界は常に變轉止まざることを論じたり。即ち擴大せずんば縮少するの外なきを論じたり。國家境界の發展とは、單に其外部の發展を意味するにあらず、國民內部の活動を意味するなり。之に反して境界の縮少は內部の衰微を外部に表現せるものなり、國民の發展も衰微も其原因は外部的活動の結果にあらず、寧ろ國家其ものゝ中心に於る活動にして、是れ吾人が旣に論じたる自然の法則により支配せらるゝなり。而して是等の法則は別に斬新のものにあらず、又斬新なる能はず。何となれば是れ古往今來人間興廢の自然的法則にして、太古以來各國民の泰否をも支配せる法則なればなり。近代の生活狀態の

變化は此法則に影響するものにあらず。此眞理の自然的なる實證は、獨逸及び日本の勃興によりて視ることを得べし。僅々數十年前にありては、日本は殆んど神仙譚中の一國なりき。又獨逸は地理學上より視て將來或は創立し得べしと思はれたるのみ。然るに今や是等兩國は、他の列國に比して其偉大と實力に於て同等と看做さざるのみならず、却て優等なりと思惟せらるゝに至れり。其理由他なし彼等が徒らに實業主義に耽溺せざるが故なり。獨逸の如きはビスマーク以來現今に至るまで、國家興廢に關する此法則の不變なるを認め、絶えず將來に向つて實業的發展との平衡を維持せんとして、其準備を怠らざりき。此兩國にして若し能く此法則を嚴守して彼の實業主義、婦女的主義、及び政治的山師等の退歩的勢力に抵抗し得たらんには、他國民が是等の腐蝕的作用に惱殺せらるゝ間に於て、彼等は優に宇内を兩分して其覇を東西に稱するを得べきなり。

經濟的より武備解除を論ずる者は主張して曰く、凡ての國民は互に調和して平等に世界の富源を開發すべしと、斯くせば軍隊は之を廢止し、以て更に幾多の人を生産的方面に使用することを得べしと。此議論の不可能なることは吾人の既に論じたる所の如し。國家は個人の集合體にして、政府は個人理想の表現に外ならざ

れば、善惡共に政體の變化は人民の中に起因す。人民の狀態は即ち是れ政府の狀態なり。

個人の慾望、需要、怨恨、競爭等に就ても皆國家の活動に反響す、國民の思想は其如何なるものにても皆政府の行動に發現せらる。されば個人が進んで財產所有の觀念を拋棄する時は、玆に完全なる社會主義は調和せられ、無政府主義も亦行はれんか。斯る時代に至らば此理想を擴張して國際間に應用し、各國民は國際社會主義の狀態に於て、平和に愉快に生存することをも得るなり。

# 第九章

國民の軍事的準備は其地理上、政治上、及び人種上に於る世界の均勢によりて之を定むるを要す。若し合衆國にして地理上外國の發展及び經濟上利害の途を離れたる範圍に存在したらんには、其外交も他國民の要求に對し常に退嬰して自己の主張なきも可ならん。國民の態度も亦政治上及社會上に政府をして他國民と爭論を構へしむることなき方針に據らしめば、米國い海陸軍は之を拋棄するも可ならん。然れども國家內外の形勢斯くの如くならずとせば、其武力及び軍事的準備は比較的に大ならざるべからず。即ち以上の立論が的確ならざる比例に從ひ、國家の兵備は十分ならざるべからず。

地理上より論せば、國家の領土か他國に對し戰爭を挑發することゝなるは、蓋し其領土が商業上、軍略上、及び人種上の關係より觀察して、以て積極的價値ありとせらるゝ場合に於て然り。

政略上より觀察すれば、米國の領土は其法律を以て支配せらるゝものにのみ限らず。墨西哥、西印度、中央及び南部亞米利加の如き戰爭の原因となる關係上より合

衆國の領域と見做すべきことは、猶ほ合衆國の一州を見るが如し、國家憲法の維持の重要事なる如くモンロー主義の不可侵を維持するは必要事たり。
乍併此等の問題を考究するに當りて、吾人が記憶を要する一事は、世界各國に對し哩數を以て距離を計算するの舊式を廢し、時間によりて之を計算する近代式に改むべきことと是れなり。紐育よりカリフォルニアに達するに六ヶ月を要したるは多年の昔には非ざりしも今日に於ては僅に四日を要するのみ。故に人々の實際の活動に就て觀れば合衆國の大さは五十年前に比して四十分の一以下に縮少せられしものと云ふべし。世界は近代に於ける交通機關の發展の爲めに人の交通及び衝突の點より一層緊密となれり。即ちシーザーの領土、或はナポレオンの統治したる諸王國もりよ小なりと謂ふべし。
されば米國の領地も世界の縮少によりて地理上、軍事上、政治上、其他の諸大國との密邇の關係を有するに至れるは、宛かもシーザーの領土に併合せられたる土地、奈翁帝國を構成したる歐洲諸國或は合衆國を形成したる各州が、密邇の關係を有するが如し。吾人は列國と米國領土の關係とは商業上、政治上、及び軍事上に最も利害の密接なるものあるを認めざるべからず。

歐洲は國境界内に世界の最大なる國家と、世界の人口の殆んど四分の一を網羅し而かも其の土地は世界の十二分の一以下なり。日本は大英國に比してより多くの人口を有す。されど地球の表面の二百五十分の一の土地を有するのみ。而して合衆國の主權は世界の面積の四分の一に及ぶ。

米國の政治的領域中、其の三分の二はメキシコ、中央及び南アメリカの占むる所たり。現今の歐羅巴にある諸強國の三倍を支持するに足るの力あり。此の宏大にして無限の富を有する大陸は人口稀少にして事實上無人の地と云ふべく、而して歐洲及び亞細亞の中央に横はり、其歐洲よりする距離は、十九世紀の初に於けるポーランドと佛國との距離に勝らず。日本及び支那の人民は數年前に普魯西より葡萄牙に至るより一層尠き時日を以て其西海岸に達することを得べし。乍併東方に於ては歐洲より、又西方に於ては亞細亞より、溢れ來る人民が西半球を開發せんとするを見るに就て、吾人は益々近代の實業的發展は國民をして新開地の必要を、一層急激に感せしむるに至れるを思はすんばあらず。啻に世界の各部に於る富に關する智識が交通の迅速なることによりて、凡ての人類に共通となれのみならず、技術及び學問の改良は益々全世界に亘り各國民一致して近代の技術的及

び科學的製造に必要なる原料を要求するに至れり。文明人が近代科學の發明したる、殆んど無限の必要品と奢侈品とを得んと欲し、之を其産物に賴らざるべからざるを以て、未開の土地開墾の必要は迫れり。是れ唯人口増加に比例するのみならず、科學及發明によりて消耗の點に於て、又開發の方法に於て激烈に增加したるによるなり。往時は必要品及び奢侈品の増加は殆んど直接に人口の増加に比例したり。然るに今日に於ては其狀態存在せず。人口増加により產物の増加は科學及び發明による增加と比較する時は殆んど微細なりとす。人の巧智は發明したる機械其ものも亦恐るべき消耗者とはなれり、無生物は齒と胃腸とを與へられ、其飢渴は殆んど滿足する所を知らざるに至れり。人は斯の如く幾千倍を以て日々增加する所の消耗力に對し、學問及發明によりて其開發力を一層有効にし之を發展せしめんとしつゝあり。

本來世界の富源は、收穫遞減の法則によりて支配せられ、人口の繁殖は天然の理法によりて增進すれども、而かも如何なる自然の法則も亦人爲の法律も、今や全國民が今日及明日に要求するものを得んとして地球上を穿鑿する爲めに使用せられ、間斷なくして疲るゝことを知らざる機械の增加、及び消耗を制することを能はざる

なり。此の如く世界的盜賊は停止する所を知らず。地球は之がために掠奪せられ若くは吸收せらる。日夜を分たざる此恐ろしき活動は天地に反響せり。地球の表面には殼炭散布せられ、鑛物分析殼は山を爲せり、人も國民も殆んど狂せん許りの勢を以て新地を得んことを渴望し、新開地の開發に非常の興味を以て從事しつゝあるなり。

歐洲の諸國民が彼が如きの强兵を擁しながら、世界の十二分の一に相當する面積に制限せられ、過去數千年間玆に跼蹐したることを考ふれば、米國が軍隊なくして世界未開の土地の半數以上の面積の主權を維持せんとするは無理なり。或は米國人口の三分の二に相當する人口を有し、五十倍の軍隊を有する日本が彼の岩礁多き島嶼に生存し、朝鮮を網羅するも尙世界の土地の二百五十分の一を有するに過ぎざる領土內に棲息し、而して防禦なき世界未開地の一半は其戰鬪艦の大砲の下にあるを見れば、日本が此狀態に於て長く滿足する能はざるべきは明白なり。嗚呼兵力ある强國が此廣大にして富裕なる大陸、卽ち米國を占領するに當つて何物か能く之を妨碍することを得んや。南米のラテン人種に屬する共和國の防禦力は思ふに或は將來の亞細亞的武力進擊に遭遇するや、尙最初の歐洲武人に對し、

士人が其防禦力なかりしが如けんのみ。普通には米國の國是たるモンロー主義が、外國の襲撃に對し南米諸國を安全の地位に置くに與りて力ありと信ぜらる。されど何物か斯る過ちに優る者あらん、抑も是まで外國の攻擊よりしてメキシコ、中央及び南部亞米利加を免かれしめしに就ては五個の原因あり。

一、交運機關の不完全。

二、歐洲政治狀態の調和。

三、發明以前若くは機械使用以前の時機の繼續。

四、自然の富源に對し比較的に要求の少かりしこと。

五、東方人種の鎖國方針。

是なり。然るに是等安全の淵源は自然に消失し、之に反對の狀態は知らず識らず現出し來りて年々其程度を强大ならしむ。是れ即ち北米合衆國と歐洲又は亞細亞諸國との間に到底戰鬪の不可避を示すものにして、モンロー主義は全然之を排撤せられざるべからざる所以なり。蓋し人類の歷史を點檢するも、米國は未だ嘗て或一國が何等の武備なくして、人の住める地球の四分の一、又全世界未開富源の二分の一を網羅する二大陸、而かも其中に幾多無責任の國家が内治外交の諸政に

紛擾しつゝあるを制止するの權力もなくして、此廣大無邊なる範圍に其政治的主權を擴張せんとするが如き教義は、之を發見する能はざるなり。

モンロー主義は其觀念に於ては多樣なれども、實際には然らず。其當初宣言せらるゝや、目的は戰鬪を避くるにありたり。然れども今や之を招くに至れり。モンローは固より此教義の終局に就ては十分理解せりと雖も、其教義の實行に必要なる戰鬪力は其最も必要なる時期に當りて早く已に詭辯の泥海中に投棄せられたることを思はざりしなり。

當時米國は歐洲大陸と大洋を以て隔斷せられ、之を橫ぎるに小なる木造艦を以てし海圖なき洋上を航行し未知の世界の不思議なる地方より吹來る風に對して戰ひたり。若しモンローにして學術的發明が數代を經ざる中に兩大陸を彼の存在時代にバージニアよりニューイングランドに至る距離よりも、一層尠なきことを先見し得たらんには、又五個の歐洲大陸の軍隊が當時の十三殖民地の人口よりも多かるべきことを先見せしめば、更に又若し西方の不思議なる大洋を距てゝ深き霧の中より大なる一帝國の勃興して彼が宣言書に網羅せる土地に對して、之を獲取せんとして戰ふべきことを豫想し得たらんには。彼は其宣言の教義を嚴肅に

維持することに就ては一層の注意を拂ひしならん。又彼は其國家危險の程度に從ひ、其軍備を增加するの必要を後世に向て注意したるならん。

モンロー主義なるものは列國の一、若くは同盟に對し、之を實行するに足る丈の充分なる海陸軍を有せざるに於ては、古今各國の國民政策中未だ嘗て此の如く戰爭を惹起し易き原動力はあらず。然るに今日は此大教義が徐々として而も確實に國民自負心の谷底に陷り、凡俗なる泥海の中に消失する悲しき光景を弔せずんばあらず。社會、宗教團體、實業家、及び政治家は力を盡して、戰鬪力の根本を破壞せしめ。モンロー主義の實行に必要なる軍事上の準備を排斥す。然るに一方に於て米國民は國民が其必要なる場合には兵力に訴へてなりとも、曾て米人若くは國民の宣言したる中にて、最も好戰的にして而かも網羅主義なる教義を、全世界に向て主張せんことを彼等の執政官に迫りつゝあり。

舊世界は此小兒らしき態度に對し、笑を浮べつゝ靜かに其火焔を吹く所の双鐵馬(譯者曰く海陸軍の意味)を以て、世界の土地を耕し、彼の龍の牙を散らして軍人なる無數の收穫を圖り、以て適當なる時機に於て其勢力に對し、西半球に在る黃金の羊毛を集めんとしつゝあるなり。

併しモンロー主義の範圍内に網羅する所の領地のみが、米國の政治的主權の下に於ける領地として、地理上挑戰の原因となるものに非ず。此外尙ほ米國の領土に在りて外國の葛籐を生ずる虞あるものあり。試みに之を大別せば左の三種となすことを得べし。

(1)、カリビアン海。

(2)、中央太平洋。

(3)、亞細亞に於ける領地。

是等の諸島は商業的には戰爭の原因たる恐なしと雖も、軍略上より見れば大に外國の垂涎に價するものあり。蓋し凡て領地の價値は領地其ものゝ富源如何にのみ因らず、又交通線路を支配するに必要なる地點として大に其價値を認めらるゝことあり。大洋は地球の七割三分を占むるものなるが、是れ即ち列國貿易の線路にして商業上是等の通路を統御する程度に從つて、其國家は世界の富を有するなり。若し米國にして歐洲及び亞細亞より此半球に至るの通路を支配したらんには、歐も亞も南北米州に於て領地を所有すること能はざらん。之に反して太西洋及び太平洋が歐亞各國民に統御せらるれば米國はモンロー主義を主張すべき力

なく、其又領地たる諸島及び米國の通商を保護すべき力なからん。一國又は同盟國が海陸交通線の支配權を得る爲めには有利の地點を占むること必要なり。換言せば軍略の目的に適へる領地を所有することなり。ナポレオンは戰鬪の眞意は地點の爭なりと云へり。凡ての大戰爭は必らず此衝突を意味す國民が極めて戰術に適へる要地を占領し、之を確實に防禦するにあらずんば、其實價ある富の爲めに征服せんとする土地よりも、一層戰爭を挑發するの原因となるなり。斯く軍略上好地位を得ると否とは國家勝敗の運命を定むるものとす。於是乎、適當なる時機に於て歐洲及び亞細亞の國民が、西半球の開發せられざる領地を占領せん爲めに凡ての戰爭に先ちて發生する所の地位の爭を惹起するや必然なり。太西洋に於て軍略上の地位を獲得せんとせば、カリビアン海は正さに是なり太西洋面に於て此の海の支配權の如く重大なるものあらず。如何なる國にてもカリビアン海を絕對的に支配するを得れば、西半球の一半は其掌中に落ちたるなり。吾人はカリビアン海占領の結果を大別して左の四となす。

一、パナマ運河、及び中央亞米利加の支配權。

二、メキシコ灣、及びメキシコの太西洋海岸の支配權。

三、ハツトラス岬よりキーウエストに至る、大西洋海岸の支配權。
四、南米の太西洋海岸に於る支配權。
パナマ運河の支配權は四個の區別中に於て最必要のものなり。蓋し是れ其通過權が軍事的に支配せる國民に屬すればなり。何人が之を作りしかは問題にあらず。若し如何なる國民に於ても合衆國の運河を作るに費したる時間と金額とを戰闘艦に費したらんには、パナマは啻に其國民の所有に歸すべきのみならず、凡てカリビアン海の支配權に屬する所の凡ての領地、即ち西半球の南部は悉く其獲得する所とならん。

モンロー主義以外にて、米國の事業としてはパナマ運河の如く、戰爭の原因となるものはあらず。米國にして運河の結了と共に生ずる危險に對し、必要の程度に海陸軍を增加するにあらずんば、運河開鑿を遂行するは一大失計なり。パナマ運河は歐洲より南北米州の西海岸に通ずる距離を減ずるを以て、歐羅巴諸國が東方太平洋に向ひ商業上及び軍事上の侵略を試みるの端緒を開くべし。今やこのこと不可能なれども、運河開通後は可能とならん。故に世界の視線は一に此五百呎の水路に集れり。

歐洲の艦隊がパナマ運河を經て桑港、或はバルパライソに達せんとせば、米國の艦隊が紐育海岸より行くに比して其距離は僅かに八分の三の遠きに過ぎず。從來太平洋西部海岸は歐洲海岸より遠く隔離せられしも、運河の開鑿と共に此狀態は最早存在せざるべきなり。想ふにパナマ運河の前途はスエス運河によりて豫言せらる。是れ歐州及び東洋の距離を半減したるを以て、東西間に於ける重要なる航通路となれり。初め佛國人が之を作りしも遂に英人の手に移れり。英國がスエス運河を支配するに至れる所以は、地中海及び紅海に於てヂブラルタル、マルタ、埃及、及びアデンを領有して優勝の地位を占むるに由れり。佛國が運河を作りしこと必ずしも其の終局の領有權を決定せざりしなり。英國がヂブラルタル、マルタ、サイプラス、埃及、及びアデンを領有し、且つ各國同盟の海軍に匹敵すべき海軍を有する一事は、即ち此國をしてスエス運河の領有主たらしめし所以なりとす。斯くて大英國は東洋の貿易を支配するのみならず、歐亞間の政治的關係を支配するなり。世界に於て英國の商業的主權を握りし所以のものは、唯英國海軍の優勝なるか爲めのみにあらずして軍略上優勝の根據地を占領したるが爲なり。大海軍の存在は全く地球の各部に於て軍略的地位を所有し、之を維持するによるものな

りとす。

パナマ運河はスエス運河の如く、世界の全般に取りて必要なり。而して北米共和國に取りて必要なる如く、歐洲諸國にも亦必要なり。東方太平洋の商業的及び政治的運命の支配權を希望する國民に取りては、パナマ運河の支配はスエス運河の支配權が英國に取りて、亞細亞の主權を握るに於て必要ありしが如し。

カリビアン海は之を地中海に比すべく、其島嶼は之をヂブラルタル、マルタ、サイプラス、クリート及び埃及に較ふべし。而して太平洋に於る布哇はアデンに比較すべし。現今に於ては合衆國、英國、佛國、併に將來獨逸の一部たらんとする和蘭は、カリビアン海及び其附近に領地を有す。即ち軍略上、擴張又は支配の根據地を有するなり。されば運河に接近して領地を有する國民は、運河は將來の所有權を定むる原動力なりと思惟せざるべからず。米國は現今の境遇にては世界の他の諸國よりも、カリビアン海に於て軍略上優勢なる地位に在り。單に其本國の之に近きのみならず。運河の一帶、ポートリコ、キユーバ、布哇を有するが故に米國は西半球に於て最優者たるを得べき地位にあり。乍併、現に米國が有する軍略上の地位は之に伴ふ防禦なきを以て、將來に於て僅に一の結果を生ずるのみならん、曰く之を

獲得せん爲め起るべきは戰爭の破裂是なり。

歐洲の一强國がカリビアン海の支配權を獲得すと假定せんか、其國はパナマ運河南北亞米利加の西岸ハットラス岬よりホーン岬に達する太西洋海岸を支配すべきのみならず北米合衆國を南大陸より分離せしめて、全然モンロー主義を無效に歸せしめ了らん。是れ即ち歐羅巴の一國民又は數國民を誘ふて、カリビアン海の命令を執らんとして競爭せしむる所以なり。蓋し將來地球上に於る第二の最も有力なる軍事上の範圍に屬すればなり。

米國が太平洋の島嶼を所有することも地理上より極めて必要なり。太平洋の支配權を握るに當り缺くべからざることは、猶ほカリビアン海の島嶼が西半球南部の支配權を握るに必要なるが如し。如何なる國民にせよ、太平洋の支配權を握るものは人類の一半を支配するの權威を握るなり。

太平洋の支配權に對し競爭の不可避は本書の下編に於て評論せん、而して下編には詳細に米國陸軍組織の誤謬及び米國陸軍の有する迷信、并に米國陸軍觀念の幼稚より、施ひて大强國と戰鬪を開始して其勝利を得んとするには、極めて退步的にして無能の狀態にあることを痛論せんと欲す。

# 第十章

戰爭の淵源は深く國民及び人種間に起れる適者生存と優勝劣敗との關係より、他を征服して優越なる地位を得んと欲するにあり。然れども國際的戰爭の直接なる起因は多く各民族の非理なる自負心、情慾、及び行動に存す。彼等が其無限の鬪爭、即ち人生の行路に立ちて努力する結果の茲に至れるなり。

前章に於て戰爭が早晩關係すべき國際的戰爭の淵源を說けり。本章には此戰爭を急激に來らしむべき原因に就き研究する所あらんとす。北米合衆國の宗主權下に立つ所の種々なる民族是れその原因なり。吾人は是等の民族を分つて左の二階級とすべし。

一、屬島の人民、及モンロー主義の保證の下に立つ所の、ラテン人種的諸共和國人民。

二、合衆國内にありて選擧權を有する幾多の異人種、乃ち國民に由りて行はるゝ自治政を組織するもの。

由來國家を形成する人民の族性上純一なるべきことは、國民的制度の永續に取り

最も必要なる條件にして、一般に不變の原則として認めらるゝ所なり。此原則の破られざる場合こそ、初めて國民的理想を形成し之を實行することを得るなり。今此の理を數學の定理系論に擬して記せば左の如し。

一、國民的生命の活動は人民の調和一致によるが故に、其人民が族性上純一なる比例に從ひ、外より來る時々の侵蝕に抵抗することを得るなり。

二、國民中異種族を包有するがために來る國家の衰頽は、其異種族の多少に比例して、遲速の度を異にするものなり。

過去に於て是等の法則には一の變化なき而己ならす、交通の開けたる結果として同化力の發達したる爲め、前掲の法則に多少の變更あるべく思はるれど、其影響は極めて僅少にして玆に論すべき程のものに非す。現在の狀態より察すれば、交通の開けたることは却て同族性の人民を一層親密に結び合さしめ、益々人種的區劃を明かに形成するものゝ如し。

國民が種々の族性より組織せらるゝ時は、其國家基礎の強弱如何は、其政權が一の優越なる種族の手に歸する乎、將た又比較的に一般各人種間に分有せらるゝ乎に由りて定まるものなり。

政治史を繙けば吾人は異人種を以て組織する國家の政治上、及び軍事上の權力が一種族の掌握に歸する間は、國勢の基礎堅固なるを見る。而かも優越なる種族の退歩により、國家の權力か國民一般に散漫する時は、則ち政治上の分裂、及び其領土破壞を見るに至る、此道理は古に於てはカルデア、埃及、波斯、印度、マセドニア、羅馬、モンゴル帝國其他異人種より成れる國家に適用して違はざるなり。今代に於ても同一の狀態に在る國家は地球上に尠しとせず。例せば支那帝國の如き其一たり。近時の紛擾に就きて眞相を極むれば其理や一なり、即ち多年政權を掌握せし滿洲人が、他の優越なる結合的人種によりて支配せらるゝに至るべし。三世紀の間、滿洲人は全支那人種に對して政治上、及び軍事上の權力を掌握せり。彼等は今や其權勢を放擲せんとするなり。而して其放擲と共に帝國は一層精力なる國民の手に歸せんとす。蓋し世界は必ずや遠からず彼等滿洲人が、悲慘なる最後を以て北京の宮闕より出で、遼河の谷底に於て、彼等を待つ所の薄暗き墓門を閉ぢて、永久に其跡を絕つに至るを見るべし。

墺匈帝國及び土耳其帝國の如きも亦同じく異人種を以て組織せられ、政治上の弱點及び終局の破壞の原因は、即ち此の一事にあり。露國に於て帝國の主權者たる

人種は、專制的權力を失ひ、國家は政權爭奪を目的とする泡沫的分子に委棄せられんとし、世界帝國を理想とする露國の政策は、一時休止の狀態にあり。

サリスベリー侯が、曾て大英帝國の未來に就き語りて曰く、

古來四五の大なる殖民的及び海軍的國家は存在したれども、是等は皆終に亡滅したり。若しも我國か海上防禦力を無能ならしめ、敵軍をして海を橫ぎること尙陸上の國境を行く如く、容易ならしむるの時代來らば、地球の終尾にまで擴大して到る處、海軍國によりて支持せられたる我帝國は、一たび其首府ロンドンに打擊を加へらるゝと共に、忽ち全部破壞し終らんか、と。

換言せば英帝國の權力が、陰鬱なる倫敦の中心點より專制的に全般に向ひ施行せらるゝにあらずんば、英國の偉大は終に破壞せられんと云ふが如し。

米國々旗の廣き不定なる影の下に人種上、政治上、宗教上、地理上、其他幾多の異種族を網羅せることは、恐くは米國以外に未だ曾て他の帝國の政治的主權の下に發見せられざる程の複雜多數のものならん。而して戰爭を挑發し、混亂を釀生する點に於ても、未だ曾て米國の如く將來の戰爭を以て響き渡れるものはあらじ。

茲に存在せる人種的要素を考察するに、蓋し合衆國に關し異人種的要素の存在は、

必ずしも最大困難にあらず、寧ろ此異種の人民を統治する政治的機關の漠然たるは頗る關心の事なり。別語之を云へば此異分子が特種の人種的、政治的集團を爲して遠隔の地點に存在すること、彼等か合衆國の統治下に服するに至れること、又は普通選擧を利用して幾多の異人種が國家の政治上及び軍事上の統一を破り、之を散漫ならしむるが如きは是れ最も米國の前途に對し憂慮すべき所なりとす。米國の屬島に於ける人民か戰爭の起因となるべきことに就ては、之れを三方面より觀察することを要す。

一、彼等の服從、即ち彼等は米國の政治に心服する乎、或は米國の勢力に威壓せられて屈服せるものなる乎。

二、其人種的性質、即ち米國人民に類似して之に同化せられ易き乎、或は米國民以外の或る國民に類似して之に同化せられ易き乎。

三、此等屬島の地形上の位置が、他の強國に取り必要ありと思惟せらるゝ關係にありや、否。

比律賓、ポートリコ、及びキユーバ(或る意味に於て)は或は征服せられたる國と見做すを得べく、米國の主權の國此諸に及ぶは、原則に於て西班牙國の主權の及びし

と異らず。是等の諸國民は武力を以て西班牙の支配權に反對し、政治上の獨立を得んと欲して幾千の人民を犧牲に供したり。而して彼等が西班牙と戰ひし精神は統治權の移動によつて減少せざるなり。比律賓人の如き各家族は皆一たび西班牙の支配に對し、血税を拂ひて後更に又米國の征討に對して同しく血税を拂へり。西班牙との戰爭に於る英雄的行動、及び勇氣の美談にして家より家に傳はりしものゝ如きは、今や將に新しき方面に其犧牲を換へんとす。即ち合衆國の兵士と戰爭の豫言にあらずして何んぞや。

時の經過は勝利者の精神を和げ、之れを微塵の如くに減少することあるも、被征服者の怨恨は無限に繼續せらるゝものなり。是等諸島の住民は東西を問はず、絕ゑず西班牙の支配權に反對したるが如く、今や若しも米國の兵力にして減退することあらば、直ちに反旗を飜さんとす。加ふるに米國は新領地に教育を普及するを以て、一層其人民をして外國に征服せられたりとの感念と反抗力とを增加せしめつゝあり。外國の征服者に對する忠愛心は普通教育によりて、發揮せらるべしと云ふことほど誤謬はあらず。斯る狀態にある人民を教育することは、既に存在せる本能及び精神の傾向を益々挑發せしむるのみ。パンドラの玉手箱と等しく征

服せられたる人の飢渇せる心裡には、自負心なる新しき疾病と、不安なる新傳染病と、野心の新熱病とを惹起せんとするものなり。
是等の諸人民は曾て自個の目的を達せんと欲して、西班牙をして米國と戰ふに至らしめたる如く、彼等は更に米國を挑發して或る强國と戰はしめ、其兵力を破壞し若くは減損して、以て獨立の戰爭を企つべき機會を作らんとするの擧に出づるに躊躇せざるべし。而して米國自身己に母國に反し獨立國企てたる歷史を有すれば、其屬島人民に對し獨立を企つるの權利を否む能はざるべきなり。是等の諸島民中に米國反對の精神の充滿することは、政治家以外には何人も之れを否定せざるなり。敎育の普及、及び政治改良の爲め米國が注入する多大の費用は、未だ以て是れ等島民をして反米の精神を減少せしむるに足らざるなり、彼等の創口の密合せるは、之れ只出血の多き結果として密合したるのみ、被征服者の怨恨は人の情念の中に最も長久に繼續せるものなり。されば征服的國民の忘るべからざることは、如何なる事にても、武力によりて得たるものは武力を以て之れを保持せざるべからずと云ふことと是れなり。
米國人民か是等海外に於ける領土の人民を同化し能はざる事は明瞭なり。其理由

は、

一、特殊なる人種的相違。

二、屬島若くは新領土に永住すべき米人は甚だ少數なるべきを以て、彼等の感化力の如きは賴みとするに足らず、單に感化の賴むべからざる而已ならず、彼等は少數にして熱帶地の氣候に堪ゆる能はざるべきを以て、幾何もなく優等人種の妄想に驅られたるまゝ、幽鬱なる深林沼澤中に滅亡し去らんのみ。

人種の同化は凡ての生物の同化と同一の自然法により支配せらる。多數にして且つ其地の氣候に適したる人種は、外來の少數にして風土に適せざる人種を全然壓伏すべきなり。海外の領地、及び新たに征服せられたる土地の統治は、古來其實驗に乏しからずして、人をして成功の方法、又は國として野心を制限すべき程度等には、多少正確の結論に到着せしむ。幾多の土地の荒廢と諸大帝國の滅亡とにより得たる智識を以て、實に合衆國か無造作にも、大膽にも、其國旗を飜したる所の世界の四分の一に對する關係を決定する方針たらざるべからず。

米國の偉大なる將來に對して、如何なる確信を抱かんとするも、其準備ありてこそ確信も生ずるなれ、若し準備なきときは偉大となるべき一切は悉く洗滌し去られ

んのみ。帝國として異人種を包有することは、一國の人民中に異人種あることゝ同一なりとす。

帝國が政治上に於て異分子を有することゝ人種を異にすることとの相違は極めて大なり。一は戰爭を挑發し易く、他は戰爭を惹起するの力を缺く。幾多の小民族より成れる國家にして殊に各民族が一種の自治權を有するが如き場合には、外國に對し戰爭を挑發するの危險あり。されどかゝる國家と雖も十分の兵備を有し、政權兵權共に統一せる一人種の掌握する所となれば、國家の基礎は必ずや鞏固にして而かも永續することを得む。之に反し一國の人民中多く異分子を有し政治、實業共に各方面に於ける異分子の掌握する所となれば、國家の破滅は決して遠きに非ざるなり。

海軍國に於ては衰頽の二要素を潜藏す、即ち其國を組織せる諸民族の人種的相違及び一國の統治者間に人種上の統一なきこと是なり。後者は常に前者の結果として生じ來るなり。是れ國民の向上心を破壞するのみならず、共和國及び王國を論せず、國民を滅亡したる病根なりとす。古來諸種の民族は斯の如くして多く地球上より憐むべき最後を爲して其跡を絕ちぬ。彼等が徒らに天然の理法を無効にせ

んとして、發布せし法律命令は遺物として殘存するのみ。國家は主權者たるべき分子が同一民族に屬する場合こそ其基礎堅固なり。然れども一たび政治上及び軍事上の權力が、國民の多數を占むる異人種の手に移りて散漫するに至らば、國民的優越の理想は內部の法律、些細なる野心に關する無窮の論爭の爲めに消滅するなり。

前章に於ては地球の四分の一を網羅し、最も脆き連鎖によりて繫がれたる米國の屬國は、多少の程度こそ異れ、歐羅巴及び亞細亞の發展的國民に對し、戰爭を挑發するものなることを論したり。本章に於ては地球の四分の一を支配する此人民か、其領地を支配すべき能力なきのみならず、自らを支配するに困難を感じ、而して統治の弛廢散漫は戰爭の機會をして益々大ならしむるものなることを論せんとす。人種的純一の必要は專制國よりも、共和政體に於て一層大なりとす。專制國の統治者は如何に少數なりと雖も、他の要素と混合することなければなり。乍併共和國は人民皆政治に參加し、人種を異にし希望を異にし政治の精神を異にせる人種と雖も、其數に於て勝るときは、共和國建國の理想と野心とを全然破壞するを得べければなり。

北米合衆國は宣言書、法律、憲法と共に、同一の理想を抱き同一の希望を有する同一人種によりて作成せられたり。南北戰爭の時に至るまで人民は凡て同一人種と見做すを得べかりしなり。而して此時國民の理想を保存する爲に發展せられたる法律、及び宣言は、國民が同人種及び同一精神なる限り初めて有効にして、其發達及び進歩を指揮すべく適當のものなりき。

南北戰爭の初めに當り米國の非アングロサクソン人種は、僅かに人口の十二分の一以下なりき。然るに一九〇〇年に於ては、アングロサクソン分子は人口の十二分の七に減少せり。而して爾來建國當時の亞米利加主義は、更に大なる速力を以て衰微しつゝあり。

仔細に觀察すれば米國の危險は、單にアングロサクソン分子に超過して戰爭を挑發する原因となるのみにあらず、特別なる地理上に分布せる狀態を調査する時は益々其危險を思はしむ。例せば南部の二州の如き黑人の數は白人種に勝り、又南部諸州の多くの黑人は人口の三分の一以上にあり、是等の黑人中にて四割四分は全然無學文盲なるものなり。北部諸州の歐洲移民の九割四分は、歸化して政權に參與するものとなり、現在米國人民中に外國人の子女は三千萬以上の多きに及ぶ

と云ふ。世界の大都會に於ては、國家の針路と其最後の運命とを定むべき原動力を發見するを得べし、斯る都會は其大小如何に比例して、善惡ともに國民の行政を定むる所の原動力を發展し來るなり。此のことは殊に共和國に於て然りとす、何となれば政治は國民大多數の意思によりて左右せらるればなり、ボストン、バッフハロー、シカゴ、ハートフォルド、クリーブランド、ミルオキー、サンフランシスコ等の人口の三分の一は外人に生產せるものなり、ローエル、フォールリバー、ニユーヨーク等の都市の人口の半は外國人なりとす。此アングロサクソンに非ざる各人種は紐育の統計を以て標準とするを得べし。之れを區別すれば、獨逸人三十五萬、露人二十五萬以上、伊太利人五十萬、波蘭、墺地利、匈牙利の三國人合計五十萬、其外二十五萬は他の外國人に屬す。

月々に是等都會の外人の數は增加するが故に、數年を出でずしてアングロサクソン人種は、却て現在と反比例の少數者たるに至らん、今より數年の後に至らば米國の政治道德及び社交等樞要の地位は、凡て人類平等の眞理を解せず、又心を苦しめ精神を惱ましたる七ヶ年の大困厄を經て、平等の實行を可能ならしめし、共和國創立者の精神を知らざる外人の手に落ちん。

若し愛國心なるものありとせば、歸化民の如きは一種の變則物ならんずばあらず。其誕生の土地、否、祖先の土地、祖先の墳墓功績を棄つる所の人が、果して新附國に對し愛國心を生じ得べきや。之れに反し彼の歸化行爲は、生國に對して不忠背德の精神より來るに非ずと云ふものあらば、其は虛言者なり。されば此種類の人は如何なる方面より見るも自己の境遇を改良せん爲めに移住したるものなりと云へる外、他に高尙の理想ありと見做す能はず、彼は單に國民の理想に與る能はざるのみならず、之れを了解することを得ざるものなり。若し國民的理想が彼等の心中に起り得るとせば、其は生國の爲めならずんばあらず。普通の解釋に從へば愛國心なるものは自家の民籍を捨て、其本人に對するよりも一層大なる德を示して他の民籍を採用することを許さざるなり。スラブ人は本國に對するより一層良き米國人たり得べしと云ふの理由なし。アメリカに在る伊太利人は米國に於て伊太利以上の道德を有する理由なし。米國に歸化することは人種上の消毒藥にあらざるなり。幾多の時代を經て傳はり來れる人間の遺傳的本能的は、單に政府官吏の宣言によりて、人の腦髓の纖維より拭ひ去らるべきものに非ざるなり。米國の制度は移住民の多數を占むる劣等なる歐洲人に對して、良民の犧牲を發揮

せしめんよりは却て罪惡を挑發せしむ。彼等に享有せしむる自由は、寧ろパンドラの賜と均しく、やがて罪惡に羽毛を生じて跳躍せしむるに至らん。罪惡は國民及び個人の品性の索引なり、此索引によりて吾人は歸化せる國民と外人の子女たる國民の人格とを證明することを得べきなり。更に此罪惡の索引によりて異人種の數の益々增加することと正比例を爲して增加する罪惡の索引とにより、吾人は益々此人種の固有質は、米國制度と到底相兩立せざるものなることを發見するなり。又個人罪惡の增加と共に國際的戰爭を促す所の國民の猥籍なる擧動は發展するなり、同時に國内に於ても最後の破壞を來し、或は君主政治又は專制政治を創立して、中央集權を實施するに至らん乎、然れども純一人種は終に最後の勝利を得ん、須らく其鐵の匕を以て人類の『スチウ鍋』を攪亂して、其表面に現はるゝ浮渣を掬ひ去るべきなり。

人民の雜種類なる爲めに起る所の戰爭を考察する時は、玆に記臆せざるべからざる一事あり、即ち國民殊に共和政體の道德は其憲法、法律、及び宣言書に表はれたる道德にあらずして、寧ろ國民大多數の複雜なる一般不道德なることと是なり。而して人民が不道德となり罪惡に陷るゝに從つて、益々抑制し難きものの數を增加す

るに至るは、是れ則ち戰爭なりとす。

歐洲移民の增加は五十年のことに屬す、罪惡は其頃より大に增加し、次第に劇しくなりぬ。南北戰爭以前には國民十萬に對して僅かに二十九人の罪人ありしのみ然るに戰爭の時より今日に至るまで、犯罪數は五十割の增加を爲し、而して人口の增加は三十割に過ぎざるなり、且つ其結果は歐洲移民と米國制度の關係とによることは、彼等か米國よりも寧ろ自國に於て比較的罪惡行動の少きことに徵して之れを察知すべし。

一九〇六年英國にては人口百萬に對し殺人犯八、獨逸は四の割合なるに米國は百十八ありき、過去二十年間の殺人犯の例年平均數は米西戰爭の戰死者の數の三十倍に及べり。南北戰爭中の每年の戰死數は、此自由の國ならざる放肆の國に於て每年殺さるゝ人の數を僅かに超過するのみ、米國の一年間の罪惡の費用(警察費の如き)は、南北戰爭以外孰れの戰爭の總費用にも超過せり。

米國の犯罪を國民籍に分配すれば大凡左の如し、內人の二割四分は土着の白人を兩親とし、七割六分は外國人の子女或は黑人なり、外國人の兩親より生れたる人民の罪惡は歸化人の犯罪に超過す、歸化人の犯罪を以て土着人を親とせるものの犯

罪に比較すれば、五六、八一に對する四三、一九の比例を示す、米國にある獨逸人は他の凡ての外國人に比して最も多くの犯罪者を生ず、而も彼等は其本國に於ては彼等に適當せる政体の下にあるを以て罪惡は最少數に減せらる。

個人の中に罪惡の傾向行はるれば、或は集合的に或は個人的に、法律違犯の結果を生せん、若し法律に從ふことを個人の拒む場合には、是れ必ずや或種の罪惡を發生せん、又國民の或部分が、全體に對して集合的なる形狀を以て法律を犯す時は叛逆となるなり而して犯罪が若し國際法及び慣例に對して現はるゝ時は戰爭となるなり。

國際法に國民が集合的に服從せざる動機は、個人として地方的法律を犯すと大なる相違なし、個人の場合は之れを罪惡と云ふ、然らば國民の犯罪は國民の行動及び慾情に起因する所の戰爭のあり得べきことを示す所の索引なり、國民間の罪惡の進步と退步に比例して人民が戰爭を誘致し得る範圍に於て戰爭は或は近づき或は遠さかるに至らんとす。

個人及び人民の犯罪傾向は人民中異分子の多きこと、及び此異分子か最初の純一人種に比して多數と爲り、且つ道德の程度劣等なる時は、更に大なる比例を以て增

加するなり。生理的に之を觀るも優等人種が劣等人種を同化して其優等なる點を失はざることは不可能なる如く、米國に於ては異人種結婚によりて生ずる人種の退步あり加ふるに社交感化劣等なる道德の自國の影響等は國民道德に大打擊を與ふ、殊に國民の權利を保護すべき職權と米國の精神を理解せざる外國人(歸化人の輩)に托するの一事は、最も寒心に堪へざるなり。

吾人は已に歐洲移民の九割四分は東北諸州に永住することを說けり、此地方は即ち政治力の均勢を握る所なり、紐育より桑港に至る中間大都會の多くは、外國人は三分の一より二分の一の間を占む、若し移民の程度が今日の如き速方を以て進步せば、諸大都會の一切の投票權は數年を出でずして外人の手に歸せん。近來の移民は田舍行を好まず、彼等に取りては市街の最惡なる陋屋も、世界最美の田園に勝れり。南北戰爭以前即ち歐洲移民の增加せざる時代に在りては、都會の人口は全體の人口に比して僅かに一割二分を占めしに過ぎざりしが、一九〇〇年には三割一分に增加せり、今後數年を經過せば必ずや五割に增加し、選擧場の權力は外人の占むる所とならん。

君主神權說の私生兒たる、多數神權說により支配せらるゝ共和政治は、田舍地方に

よりて支配せられずして、却て最も人口稠密せる中心點、即ち都會によりて支配せらるゝ是よりして政治上の勢力發布せらるゝのみならず、國民の道德及び社交的傾向もこゝに起因す、紐育の如きは其人口の一半は、外國出生の人民に占められ、彼れ等は米國制度を理解せざる點も亦外國的なるが、紐育は九個の西部諸州を相合したるよりも多數の下院議員を有せり。

田舍地方の道德の標準は、市の人民に對しては何等の影響を與へず、然るに市の道德は其高低を問はず、其勢力範圍は國民の一般道德を定むべき原動力を有せるものなり。

吾人は己に米國に於ける人口の復雜なるが爲めに起る所の四個の事情を指摘したり、是れ平和に反對なる人類の活動を誘致するものなり。

(1)凡て將來に於ける戰爭の原因は、人民により發生せらる。
(2)人民の犯罪多きに從ひ、戰爭の起り得べき事情を增加す。
(3)米國は罪惡に於て、凡て他の文明國に勝ること。
(4)其罪惡の多くは人口の復雜なるが爲めにして、複雜の人種は殊に市街を中心とし、而して市街は米國の道德、社交及び政治上の中樞地なること。

米國を組織する所の幾多の人種階級より他に戰爭の原因なしとするも、米國は之れのみにても戰爭の原因あることを自覺して、之が準備を爲さゞるべからず。或國民の罪惡が過度に陷る時は、之と同時に國際法の慣習によりて、他の國民の權利及び特權を破壞し、遂に戰爭に至ることは明白なる事理なりとす。

# 第十一章

前數章に於て將來戰爭の避くべからざる理由を各方面より論述せり。尠くとも米國は現今の如く極めて冷淡にして軍備の改良に反對するが如き態度を避け以て戰爭に對して準備することの必要に關し、大に米國の注意を喚起せんと努めたり。

過去數十年間に於る交通機關の發達により、此世界は今や百年以前にありては一大國とも思はれざりし程度にまで縮少せられたり、斯く人間の政治的活動範圍の減縮せられしことは即ち此間に生存する各國民の擴張を來せるが爲めなり。人は今や飛梭の如き時間に逐ひ附くを得たり。距離は最早從來の如く大ならずして、次第に削り取られつゝ甚だしき縮少を爲せり。唯だ其削られたる片屑の殘餘を人間なる工場に存留するあるのみ。世界に民族が依つて以て安逸を貪り得べき太洋も距離も深淵も既に其前後に存在せざるに至れり。而して斯の如く年々縮少しつゝある世界の各民族は間斷なく角逐爭鬪せざるべからざるなり。歐羅巴は東方に發展の餘地なく亞細亞は西方に發展の餘地なし。されば歐羅巴の

人民は西に向て行き、亞細亞の人民は東に向て進む、米國大陸の東西の潮流が相合して氾濫し、遂に互に其水平を支持せんとす、之を防ぐためにモンロー主義は宣言せられたり、排他的法律は發布せられたり、新らしき島國は領有せられたり、斯くて後一時的の國運隆盛なる魔睡劑に醉ふて米國は狂的妖夢の裡に沈溺し徒らに空想を以て幻影を逐へり。

吾人は既に西半球を支配する國民の異人種的なること及び同時に起る罪惡に就て詳論したり、更に一歩を進めて從來研究せる戰爭に對する各種の原因よりも、極めて危險多き原因即ち群衆か國政を支配する場合より發生する戰爭の原因に就て之を論述せんとす。

民衆政治が戰爭の原因に對する關係に就ては其人民の性質如何はさのみ緊切なる問題にあらず。其要點は人民が中央政府に對する支配權の程度如何にあり、人民が政府の事務を左右することの一層絕對的なるに從ひて戰爭の機會も益々增加し來る。且つ人民中、異人種を交ゆることの多きに依て、國際戰爭の危險は加はり來るなり。

民衆に依り支配せらるゝ政府の勢力が廣き範圍に及ふに從ひ戰爭の危險も亦益

〻增加し來るなり、加之、斯る國民の政治的及び領土的擴張が他の寡頭政治國若くは專制政治國の類似の發展と接觸するに至る時は、其必然の結果は戰爭なり。而して若しも敗軍の厄に遭はゞ民衆政治は破滅して一種の君主政治に逆轉するに至らん。國家を支配する個人の數の增加に從つて、其政務の得失其基礎の强弱及び大敗滅に對する蘇生力の多少を見るべし。五人の智者は同等の智識ある五千萬人の集合體よりも、一層强く國民の運命を指導し得べし、國家を支配する個人の數の增加すると同時に智識の程度は退步すべく、遂には全國民を擧げて茫漠たる淺識薄智の沼澤中に墜落せしむべく、此中より救濟せられんとせば、其淤泥の沈澱し清水噴出して再び優越なる智識の反照するを待たるべからず。

人民が政治を支配すること益々盛なるに從ひ、例へば米國に於る政治的進化の跡に就て見るが如く、人民の智識は不幸にして其必要なる程度にまで上進するものに非ず、即ち國家の國際的權利と義務との復雜なる責任を理解し得べき點にまで發達する能はざるなり。假令普通人民の智識にして殆ど信じ難き程度にまで達することあらんも、外國の權利を正當に尊敬し認識することは能はざる一事に至ては依然として何等の變化も與へざるなり。

國家と國家との交渉の成功の如何は、個人と個人との交渉と同じく之に關係せる當局者の數其利害及び僻見の有無等に比例するものなり。然れば國政が人民の支配に歸したる曉には、外交當局者の數は全國民衆と同數となり、單に彼等が平凡なる智識を代表するのみならず、又無限の自我的利害と僻見とに胖されざるを得ず、米國の政情己に斯の如くなりしを以て、ジョン、ヘーの如き人をして米國は到底他國と重要なる條約を締結するを得ざるべしとの信念を堅ふせしむるに至らめたり、國際上の事故は條約により支配せらるゝものなるにかゝる條約を締結し得ずと云ふは即ち假令之を締結するも遂に之を守るの力なしと云ふに等し、我合衆國が他國民の權利と特權とを尊重し能はざりし悲しむべき事件は蓋し一二にして止まらざるなり。

國家の係爭問題に關しては人民の思想は即ち群衆精神なり。其特性自ら女性的にして不道理なり、宛も動物の本能的なるに等しく只自己の感情と慾望とを知るのみ、彼等は輕薄にして變り易く各種の厭惡を以て充滿す。再言すれば個人の精神は必ずや多少建設方面なくんばあらず、然れども群衆精神は單に破壞力に於て多少の智識を有するのみ。蓋し群衆精神中にありて理性は不愉快に其朦朧たる

迷路に彷徨するなり、之を譬へば群衆精神は神話中の所謂怪獸ミノトールにして人間が之に犠牲として供くる七少年とは、即ち各帝國にして七少女とは人文の進歩なり(譯者曰く一國の主權にして群衆政治の手に落ちんか、國家と人文の進歩は暴殄せらるべしとの譬)此の如く群衆精神は唯破壞的の意味に活動し能ふのみ、個人指揮の下に於ける人民の集合的努力の結果は國家の建設に在る如く、個人の指揮を受けざる集合的行動の結果は、國家の滅亡に外ならざるなり。群衆精神が國家を支配する時には人類は必ず戰慄せざるを得ず其聲は國民の死を傳ふるに惡魔の『うめく聲』のみ多數者の神權を云ふに際しては、選擧區民の意思なるものが如何に世界に跋扈するかを記憶するを要す是れ即ち國家主義を痲痺し中道にして流產せしむるものなり。共和國に於ては官職の最も微少なるものに至るまで皆民意に從ふべきものとせらる。然れども實際には政治家は單に人民の憤怒せる場合に之を恐れて從ふのみ。於是乎、彼等は人民の戰爭的要求に對して之に反對することを敢てせず、寧ろ人氣を取らんとして之を煽動するなり。又選擧區民の意思なるものは政治家に取りて中央政府の努力を地方的に局限せしめんとし斷へず部分的立法を爲すために奮鬪せしむ。外交政策なるものも若しも人民

の利益と衝突する時は、國家の利害は之を犧牲に供せざるべからず。一國の政府が人民の直接支配を受くる時は、其元氣及び進步は內政の爭亂のために消耗せられて、國家の無數の暗礁中に漂流し去るなり。此漂流の狀態に陷る時こそ眞に戰爭の暴風雨に逢着すべき時なれ。抑も國家が『時』と云ふ破壞的勢力の潮流と暴風雨とに抵抗せんとせば、常に國際的發展をなさゞるべからず。內政は常に之を外交に從屬せしめ外交の必要と變化とに一致せしめて之を左右せしめざるべからず。然るに共和政治は之と正反對なる狀態を存在せり之がため國家は破壞せる漂流船の如く、岸もなく暴風雨もなき、夫の『大なる港』(國を亡ぼす墳墓の意)に逆航し他の幾多の漂流船の跡を追ふて顚覆し去るなり。

一國民が他國の人民及び其制度に反對して嫌惡の感念を懷く時は、世人は之を名けて愛國心を稱す。然れどもかゝる對外的敵愾心の發動なき場合には愛國心も亦萎靡して振はず、却て國民は遂に地方的嫌惡の情に驅られて、利害の爭論中に沈溺するなり、而して斯る地方的嫌惡の强弱如何は、一に中央政府の權力の强弱に比例するものなり。若しも中央政府が地方的嫌惡に左右せられ選擧區民の意志を代表せる代表者に從屬するに至れば、國家は漸く其結合力を失ふ。想ふに選擧區

民の意志なるもの即ち群衆精神は左の三個の特質を有す。

一、利己主義なり而して利己主義の最も平凡なる程度を脱する能はざるものなり。

二、不取締なり而して其不取締や小兒の不取締に異らず。

三、激動し易し即ち燧石の如く發火し易く、由りて起る火災は即ち戰爭なり、其殘焔は內亂となるなり、而して其鎭火後、灰中の餘燼の爲めに他の國民も亦火災に遭ふなり。

政府が人民に左右せらるゝと共に、或程度に於ては最早や他國民との平和的交涉の範圍を脫したるものなり。即ち虛傲なる不安の狀態に陷り、孤立尊大にして他人の權利を顧みざるに至る、此態度は戰爭を生むものなり、選擧權を有する人民は其最も好き方面より之を觀察するも、一の偉大なる動物と云ふべきのみ。其叫ぶやデマゴーグの如く、一商人を以て其頭と爲し婦人の如く常に自らを欺くなり、其自負心を迎ふるものは有情にして、其惡むものには獰猛なり、而して其敵とする者に對しては殘忍なり。推理力なくして直覺心を有し小兒の如く欺き賺かさるゝを好むなり。群衆は能く笑ふこと有れども一滴の淚なし、是れ其野獸的なる所以

なり。

平和なる國際的關係は、當局者が最も優れたる智慮と正義心とを有するを必要とするのみならず、人民の方面も全然當局者の決斷に服從するの覺悟を要す。然れども政府にして人民の左右する所となれる以上は、全然之と反對の狀態にあるものなり。當局者は即ち人民と云ふ眞個の當局者の代表者に過ぎざるなり。而して此人民たるや智識は平凡にして性質は激烈短氣なり自己の外に向つては決して服從する所のものなし、若しも外交當局者にして人民の極端なる要求を幾分にても讓步せしむる所あらば彼等は直に該當局者を排斥すべし。故に當局者は人民の希望より少しにても離るゝことは、即ち人民に罪を負ふ所以なることを知るが故に、唯た普通人民の感情と一致して行動するを努むるなり、彼は人民の生產物に過ぎず其勢力の偉大なるは僅かに彼等の意を迎へ得る限りに於て存在するのみ。

民主政治の黑暗面は斯の如きが故に故國務卿(ヘー氏)は鬱憂なる豫言を爲し『米國は現今の政體の下に於ては緊要なる條約を結ぶ能はず』と云へりき。換言せば米國民の將來は平和にあらずして寧ろ戰爭にあり、他國民と條約を結ぶことを

得ざる程度に達したるが故に、國民間の一致を闕如せり而して現存の條約すら往々之を破るに至れり。嗚呼條約を破壞するに對する外國の應答とは唯一戰爭あるのみ。

條約を締結し、若くは既に締結したる條約を尊重するの困難は、國政上に於ける人民の勢力益々増加すると共に彌々増加し來るなり。米國に於ては殆んと凡ての國際的方面に於て外國民の權利及び特權は冷遇せられ又立法的行爲を以て直接に破らる。是れ有力なる政治團體が自家の利害と慾望とに照して、條約の規定を不利とすればなり。

米國の政治史は外國民に對し正義親交を以て國交を維持することの困難を示すなり、而して其外交的記錄を見れば中央政府は各地方的の立法が現存の國際條約の規則に反對なる場合と雖も之を制壓すること能はざるを得べし。此の如く勝手に國際的責任を度外し地方的立法を以て國際條約を破るは悉く之を人民の無智にのみ歸するを得ざるなり。彼の文明的世界を離れたる山林中に棲息せる文盲なる野蠻人すら、尙ほ其記錄なき義務を子々孫々に守護したるの例あり、彼はその小屋の前を流るゝ水、頭上に吹き荒む風、四方を圍む無限の深林を見るの外、何等の

法律を知らざれども尙は此大共和國が忘却せんとする信義の念を發揮し得たりき。米國が條約を度外視することは、日に益々多きを加へ來れり、實に偉大なる潛勢力ある國民の正さに耻辱とすべき所なり。
北米合衆國が己に屢々條約の破棄を敢てし、以て外國との和親關係を維持すべき能力を失ふに至りし原因を考ふれば吾人は之を以て人民が中央政府の支配權を掌握するに至れるに歸せすんばあらず。即ち

一、地方若くは階級の政治的勢力の增加に因れり。

二、代議士等が選擧區民の意思を迎合し又其選擧を左右し得べき實業團體の指揮に從備するに至れる結果に外ならず。

而して外國人は投票權なく又運動者をも有せざるか故に普通政客には何等の關係なし、如斯政治家が其運動の意思に服從することは排外的の立法の成立するを以てなり。然れども一方より見る時は人民が政權を握れば此從屬的態度は自然的の結果なり、人民の勢力の增加すると共に政治家の從屬心は益々增加して立法的行動に於いては僻見虛傲に驅られ、外國人の私利に對し、全然之を輕蔑し去るの傾向を呈すべきなり。

立法者若くは外交當局者の職務執行上の智識は國政が人民によりて支配さるゝ間は其選擧區民普通平均以上に超越する能はず、若し超越するとせば議員若しくは外交當局者は、選擧區民と衝突して其職を去らざるべからざればなり。されば米國の政治家は卓越なる智識を有するの必要なし。何となれば彼は只其選擧區の理解し能ふ程度に於てのみ、其智識を利用し得らるべきを以てなり。是れ即ち普通米國政治家の平凡なる所以にして、又智慧ある國民が政治に干與するを厭ふ所以なりとす。

外交談判によりて國際的戰爭議を落着し能はざる場合には、其落着は腕力の支配内に移轉せらる。外交的行動の有効を減ずるものは戰爭の危險を增加するなり、且つ米國に於ける如く外交的行動の自由を制限する憲法上の規定(譯者曰く米國憲法に由れば大統領は條約の最後の裁可を元老院に求めざるべからず)あるは戰爭の機會を益々增加する所以なり、去れば一方には此の弱點を正しく且つ深く認識すると同時に、他方には又國家の武備を適當の程度に增加すること唯この二事こそ是れ戰爭の危險を減少する所以なれ。

官職が政治上の勝利者に屬する政体の下にありては、領事の位地は下級なる政客

の過去の努力に對する賞與として與へらるゝなり。斯の如き廣き智識と長き經驗とを必要とする職務に對し、無智なるものを『間に合せ』的に任用するの甚だ危險なることは、世界の益々縮少し米國の對外關係の益々親密に且つ複雜になるに從ひ、愈々明白となるべし。

凡そ他の國民の內部の發展は必ずや外部の擴張を促し、其國家としての缺乏と野心とは合衆國の其れと緊切なる接觸をなすなり。國際的戰爭の危險は益々明白となり、而して政治上無識なる外交官によりて益々其度を加へんとす。

國際的戰爭を落着することの困難は、之に關係せる當局者の數、及び利害の增加と共に困難の增加するか如く、當局者の無能も亦民民が爭論に關して有する利害の感念に比例して增加するなり。若し此利害の大にして國民の感情を激動すること深甚ならんか、當局者の優れる智慧も、其事件に關して有する識見も、其高尙なる正義の感念も、彼に對して何等の利益なかるべきなり。蓋し人民の憤怒が國內に瀰蔓するや、當局者は人民に對して從はざるべからざればなり。即ち交涉者にして、如何に智力あるとも、彼等は群衆精神の僻見と厭惡とに從はざるべからず。故に國際的爭論を落着せんとするや、智慮も虛傲心によりて反對せられ、正義も僻

見の爲に抑へられ、遂に當局者にして政府を代表し他の國の正當なる要求を容れ、自國の極端なる要求を讓歩せん乎。彼は群衆のために猛烈に攻擊せられん。是れ人民は議論の眞價を理解せんと力めず、自己の議論の外は他の議論に其耳を假さゞればなり。

北米合衆國の外交史を繙けば、大多數の人民は對外的問題に對し、常に自己の地方的若くは階級的利害を標準として之を考ふるを知らん。是れ即ち共和國の或る國際的爭論が一般人民の利害、又は情念を牽くとの大なるに際し、之を平和的に調停するの甚だ困難なる所以なりとす。

# 日米必戰論上編 終

# 日米必戰論下編

望月小太郎譯

## 第一章

今や吾人は編を改めて理論の説明より一轉して其擧証に及び、事實上之れを搆成する苦しき經驗を論述せんとす。即ち抽象的の戰爭論より進んで戰爭其物に移らんとするなり。

戰場——彼の古き神聖なる戰場——は、米國をして既に幾多の勞苦を爲さしめたり。米國の運命は尙ほ永久に之を繼續せざるべからず。從來吾人の觀察は部分的爭點を離れて高所より全局に渉れり。即ち山巓より河流を下瞰するが如し、吾人は既に論究せる條件、並に説明せる原則より今將さに轉じて、實際活動的戰爭論に移らんとす、而して吾人の推論が過てるか、又吾人の思想が架空なるか如何を確めんと欲す。

既論の事項に關して容易に世人の同意を得ざるべきは、吾人の豫て覺悟する所な

り。普通の人民は寧ろ吾人と正反對の意見を抱きて之に固着せん、彼等と雖も亦人なり、其説必ずしも不公平なりとは謂ふべからず。總て事實にあれ誤謬にあれ各其意に適合する所のものを取りて、深く之を其心裡に包藏するは世人の常態なり。如何なるものと雖も此不幸なる迷想より全然脱却するは甚だ難し。空想的慰籍を信せず、寧ろ苦痛を感ずるも十分の眞理に到達せんと欲せば、多大の努力を要すべし。

前編を草したる後吾人の心に浮びたるは、假し眞理は何人にも反對せられずとするも、之によりて吾人が世人に與へんと欲する利益は、人性固有の消極的不信念の爲めに、總て無効に歸せしめられんこと是れなり。消極的不信念とは人が徒らに偶然の運命に依賴することなり。國民も個人と均しく徒らに運命を信じ恰かも唯骨牌の混じ方に依賴して、平然として其勝敗を待つが如き觀あり。

米國の過去が常に天の運命の渝らざる監視の下にありたるは明かなれども、而かも更に深く之を稽査する時は、米國に於ても亦其福祉は最も平凡なる、而かも自然なる條件によりて生せしを疑ふべからず。而して今日も此運命は米國が彼の大なるバベルの塔を棄てたりと謂ふにあらざるも、茲に他の神の現はれて語り且つ

其前途に對して冷笑を洩らしつゝあるを奈何せん。彼の古き物質的の神は米國の如く、今日作られて明日破壞せらるゝ如き、塵埃の塔をば敢て顧みるものに非ざればなり。

刻下の形勢よりすれば國際的戰爭は、何れの國よりも寧ろ日本との間に起らんとする虞れあるが如し。然れど戰爭の機會は、其形こそ異れ他の國に對しても同樣に存在せざるにあらず、或は意外の出來事は戰爭の原因を早めて、危險の近因を太平洋より轉じて太西洋に移すやも未だ知るべからず。

米國が西半球に於て平然として其主權を樹立し、又太平洋に於て試驗的に之を主張するより發生する所の政治的責任は極めて重大にして、世界各國の勢力競爭に影響を及ぼすこと大且つ切なるが故に、獨り戰爭の警告のみならず戰爭其ものゝ何處より破裂し來るべきやも之を知るべからず。今や米國の四周には多くの强國ありて、其造兵所の黑煙は米國の中天を蔽ひ、異樣なる鐵砧の響は米國民の肺腑に徹せり。日本との戰爭は戰爭其もの及び之より生ずる結果は、時と所とこそ異れ、之を米國が歐洲及び亞細亞諸帝國の發展を阻礙せんと企つる時に於て起るべき結果と其揆を一にするものなり。即ち米國が充分なる海陸軍の設備なくして、

單に太平洋及び西半球を自已に把握し、曾て其他の王國の發展的移動を防遏し、若くは人類社會に常に起る所の飢渇的運動を沮滯せんとするに於て、必ず発るべからざる結果と同一なるものなりとす。

日米開戰せんか、日本は獨逸或は他の歐洲諸邦國が米國に對する戰爭に於て見る能はざる困難に遭着せん。何となればハンブルグより太西洋海岸に達する航程は僅かに六日路なるも、日本よりカリフホルニアに達する航程は十七日を要す。而して獨逸が其軍隊を太西洋岸に上陸せしむれば、既に米國の政治及び經濟の中心點を距ること僅に數日程の距離に到達すれども、太平洋岸に上陸せる日本軍は尙は是等の中心點とは多大の距離を有すべし、故に米國は日本に對して獨逸との戰爭に於て得べからざる軍事上の利益ある地位に立つことを得るものなり。されば吾人は敢て日本の戰闘力を誇大視するものにあらずして、寧ろ米國の防禦力を其實力以上に誇大視しつゝあるものなり、若し亞細亞の帝國にして米國に對し勝利を得べき機會あるものとせば、歐州の某國に對する戰爭に至つては米國は殆ど無力なるを知るべし。

日米戰爭論は直ちに既往歷代の間、世界の各方面に大軍國の勃興せることを豫言

し能はざりし事の眞理なるを證明するに餘りあり。斯の如き軍國が偶然に生誕し來ることは、常に人類の爲めには一種の不可思議なり恐懼なり。然れども彼等は是れに因りて教訓を受けず、亦寸毫も益する所あらざるなり。彼等は之れを記臆すべきに忘却し、調査すべきに一笑に附したるなり。

於是乎古往今來の好戰的征服人種は、或時は山岳より、或時は谿谷より、又或時は千尋の深淵より現はれ來りて、頑迷不靈なる人世に向て、突如として雷霆の如く轟きつゝ其破壞を逞ふするに至る。斯の如くにして其貧を美德とし其靜粛にして恐るべき一島國は、曾て過去の諸王國が茫然として顧みざりし間に於て之を掃蕩したりしにあらずや。而して其暴風狂雨は今も猶猛然として其島上を覆ひて怒號しつゝあるなり。

米國が超越なる工業的發展を爲したるに對し、日本は之に相當する政治上の發展を爲せり。米國の政治的發展は其目的に達せざれども、日本に於ける富の產出は能く政治的發展を調節す。此の方程式の答案は古今を通し人類の歷史に於て、戰爭となりて現出せざるはなし。

此戰爭に對し責任を有するものは、日本にあらずして米國にあり。米國は個人の

理想の爲めに國民の理想を犧牲に供したるを以て、其國民の發展は個人の需用によりて定められたり。凡そ個人の希望に導かれて生じたる國民の發展は工業的にして、海陸軍の膨脹に伴ふ政治的發展の如きは寧ろ從屬の地位に置かれたり。是を以て個人は國民の上に勢力を有せるが故に、法律は個人の利益を目的として制定せられ、世界の他國民との關係に於ける國民的利害は寧ろ輕視せられたり。個人の幸福及び慾望は國家の其れに比して優れるを以て、議會も些々たる内政の掠奪若しくは部分的の立法にのみ關係せり。而して米國の世界に於ける地位の眞個の意味は閑却せられたり。斯の如き怠慢こそ即ち戰爭を誘致し、國民の財寶と其莊嚴なる神の高殿及び燦爛たる國民の極盛とは、擧げて之を敵の掠奪物となさんとするものなり。

科學及び發明の結果として從來の國際的關係は根本的に變化し、曾て征服の範圍外にありし土地國民と雖とも、其範圍内に籠蓋せらるゝに至れり。而して征服も亦最早彼の往時に於けるが如く、帝王が其勢力、罪惡、及び恩惠を示さんと欲して奮起せる、所謂帝國的進歩の戰爭にはあらざるなり。今や戰爭は自然の倉庫内にありて、未た曾て掠奪せられざる富源を獲得せんとする國民全体の征服となれるな

り。斯る征服は固より赫々たる功名を顧みず、又帝王の虚榮心を滿足せしめんが爲めにあらずして、寧ろ國民的群衆の飢渴を醫せんが爲めの頗る殘忍なる盜賊的行爲なり。

清國は政治的に發展せず、又過去二十年間に近代の科學が國際的事件に及ぼした る變革を理會し得ざりしにより、同帝國をして殆ど分割の端を發かしむるに至れり。而して上述の變化は米國の人民も亦淸國人の如く之を了解するもの尠し。吾人の此語は米國の政治家が從來既に絶叫したる悲愴なる眞理を言明するに外ならず。

船舶は四日半にして太西洋を橫斷し、數千の旅客と三萬噸の貨物とを輸送することは、單に經濟上の方面よりのみ觀察せらるれども、その政治及び軍事上の意味に於ては、其關係の廣大にして到底比較すべきものにあらず、蓋し國民の興亡消長は一に之れに繫ればなり。

斯の如くにして西半球は既に歐洲の勢力範圍に入れり。而して其幾百萬の軍隊は、米國の各州に散在する少數の米國軍隊よりも却て華盛頓に近接し居れり。國家の偉大を以て個人の物質的利益に服從せしむると共に、自ら起ちて世界的の權

力を握り、敢てその危險と災禍とを冒さんとするの誤謬なるは、吾人既に之を說明せり。吾人は今や將さに起らんとする大戰爭の前に立てり。之を研究せば明らかに米共和國の怠慢よりして生ずべき論理的結果を見るを得べけん。日米間の戰爭を攻究するに當り、吾人は敢て臆測を須ゐず、事實に就て之を論せんと欲す。加之、吾人は敢て擅まゝに此戰爭の起るべきことを推測せず。寧ろ愼重に平和の機會あるや否やを研究し、平和と戰爭との孰れが最も其機會多きやを比較して調査せんとす。されば進んで戰爭其ものゝ研究を爲すに先だち、其近因と遠因と又兩國民の軍備、及び戰鬪的潜勢力とを調査せんとす。僥倖や、愛國心や、僻見や、希望やに對しては全く之を度外視せり。吾人は華美なる花氈に對し、忽ち褪色すべき彩絲を織込んとするが如き希望は敢て之を取らざる所なり。

吾人は本書を著すに當り、之に對して反對あることを十分に豫期したり、然りと雖も今や米國民は無責任なる姑息偸安の政策を脫せざるべからざる時機に際會したるを以て此著あるなり。顧ふに科學の進步が人に羽翼を生ずる今日の時勢は、斷じて國民の孤立的境遇を許さず。從て米國民が其國際的責任を避けんとすることは到底斷念せざるべからず。

# 第二章

國民の生活上に戰爭を生ずべき傾向ある方面の存在するが如く、又平和を維持すべき若干の狀態ありとす。國際戰爭の原因は國民將來の發展、及び生存に對する根本的條件に基かんも、亦一方には幾多平和的原動力の戰爭の原因と相殺するもののあるべし。戰爭を防止する所の條件は其數甚だ多く、且つ戰鬪者の結合力如何に依て幾多の特徵を有すと雖も、多少精密に之を決定し得べし。而して國際的戰爭の原因を論究するに當りても亦之を應用するを得べし。

今之を概論するに、國民間の戰爭は本書の前編に論述したる幾多の原則によりて決定せらるべきも、（上編第七章參照）時に平和を要求する場合なきに非ず。平和的原動力は戰爭の原因と相對して價値を有するものにして、其可能力は二個の方面より之を研究せざるべからず。即ち第一は戰爭の防止にして、第二は戰爭を將來或る時期まで延長することと是れなり。

日米兩國の如く全然其人種を異にする國民間の戰爭を防止するに足るべき條件は、其兩國の孰れかに於て、戰爭の原因が平和に必要なるほど切迫せざる場合にの

み之を發見することを得べし。抑も一國人民の戰爭に從事せんとするや、敗北の場合に受くべき災禍は言ふまでもなく、戰爭そのものゝ爲めに免るべからざる損失に對して、勝利の可能なることを豫期するに非ずんば決して之を斷行せざるべし。

吾人の既に論じたる如く、大國民間の戰爭は感情の結果にあらずして經濟的及び政治的接觸の結果たるなり。人は其感情によりて此接觸點を增加し、又或は之れに反し忍耐によりて之を減少することを得べけんも、戰爭を廢止することは到底不可能なり。

現今若くは將來に於て、日米間に存在し得べき戰爭の原因を論ずるに先だち、吾人は此兩國民間に於ける平和の必要、及び其傾向の大小如何と平和の條件とが果して戰爭の條件よりも優力なるや否やを研究せんと欲す。

次に揭ぐる國際的關係の二方面は、諸國民の間に存在して對抗的競爭心を和らげ大に戰爭の蓋然的(譯者曰く將來必然起るべしとの意)傾向を減することを得べし。

第一、宗教的傾向、倫理的及社會的狀態を均うする人種的關係。

第二、經濟的の相互關係。

人種上より云へば日米兩國民には何等の關係なし、抑も人は各自頑迷にして已が種族の神及び禮拜物を忘却することを欲せざるが故に、此兩國民の同化せんことは遼遠なる未來に屬し、茲に之を論ずべき場合にあらず。又日本に於ける倫理上及び社會上の狀態は、米國の其れとは全然相反すれども、亦之れ日本に於ける二千年前の產物なり、されば日本人の人種的特徵を泰西の其れと合致せしめんが爲め之を再造することが、假し不可能のことにあらずとするも、そは吾人の想像よりも更に長き年月を要するならん。日本に於て斯の如き人種的變化の起り得べからざるは、猶は泰西人が其文明を棄てゝ東洋の文明と一致すること能はざるが如し。勿論遲緩なる自然の作用は終には東西の文明が互に相融和し、唯外部の形狀のみにては、之を區別すること困難なるに至るならんも、人種の區別及び嫌忌の情は尙ほ限りなく世界に存在すべし。

大なる人種は之を海水に洗はるゝ巖に譬ふべし、移り行く文明は恰かも其上に憩ふ白鳥の如く一時こゝに止るならんも、軈て飛去つて夕靄中に其影を沒すべし。而して此茫漠たる海洋若くは之より生ずる暴風狂雨の爲に、人類には永久に存在すべく見ゆる此人種なる巖は、終に破壞せられ、浸蝕せられ、蘚苔之に生じて終に併

呑せられ了らむとす。

國民の理想に於て、日本の倫理的、及び人文的、理想と、米國の其れとの如く全く相反するものはあらず。日本には家長的軍國主義なるもの行はれ、個人は先づ國家の用に供せんが爲めに物を所有す。然るに米國に行はるゝものは個人的商業主義にして、個人は唯販賣の目的を以て凡ての物を所有するなり。一は全然個人を服從せしめ、他は個人に主權を與ふるなり。

國民の宗敎の異なれる時は、人種の相違は敵對の心を生ずるなり。されば刀劍を帶びたる神や武人的僧侶を有する日本人は米國人より見れば異敎徒なり。然り、基督敎國民が此語に包含せしむるあらゆる輕蔑と劣等との意味に於ける異敎徒なり。斯る感情たるや、苟くも基督敎の衰落するにあらずんば、決して減退するものに非らず。蓋し此基督敎の衰落は日本人の立場よりせば、其日本國の基督敎化さるゝよりも尙は一層早く事實に近づくものゝ如く見へんのみ。倫理社會若くは宗敎的狀態は毫も共通の點なく、又其行徑も接觸せず否、單に並行する所すら之れ無きなり。

現今も亦遠き將來も、此兩國民が互に相親和し其國民的生活上、社會的及び宗敎的

方面よりして戰爭に對し、反對の傾向を生ずるが如きは萬々あり得べからざることなり。而して將來如何なる變化を生ずるも、人種的野心、對外的活動、憎惡並に其絕叫を一層强烈ならしむるに過ぎざるべし。

日米間の平和を維持し、或は少くとも戰爭を遷延せしむる唯一の條件は、此兩國が世界に對して有する政治的關係と、兩國の間に存在する經濟上の相互的關係是れなり。

國際的の意味に於て、國民の野心を制限する勢力を有し、戰爭を防止するの具たるべき政治的狀態は、畢竟斯る戰爭の自己の利害に及ぼす影響如何に依て定まるものとす。

日米兩國が太平洋上に雌雄を爭ふや、其結果に對して世界の國民は、孰れも皆多少の利害關係を有せずんばあらず、されど兩國の利害は極めて重大にして、他の諸國の利害を合するも恐らく此兩國民の利害には及ばざるべし。而して此狀態たるや三個の重要なる時機に於て日本は之れに到達したるものなり。

第一、千六百九十四年(明治二十七八年戰役)の戰爭に依り、支那が太平洋の一强國たる地位を喪ひたること。

第二、千九百〇四年(明治三十七八年戰役)の戰爭に依り露國が太平洋の蓋然的强國たる地位より除外せられたること。

第三、千九百〇五年より十年繼續の攻守同盟に依り、大英國を太平洋方面より排除し、以て歐州の權力平均を保存せること。

抑も太平洋に於ける歐洲諸國の利害は、寧ろ試索的たるに過ぎず。彼等の幸福に最も緊切なるものは、歐洲若くは太平洋の四圍に位する大陸に存在するなり。太平洋に其權力を集中することは、支那、日本、米國の以外に於ては到底不可能なり。斯る權力は地理、政治、軍事上の關係よりして此三國を除く外、他の國民の斷じて掌握する能はざるものなり。

支那は地理上より云へば太平洋の帝國なれども彼を以て太平洋の主權に對する競爭者の一なりと爲すこと能はず、彼は單に日本と戰ふて敗れたるのみならず、現政府の力微弱にして漸く分離解体せんとするを以てなり。

現今は勿論近き將來にも地理及び政治上の狀態よりして、太平洋の主權を爭ふて戰爭に從事するを得るものは、唯日米兩國あるのみ。日本が此戰爭に固有の利害と便宜とを有する所以のものは、其全帝國が太平洋に存在するのみならず、軍略上

の中心點を占有するを以てなり。(地圖參照)

屢々國民の國際的戰爭に從事することを抑制する第二の政治的狀態は、敵國の力が其國境に對して戰爭を有効ならしむるに必要なる兵力を配備し、尙且つ綽々として餘裕ある兵力ある場合に於て然り。若し日本にして米國と戰ひ其海陸軍の全力を擧げて之に用ひたりとせば、露國は淸國若くは兩國同盟して、其既に失ひたる國土と今日世界に於て、微々たる名聲とを恢復するに躊躇せんや。

此事實を熟知せるが故に、日本の政治家は日露戰爭の終るや、十年間世界の最大國と攻守同盟の約を結べり。(附錄第一表參照)此同盟を以て北亞細亞に於ける日本の防備なき國境は、最早攻擊を受くるの危險なきに至れり。於是乎、日本は其兵力を擧げて自己の特別なる利益と安全とを保護するに必要なりと認むる戰爭に從事することを得るなり。此條約は米國をして戰爭を不可能ならしめたり、若し强て開戰せんと欲せば英國は日本の同盟國として日本を助けて戰はざるを得ざるなり。

政治上に於ては日本の米國に對して戰端を開くことを防ぐべき條件は一も之れあらず。日本は自己の好運を信ずること頗る强く、二十餘年前より豫定の進行を

始め以て太平洋上の帝國たらんと欲し、種々なる手段によりて前途に横はれる國民を排除し去りぬ。其剩す所は唯太平洋上に於ける米國權力の破壞あるのみ。而して政治上の制限より云へば、何物も日本の征服を防ぐるものなし。此戰爭は日本の武士をして古今未曾有の大功名を成就せしめ、又其貴族をして廣大無邊なる領土を獲得せしむべし。國際的關係に就て論ずべき一點あり、是れ戰爭を阻止するの力、或は少くとも現時の平和を延長するの力を有するものなり、他なし即ち是等兩國民の經濟的相互の關係、及び兩者共通の市場に於て商業上の競爭なきことと是れなり。

米國に於て日米戰爭の不可能なることを論ずるものは、兩國民の經濟的相互關係に就て空想妄信を懷くに基くものにして、斯る信仰は社會一般に國際的貿易と、之を支配する所の理法の眞意義を誤解したるより生ずるものなり。此誤解によりて商業主義は無冠の帝王の盛裝を爲し、王者の高位に立ちて天下を下瞰するの權力となる。

貿易が國際的關係の上に優勢を占むることは、日米兩國の關係に於て殊に然ることを論ずるに當り、日本皇帝の樞密顧問官たる金子男爵の此の問題に關する論文

を稽査すべし。一九〇七年三月「北米評論」に於て、金子男爵の如き有名なる經濟學者が起草したる此論文は、日米兩國に於ける經濟的相互關係の戰爭を不可能ならしむることを証明するを目的としたるものにて、斯る信仰の説明は殆んど網羅し盡せるが故に、吾人は金子男の說に對して之を攻究することは、斯る觀念が果たして智慮あるものなるや、將た又妄想に過ぎざるやを示すに與て力ありと信ずるなり。

金子男は立論すらく、米國人は日本の物貨に依賴し、又日本人は米國の商品に依賴すること多きが故に、戰爭は到底不可能にして、兩國民が是等生活上の必要品を奪はるゝ時は、忽ち不幸なる結果に陷るべきは、炳然として火を睹るよりも明かなりと。

斯る論法は金子男の發見なりと云ふべからず。米國雜誌の爲めに此論文を起草するに當り、男爵は只米國經濟論者、及び計算家の議論を証明せんと力めたるに外ならず。男爵の誠意如何は吾人之を問ふを須ゐず、吾人は男爵が是等の議論を集めたる時、一種の輕侮的冷淡なる、態度を以て之を觀察したりと信ぜざるを得ず。斯る態度の中には自ら一種の深長なる意味あるものなり。

男爵は更に歩を進め、經濟論者の特色たる得意の態度を以て述べて曰く、故に余は左の如く述るも敢て不可なかるべし。若し日本が米國に絹の輸出を廢止せんか、米國婦人は絹服を纒ふ能はざるべく、若し米國が日本茶を排斥せば普通の米人は茶を喫すること能はざるべし。米國民が日本の産物に依頼する多きこと此の如しと。

男爵は此驚く可き意見を發表したる後、日本に於て消耗せらるゝ産物の目錄を示せり。曰く麥粉、棉花、煙草、石油、是れなり。此目錄には更に左の如き驚くべき宣告を與へて局を結びぬ、曰く、日本人は米國の供給なくしては、一時間と雖も生活する能はずと。此等の結論の如何に正鵠を失せるかを示さんとせば、吾人は只其一を論せば、足れり他は皆悉く同一の假定に基けばなり。

近代の戰爭に於ける物貨の交換は、猶ほ需要供給の理法によりて支配せらるゝこと、殆んど平時と異なる所あるを見ず。是れ商業的通路の夥多なると、國際的交換の複雜なるとに由るものなり。此狀態は唯生産の手段を破壞するか、或は消費者が比較的貧困に陷るか、若くは輸出國よりの貿易通路の海軍に依て遮斷せらるゝかの塲合にのみ變化を生ずるものなり。金子男爵が吾人をして之を信せしめん

と欲するが如く、國民は決して戰時に於ても其國の輸出を中絶せざるなり。否、却てあらゆる手段を盡して貿易の通路を保護することを力むべし。若し日本の絹にして戰爭中日本より輸出せられずとせば、是れ敢て日本政府の命令によりて然るにあらざるべし。

日米兩國の戰爭に於て一時太平洋の貿易中絶するも、而かも兩國ともにその商品に對する需要の繼續せられんか、物品の交換は依然として行はれ、只其運輸の通路と手段との以前に異れるあるのみ。スエズを經過する中立國の船舶は、一時太平洋に於て中絶したる貿易を繼續せん。是れ日米兩國產物の交換をば、只時間と歐州諸港に於ける積換費用との點に變更あるのみ。此積換費用の增加は如何に大なりとするも、唯其價格の騰貴を招くに過ぎずして、消耗者に取りては全く一種の從價稅を拂ふに齊しく、兩國の政府又は人民の爲めには何等の影響をも與へざるなり。

日本の茶及び絹は、米國に取りて固より必要品なれども、之が供給を日本に仰がざれば米人は茶又は絹を使用するを得ずと云ふ程必要なるものにあらず。日本の米國に對する年々の輸出額を全世界の絹及び茶の生產總額に比較すれば極めて

少額なるが故に、假令日本の生産にして全然失敗に歸することありとも、米國の消費者は決して大なる影響を蒙むることと莫るべし。

近代に於ては個人及び國民の消耗品は、普く人類の全体に渉り世界は宛然たる一の大市場となれり。戰時直接に一の國より得ること能ざるものは、積換若くは中立國貿易の迂路を經て、間接に之を求むることを得べし、彼の國際的通商關係が戰爭によりて全く破壞せらると稱し、又經濟的の相互關係は、戰爭を禁止するに至るべしと云ふが如き迷信は、須らく人類が從來執着したる觀念を拋棄したると同一の方法を以て之を拋棄せざるべからず。

又他方には日本が全然米國の物貨に依賴せざることは、猶米國が日本の茶及び絹に對する關係に異ならず。苟くも日本にして歐洲に至る貿易上の通路を支配する限り、日本の輸入が戰時に於て平時に異なる所は、只其人民の物貨に對する需用の增減によりて影響せらるゝに過ぎず。日本に必要なる米國品は戰時と平時とを問はず日本は必らず之を購ふことを得べし。

吾人は後章に於て現在米國の海陸軍組織にては布哇以西の貿易通路に何等有力の影響を與ふること能はざるを示さんとす。如何なる國と雖も封鎖の手段によ

らざる限りは、中立國の船舶に依る貿易を妨害する能はざるなり。されば金子男爵が日本人は米國の供給品なくしては一時間と雖も生活する能はずと云へる陳述は、彼の日本の茶が米國より排斥せらるゝ時には、普通の米人は茶を喫すること を得ずとの陳述と均しく事實を誤れり。

此國際的衝突を經濟上の理由によりて防止し、若くは延長し得べしと云ふ第二の議論は、日米兩國の共通市場に於て、通商上の競爭は存在せずと云ふことなり。國民間に存在する通商貿易中、此方面の關係に就き金子男は左の如き說をなせり。曰く『二十世紀に於ける國際貿易の增加發展は、國民の政略を指導すべきなり――各國民は、孰れも皆其產物に對して新市場を求めつゝあり、有利に開發さるべき唯一の市場にして、今日尙ほ殘存するものは唯亞細亞大陸あるのみ』と。亞細亞大陸の開發が日米兩國の共同一致に行はれむことは、現下の狀態と全く反對なる時に始めて之を望むを得べし。詳言せば亞細亞及び太平洋に於ける貿易開發の機會が、日米兩國の產物の交換に比して甚だ尠なき時に之を望むべきなり。然るに太平洋の海岸に充溢せる倉庫を有する諸大帝國の支配及び開發は、是れ即ち世界の富の淵源となるなり。

少額なるが故に、假令日本の生産にして全然失敗に歸することありとも、米國の消費者は決して大なる影響を蒙むることと莫るべし。

近代に於ては個人及び國民の消耗品は、普く人類の全体に渉り世界は宛然たる一の大市場となれり。戰時直接に一の國より得ること能ざるものは、積換若くは中立國貿易の迂路を經て、間接に之を求むることを得べし、彼の國際的通商關係が戰爭によりて全く破壞せらると稱し、又經濟的の相互關係は、戰爭を禁止するに至るべしと云ふが如き迷信は、須らく人類が從來執着したる觀念を拋棄したると同一の方法を以て之を拋棄せざるべからず。

又他方には日本が全然米國の物貨に依賴せざることは、猶米國が日本の茶及び絹に對する關係に異ならず。苟くも日本にして歐洲に至る貿易上の通路を支配する限り、日本の輸入が戰時に於て平時に異なる所は、只其人民の物貨に對する需用の增減によりて影響せらるゝに過ぎず。日本に必要なる米國品は戰時と平時とを問はず日本は必らず之を購ふことを得べし。

吾人は後章に於て現在米國の海陸軍組織にては布哇以西の貿易通路に何等有力の影響を與ふること能はざるを示さんとす。如何なる國と雖も封鎖の手段によ

らざる限りは、中立國の船舶に依る貿易を妨害する能はざるなり。されば金子男爵が日本人は米國の供給品なくしては一時間と雖も生活する能はずと云へる陳述は、彼の日本の茶が米國より排斥せらるゝ時には、普通の米人は茶を喫することを得ずとの陳述と均しく事實を誤れり。

此國際的衝突を經濟上の理由によりて防止し、若くは延長し得べしと云ふ第二の議論は、日米兩國の共通市場に於て、通商上の競爭は存在せずと云ふことなり。國民間に存在する通商貿易中、此方面の關係に就き金子男は左の如き說をなせり。曰く『二十世紀に於ける國際貿易の增加發展は國民の政略を指導すべきなり――各國民は孰れも皆其產物に對して新市場を求めつゝあり、有利に開發さるべき唯一の市場にして、今日尙ほ殘存するものは唯亞細亞大陸あるのみ』と。亞細亞大陸の開發が日米兩國の共同一致に行はれむことは、現下の狀態と全く反對なる時に始めて之を望むを得べし。詳言せば亞細亞及び太平洋に於ける貿易開發の機會が、日米兩國の產物の交換に比して甚だ尠なき時に之を望むべきなり。然るに太平洋の海岸に充溢せる倉庫を有する諸大帝國の支配及び開發は、是れ即ち世界の富の淵源となるなり。

歐洲の思想、歐洲の通商、歐洲の工業は、實際漸次に其勢力を增加し、且つ歐洲各國の聯絡は一層密接しつゝありと雖も、將來は比較的に其重要なる程度を減少すべし、然るに之に反して太平洋、及び其沿岸、其島嶼、並に其近傍の領地は、今後世界の長き將來に於て、人類の事件及び活動の主なる舞臺となるべし。(ウイリアム、エッチ、シワード氏の談)

列國の間には軍事上の意味に於ける同盟行はる。蓋し斯る同盟は政府が自から之を遂行すればなり。然れども通商上の主權を爭ふ塲合には、斯る同盟は決して行はるべからず。此爭ひたるや、多數の群衆種族及び其附屬者の絕えざる戰爭なればなり。日本の爲めにも亦た米國の爲めにも、現今兩國の間に存在する貿易は、必ずしも現狀維持の必要なし。彼等は共に自ら其要處を占め難關を開きて、長へに武陵桃源中の國民に向て、新しき需用を起さしめんと努力しつゝあるにあらずや。

金子男は曰く日米兩國は地理上、太平洋及び亞細亞貿易の好果を收むるに最も有利なる地位に立つものなりと」然れども男は日米兩國の地位が歐洲諸國の其れに反して爾かく有利なるが爲め、從つて兩國民の競爭を增大ならしめ、商業上の競

爭が知らず識らず兵力の上に立てられたる政治上の主權の競爭に轉化する事實は全く之を隱蔽せり。思ふに日米兩國間の關係の如く、通商上の競爭より戰爭に陷らしむることを、遺憾なく証明せる例は他に之を見るを得ざるべし。日米兩國の國家的組織、國際的並に人種的關係に於ては、平和の原動力たるべき條件を見出さず。其人種的の特性は何等調和の點を見る能はずして、唯兩立せざる異れる理想あるのみ。又國際的政治の關係より見るも、少くとも將來に戰爭を延長し得べき何等制限力あるを發見せざるなり。政治上凡ての制限は既に取除かれ、日本の無情なる豫定の方針によりて、此等の制限は斷へず破壞されたるなり。又之を經濟上の關係より見るも、戰爭を防止すべき傾向ある條件は、單に存在せざるのみならず却て此經濟的競爭こそ、近き將來に於て兩國衝突の原因となるべきものなり。

# 第三章

吾人は本書の上編に於て、國際的戰爭の近因及び遠因を區別したり。今や進んで日米間の戰爭に關して之を講究せんと欲す。

將さに來らんとする戰爭の遠因は、日本の發展と帝國的野心とに於て之を見出すを得べし。然れども其近因は米國民の行動に起因するものなり。本章は日本の運命に屬する戰爭の遠因を論ずるに先だち、先づ米國に起れる此等の近因を考察する所あらんとす。既に論じたる如く國際的爭論は、二三國民の自然の交叉的發展の結果にして、終に利益の接觸を來たし兩國民間に主權の爭ひを生ずるに至るなり。而して國民交叉の角度が等角なることは極めて稀れなり。將さに來らんとする太平洋の支配權に關する戰爭は、日本の交叉角度が米國の其れよりも一層銳角なり。蓋し此の廣大なる太平洋帝國の主權を攫取することは日本の一層痛切に其利害を感ずる所なり。

斯る場合に於ける如く戰爭の遠因は國民が之を自覺する數十年以前に存在す。但し其怒號は時々群衆の耳を打てども敢て此凶兆を顧みざりしのみ。太平洋の

主權に對し戰爭の避く可らざるは、日本が既に二十年前に認識せる所にして、此先見の爲めに日本皇帝陛下は其後五年を經て、單獨に布哇に對する米國の主權確立に對して抗議を申込みたり。

日米兩國の利害が相交叉せんとするに至りて、初めて戰爭の避くべからざることは明白となれり。交叉角度は益々尖鋭の度を進め來れり。其は

第一、米國は太平洋領地を獲得して、單に東洋に於ける日本の通商上の權利を危うしたるのみならず、日本が亞細亞の主權者たる機會を減少せしめたること。

第二、支那及び露國に對する日本の成功は、是等兩國を太平洋に於ける近き將來の主權の爭ひより除斥したればなり。

日露戰爭以來日本は其注意を太平洋上の衝突に傾注せり。若し日本にして其勝利を得ば、世界の大半は日本の大名及び武士の領地と化し去るべければなり。曩に引用したる論文中金子男爵は太平洋に關する野心を述べて曰く、『米國は太平洋の全海岸の殆んど三分の二を占領し、殘り三分の一は日本之を占領す――、されば此等兩國民は競爭を恐るゝの必要なし』と、實際を云へば米國は太平洋の沿岸の三分の二を有せず、日本も亦其三分の一を有せざるなり。金子男は英領コロンビ

アメキシコ、中央南部南亞米利加、濠州、ニユージーランド、東印度、シアム、交趾支那、支那帝國、西比利亞を考察の中に加へざるなり。若し其論の如く米國にして三分の二、日本にして三分の一の制海權を有せば、前記諸國民は太平洋に毫も其主權を有せざるなり。米國は其政策を實行するに必要なる軍事上の努力を爲さず。日本は米國が太平洋の防備に於て證明せらるゝが如く冷淡にして全然陸軍の勢力を缺き、且つ海軍力が二個の遠く隔離せられたる大洋に分たるゝを見て、靜かに其戰爭の準備を爲し、之に依りて同帝國は現今未だ其權利を主張せざる所の太平洋の三分の二に對しても、其主權を掌握せんと欲しつゝあり。

戰爭の近因が國民の自覺心に現るゝの突如なるや、其眞個の理由を蔽ふことは殆んど其常なり。恐らく十中の八九まで此理由は戰爭開始以前に存在せるものなり。然るに米國の如きは殆んど盲走的に此接觸線の交叉點即ち戰爭に向つて進みつゝあり。

若し國民にして戰爭の遠因と近因とを區別し能はざるか、或は之を顧みざるかの場合には、何等の準備なくして戰爭に從事せざるべからざるに至らん。然るに此遠近兩因の關係と、永久不變の問題との區別を攻究したる人々が國家の衝に當る

時は、國民は常に戰爭の準備を爲し、戰爭の時と場所とを豫め決定するを得ん。斯の如き場合には其成功殆んど確實なり。

露國に對して勝利を得たる以來、日本は無限の榮譽を負へる活動を以て自任せり。即ち太平洋を網羅して人類の大半を支配する所の將軍を以て自任せり。日露戰爭以前に於ける日本の準備は戰後の準備に比すれば殆んど微々たるものなりき。今や海陸軍の準備のみにても帝國の全收入の一半を之れに割くなり。

日米兩國は共に戰爭と稱する接觸点に接近しつゝあり、唯、一は不注意に、一は豫じめ決心しつゝあるの相違のみ。

往々戰爭の遠因と近因とが一方の國民にのみ起ることあり。此場合は其國民は豫定せる勝利を期したる瀆武の惡評を蒙らざるべからず。又或場合は其勝利や許し難きものあり。歴史は此の種類の戰爭を以て充滿せり。然れども現今にては勝利の必要は其比例にこそ大小あれ、凡ての國民に影響するが故に、單に勝利の目的のみにては、戰爭に從事することを得ざるに至れり。

此方針を追究する爲めには國際間の外交に於て遁辭の時期(譯者曰く漫りに辭柄の間に其交渉の時間を遷延せしむる意)と及び豫定挑戰の時期とあり。淸國を

模索的に分割しつゝあるが如きは其一例なりとす。日本は太平洋の主權を最後の目的とする戰爭を起して、他國民の嫉妬的反對を買ふよりは、寧ろ世界の同情を得んと欲するが故に、戰爭の近因を以て米國に歸するの方策を取らざるべからず。

然るに日本には幸にして斯る近因は、敢て其政治家若くは人民の力を要せずして存在せり。見よ勇武なる日本の金鵄は其聲高く海を超えて未知の領土に飛躍せんとす。新しき賓客は招魂社なる廟宇に入り、日本國民の祈禱は九段の神聖なる高殿に捧げられん。

日米戰爭は日本帝國の自然の發展に原因すれども、其責任は米國に落ちん。何となれば條約によりて日本に許されたる特權、及び自由をば、米國よりして之を破らんとすればなり。現存せる此關係は開戰に至るまで存續すべきものなり。されば、兩國民の關係を論理法的に說明すれば正反法として一方正しければ他方は不正なりとの結論を見るものなり。

將來戰爭の原因は、日本が太平洋上に其主權を握らんと豫定せる希望を有するにあるを以て、戰爭に對する日本の進步は秩序的にして其準備も亦頗る整然たり。

日本は其準備の成否如何によりて、戰爭を延期し若くは開始し能ふのみならず、日本は活動の舞臺を自己の戰略に一致する程度に之を選擇することを得るなり。日本の一擧一動は計畫あり、凡ての偶發的事件は豫じめ計算せらる。米國の武裝準備及び其缺點は、各方面よりして之を統計的に示し、米國の地形は測量せられ、氣候の狀態は視察され、河川の深淺、山嶽の高低、食料の供給、其他陸軍活動の凡ての方面に屬する運搬、及び準備は周密に調査せられ、是に對して一々相當に準備せらる。斯の如く多年戰爭の宣言に先立ちて最も詳細なる研究、及び假設的戰爭より生ずる一切の可能狀態は計算せられ、凡ての偶發的事件も綿密に考究せらるゝを以て、一旦戰爭の開始せられんか、連戰連捷を以て其豫定の目的に進行すべし。

之と同一なる方法を以て、獨逸は二ヶ月以內に佛蘭西帝國を征服したり。日本が散亂せる軍隊を集中して終に露國軍隊を擊破したるは、全く豫定の方針によれるものにして、其戰爭中露國は實に一回の勝利だも得ざりしなり。

日本は米國との戰爭の準備を爲すにあらず、寧ろ米國に對する勝利の準備を爲すものなり。此明瞭なる日本軍隊の準備あるに拘らず、米國は徒らに戰爭の起るべきことを否定するの以外には、何事をも爲さゞると共に、一方には此避くべからざ

る戰爭の爲めに、新しき挑發を續々積み重ねつゝあるなり。往々世上の詭辯が國民をして幽黯なる託辭の谷底に陷らしむることに反對して起つ人ありと雖ども、其結果は僅かに是れ沼澤中に起れる瓦斯の一點火たるに過ぎず、眞理の光明は瞬時間に現るゝも、軈て黯黑の裡に消失し去て再び視るべからざるなり。

日本若くは同一の境遇にある國民の爲には、其近きつゝある危險に對して冷淡なることと現時の米國の態度の如く有利なるはなし。米國は單に軍事上の準備を怠れるのみならず、日本皇帝陛下が其巨壕を以て圍れたる江戸城中よりして、其人民に對して加へられたる侮辱、及び罪惡に對し、最後の通牒を發する爲には、何時にても戰爭の近因と爲るべき法律、條例の再び制定せらるゝことを豫防すべきの職責だも盡さゞるなり。

本書の前半に於て終に米國をして戰爭の中に陷らしむ可き原因を示したり。然るに尙ほ東洋及び日本にのみに關する狀態より論理的に生ずべき特別なる近因あり。之を詳論するは必ずしも無用のことにあらざるなり、即ち其一を擧げて之を各方面より論ずれば、此戰爭の近因は米國の政治的組織及び人民の無頓着なる行動に在るを知るに足らん。斯の如く全國民が冷然として其避く可らざる時の

必ず來るを顧みざるは、是れ即ち戰爭を誘致するものにして、既に此時に至らば筆を以て見はしたる平和の希望も、紙に記されたる平和の祈禱も皆空中に飛散し、海洋は唯戰爭の重荷に堪へずして怒號せん。

吾人は今や其論せんとする事實を考究するに當り、讀者は國民籍と云ふ觀念を拋棄せざる可らず。又全然米國人民の權利と云ふ觀念を去りて之を見ること、猶ほ日本の武士が之に對する態度の如くならざるべからず。日本の武士の之を見るや一には國家の体面を汚されたる點よりし、一には戰爭のあり得べき點よりす、即ち二樣の立場より之を觀るなり。此戰爭に對しては其帝國は深夜砲兵工廠の鐵々たる響き絶え、議會の喧囂の鎮まる時に於て、常に準備し若くは計畫しつゝあるなり。

人種上の同化行はれざる場合は衝突の起る傾向あり、然れども人民の手に政權を有する國民が、政治上の同化行はれざる時は、人種の差異より生ずる衝突よりも、更に大なる衝突を來すことあるを知るもの殆んど尠し。人種の差異は不平等を生ぜずと雖も、若し其居住する國の他の人民の有する政治上の權利を獲ること能はざる場合には、彼等は直に劣等人種として排斥せらるゝなり。斯く一種類の人が

恣に他の種類の人を劣等の者なりとするは、不合理なる狀態にして即ち共和國內には階級制度を確定せり。政治上の權利を奪ふて劣等人種を作るときは、此劣等人種は人類固有の傳染力を以て、社會の各方面に其害毒を傳播すべし。

投票權を有せざる人民は社會に於て齒牙に懸くるに足らざるものとして取扱はるゝのみならず、尙ほ侮辱を加へらるゝなり。都市は彼等に對して抑壓的制限を設るが故に、彼等は單に暴民の爪牙に苦しむのみならず、又巡査の好餌ともなるなり。彼等が社會上の地位は既に輿論によりて定まれるを以て、其侮辱に對する抵抗の聲は、忽ち罵詈嘲笑の中に葬り去らるべし。

彼等は陪審官の判決を爲す法廷に出訴すること能はず、陪審官は人民のものなるを以て既に彼等異敎徒に對しては假令宣誓を爲すとも之を信ずるを得ずとの決定を與へらる。太平洋岸なる一西洋人の言ふ所は、東洋殖民人全体の誓言よりも信ずるに足るべき價値あるものとせらる。されば東洋人は陪審官によりて定められたる判決には、其公平の望むべからざるを確信するに至れり。

尙ほ各州の法律は他の住民の享有せる幾多人文の權利を奪へり。彼等は他の外國人より隔離せられて共通の活動に與かること能はず。或地方にては彼等の住

居さへも許されず。不潔者として石を以て撲たれ又追放せらる。彼等は實に人類上の癩病者の如き待遇を受け、市民若くは外國人なる歐洲人が必要なりと考ふる時には、纔かに隔離の狀態にも生存することを許されざるなり。如斯にして東洋人種は單に個人の虐待を受くるのみならず、暴徒の虐待を受けつゝあり、即ち暴徒をして暴擧に出でしむる動機は、都市が東洋人に對して發する所の命令、州の法律、及び裁判官の不公平より生ずる所の精神と同一なり。

吾人は敢て米國人民の一部分が果して斯の如きことを爲すの權利を有するや否やを論せんとするに非ず。唯現今存在する所の狀態を指摘し、以て吾人は現行條約によりて與へられたる權利に背反して、斯の如き待遇を受くる國民を刺激すべき正當なる開戰の理由あることを論せんとするのみ。

共和國は政治上の權力の一般人民の手中に在るが故に、選擧權なきものと之を有するものとの論爭は、前者に起らず却て後者即ち權利を有する人民が劣等人種と認むる所の人民に對して壓制するより生ずるなり。

米國に於ける階級制度の權利は、其投票の數と領袖の政治的手腕とによりて定まるものなり。然るに階級若くは一人種が共和國内に居住して選擧權なき場合に

は、其人種若くは階級としての權利は全く蹂躙せらるゝなり、一般人民は彼等に對して實に斯る殘酷なる威嚇の手を下すなり。政治家より國會議員、市長より知事、區裁判所判事より大審院判事に至るまで、政治家は皆外國人の當然受くべき權利、及び正義に對して殆んど冷淡なり、彼等は實に思想に支配せらるゝ人民の中より出でたるなり、されば彼等は其人民の指示する所に從うて、斯る偏狹なる方針を取れるなり。

吾人が玆に言明せる事は決して臆說にあらず、唯過去二十餘年間米國の西部に於て東洋人種に對し、然く種々なる狠藉を極めたる事實を陳述せるのみ。曾て支那人に對して起りたることは今や日本人に對して起らんとす。而して唯其等差は日本人に對する壓迫的法律は、日本人が支那人の如くに從順ならざるを以て一層激烈となる事なり。

日本人を不名譽なる待遇に服從せしめんとするは、其國民の性格を知らざるものなり。米國は他日斯の如く累積したる不正に對して、吾人が直下に論ずる如き方法を以て、其責を負ふべきことを覺悟せざるべからず。

日本は米國に在留する日本人が選擧權を得ざる限りは、不名譽と不公平なる待遇

とを受くべきことを既に認識したるを以て、日本帝國の政府は米國に對して他の外國人に與へられたる歸化權の要求を爲さしめたり。加之、日本は其條約上の權利に訴へて、歐洲諸國の臣民に與へられたると同一の特權、權利、自由を其臣民にも與へんことを要求せり。此等の要求は左の四個の條件の考究を惹起せり。

一、日本人に此要求を與ふる時は太平洋諸州の人民は、中央政府に對して如何なる態度を採るべきか。

二、彼等の日本人に對する態度、即ち如何なる程度まで彼等は日本人に對して、反抗心と戰爭熱を起すべきか。

三、若し中央政府にして西部人民に屈服し、日本人の要求を拒絕する時は、太平洋海岸の諸州に於ては日本人に對する不正の行爲と制限とは、愈々多きを加へ其氣勢を高むべし。

四、日本は米共和國に於ける內國の法律は、外國に關する問題よりも重きを爲すことを知るが故に、其戰爭の準備の完全するに至るまでは、米國に向て此等の義務の遂行に就て斷然たる要求を爲さゞるべし。如斯にして日本は開戰の時機の熟するまで其要求を控へて戰爭の準備を爲すべし。

米國各州と中央政府との間に存在する關係は、中央政府が條約を締結し、之に違犯せざることに就て外國に對し責任を負ふと同時に、一州の法律の管轄内に於て其ことの起りたる場合には、其外國との條約を以て州に强ゆること能はざるなり。斯る不規律なる狀態なるを以て外人に對して罪を犯すものありとするも、彼の太平洋沿岸に於ける人々が、日本人に對するが如く州の輿論の賛成を得る時は、彼等は罰せられざるのみならず却て其同胞の稱賛を享くるなり。

排日的感情は日露戰爭の終結以前には眠りつゝありたらんが、爾後卒然として現はれ來り、今や獨り勞働組合、社會黨員にのみ止まらずして、西部諸州の全社會、並に政治組織にまで普及するに至れり。（附錄第二表參照）

シシキウ山の谿谷に於て苔蒸す所の巖上に半ば消え去らんとする、左の物語の今も尙ほ幽かに讀まるべきものあり。曰く『支那人を追拂ふべしオードンチルの爲めに投票せよ』と、斯る感情はメンドシノのレッドウード樹のシャックスに於て都市町村の小屋に於て、サンタ、クララの谿谷なる墻垣に於て、同所よりモジャベ砂地に至るまでの間に於て、之を見ざる無し。加之、寂寞極りなきデッス、ヴアレーの邊境に於てさへも、西部の人民は其人種的憎惡心の梗槪を記述せり。此憎惡心は

用ひられて都邑の命令となり、又州の法典に入り、更に進んで華盛頓に達し、米清兩國間に存在せる條約すら、政治的壓迫の下に之を破壞するに至れるものなり。此人種的惜惡心は今や日本人にまで及び、條約によりて彼等に與へられたる特典權利をも顧みず。西部諸州の人々は二十年以前に支那人に對して活動せるが如く、其結果如何を顧慮せず行動しつゝあり。(附錄第三表參照)

一部の米國人は不思議にも日本人の好戰的性質、其手にある巨大なる陸海軍の力、其胸中に於ける勝利の精神、太平洋の主權に關して米國と爭はんとする決心を忘却し。日々新らしき挑戰的態度を取りて戰爭を早めつゝ、然かも恬として之に對して何等の準備をも施さゞるなり。斯る冷淡と準備の缺乏とは積極的に日本人の權利を制限すると等しく、戰爭の機運を促しつゝあるなり、若し日本にして其蒙れる損害の覺書を作り、之を世界に訴へて以て其宣戰の布告と爲す時には、世界は日の本態度を以て適法のものと見做すのみならず、之を正當なる行動と論斷せん。且日本は其人民を米國に有するを以て、毎年國務卿に向て續々抗議を申込みつゝあるなり。

米國の各地に於て自由に外人の權利を破り、中央政府が之を保護する能はざるこ

とは、米國に其人民を有する國々に取りては、最も重大なる關係ある事柄にして、其狀態は清國に於けるものと相似たり。蓋し清國は現存條約の規定に依れる權利、及び自由を保護すること能はざりしを以て、米國を始め各國民は之に向て戰端を開始せり。

日本は戰爭の原因を以て條約上の權利の破棄に在りとし、世界の米國に對する非難を後援として、西半球に舊世界共同の權利を厲行せんが爲めの戰爭を起さば、世界の稱賛と同情とは、米國にあらずして寧ろ日本に歸すべし。

# 第四章

人類は其自已に近き成敗を視ること極めて平然たると同時に、他の時代の成敗を視るにも亦冷淡なり。然るに其新舊事業は唯場所と之を行ひたる方法の外、何等の差異なきなり。人は自負心あるを以て、既に退謝したる人類がその失敗と死者の脂肪とを以て膏腴ならしめたる大塊上の、此處彼處に殘留せる豐富なる經驗を利用すること能はざるなり。

眼を轉じて過去三千年間の茫々たる歷史を遡回すれば、往時地中海に於ては今日太平洋上に起れる狀態に酷似せることの存在したるを視るべし。即ち宛かも日清兩國が西洋諸國に對し排他主義を執りしと均しく、埃及にも亦同一の孤立主義行はれ、終にサメテカスに至りて之を廢棄したり。

サメテカスはペルリー提督の先驅者とも謂ふべし、日清兩國の過去は勿論、今日に在ても或る程度までは猶朦朧たる神秘的邦土なるが如く、古人の眼に映ぜしナイル河畔も亦同一なりき、上記の比較に一の差異あり、此差異こそ自ら其中に恐怖の種子を含有するものなり。即ち希臘人は當時埃及の『謎』を解せんと力めたるに

反し、泰西人は東洋の研究を蔑視せること是なり。

抑も西洋人は亞細亞に於て果して何物をか發見せんとする。奴隷市場か將た其主人とならんとするか、殆んど解すべからず。

斯る解し難きの疑團、豈獨りスフィンクスのみに限らんや。知らずや、彼の『時』てふものこそ又幾多疑團の泉源にして、一見解し難き『未來の謎』も其實之を過去の事實に徵して氷解され、且つ記錄されつゝあることを。

今より三千年以前、埃及の諸港を開きたるは、歐州に於て、一方に最大の智力的刺激を與へ、一方に埃及に對して一種の敎訓を與へたりき。若し埃及にして永久に存在せんことを欲せば、其港を開かしめたる國民、若くは地中海の海岸に將來起るべき何れの國よりも強大なる海軍力を有せざるべからず。而して埃及は數千年の間、國民の孤立に固有なる太平主義を認めたると同時に、又國民の依て以て存在する他の大原則をも曉知せり、即ち一たび其障壁の破壞せらるゝや、將來發展の途は唯將に衝突せんとする、他國民と對立して優勢なる海陸軍を有するに在ること是のみ。埃及が海軍國たらんとするに當りて其困難は材木の缺乏なりき。蓋し埃及はオシリス湖を横斷して死者を運搬するに必要なる小舟を造るべき材料すら

も十分に生長せざりしなり、埃及は外國と干戈を交ゆるの餘儀なき地位に立てり、其對手國は地中海上の諸國なりき、埃及は其缺乏を補塡し其人種を永續せんと欲せば、巳むなく他國を征討して其必要品を獲得するの外無かりしなり。

今や數千年の歲月は豫定の進路を經過したるが、玆に日本なる一國民の新興するを見る。此國民は往古の埃及と同一問題に遭遇するものなり。地中海の主權は沿岸の主權を握らんとする國の爲めに必要なりし如く、日本に取りては太平洋の主權は獨り彼が諸國民を支配せんとするに必要なるのみならず、自巳の存在に必要なり。地中海に於ける埃及の勢力は物貨の供給に依りしが、太平洋に於ける日本の主權は將來他國民をして海軍力を樹立せしめざるに足るべき根據地の獲得に存せり。換言すれば日本は最も古き國際的原理即ちモンロー主義を新式に說明し、以て太平洋上の主權を把握せざるべからず。埃及の海軍力の破壞はナイル河畔の荒廢を生じたるが、爾來二千九百年の今日猶未だ其獨立を回復すること能はず、依然として悲哀の中より脫せざるなり。

日本は斯る運命に陷ることを避けんと欲す。古今を通じて海軍力の何者たるを研究すれば多くの特徵あれども、國民の大小如何は其勢力の重要なる原動力にあ

らざるを知るべし。優越なる陸海軍力を有する小國が諸大國の進行を掣肘し得たる先例は甚だ尠からず。

見よ、タイヤは一小都會に過ぎざりしも、地中海上に其勢力を振ひ、他の帝國の富と力とを以てするも、其權力を奪ひ若くは之に對して貿易を强ゆること能はざりき。然り、十三年間能くバビロン帝國の襲撃を免れたりき。而してタイヤ市の終に亡滅したるは全く其力盡きたるに在り。其亡滅狀態の如何に激烈なりしかは、地中海の他の諸島が之によりて深き憂愁の念に沈みたるを視ても知らるべし。

陸海軍は國民に此の如く一種不可思議なる勢力を與ふを以て、日本は太平洋上の君主たらんとする決心を鞏固にせり。日本の發展は主として海軍力に依るべし、而して近代斯る國家は第一に貿易の航路を支配すること廣く、且つ陸軍を以て能く保護せられたる海軍根據地を必要とするなり。されば海軍力の價値、否其存在する根據地の數、及びその軍略上の價値如何に比例するものなることは殆んど自明の眞理として見るを得べし。

日本は陸軍を以て支那、印度、及び亞米利加の如き廣き國の海岸より以外には直に攻擊することを得ざるべし。彼にして既に一たび太平洋上に若干の海軍根據地

を得んか、初めて他の國民を支配する權力を得べきなり、日本の海陸軍にして苟くも退歩せざる限りは、此等諸國の富も人口も何等の價値なからん。地中海の主權は沿岸に存在する國民にのみ影響し、太西洋の支配權は人類の最大部分を網羅するに過ぎず、然れども太平洋の主權に至つては全世界に關係するなり、即ち太平洋上には幾多各種の人類が玆に會合するを以てなり、抑も太平洋は世界の表面の三割四分以上を占め、人類の過半數は玆に生存し、地球未發の三分の二は其潮流に洗はるゝ海岸に於て發見せらるればなり。

斯く人類の集合多大にして費消せざる富の多額に集積せらるゝが故に、太平洋の眞價は益々發揮するなり、將來、政治、軍事、工業の諸點に於て世界が一國民又は多數國民の同盟によりて支配せらるべしとせば、太平洋の主權こそ實に之を決定すべきものなり。

日本は軍事上太平洋に於て優勢なるを以て、工業も亦亞細亞を支配する所の要素たらん、而して終には地球の未發の富源の大部分を支配して、亞細亞の軍事及び工業は世界に其覇を稱し、日本皇帝は終に帝王の帝王たるべし。

吾人は米國今日の勢力を消磨しつゝある階級及び部分的立法の絶間なき爭論と、

日本の目的及び其進步とを比較する時は、殆んど痛恨に堪えざるものあり。即ち米國は徒らに政治家の内爭を爲し、日本は堂々たる國民的大志を抱きて駸々として豫定の目的に向て進行しつゝあるなり。

一たび其眸を放て人類の個々獨立せる政治的團体として集合せる以來の歷史を達觀せよ。世界的主權を掌握せんとするに當り、日本の武士道の前に顯はれ來りし如き好機會を供せる狀態は未だ曾て他に之あるを見ず。此亞細亞的タイヤの政治家は此事實を確知せり、單に政治家のみならず國民も亦朧ろ氣に之を自覺せり。是れ即ち彼の神秘なる武士道てふ一語を展開し來りたる所以なり。

日本の野心は停止する所を知らず。然り是れ日本に取りて正當なることなり。日本は其島國が漁夫の網を曝らす所の磯邊の如く荒れ果つるに至るか、若くは日本人が人類の君主となりて、自餘の人民は、日本及び其發展の爲めに勞働し、或は貿易を試むるに至るか、何れか其一に達せざれば決して其野心を拋棄せざるなり。

泰西諸國をして現今の尙武的精神の退步を無限に繼續せしむることは、日本の世界的大望を遂る爲めには此上なき保障たるべし。若し日本が反對の方向を取り、其武士道をして柔弱なる婦人的、商業的、精神の腐敗に觸れしめず、長へに武士的精

神を存して彼の四十七士の遺烈を汚すことなくんば、自餘の人類は此東海の島帝國に對して、纔かに一海圖の用に供せらるゝに過ぎざるのみ。

古代の國民が海上の主權を握らんと欲せば、必らず海軍建設の材料を供給する國を占領するを要したる如く、近代の海陸軍根據地の占領は海上の支配權と同一の關係を有す。而して國民の勢力は其海軍根據地の數、及び其安然なる程度に比例するなり。日本の將來も亦太平洋上に散布せる斯る根據地を十分に占有し、東西兩洋の凡ての貿易通路を支配すると否とによりて決すべし。若し此地位を得る能はずんば、日本は軈がて埃及の如く重疊せる山嶽の裡に葬られ去て、曾て茫々たる二千九百年の歲月を經過するとも、猶ほ復活の望なきに至らん。

今を距る十五年前日本は太平洋上より清國を驅逐し、四年前には又太平洋に於ける露國の勢力を永久に破壞し了れり。北部の亞細亞海岸に於ける軍略的地位は日本をして全然之を左右せしめ、其海岸より出づる凡ての貿易通路に對して主權を掌握せしむ。北海道はオコック海及び北部西比利亞海岸を支配し、日本島は、日本海、南部露西亞海岸、及び黑龍江一帶の地を支配す、旅順は直隸灣及び其海岸、滿州、山東、萊河、白河、及び鴨綠江を左右し、金州半島及び朝鮮よりは黃海を經て揚子江口

に到る支那南岸を左右せしめ、而して九州諸島及び臺灣は揚子江より福建省の南端に至るまでの支配權を握るに至らん。

海陸軍上の意味より論ずれば、日本は今や香港の北に在る亞細亞海岸に主權を有す。支那は露國と齊しく已に此等の海上より除却せられたり、而して太平洋上より英國の主權を除きたる日英同盟は巧みに締結せられ、彌陀の微笑中に此大事業は成就せられたり。今や日本が太平洋に其主權を握らんとするに臨み、尙ほ除去すべき一國の殘存するものあり。其國民こそ即ち米國合衆國是れなり、日本の將來は日本が廣く散布して而かも軍略的の地位にありて安全なる海軍根據地を有し、其太平洋上に於ける凡ての貿易通路を支配すると、否とに在るは曩に既に論ぜし所にして、日本の將來の戰爭は即ち地位の戰爭なり、吾人は之に對しても亦前章既に之を論述する所ありたりき。(上編第九章參照)

米國が太平洋に日本の安全の爲めに必要なる地點を有するのみならず、若し之を日本の有ならしめば疑もなく、彼をして太平洋の帝王たらしむべし、是れ日本の爲に大なる幸福なり。加之、日本は廣き太平洋沿岸の政治及び工業上の競爭に恐るべき唯一の敵を驅逐せんことは固より其欲する所なり。若し米國にして支那及

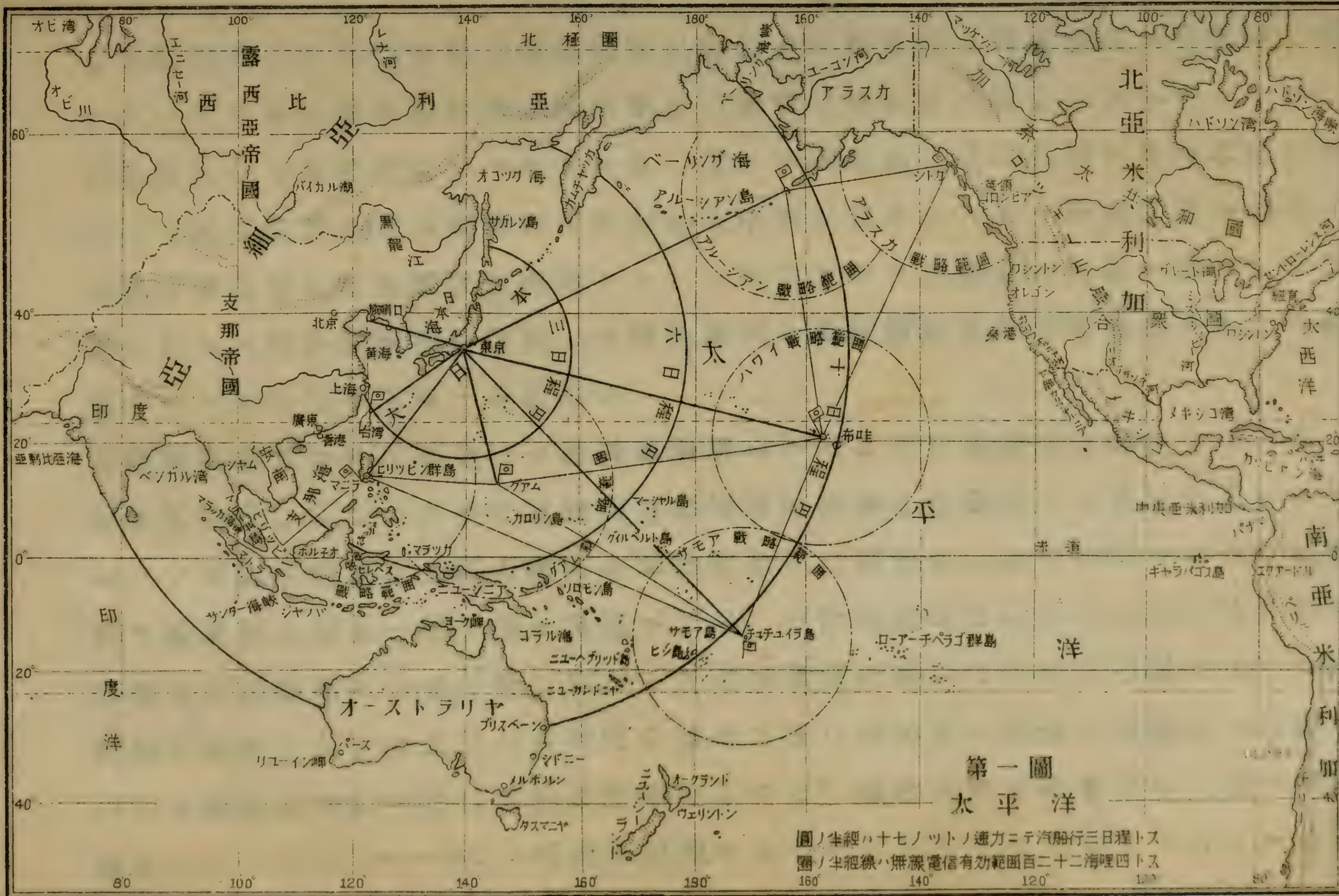
び露西亞の如き運命に陷らんか、如何なる國民も其同盟も、日本の武士にして苟くも士氣阻喪し、或は婦女の如く軟弱となるか、若くは米國人の如く自負心に亡びざる限りは、決して日本の勢力を破壞すること能はざるなり。

前述せる如く(地圖一參照)日本の現在に於ける軍略的地位は亞細亞海岸に移されたれども、此等海上の支配權は絕体的なり。太平洋の地圖を案ずるに、日本が將來戰爭を以て其地位を鞏固ならしめ、其主權を確立せんが爲めに戰ふ國は、蓋し米國以外にこれあらざるなり、米國が太平洋に有する領土の日本に對する價値如何は、太平洋海岸に於ける日本の主權を決定するものなればなり。即ち其領土とは北太平洋のアラスカ、中央の布哇、南部のサモア、東部の比律賓群島是れなり。明瞭に此等各地の軍略上の價値を示さん爲めに『地圖一』に圓を描けり、其半徑は一時間十七浬の速力を以て、二日半乃至三日を費すべき距離に當れり、此等の圓の周圍即ち其價値は軍艦の速力、或は司令官が戰爭を開始し得る海軍根據地を距る時間の數に依て增加するなり。此圓に依りて劃せられたる海軍權力の範圍は一定ならず軍艦の速力と比例して絕えず擴張せられつゝあり、一波紋の外方に擴がる如く其價値は益々增加せらる。而して其終局の發展は豫想し難し、是れ海軍力

に適用せられたる發明の進歩と相關聯すればなり。

米國の海外に在る領地を得んと欲する誘引が、日本に對して如何に強きかを示さんが爲めに、吾人は日本が此土地の占領によりて太平洋の强國たる地位と、世界的强國たる地位とを別個に全体より之れを觀察すべし。此等の領土は日本に對して二個の價値を有す、即ち固有の富源、軍略上の價値是れなり。自然の富源は如何に大なるにもせよ、軍略上の價値に至ては更に是れよりも大なるものあり。土地に就て云へば比律賓及びラドロン群島は、日本帝國の面積並に富源を二倍すべし。固より斯る價値は物としては實に大なれども、此等諸島が日本をして亞細亞全部を支配せしむるに足るべき軍略的地位に比較せば、殆んど言ふに足らざるものなり。

日本がオコツク海より臺灣海峽に達する亞細亞海岸に絶体的主權を握れることは吾人の既に論せし所の如し。比律賓群島の南部亞細亞海岸に對する軍略的關係は、猶ほ日本諸島が北部亞細亞に對して有する關係の如し。唯其の異なる所は比律賓群島は歐洲より極東に達する凡ての航路を支配する軍略上の價値を有するに在り。されば其占領は日本に取りて朝鮮若くは滿洲以上に必要あるなり、夫



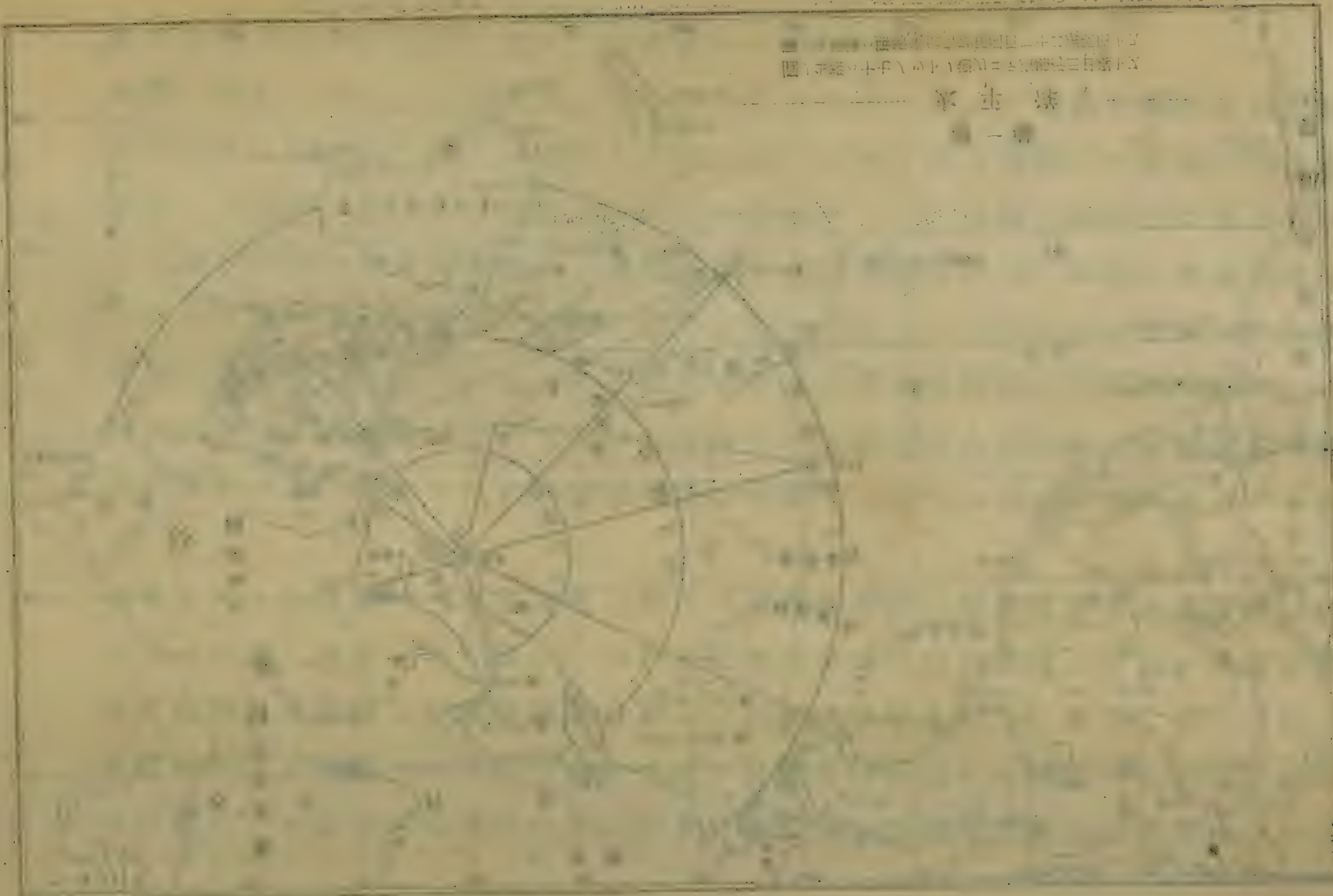

第一圖

太平洋

圓ノ半經ハ十七ノットノ速力ニテ汽船行三日程トス

圏ノ半經線ハ無線電信有効範圍百二十二海哩四トス

グリーンウイッチ ヨリ 西方　　グリーンウイッチ ヨリ 東方



第一圖

れ比律賓島なければ、日本の亞細亞海に於ける主權は誠に試案的のものたるに過ぎずして、日本の終局的破壞は此島嶼の占領者の誰たるに依つて定まらんとす。比律賓群島は臺灣海峽よりカマラ岬に達する亞細亞の海岸、南部支那全体、靖江、閩江及び西河の諸川、東京灣、佛領印度支那の全体、支那海、スンゴイ、媚公河等を左右し、南部は比律賓群島、東部印度全部、マカサー及びマラカッ海峽を支配す、而して比律賓に於ける海軍根據地の範圍には暹羅灣、及び暹羅國、馬來半島、新嘉坡、マラッカ海峽、カリマタ及びスンダーを包含す。

比律賓群島は日本の重要なる海軍根據地より三日間の航程にて達すべし。故に比律賓群島に於ける日本の根據地は唯其海軍要塞の連續たるに過ぎず、隨て日本をして比較的短時間に其全海軍を比律賓海上に集中せしむるを得るなり。此時間は航海術の進歩と共に益々減縮すべし。比律賓群島にして一たび日本の手中に落んか、亞細亞及び太平洋に於ける歐州諸國民の勢力は永久に亡滅せん。日英同盟の終末に於ては極東なる英國の砲臺は單に其殘墟と大志の遺跡とを追懷せしむる資料たる以上、他に何等の價値なからん。此等南方の海峽は皆。然り對馬海峽と化し去らん――、若し此處を通過せんとするロヂェストヴエンスキーあら

たらんには——。

比律賓群島の主權を握るは、亞細亞及び太平洋に覇たるが爲め日本に必要なるのみならず、日本の國民的存在に於て決して缺くべからざるものなり。若し或る强國が比律賓群島を占領せんか、是れ日本の弱き一角に攻擊點を與ふるものにして朝鮮をその手中に委するよりも一層危險なり。

一たび比律賓群島を占領せば、日本は勘察加半島より印度洋に至る連續せる島嶼の城壁を完成し、以て亞細亞より西洋を密閉するを得べし、而して此海岸に沿へる山の頂上に城砦を築かんか、如何なる人種も到底之を侵犯すること能はず。

實にバリングトン海峽は日本のルービコンたり。比律賓群島が東部太平洋に對して有する關係と相似たり。タムユイラ島に在るバゴバゴ港は、南部太平洋に於ける最も貴重なる碇泊港にして、恐らく太平洋中之に優るものなからん。此港灣は日本全海軍の二倍を容るゝに足り、其周圍には突兀たる山嶽の聳立するを以て、外部よりする砲火は之に達するを得ず。而かも港口は極めて狹隘にして二隻の戰鬪艦は竝進するを得ず。斯く天が我儘なる人種の爲めに此世界を彫造するに當て、南部太平洋の軍略的地點に最も完全なる港灣を作れり。此地位たる結局オ

セアニア、オウストリア、ニユージーランドニ對して其咽喉を扼せるものにして、日本が之を占領せば既に占有する他の地位と相合して地球の兩對面に於て樞要なる海軍根據地を構成すべきなり。

南部太平洋の支配權はパゴパゴ灣を海軍に利用するに依て得らるゝが如く、北部太平洋の海軍支配權は、アラスカの占領、及び同半島の港灣なる軍略上の地位の占領によりて定まるべし。米國の立場より見ればアラスカは比律賓と齊しく海外の所領なり。而して之に對する主權も比律賓と同一の要素によりて決定せられん。日本に取りてアラスカの眞に價値あることは米國の何れの領地よりも大なり。若し此地を占領せば日本帝國の領地は實に三倍の增大を爲す而巳ならず、其富は殆んど無限ならん。漁業、鐵、石炭、材木、金、銅は極めて豐富にして、全日本の勞働者を之に使用するも尚ほ此寶庫の蓋上に、爪痕だも立つる能はざるなり。今一步を讓りてアラスカが、北極の寒日に其身を曝らす所の海豹の棲息する岩石と齊しく全く不毛の地なりとするも、其軍略上の價値以外に太平洋の主權を獲取するに當り、一の有力なる狀態を有するものなり。

十分なる根據地なき海軍は、殆んど大砲なく水兵なき海軍と齊しく眞に價値なき

ものなり。又石炭を有せざる艦隊は假令根據地あるも大砲と水兵とあるも將た何の用をか爲さん。故に海戰の起るべき附近に炭山を有せるは、現今も將來も其戰爭の結果に大なる關係あり。於是乎、太平洋の主權を握らんとして近き將來に起るべき戰爭には、アラスカの炭山を占有するを以て、終局の勝利に最も必要なりとす。之なくんば到底完全なる優勢の地位を維持すること能はざるなり。

往時材木を產出する土地を占領することが海軍の主權に必要なりしが如く、其附近に炭山を占有することは太平洋の主權を獲取せんと欲する國民に缺く可らざる必要條件なり。東西兩球を通じて太平洋の海岸には、日本、北清、及びアラスカを除けば、良好なる石炭の產出地無し。既に論せし如く日本は北清、及び滿洲に海軍使用の炭山を有す、日本が一たびアラスカを領土と爲さば太平洋に於ける石炭の供給を支配し、終に軍略上樞要の地位を占めて、最早如何なる國民と雖も陸海軍の力を以て、日本に當ること能はざるべし。

アラスカ半島にはウエルス炭の堆層は海の淺汀に現はれつゝあり、寒氣は日本海の潮流に和らげらるゝが故に紐育港よりも甚しからず。此半島の諸港は、布哇諸島よりも日本に近きこと三度にして、經度百三十五度以西、緯度四十度以北の全太

洋を支配す。若し露國にして此半島を賣却せざりしならんには、亞細亞征服の夢想は現實にせられて、對馬海峽の戰鬪は其必要なかりしならん。

曩きに論じたる軍略上の地位と共に、布哇は太平洋に於て最も重要の地點なりとす。如何なる國民と雖も此等の諸島を占領せずんば、太平洋上の主權を望むべからざるのみならず、布哇なくしては到底海軍の繼續的活動若くは海上の膨脹を企劃すること能はず。

抑も布哇の大に價値ある所以のものは、其太平洋の中心に位し、最も近き港灣が何れも二千浬以上の距離にあるを以てなり。即ち之によりて太平洋を南北と東西とに分割せり。蓋し此分割でそ同島の大に勢力ある所以なりとす。海洋と沙漠とは其物に於て最も價値なきものなれども、沙漠には綠地あり、海洋には島嶼あり、而して旅商が或は駱駝に依り或は船舶に依りて、曠漠たる沙漠、若くは渺茫たる海洋を横斷せんとするや、其通路を定むるものは必らず綠地と島嶼となり。斯る地位の價値は敢て其生產力の如何によらず、全く之を貿易通路と爲せる萬國民の富によつてなり。

今より凡そ十五年前に布哇島の價値あることと、太平洋の主權者たらんと欲する

國民は、之を占領するの必要あることとは日本人の認むる所となりき。當時米國が同島を併合せし時、獨り日本のみ之が抗議を爲し、日本は何時までも米國が布哇諸島を支配することに服從せざるべしと、米國政府に向つて告知せり。否、着々其準備を幾多の星霜は過ぎぬ、されど日本の抗議は撤回せられざるなり。爲し適當の時機を以て其抗議を厲行せんとす、米國は或は之を忘却せん或は一時の勝利に眠らん、されど日本皇帝の玉璽の基礎たる彼の沈默せる五角形(譯者曰く五角形とは元老たる五人の政治家を指す)と武士の刀劍とは、決して之を忘れざるなり、否、其睡眠中にも猶之を夢みつゝあるなり。日本將來の發展の爲めに太平洋上の米國の領地は、何れも大なる特別の價値を有せざる莫しと雖も、其相互の間に於ける軍略的關係、及び其全体の日本の海上權に對する關係こそ、最も價値あるものなり。而して之が爲めには唯一度のみならず、將來幾多の戰爭を爲すも決して高價なりと爲さゞるなり。凡そ大洋に依りて包圍せられ、之に依りて分割せられざる海軍主權を支配する原則は左の如し。

第一、海軍根據地の數は、海軍擴張に比例して增加するを要す。

第二、海軍の効力は海軍根據地の數、及び能力が戰爭の狀態によりて、艦隊の要

求を充たすに足らざるときは減少するものなり。

第三、海軍根據地の數、少なきか又は其面積狹隘なる塲合には、海軍の活動をして一定の寧ろ不必要なる範圍に限定せしめ、又其不當なる集中の結果として全然不活動の時期あらしむるものなり。

第四、海軍の効力は、其根據地の二三、若くは其れ以上に依て作られし軍略的三角形の中に敵に屬する城砦の存する塲合には、之に準して脆弱となるものなり。

以上の狀態が、性質上海戰の成功者を決定するものなると共に、若干の積極的要素ありて此等の條件の價値を增加せしむるものなり。

第一、海戰に於ても陸戰に於けるが如く、其成功は隔離せる種々の根據地に對する交通線の數、及び遠近如何によりて定まる。

第二、此等種々なる根據地によりて作られたる軍略的三角形の成るべく多きこと、而して其頂角の一は國民の重なる海軍根據地に立ち、從屬的根據地は重なる海軍根據地と獨立、若くは連續して二個以上の軍略的三角形の頂角を形成す。

第三、此等軍略的三角形の價値は、其畫一と數以外には敵の根據地の位地、及び數によりて定まるべし。即ち其數に於て敵に勝るか、或は軍略的三角形の中に入るか否かによりて定まるべし。

陸戰に於ては開戰の當初占領したる軍略的地位は、往々終局の結果を定むることあり、而して海戰に於ては此條件は一層顯著なり。蓋し若干の根據地を有するあらずんば海戰は之を開始するを得ざればなり。其根據地の數と防禦力と軍略上の價値とに比例して、海軍の主權は比較的に開戰以前に於て決定せらるゝものなればなり。

太平洋の如き大洋に於て連續せる海陸軍根據地の價値は、三個の積極的條件を以て決定せらるべし。

一、其形成せる軍略的三角形の數。

二、國民の重なる海軍根據地に立てる頂角の三角形の全体に共通なる時の數。

三、斯る三角形の中に外國海軍の根據地なきこと、或は其中間に存在する敵線の數によりて、定められたる根據地間の距離。

此等の原則を講究して以て吾人は米國に對して勝利を得たる後、太平洋に於ける

日本の地位を研究し、以て其經濟的及び地理的の便宜を離れて、將來日本の軍略的地位が米國と開戰することを得るに足るべく、增大せらるゝや否やを論ぜんと欲す。

若し斯る戰爭の終末に於て日本が米國の太平洋諸州に其主權を維持し得んには、如何なる國と國との間の戰爭と雖も、斯の如き顯著なる結果を生じ一國の覇權の下に、世界的帝國を形成せらるべき基礎を爲すものあるを見ること能はざらん。

此戰爭後、日本の地位と其將來世界に對する關係とは、海圖が最も明瞭に之を說明せり。

日本を中心點とし、其頂角は此に立ちて總てに共通せる八個の軍略的三角形は、太平洋上に擴張せらるゝ共に日本より獨立し、然かも之に立てる主なる頂角を聯結せらるゝ四個の同樣の三角形は、防禦の外方範圍を以て他の三角形を圍繞すべし、(地圖一參照)斯の十二個の三角形中、他の國民に屬する城砦は一もあらざるなり、而して他國の有する海軍根據地並に其交通線は二個乃至八個の種々なる根據地より日本の攻擊を免れざるべし。されば太平洋に游弋する外國の艦隊は、其如何なる部分にても日本海軍の全部を以て攻擊せらるゝの虞あり。如何なる艦隊と雖

も日本の中間線を横斷して、一の根據地より他の根據地に向て日本の海軍に劣れる艦隊を輸送することを得ざるなり。

日本は太平洋の貿易線路の何れの部分にも海戰を開きて、常に三日以内の航海を以て、二個以上の離れたる根據地に達するを得べし。海底電線を以てアラスカ及びサモアを布哇に繋けは、日本皇帝陛下は江戸の城中にありて、遙かに四方に擴張せる港灣と直接且つ同時に交通し能ふのみならず、太平洋に游弋する總ての日本軍艦と連絡を保ち得るなり。

此等の根據地及び其下にある島嶼の地位を考ふる時は、日本軍艦は決して無線電信によりて、彼等の何れかと交通を絶つてと無るべし、若し日本皇帝陛下が早晨起ちて我軍艦は何れに在りやと問ひ給はゞ、艦隊司令官は陛下の御前なる太平洋の海圖を開きて、其彩色せる大洋に『ピン』を立てつゝ瞬間に、水雷艇並に戰鬪艦の何れの方面に航走しつゝあるかを奉答するを得べし。科學は此廣大なる大洋の範圍を縮小せしめたるを以て、日本の艦隊は個々隨處に散亂するも、東京なる海軍總督の管下に在ること、猶は其眼前に見ゆる小艦隊の如くならんのみ。

太平洋を支配せる前記十二の軍略的三角形の中には、日本が十日以内に其海軍の

十分の七を、石炭、供給品、及び病院船の不足なく、又何等海上の障礙を感ぜずして之を集中し能はざるの點は一も之なきなり。且つ太洋の如何なる邊隅に於て此集合を爲すも、其艦隊は三日間以內に海軍根據地の何れにか到達するを得べし。斯る戰爭に依て日本の海陸軍は、如何なる一國民又は數多の同盟と雖も、決して之を攻擊することを得ざる地位に置かるべし。

於是乎、日本は泰然自若として此廣大なる太洋のジブラルタルに立て世界を睥睨し、その憤怒と驚愕とに對して破顏一笑せん。此嶋國民族は天を認めず又神を煩はさず、超然して古今獨步の境遇にありて其自巳の天地を開拓せんとす。

此世界三分の一の基礎の上に日本は新帝國を建設し、而して西洋諸國民の武力はヘーグの會議、女性主義、商業主義、社會主義等の壞敗的疾病によりて退步して巳まず、終に陸續壞破して築かれたる一大墳墓の上に、三個の爪痕を有する龍位(譯者曰く帝王の意)は建設せられむ。

吾人は西洋人の耳語細說する所謂黃禍論なるものを聞くこと年既に久し。而して夢の如く靑く奇しき燐光を放てる幻影は、糢糊たる意識中に顯はれ來る。人は恐怖の念に驅らるゝ時に當りて、妖魔は益々其跳梁を逞うするものなり。然り、西

洋諸國民の夢と恐怖との中に顯はれたる此幻影は、恐るべき怪物にして將來必らず顯はるべきものなり。而して此幻影や固と是れ事實に基けるものなれども、如何せん輿論てふ奇怪なる睡眠病の爲めに掻き消されて、終に冥漠の中に迷離す。何ぞ知らん此冥漠の中こそ即ち是れ黃禍論の存在する幽靈ならんとは。西洋が東洋と政治的及び商業的に接觸したる以來、西洋は此危險を直覺的に曉知せり。而して此直覺や正確なりき。其起原及び結果に關する理由は、睡眠中の事柄なるを以て過失多し、斯く黃禍論の起源の誤解は、西洋に於て唯從來人類の多くの部分に殆んど無數に行はれたることを繰り返したるに過ぎず。東洋に對する疑惧の念の西洋人の自覺の中に本能的に起りし時、彼等は爭ふて質問せり、曰く、

抑も此黃禍論は、何れの邊より來らんとするか。

之に對する答は、征服力に對する古き誤解に基き、其巨大なるの故を以て黃禍の責任を支那に負はせたり。要するに世界が國民の軍事的能力の眞相を解するに於て、常に其時機を失することと概ね斯の如し。

夫れ眞個尙武の精神は其政權の少數人、若くは一人の手に在る、原始的にして且つ

同一種なる國民に屬するものなり。而して社會及び政治組織の複雜なる程度と反比例に、國民の尙武的精神は減退するものなり。故に國民の愈々大にして其人民が職業の增加するに從て、愈々個人主義に變化する塲合に國民は愈々軍國として の力を失ふものなり。是即ち國民の征服的時代が建國後最も新らしき時代、即ち國民が始めて世界各國との交際塲裡に入れる時に行はるゝ所以なり。

清國の征服的時代は、二千百年以前秦の始皇帝を以て終りを告げたり、而して萬里の長城の建設は實に其絕頂に達したるを意味す。

泰西人の誤謬は蓋し陳腐なる誤謬なり、若し紀元前三世紀に於て波斯及び埃及の如き大帝國が、其將さに來らんとする危險を想像することを茫乎として夢の如くなりしとせば、是れ即ち今日の泰西諸國が陷りつゝある誤謬に陷りたるなり。彼等は何れも富もなく兵力もなき磽确なるバルカンの山嶽より嘴と爪(譯者曰く蠻人の有せる粗末なる武器の意)との外、何物をも有せざる所の若き灰色の鷲の飛び來りて、鳴ける小羊を攫むが如く、彼等を破壞し去らんことは敢て夢想し得ざりしならん。又七世紀時代の帝國も齊しく荒涼たるアラビヤの沙漠中にある野蠻の騎者を恐れざりしならん、然り、彼等は一として之を恐れざりしなり。然るに後達に

皆此游牧的民族の馬蹄に蹂躙せられざるは無かりき。十三世紀に於ける大帝國は、一として此危險を免れ、若くは之と齊しき妖夢に襲はれざるものなかりき。支那も印度も、中央亞細亞諸國も、中央歐州の國王も、此曖昧模糊たる疑惧の念を以て、彼等の上を遮蔽したれども、其危險の眞の原因に就ては之を巨大なる國民の外に求むること能はざりき。彼等は敢て戈壁の沙漠に其群衆と共に水草を逐ひつゝありし、若干の蠻民を恐るゝの念は起らざりき。然るに『シャモ』の沙漠を襲ふ疾風の如き速力を以て、此等の牧羊者は世界を襲撃し、幾百の王侯の前に其牛尾形の旗幟を飜へせり。

之と等しく支那てふ尨大なる老帝國の東隅に、岩礁を以て圍繞せる四個の島影あるを世人は氣附かざりき。

# 第五章

今夫れ自國の海陸軍力と、他方には自己の境遇に迫られて主權を爭ひ、干戈に訴へずんば到底目的を達する能はざる國民の海陸軍力とを、公平に比較せんとするは固より困難の業なり。自國の兵力に關し偏見及び過大なる信用を抱かざらんことを期し、努力して以て其正確ならんことを欲すと雖も、近代の戰術は錯雜微妙のこと多く甚だ人を惑はし易きを以て、動もすれば不公平の見解を懷き不當なる推理を爲すを免れざるなり。世上往々平和の際に優越なる境遇が戰時にも亦同じく發現すべしとの空想を懷くもの少なからず。然るに此等の境遇は近代の戰爭を遂行するに必要なる性質を缺けり、幸か不幸か今日は深く一般人民の心裡に徹底せる戰爭は悉く其形を變じたり。故に漫然愛國を唱ふるものゝ如きは近代戰爭の行動、思想、及び其成功に必要なる條件に關する觀念に誤解を懷かざるもの殆んど稀なり。

世人の判斷に依れる此等誤謬は、二個の方面ありて互に相扶け、而して分別心なる假裝の下に全く自己を欺けり。其積極的原動力は自國の力を誇張する思慮なき

愛國心にして、消極的原動力とは敵の缺点を誇張するに在り。吾人は常に勝利に向て其思想を集中すれども、之を得ることの困難に對しては眼を蔽ふて見ざるなり。斯の如く自ら進んで盲目となれるが故に、吾人は自己の弱點を認めず、又敵の有する力を曉らず、敵の武力に就ては吾人は口を緘して敢て一言をも發せざるなり。

個人的生活は驕傲若しくは無智の爲めに、自己の力量を識らずして自ら欺き而して失敗に終る。人は高慢者として單に信用するに足らざるのみならず、毫も憐憫に値せざるものと見做さるゝなり。されば社會は彼が不幸に居るも平然として之を顧みず、是其强き高慢心と競爭者の力を明にすべき普通の注意を取らざりし當然の刑罰なりとす。國民は唯個人の復合的團体に過ぎざるを以て、凡て個人を動かすものは廣き意味に於て國民を動かし、個人の一部分は軈て國民の一部分となるなり、されば國民を誤謬より脱せしめんと欲せば宜しく個人を敎育すべし。唯個人が眞理を承認する程度に應じて、國民は其破壞亡滅に終るべき高慢心より脫却するを得べきなり。人が國家に對して負ふ所の第一の義務は、徒らに自負心を以てしては義務を全ふすること能はざるを自覺するに在り。誇大の言は獨り

價値なきのみならず其表明すべき眞情の僞物なり。國民の生存に就ては個人の虚榮心は何等の効力なきなり。

日米兩國の海軍力を比較するに當り最も普通に行はるゝものは、兩國海軍の艦數及び其噸數を對比し、單純なる計算に依て優劣を定むるにあり。斯る判斷は力に關する一切の問題を、單に肉眼に映する比較に於て定めんとする人の普通に取る所の方法なり。然れども其構造一に皆科學の原理を應用せざる無き現今の海軍力の眞の標準は、構造の効力如何と戰爭前及び戰爭中の科學的指揮の如何に依りて之を決定せざるべからず。而して更に軍略上の考慮をも爲すを要す、軍略は司令官の爲めに或は機會を增し若くは之を妨ぐるものにして、又彼が勝利の機會に變化を與ふるものなり。是即ち近代戰爭の結果に就て幾許か正當なる觀測を爲さんと欲する人々の宜しく研究すべき條件なりとす。又近代欺罔の手段として統計表の如く廣く行はるゝものなし、打算的の時代たる今日統計表が一種の迷信的偶像として有力なるは、恰かも野蠻人種の魔術札よりも優れり。千九百四年の初、此等の統計表によれば世界列强中、露國海軍は第三に位し、日本は極めて微々たるものなりき。

圖らざりき或る五月某日の午後に於ける僅々數時間に露國の海軍は全く其存在を喪失せんとは。現今の統計表は、船艦及び其噸數に於て、米國は第三位に、日本は第五位に在り、淺薄なる觀察者は通常是より以上に出づること能はず、彼に取りては第五位の海軍國は到底海軍の戰爭に第三位の海軍國に對抗し得べからざるは自明の理なり。而して此信念の眞僞如何と、優越なる海軍の眞の要素とは、果して船艦目錄に比例するものあるや、否、を定むるは苟くも正當なる結論に達せんことを欲する人々の爲すべき第一の義務なりとす。

近時の海戰は、戰鬪艦、裝甲巡洋艦、及び水雷艇より成る三個の戰鬪線あり。統計表に依れば、米國の戰鬪艦は日本に勝れども裝甲巡洋艦及び水雷艇は日本に劣れり。而して對馬海戰以來新型の戰鬪艦現はれ、其戰鬪力は現今米國海軍の三戰鬪艦に匹敵するに至れり。又米國戰鬪艦の數は日本に優れり。(附錄第四表參照)日本の戰鬪艦は殆んど三割以上の巨砲を有す、ロジエストウエンスキー提督曰く、日本の軍艦に損害を被らしめたるものは我砲臺の巨砲にして、我艦隊を破壞したるは日本軍艦の巨口徑大砲なりと。

海戰に使用せらるゝ方法の効力如何によりて勝敗の運命は決せらるゝものゝ如

し、されど其機會は之を統卒する司令官が、職務を盡すに熟達せると然らざるとに依て固より大小あり、而して此職務は年と共に益々紛糾錯雜となり、愈々多大の注意を要するものなり。從て是等の巨艦を指揮する人の能力、及び体力は、勇氣健全にして其精神依然として、青年時代の活潑敏捷を有する間のみ繼續するものなり。古來如何なる種族の禮拜する鬼神と雖も、未だ曾て今日の如き巨大なる怪物を海上に浮べたること無し。而かも此怪物たるや一見甚だ奇異の感を起さしむべきも、之を熟視せば吾人は寧ろ敬慕歡喜せんのみ。見よ柔軟なる鉄は既に之を用ゐず、鋼製の艦腹は大海の鯨波を蹴て礦石を食餌と爲し、其動脈も亦鋼製にして諸神經は皆銅より成立し、其血液は赤青の火焰なり。是等の軍艦は神の如き全能力を以て大洋の中に突進す。其雨師風伯と激鬪する怒號の響や實に數千浬の洋上を壓せり。彼等は迅雷の如くに肉眼を以て視るべからざる目的物に到達し能く之を破壞するなり。

されど凡て此巨人的活動は、唯一人の小なる腦力の活動如何に依て其目的を達し若くは全く無効に歸するものなり。斯の如き巨大なる軍艦も之を指揮する人の勇氣能力にして、彼が青年時代の敏活なる力を奪ひ、其齡と共に衰頽する時は再び

無生物の狀態に復歸して、敢て恐るゝに足らざるなり。人物は自然の衰落あるが故に、米國海軍も其構造及び政治の凡ての他の方面は假し間然する所なしとするも、現在統卒の組織は其効力を打消すに足るべし。而して此大海軍を組織したる一切のものは、或る午後の數時間に於て忽ち全滅に歸するやも知るべからず。米國は其年齡五十六歲に達せざれば大佐に任せざるに、日本は平均三十八歲なり其差殆んど二十年とす、啻に是のみならず米國海軍の大佐は、其階級に留まること四ヶ年半に過ぎざるに反し、日本の大佐在職期間は八ヶ年なるを以て、其年齡の少なきことゝ二十歲なれども殆んど二倍の經驗を得せしむるなり。（附錄第五表參照）

陸軍の成功は第一に將官の能力に依るが如く、艦隊を以て戰ふ將來の大海戰の成功は、現役將官の能力、勇氣、經驗とに依て定まるべし。米國海軍の少將は六十歲の高齡に達せるまでは任命されざるに反し、日本は四十四歲にして此階級に進み得るなり。米國の將官は僅かに一年半現役に在るのみなれども、日本は十一ヶ年間在職するものとす。（附錄第五表參照）

米國海軍に如何なる缺點ありとするも、其責任は海軍に非らずして國民に在り。

米國の軍艦の多くを視れば甲鐵は其重要部分に存在せず（附錄第六表參照）重なる甲帶は其場を誤れり（附錄第六表參照）砲門は極めて大にして補助砲塔の位置は、大砲及び其砲員を敵の砲火に暴露して亡滅に至らしむべし。（附錄第六表參照）海軍は充分なる水雷の援護なく、砲架は極めて低きが故に、種々の狀態の下に武裝の一部をして全く無効ならしむ（附錄第六表參照）されど是れ海軍の過失には非ざるなり、米國海軍の戰鬪力に斯く多くの缺點を生ぜしめたるは獨り國民のみ其責を負はざるべからず。國民は其代表者たる議會に依て表明したるが如く、冷淡なるを以て此狀態を生じ、之が爲め遂に過去一切の勝利を抹殺するに至るなり。

然れども此缺點は日米兩國間に存在する海軍の形勢に影響するものにあらず。太平洋上の兩國海軍力の關係を支配する條件は、艦船の數如何に關せざるなり。是等の艦船は完全なると否らざるとを問はず、長く其生命を持續するものに非ず。人の造れる巨大なる製作物は、脆弱にして其實唯、一時的のものたるに過ぎず。其生命は縱し一時間の悲劇に於て亡滅せざるとするも、僅々二十年の短日月のみ。されば眞實なる海軍力の比較は統計表若くは船艦の善惡に依らず、寧ろその海軍を建設し併せて國民の運命をも支配する所の條件に依らざるべからず。

唯此比較の後、吾人は茲に日米兩國の利益が太平洋上に衝突する限りは、日本に優れる海軍力を維持するは米國に取りて實に已むなきことを知得するなり。近代の戰爭は科學と發明とに依て年々變更せらるゝを以て、各國の海陸軍は此變化に伴ふて進歩せざるを得ず。現今米國に行はるゝ舊思想、即ち海陸軍は唯一時の用を辨ずれば足るものにして、戰爭の時は之を存置し、戰後は之を等閑に附するも可なりとの觀念は、早晩國民を千仭の谷底に投じて再び出づることを得ざらしむるに至らしめん。されば現今及び將來の戰爭準備は、必らず平時に之を用意し、假定的の戰爭を假定的戰場に試むるの覺悟なかるべからず。この準備を怠る國民は遂に亡滅の運命を免るゝ能はず。

海軍は國民と共に存在するものにして、國民の生存する限りは絶へず之が準備を爲さゞるべからず。而して國民が政治上に發展すると共に海軍も亦益々擴張せられ、科學と發明との進歩に伴ふて發達し、古來一點の雲翳なき青空より國民を襲ひ來る霹靂に對し、何時にても之に對抗する所の覺悟なかるべからず。近代には四個の條件ありて絶えず海軍の建設の必要と、海軍政策上の國民の先見とを要求して已まざるなり。

戰闘艦の生命は二十年を出でず而かも其有効期限は數ヶ月にして已むことあり。然るに斯る船艦を造るには實に數年を要するのみならず、之を造り得べき工場も限りあるなり。或は破壞せられ、若くは學術の進歩に依りて無用となり、而して艦隊が改造せらるゝまでには幾多の戰爭に遭遇せざるべからず。一國海軍の潜勢力を知らんとせば單に一個年の成績に依りて之を決すべからず。其繼續せる期限の上よりして之を察すべし。即ち海軍力が盛衰常なき循環の狀態のみを見ずして、宜しく其國が政治的地位の發展に伴隨し、又海軍的發明の進歩に適應して、年々其海軍の產出數、及び他國に對して其優越を保ち行く、恒久的方針上より之を察すべきなり。此目的を達せん爲には海軍は政治範圍より超脫するを可なりとなす。是れ政治上の理想は常に轉變して已まざればなり。然るに米國は今尙は共和政体の特徵として、海陸軍を以て單に戰爭の一手段に過ぎずと爲し、國家安寧の依て繋る永久の源泉なりとなさゞるなり。過去には或は斯る政策も可なりしならんも、現時は最早然ること能はず。否、此方針の可なる程度は年と共に次第に減少せんのみ。

現今の海軍は米國の曾て有せる最大のものなるが、是れ畢竟退歩衰落の廢物推積

したる上に、偶然にも發生したる害惡の一例たるに過ぎざるなり。國民理想の結果に非ずして唯だ大統領が必要なる努力に依て成りたるものゝみ。若し此政府にして非戰主義の政治家に依て繼承せられんには、四年を出でずして米國海軍は列强の海軍中最も微弱のものと化し了らん。されば國民の繼續的海軍政策は、或點に於て日米兩國の海軍を比較するに最も公平なる基礎を爲すものなり。

日本の海陸軍は政治の問題以外に置かれ(原註日本内閣の更迭は海陸軍大臣に影響せず、彼等は殆んど皇帝の如く政治的勢力の上に超然たり)其内閣は屢々更迭することあらん、然し海陸軍は帝國の生命及び偉大と兩立して、之が爲め些少の障礙を蒙ることと無く、益々發展しつゝあるなり。之に反して米國は獨り海軍の發展の連續的方針なきのみならず、又未だ政治上の牽束範圍を脫すること能はざるなり。

戰鬪艦の有効期限は極めて短かきのみならず、其効力も亦何時にても減少しつゝ殆んど全く何の用をも爲さゞるに至ることあり。其一例は日露戰爭後に於ける海軍技術上の變化の如き是なり。即ちドレッドノート型戰鬪艦の發明と共に一隻の戰鬪力は三倍せられたるなり。されば偶然海軍の建設上根本的の變化の起る時は全く政治上の制限を受けず。自由なる海軍政策を有する國は、短時期に於

て其海軍政策を變更し、新狀態に適合せしむるを得るものなり。然るに海軍をして政黨の玩弄物たらしむる國に於ては、容易に斯の如き舊慣を脱するの必要を自覺せざるなり。是れ即ち日本海軍をして合衆國の海軍よりも近代の戰爭に於て爾かく優勢ならしむる所以なりとす。(附錄第四表參照)

日本は二ヶ年間に二萬噸の新型の戰鬪艦、及び一層短時期に裝甲巡洋艦を建造せり。然るに米國は一萬六千噸の戰鬪艦の建設に五ヶ年を要し、裝甲巡洋艦には五ヶ年二ヶ月を費せり。而して千九百九年に日本は是等新戰鬪艦四隻を有し、米國は一隻も有せざるなり、千九百十二年には日本は八隻を有し、米國は僅に二隻に過ぎず、此比例は米國海軍が人民の冷淡と政治の支配とを脱せざる限りは繼續すべき狀態ならん。或る內閣、若くは議會に於て、偶ま海軍建造の爲めに力を盡さゞるに非らずと雖も、全く舊式なる無効のものを建造し、又或內閣は海軍建造に對して、殆んど眠れるが如く否、全然之を忘却し去れり。

吾人は今や海軍力の眞の比較を爲すに足るべき、海戰の根本的問題を硏究せんとす。即ち海軍の軍略是なり。如何なる國の海軍力と雖も、すべての國に對して同一なる能はず。艦隊の効力は其根據地より戰爭の舞臺に達する距離の如何に依

て増減し、海軍力の範圍は其海軍根據地の增加、配置、及び其根據地の効力に依て定めらる。若し此根據地なくんば海軍は增大するに從て、却て其効力を減ずるものなり。

吾人は前章に(下編第四章)太平洋に於ける軍畧を說明し、日本の軍畧と現に其の有する有益の位地につきて論じたり。尙具体的に日本の軍略的地位を說明せんに、日本は太平洋の軍略的中心に其海軍力の全体、詳言せば啻に其艦隊のみならず海軍鎭守府、造船所、海軍造兵廠、人民及び其供給品とを有す。然るに合衆國の海軍根據地及び供給品は、將來起らんとする戰爭地點の範圍を去る一萬七千浬なる太平洋中に在り。斯る狀態は米國海軍の巨大なるに連れて、太平洋に開戰すべき力は益々減少するなり。此困難を排除せんこと」は米國の第一に考慮すべき問題なり。故に此問題は日米兩國の海軍力比較の根本的基礎たるなり。前章(下編第四章)に於て米國が太平洋艦隊を維持する爲めに取るべき手段を說明せり、即ちヒリッピン。布哇。アラスカ。ワシントン。オレゴン。カリフオルニアに於て海軍根據地を設け、陸軍の攻擊に對して完全なる防備を爲し太平洋に於て日本の全海軍に匹敵すべき艦隊を維持すること是なり。然るに此等の事は未だ其萌芽をだに認

むること能はず、而して之を救濟すべき何等の準備をも爲さずして、米國は反て着々反對の方向を取りつゝあり。若し平時に之を爲さずんば日本は戰爭に於て其野心なりとして示されたる所のものを遂行し了らん。

今後の數章は漸次に太平洋の最後の征服を描出し、米國が太平洋の支配と其運命より離れんことは、敢て支那及び露國と異なることなきに至ることを示さんとす。

米國の海軍にして今より二倍の噸數を有し、二倍の船艦を有するとも、其他の條件にして若し今日と異なる所なき以上は、此近づきつゝある戰爭の終局に對して、此等は何の影響をも與ふるに足らざるなり。蓋し太平洋の征服たるや、銅鐵の噸數、若くは極めて陣腐なる船艦の目錄以外に在つて存すればなり。

# 第六章

凡ての國民特に共和國民は、一時多數の心に投すべき或る處置を賛成するに當り往々極端に走ることあり、而して斯る例は過去數年米國の政治的發展に伴ふべき海軍建設問題に關して見る所なり。海軍擴張論者が社會公衆に誤てる印象を與へたるは、海軍の必要に就てにあらず、其範圍以外の計畫を成就せんとしたるが故なり。

一國民にして政治的責任に相當する海軍を有せざる場合には、忽ち海外に於ける權力を失墜するに至るべし。されど全然海軍にのみ依賴して其運命を賭する國民は、終に海軍力を失ふのみならず、所領の島嶼をも失ひ、且つ本國に於ても敗衄を招くが故に、終に世界に存在する意義をも喪失するに至るべし。

現時も亦將來も國際的戰爭は獨り海戰に依てのみ定まるべきものに非ず。勿論海軍の勝利が戰爭の終局を早むることなきに非ずと雖も、斯の如き弱き國民の存在如何は全く疑問にして、唯國際的戰爭を支配する自然の法則を看過する人のみ、勝敗の岐る所は全く國民全体の强弱如何に在ることを解せざるなり。

戰勝の結果、敵國政府の權力と實力とに危害を加へ、我が要求に對して防禦の力なきに至らしめてこそ、始めて敵國人民に多大の影響を及ぼし之を打擊し若くは之を破壞することを得るなれ、假に獨逸海軍の全部にして北海に擊沈せらるゝことありとするも、英國の伯林附近に進むこと能はざるは猶ほ今日の如くならん。此場合に英國が獨逸に對して主張し得る所は、獨逸海軍全滅前に於ける主張と、毫も異なる所あるを得ず。蓋し近代に於ける貿易及び交通の脈管は極めて複雜なるを以て、封鎖を行ふことを不可能ならしむればなり。

假りに米國海軍が暴風若くは戰爭に於て突然破壞し了れりとするも、米國の政治及び實力に對しては何等の影響をも及ぼさゞるなり。要するに終局の勝敗は陸戰に依りて決せらるべきものなることは、青史の示す所にして將來も亦當さに然るべきなり。

海上の戰爭は其位地の本國を距ること遠きが故に、國民は單に一度の戰鬪としての微弱なる影響を蒙るに過ぎず。死傷者の數は國民の數に比して極めて些少なり。政治上の制度、戰爭の方法、人類の交戰的態度は毫も之がために動かさるゝことあらず。海軍全滅せば陸軍を以て之に當るべく、海軍にして不幸敗衂を招き領

地と實力とを擧げて敵軍の手に歸したる時、始めて降服すべきのみ。海軍は唯だ一國陸軍の一部分にして固と兵士を以て組織せられたるものなり。近年に於ては海軍は恰も特種の制度たるが如く見ゆると雖も、爾く思惟するものは是れ全く戰爭の眞諦を解せざるが爲めのみ。今日の海軍は往時に比して陸軍に依賴する所極めて多し。

海軍は全く自巳の力によりて存在すること能はず。海軍を維持するに必要なるものは一も之を海より得べからず、海戰の舞臺は渺茫たること恰も砂漠の如くなるを以て、海軍根據地は國民が己に海上權を確定し、若くは之を擴張せんと欲する、何れの海に於ても艦隊と等しく極めて必要なるものなり。

吾人が前章及び地圖第一に示せる如く海軍の根據地は海軍活動の中心點にして半徑は所屬艦隊の速力如何に依りて定まる。而して根據地の價値は半徑の一極點より他の極點に至る間の距離の平方の增加するに隨て減少するものなり。若し夫れ國家として太洋上に主權を掌握せんと欲せば、各海軍根據地間の距離を二個の根據地の半徑を合計したるものに超過せしむべからず。海軍根據地の安全は第一に陸軍の防禦によるものなり。されば如何なる場合に於ても單に海軍

力のみを以て根據地を保護せんとする如きは、海陸軍學をして殆んど無用の長物たらしむるものなり。然り、獨り永久的砲臺のみに賴りて海軍根據地を保護せんとするが如きは、近代に於ける交通機關の發達が、港灣防禦の價値に關して大なる變化を生ぜしめたる事實を知らざるに依れるものなり。若し海上權にして假令一時たりとも充分なる運送船を有する敵軍の手に歸せりとせんか、彼は直に陸軍を以て總ての海軍根據地を占領せむ、事茲に至らば敵の行動を阻止し得るものは、唯だ後部に於ける陸軍力あるのみ。

近世の港灣に於ける要塞は、連續せる獨立の砲臺より成る、されば唯一の防禦の方法は將さに敵の取らんとする港灣の近傍、若くは遠き處に於て敵の上陸せしめ得る兵力に讓らざる軍隊の力を以て之に當るの外なきなり。

米國にして太平洋上の主權を維持し、其海軍根據地を保護するの設備なく、又日本との海戰に於ける自然の軍略的困難を凌駕するに足るべき海軍を有せざるが爲め、一時太平洋上に於ける主權を失はんか、吾人が後章に論ぜんとするが如く、同戰爭中決して之が再擧を企つるに由なかるべし。即ち日米間の戰爭は陸戰たるべく、此漸く近づき來れる戰爭に於て開戰の始より終局に至るまで其運命を決すべ

き要素たるものは、海軍に非ずして陸軍なり。

抑も日米兩國の陸軍、及び其一般の軍隊組織、並に潜勢的兵力を正當に比較せんことは困難なる計畫なり。即ち一方には愛國心あり他の一方には敵愾心ありて、事實の眞相を妨ぐるが爲めに、到底偏頗の見に陷るを免るべからず。眞理は枉くべからざるが故に、本書に於て吾人が已に言明せる所よりも、尙ほ讀者を悚然たらしむるものあるべし。

陸軍の價値は單に大小のみを以て定むべからず。之が組織と彼等を鼓舞する士氣、及び運用の巧拙如何に依て定まるものとす。

陸軍力は總ての戰場又は總ての國家に對して不變なるものに非ず。見よ、獨逸が淸國に對して派遣し得べき最高限度の兵力は、澳太利及び佛蘭西の國境若くはニユージャージーに出兵し得べき數よりも遙かに少なかるべし。陸軍力の比較も猶ほ海軍に於けると等しく、或る國を第一位に置き他の國を第六位若くは第七位に下すが如きは大に過てり。即ち兩國陸軍の力を正當に比較せんと欲せば、概括的論法を許さゞるは敢て海軍に於けると異らざるなり。

されば二戰鬪國の兵力は先づ戰爭の舞臺と現存する軍略的狀態によつて之を攻

究せざるべからず。軍略上の好地位を占むる敵國に打勝たんと欲せば、自然の障害物を排除せんが爲めに多大の兵力を增加せざるべからず。又平時に於ける障害物にして戰時に際しては、却て實際上の援助となるもの尠からず。

兩軍の實力及び其欠點を研究するは極めて必要のことに屬す。近代に於ける此種の比較研究は固より萬全を期し難しと雖も、過去の成績に比すれば稍々正確なりと謂ふを得べし。而して近世科學が軍隊の構成、及び運用に對し一層緊切の關係を有するに隨ひ、平素訓練を要することも亦益々切實にして、其訓練や勢ひ長時期に亘らざるを得ず。されば軍事の完否如何、及び訓練の實戰狀態に接近せる程度如何に依り、吾人は平時に於ても尙能く軍隊の戰鬪力を計算するを得なり。

日本が一擧にして戰場に輸送し得る兵力は百二十五萬以上なるが、此等の兵員は悉く已に三年間の常備役に服せるものにして、而して特別なる任務の訓練を受けたるものなり。（クロパトキン曰く、日本は各種の軍隊百五十萬を戰場に出せるは其實我參謀部の豫想せる兵數の三倍なり）又八十萬以上の兵員は滿洲に於ける戰場にて、一年乃至一年半の實驗を有し、之が統卒の任に當れる將校は、軍事上專門の學力を有するのみならず、變化極まりなき實戰に參加して多大の訓練を受けたり。

日露戰役に日本軍の效力優越なりしことは、古來戰場に出たる如何なる軍隊にも勝れり。思ふに日本軍の爾かく有力なる所以は、畢竟普佛戰爭以後に於て始めて組織せられたるが爲なるべし。

日本に於ては絶えず陸軍組織の改造行はれ、偏僻なる輿論の之を妨碍するものなきのみならず、日本人の性格は獨逸の軍國主義を採用して更に一段の進境を開けり。要するに單に舊日本の封建制度に代ふるに近代獨逸の封建制度を以てせる者にて左まで困難ならず、且つ日本皇帝陛下の下に軍國第一の資格たる絶對的勢力の集中せるを見る。(クロパトキン曰く、日本の勢力强大なるは其人民、軍隊、及び政府が完全なる一致を爲せるに由る、而して日本をして勝利を得しめたるは全く此一致ありしが爲なり)日本人の軍事的精神は國民的生活の總ての方面に磅礴せり、宗敎すらも尙ほ戰鬪的なるを見ずや、帝都には九段に祠堂ありて其神殿に祀れるは戰死者の靈なり、日本の社會的組織は武士の優越せる力を基礎として成立し、商賈の社會的地位は海陸に於ける勞働者よりも猶且つ卑し、要するに日本國民の理想とする所は武士道なり、武裝して軍籍に列するに在り、軍人の道を行ふに在り。平時に於ける米國の軍隊は米國議會の議決に依りて十萬を超ゆる能はず、而かも

社會は一般に軍事的活動に對して極めて冷淡にして偏見を有するが故に、號して十萬といふと雖も實際は五萬に過ぎず。

日本近時の軍事的發展は、普佛戰爭後始めて其端を開きたるものなれども、米國は奈破翁戰爭以前既に軍事上の發展を爲したるすのにして、今日米國の軍事組織は百五十年以前歐洲に於て行はれたるものなり。而して爾來何等發展の實を擧げざるのみならず、多くの點に於て寧ろ退歩の傾向を示せり。現今の組織及び配置を以てすれば、日本と戰端を開くに當り、米國の太平洋岸に動員し得べき常備軍は僅に二萬人に過ぎず。然るに實際之に必要なる兵數は六十萬なりとす、米國の常備軍及び民兵は實戰に必要なる軍隊組織の要素を缺けり。即ち參謀本部を缺き、統一を缺き、動員の準備を缺き、多數の兵員を輸送し及び保護すべき設備を缺くのみならず、一朝事あるに當りて此等一切の設備を爲すべき組織を有せざるなり。然るに日本は學術的に訓練せられたる將校五萬を有す。之に反し米國は僅に四千を有するに過ぎざるなり。米國にして一たび日本と戰端を開き、日本と同數の軍隊を出動せしむる場合は、米國將校の九割二分は全然戰術を解せず、唯政治上の關係に依りて任命せらるゝものなれば、無能者中の無能者を代表するに過ぎず。

（附錄第八表參照）

假りに米國の義勇兵を以て日本軍の如く優越なりとするも、之が統率の任に當る將校は悉く無能なるを以て、彼等は徒らに死地を辿るのみ。

凡そ軍隊の力は將校の實力如何に依りて、決定せらるゝものなることは自明の眞理なれども、大戰爭に於ける將校の才能、智識、實力、經驗か勝敗を決する原因となるの事實は、世人未だ充分に之を了解せざるなり。而して米國現在の軍事組織は平時と戰時とに論なく、實際軍隊を指揮したる經驗を有する將校は一人も是れなし。之に反して日本の將校は、實戰に於て多數の兵員を指揮し、訓練し、供給し、且つ正確なる學術上の原則によりて、之を運用したるものなり。

陸戰の勝敗如何は機先を制して戰場に到着し、豫定の行動を開始する遲速如何に依りて定まる。戰爭の舞臺が益々戰鬪者の主たる根據地を距ること遠く、且つ戰線の愈々擴張するに從ひ、運送機關の遲速、及び其大小は全く軍隊の死命を制するものなり。軍隊が戰場に於て軍略的地位を占領せんとする行動を制限せられ、若くは遲延せらるゝ場合には、其價値は之に準じて減少す。又戰爭の舞臺にして太洋の彼岸に在り、而して運輸の方法自由ならざる場合には、本國の大軍も唯毎航海

運送船の輸送力に依りて定まれる一部の大さと成るべし。

近時運輸交通の機關は、事實上世界を縮少したると同時に之に依りて戰爭の範圍を擴張したり。今や各國民は隔絶せる所領、及び廣大なる大陸的領土を保護する爲め、平時に於て充分に之が輸送の方法を講ぜざるべからず。

若し米國にして他國と干戈相見ゆるに際し、比律賓に十萬の軍隊を輸送するの必要ありとせんか、米國は太平洋に於ける商船全体、即ち太平洋の航海に從事する八隻の船舶を擧げて、盡く之れを使用するも尚二ヶ年の歳月を要すべし。然るに米軍の上陸を妨害せんが爲には一回の航海に運送船の輸送し得べき兵力を以て足れりとす。されば太平洋の戰爭に於ける米國軍隊の價値は、或點には輸送力の如何に依て定まるなり。而して米國が現に此輸送力を缺けるは下の事實に徴して明かなりとす。

嘗て米艦十六隻の世界周航の途に上るや、外國船廿八隻を傭入れたり、若し此設備微りせば彼等は到底太西洋根據地の範圍外に出づること能はず。隨て太平洋航海の如きは空しく一場の妄想に過ぎざりしならん。

日本は島帝國なるを以て一旦世界と交通を開くに至るや、海上に於て自由に行動

することを能はざる期間は、其政治的活動は一島國内に制限せらるべきを認めたり。此必要は政府の奬勵及び監督の下に航海業の發展を促し、其結果一旦緩急あるに際し政府は必要に應じて此等の船舶を利用することを得るなり。日本は運送船として一千噸乃至一万四千噸の滊船百隻を有し、此船舶を以て一時に二十萬の兵員と其全部の軍需品とを輸送することを得、而して此等の船舶は日本港灣出帆後五日にして比律賓群島に達し、十四日にして布哇に達し、廿二日にしてカリフォルニア海岸に達するを得べく、アラスカ。ワシントン。オレゴンの海岸に達するには二十日以内を要するに過ぎず。(上編第四章及び附錄第八表參照)

吾人は本書の上編に今日の戰爭に於ける義勇軍の無能なるを示したるが、此事實は米國の過去の戰爭に徵して明かなり、吾人は我米國が他日日本と干戈相見ゆるに際し、常備軍を利用し得るや、否やを知らんか爲め、果して米國の常備軍が今後二三年間に、日本に匹敵し得き陸軍を建設するの基礎となり得べきや、否やを研究せんとす。吾人は先づ永久に渉る平和狀態を描きて各軍隊に存在する實況を示し、其効力如何は之を讀者の判斷に任すべし。

國際戰爭に於て海上權の敵手に歸したる塲合には、港灣及び其海岸要塞は國防の

第一線を爲すものなり。然るにアラスカ。布哇。サモア。及び比律賓群島には此種の要塞を有せず、太平洋沿岸に於けるサンデユゴー。サンフランシスコ。コロンビア河。ピユーゲツト。サウンド等は、全く其防禦を砲臺に依賴すれども、其力の甚だ微弱なるを思へば、軍事に對する一般米國人の態度は極めて冷淡にして、且つ無智なるは實に慨嘆に堪へざるなり。國內處々に要塞建設の必要あることを絕叫するものあれども、是唯米國に對する悲運の豫告にして、軍事上の義務を避け、國民の安危に關する責任を擧げて生命なき武器に托せんとするに過ぎざるなり。米國の海岸防備としては六十七個の要塞ありて二十八の海港を護れり。千九百六年十二月陸軍卿は國會に報告して曰く、『現存する砲臺中二百六十八は豫備に編入せられ、唯纔に百二十四のみ現役に在り』と、即ち千百門の大砲中、僅に三百九十門のみ實際の用に適するなり。而して此等六十七の要塞に對し充分の人員を配置せんには、將校千六百三十四人、兵卒四萬六百七十五人を要す。然るに現に使用し得べき人員は將校三百五十七人、兵卒一萬七百人なれば、殆んど大砲及び機械の腐蝕を防ぐにも足らざるなり。

要塞砲兵は陸軍に於て最も發達せる兵科にして特殊の才能と訓練とを要す、開戰

に臨み新兵を以て實戰に充つるが如きは商人をして地形を測量せしめ、鉞力工に命ずるに蒸氣機械の裝置を以てするが如し。

米國の常備軍は其全体を擧ぐるも、尙國法に依て要求せる最少數より少きこと三割以上なり。斯の如きは政府獨り其責を負ふべきに非ず、社會一般に軍事を蔑視する結果、米國の軍隊は單に數に於て微少なるのみならず、軍隊的精神と活氣とに於て萎靡不振の狀態を呈するに至れり。

上述の如き狀態に在る米國軍隊は、陸軍中尉の數に於て尙は規定より三割八分の不足を示し、要塞砲兵に於ける小隊の三割は大尉を有せず、六割三分は規定數の中尉なし、三十の砲臺を包含する野戰砲兵に於て其二十二には規定の將校を缺き、或る砲臺の如き唯二門の大砲と兵員四十を有するのみ、歩兵の狀態も亦之と大同小異にして、第十一聯隊の如きは兵士七人下士四人を以て大隊を編成せるものあり。元帥セント、シル曾て曰はく『凡て軍隊は三種の軍人より成る、即ち其三分の一は天性勇敢なるものにして、他の三分の一は天性怯懦なるもの、殘餘の三分の一は善良なる將校及び嚴肅なる訓練に依りて、勇敢なる軍人となり得べきものなり、されど若し適當なる士官と充分なる訓練とを缺く時は此中間の三分の一も亦墮落して

怯懦なる三分の一と化すべし』と、此實例は米國に於ける戰場に屢々見る所なり、然るに毫も警戒を加ふることなきを以て、米國現時の陸軍組織は曾にセント、シル元帥一人のみならず、世界列國の經驗に依て軍隊の組織、及び運用に必要なること明白なる條件を全然闕如するに至れり。

平時に在て、實戰に於ける軍隊の價値如何を判定するは、往々誤謬を免れずして、唯纔かに國民の武器、軍事組織、及び其兵數に關して比較的價値を判定するに過ぎず。斯る比較的研究は、或は人をして勝敗の運に關し合理的の結論に達するを得せしむべきも、吾人は此に一歩を進めて人種若くは國民の尙武的精神如何を研究せざるべからず。軍事的事業の成敗は何物よりも此精神に依ること多し。而して此精神は決して戰爭の變化に依てのみ發現し來るべき、茫漠として捕捉すべからざるが如きものに非ざるなり。何れの國民に在ても此尙武的精神の如何は、其分量に於て將た幾許かは其性質に於ても、宣戰前容易に之を發見することを得るなり。而して軍事的活動に對する國民全体の態度、及び文武官吏の社會に對して有する關係的地位如何は、以て平時此實力の存否如何を見るに足るものなり。

國民及び個人の理想、宗教、向上心にして總て戰鬪的なることと日本人の如くんば、尙

武的精神は高度の發展を見るに至るべし。然るに米國に於ては軍事的思想に對して個人の反對あるのみならず、社會一般政治家と謂はず、新聞記者と謂はず、教會、大學、勞働組合、理論家、其他の團体は悉く之を排斥し、尙武の精神を以て公然の罪惡、國民的罪惡と爲す、事情斯の如くんば尙武的精神は、最も劣等なる形体を取つて顯はるゝの他無るべく、一念此に及べば悚然として戰慄するを禁ずる能はざるも、是れ實に我米國に於ける自然的狀態となれり。

抑も軍隊の訓練、道德、戰闘力、忠誠、及び獻身的精神如何を判ずるに二個の方法あり、一は兵員中戰時に際して怯懦の爲め逃走する者あるや否や、他は平時に在て不從順の爲め逃走する者あるや否や、是なり。兵士の名譽の十戒も、逃走の一事の爲めに全然破壞せらるゝものなり。この軍事的罪惡の有無に依りて吾人は國民の非軍事的にして尙武的理想に反對なることが、如何に兵士に影響を及ぼすべきやを斷定し得るなり。思ふに失踪は軍事制度の產物に非ずして、寧ろ人文的生活の產物なりと謂ふべし。

日本に於ては斷じて一人の失踪兵あるを見ず。米國は千九百六年に僅かに六萬の兵士中六千二百八十人の多數逃亡兵を出せり。（附錄第八表のロ參照）

之を要するに政府の或る部分に於て明に萎靡衰退の認むべきものあるを看取する時、國民は此頽勢を挽回すべく眞面目に正當なる合理的方法を講せず、寧ろ之を傍觀して責任を他に嫁せむことを力め、戰期切迫せるに拘はらず、徒らに射的倶樂部を作りて以て一時を糊塗せんとす、思ふに彼等は射的の一事を以て兵士の能事了れりとし、總ての軍事的成功の泉源なりとの迷信を懷けるなり。而して一たび日米兩軍に於ける內部の情態を比較せば、此迷信の極めて危險なるを了解すべし。單に軍隊の効果のみならず、其存在さへも世人の最も閑却せる軍事的活動の方面に於て存するなり。射擊は進軍の如く緊要ならず、正確の射擊も亦從順の美德に比すれば言ふに足らず。殺戮することも亦生殘すことに比すれば極めて輕微なるを知らずや。

軍隊の戰鬪力は第一に之を編成する兵士の体力如何に依る、兵士は戰塲の困苦欠乏に耐ふべく、先づ身体の完全を期せざるべからず。病兵は戰死者よりも多大の損害を與ふ。されば病兵及び病死者の數にして戰死者よりも過度の增加率を示す塲合には、軍隊の戰鬪力は幾何的に減ずるものなり。

米國南北戰爭は戰死者一人に對し、治癒すべき疾病の爲めに斃れたるもの四人を

算せり。附錄第十表のイ參照)

又米西戰爭には戰死者一人に對し、病死者十三人の比例なりき。(附錄第十表のロ參照)

然るに日露戰爭には日軍の病死者一人に對し、彈丸の爲めに斃れたるもの四人の割合なりしなり。(附錄第十表のハ參照)

日米戰爭の米軍の死亡率にして南北戰爭と同一なるか、若くは日本軍の日露戰爭當時の死亡率と同樣なりとせば、一萬の米國戰死者に對し、治癒し得べき疾病の爲めに斃るゝ者四萬の多數に達すべき割合なり。然るに日本軍に在りては戰死者一萬に對し病死者は僅に二千五百の比例を示せり。若し戰場に於ける死者の總數何れも五萬人なりと假定せんか、米兵の病に斃るゝものは二十萬以上に達し、日本兵は僅に一萬二千五百人に過ぎざるべし。若し西米戰爭を以て眞個の比較標準と爲すべきものとせんか、疾病の爲めに蒙る米國の損害は七十萬人にして、之に對する日本軍の損害は一萬二千五百人の割合なりとす。

# 第七章

戰爭に對する國民の態度にして之を避けんと欲し、其行動の決斷を缺き若くは其準備冷淡を極め、又其軍隊の秩序なき烏合の衆たらんには、是れ失敗の準備をなすものなり。

戰爭の準備は其目的一定して應用詳密ならざる可らず、其準備を爲し得る時期に於て國民將來の敵を定め、目的に關する種々なる武器と戰鬪の地域とを擇ぶは、何等不確實なる點あらざるなり。

軍事的活動の目的によりて、之に對する準備の性質を決定せざるべからず。然るに此準備にして目的なく、その統御錯雜して星霧的空想なる時は、是れ一定の目的に適合する軍事的方法にあらざるなり。

國民の軍事的準備は恒久不變にして、一樣に凡ての國民に適合すること能はず。その戰ふ國の如何に依て變じ、又現存せる軍略上の便宜若くは困難に依りて定めざる可らず。苟くも軍事的準備は年代人種及び地形の差異の存する以上は、凡ての戰爭に於て同一なるものにあらざればなり。若し國民が其膨脹發達によりて

戰爭の性質も亦從て進化するものなることを否定する時は、其軍隊組織は遂に一定不變のものとならん。此一定不變の狀態は軍事學上一の變態にして、屢々國民終局の敗亡と瓦解とを來すものなり。戰術の發展は原因結果に於て變ることなし。歷山大帝の兵も、シーザーの軍隊も、チャーレス帝、フレデリック大王、奈破翁、シヨールンホルスト、フォンモルトケ或は山縣(山縣元帥を指す)の使用したる兵器、及び戰術の變化より考ふるも皆然り。是等諸將軍の成功は戰爭の斬新なる手段と方法とを應用して獲得せるものなり。國民活動の如何なる方面も、海陸軍の如くにその統治及び發展に於て變化を要するものはあらず、又政府の如何なる部分も一たび一定不變の組織に委せらるゝ時、海陸軍の如くに忽ち退步を來すものはあらず。

武器及び訓練に關する戰爭の準備は、千變萬化せざる可らず、而して直に戰鬪の舞臺の變化に伴はざるべからず、メキシコとの戰爭にその準備を支配したる條件は獨逸との戰爭準備に對する要素とは何等の關係なきなり。且戰爭をなす敵軍の目的、及び武器、戰爭の目的地、其他無數の條件は、その程度こそ異なれ、米國の陸軍準備を變化せざる可らず。是等は皆平時に其準備をなすの必要あるなり。戰爭の

準備を以て單に非常の場合に適合すべき一便法に過ぎすと思惟し、開戰の時まで之を延引する如きことあらば、國民は結局破滅を以て終るべきなり。

近代的戰爭の成功の機會は、國民が海陸軍をして戰爭の新なる狀態と、種々なる舞臺とに適合せしむる遲速如何に比例するものなり。已に知られたる敵軍と種々なる戰場に對する特別の準備を缺く時は、假令一般的準備は等閑に附せられずとも、戰闘上の困難は減少する所甚だ多からす、或る場合に於ては豫期せざる條件の制限が甚だ强きが爲に、其國民は海陸軍を有するにも拘はらず、敵軍の重なる戰場に於て戰闘する能はざることあり、斯る事實あるが故に戰爭其もの丶考究を爲すに先ち、米國が日本と戰ふ爲に取りたる戰爭準備の如何を十分に調査せざる可らず。

概言すれば戰爭の舞臺は太平洋にして、その戰闘區域は比律賓群島、布哇、アラスカワシントン、オレゴン、及びカリフオルニアならん。此戰爭の進行、及び歸着を決定すべき主要なる原素の特徴は、兩國の海陸軍が通過せざるべからざる大なる距離なりとす。日米戰爭に於ても他の國際的戰爭の如く軍略上必要なる地位の占領は、兩國民の主眼として戰ふ所なり。斯る地位を永久に占領するは、戰爭の終局を

定め勝敗を決する所の海陸軍の要素なればなり。而して日米戰爭に於て、此軍略上の要地は現今全く米國の手中にあり。故に之を防禦して勝利の餘地なからしむれば、戰端は近き將來に於て發生すべき虞なからん。然るに是等の領土が全く防禦なきを以て、是れ乃ち好戰國民の野心に取りて抗拒すべからざる誘惑となるなり。

米國の太平洋領地の占領、及び支配權を定むる所の條件は、日本に適當するが如く又米國にも適當せり。開戰に先ちてアラスカ、太平洋海岸、布哇、サモア及び比律賓群島を防禦せざる限りは、兩國民に同一なる機會を與ふるなり。其最後の支配權は日米何れにても第一に之を占領し、而かも確實に占領する國民の手中に落つべし。

是等の土地の占領及び支配は、三個の條件に由り兩國民に對して決定せらる。

一、太平洋上に於ける一時的海軍力の優勢。

二、訓練せる軍隊の迅速なる出動。

三、交通の有効なる方法を有すること。

米國が太平洋領地に充分なる海陸軍の保護を與ふることを欲せざる時は、日本に

對して一時全太平洋の支配權を與ふるのみならず、その一時の支配權をして永久なる狀態に化せしむるに充分の時間を與ふるなり。合衆國にして太平洋の四方に充分なる海軍根據地を置き、陸軍の攻擊に對して保護を加へ、太平洋艦隊の設備を日本の全海軍以上に爲すに非ずんば、合衆國は劈頭第一に全然太平洋の支配權を失ひ、戰爭の繼續する期間、再び之を囘復すること能はざらむ。

太平洋を占領し支配することは、單に優勢なる海軍にのみ依らざるなり。太平洋は渺茫たり、米國の領地は互に遠く隔離せり、されば陸軍の力を以て之を保護することは根本的の必要なり。海軍の効力もその戰鬪力の範圍も單に廣く離れたる根據地に依て定まるにあらず、其攻擊に對して安全なる點に由て定め分るゝなり。旅順口は唯軍艦に對しては難攻不落の要地なりき、然り、若し海上の支配權を失ふて敵に與ふるに軍隊輸送の機會を以てし、陸上の攻擊を可能ならしむるに於ては凡ての海軍根據地はかゝる狀態に陷らざるを得ず。

敵軍が一時海上權を支配するは軍事上の計算に於て單に可能的なるのみならず、將來有り得べき事實なりとす。かゝる場合には凡ての領地港灣要塞は陸上の攻擊に暴露せられん。而して之が防禦の爲には特別なる港灣のみならず、海岸何れ

の部分にも上陸する所の敵軍を擊退するに充分なる、軍隊を出動せしむるの準備無かるべからず。日米間の戰爭は海軍に由て決定せず、陸軍を以て決定せらるべし。即ち海戰に訓練せられたる陸軍を戰場に出動し得る速力如何は、其占領地に對して永久なる陸軍の支配權を獲得すべき要素なりとす。

現今の陸軍組織は、米國は日本が五十萬の熟練せる軍隊を戰場に送ると同時間に、一萬九千の常備軍を、その戰地に送ることすら不可能なり、米國にして日本と同一なる兵力を募集し、武裝し、訓練せんと欲せば、三ヶ年以上の歲月を要す。

戰爭の舞臺を定むべき標準は其距離の遠近如何によるを以て、軍隊輸送の方法を有することは、戰爭の結果を定むるに當て最も緊切なる要素なり。軍隊の活動は日米戰爭に於ては全然輸送力の如何に由らざる可らず、若し日本にして其陸軍の要求に應するに足るべき海上の輸送力なき時は、日本軍は到底太平洋海岸、及び是に瀕せる米國領土に手を下すこと能はざらん。之に反して米國が二萬の常備軍を要するも、現今に於ける陸軍の運輸方法より以上の設備なしとせば、米國は國境以外に出でゝ一回だも戰鬪を試むること能はざるべし。況んや不幸にして米國は戰場に出すべき五萬の軍隊さへも有せさるに於てをや。然るに之に反して日

本は太平洋輸送の完全なる方法を有するを以て、其大軍を太平洋の何れの部分にも、極めて容易に輸送し得るなり。奈破翁がエルベ河を横ぎり、ダニューブを越へて、巴里より同一の軍隊を輸送し、グラント將軍が南北戰爭の時に其軍隊を戰場に運輸したるより寧ろ其勞尠かるべし。斯く陸軍の輸送力なき米國は、米西戰爭の際一軍團の兵を送るに尚三ヶ月を要したり。而してハバナは米國通商の中心點を距るゝこと僅に三日路なりし、日露戰爭に日本軍は宣戰後八日にして其軍隊を亞細亞大陸に進めたりき。然るに千九百七年即ち米西戰爭後十年を經て、米國政府は玖馬島に六千の軍隊を輸送するがために外國の船舶を借入れたり。之に反して日本政府は必要なる場合には自國の船舶を以て、二十萬以上の軍隊を運輸すべき充分なる輸送力を有するなり。(附錄第七表)

米國は戰時陸軍輸送の組織を、太平洋若くは太西洋に設立すべき基礎を有せざるなり。現今米國は太洋の航海に適する船舶の數甚だ少くして、其貿易の九割一分は外國船に依て行はるゝなり。

アラスカ半島の軍略的港灣は、北太平洋及びサモアを支配し、又南部太平洋を左右する特權を握れる者なるが、日本及び桑港よりの距離は同一なり。若し防備なく

んば之を占領せんが爲に海陸軍の力を勞するは寧ろ無用なり。何となれば是れ太洋の全體を支配する國民に屬すればなり。然しながら此兩地の間に等しく防禦なき土地あり、布哇諸島是れなり。是れ即ち日本が依て以て太平洋に其『元老的』の地位を得んと欲する門戸たり。日本は過去二十年間之を計畫して奮鬪し、毫も遲疑逡巡する所ありしを見す、實に泰然自若として氷河の如く堅實なる速力を以て此豫定の一點に進行せり。而して日露戰爭の終尾に至つて、是等の諸島を占領せんとする計畫は愈々積極的の態度を帶びたり。

米國にして若し布哇に海陸軍の大根據地を作りたらんには、日本の布哇諸島を占領するの機會は、假し絶對的に消滅せずとせんも、尠なくとも大に之を減少せしならん、是等の諸島にして侵犯しがたき米國の根據地を形成する以上は、米國本土は戰鬪の範圍を脱することを得べし、米國海陸軍力が太平洋或は布哇に確立せらるゝ企圖なき間に、日本は遂に此目的に向て極めて有力なる準備をなせり、即ち米國の海軍力が將來如何なる形を爲すとも、布哇諸島は内部より日本人の手に歸し、忽ち日本海陸軍の根據地に變更せられん、されば米國の本土に如何なることありとも、到底米國の力を以て之を陷落することを得ざるに至るべし。

領地の保存は第一に優越なる陸軍の力に由るものなり。唯攻擊軍が陸上に於いて防禦の兵よりも勢力優れるか、又は海軍の封鎖が包圍の性質を帶ふる時に於てのみ、其維持の危くなるものなり。若し布哇諸島の軍事的占領が日米兩國の孰れたるを問はず、充分なる兵力を以て行はるゝ時には、海軍の力を以て之を獲取し或は恢復すること能はざるなり。然り、布哇諸島の支配權は海軍問題にあらずして陸軍問題なり。

日本人の布哇移民は經濟上よりも寧ろ政治上の意味を有するなり。而して其要素は政治上の三時期各十年間に分つことを得べけん、之を分つて二となす而して其二箇の要素は左の如し。

一、米國の太平洋發展。

イ、布哇共和政治の設定。

ロ、布哇の合併。

ハ、比律賓群島の征服。

二、日本の政治的發展。

イ、布哇の合併に對する日本の抗議。

ロ、支那に對する日本の勝利。
ハ、露國に對する日本の勝利。
ニ、日英同盟。

最初の政治上の十年間(千八百八十四年より千八百九十六年)に於ては

一、布哇王朝顚覆し、米人の共和政治起れり。
二、日本は合併に對して抗議をなせり。
三、日本は支那を破り、太平洋より支那を驅逐し、太平洋の强國として政治上の發展を始めたり。

是等の出來事と同時に、布哇に於ける日本人の數は千八百八十四年には百十六人なりしが、千八百九十六年には二萬二千三百二十九人に增加せり。

第二の政治的十年間(千八百九十六年より千九百年)には左の事件起れり

一、布哇の合併。
二、比律賓の征服。
三、日本の海陸軍の發展。

是等の出來事と同時に、日本人は千八百九十六年の二萬二千三百二十九人より千

九百年の六萬一千百十五人に增加せり(布哇島の人口總數は千九百年には十五萬四千一人なり)

第三の政治的十年間(千九百年より千九百八年)に左の諸件起りぬ。

一、日本は露國に捷ちて、太平洋より同國を排除し、太平洋の主權者として益々發展し來れり。

二、日英同盟成立し日本は世界的强國として世に出でたり。

三、日本海陸軍の未曾有の發展。

此等の諸事件と同時に日本人の布哇移住は、千九百年より千九百八年の間に六萬五千七百八人に增加せり。然して此間に布哇より出發せる者は四萬二千三百十三人なり。斯の如くして軍務に堪へざるものは、大戰爭に參加したる老功者と差換へられ、而して布哇の陸軍的占領は試驗的に成就せり。(附錄第十一表)現今此等の諸島に日本軍隊の兵役の義務を終へたる者(原註其或る者は日露戰爭の勇士なるが)は、米國の全野戰軍隊に超過せり。されば宣戰後の二十四時間に於て、此島を守護する米國の一大隊は直に全滅に歸せん。(將校十二人兵卒二百九人)布哇の主權が一日にして永久にその跡を絕つと共に、米國も亦同一の方法を以て、また同一

の時間に於て永久に排除せらるべし。

比律賓群島の占領と布哇の占領とは全然異れる問題にして、陸軍活動の範圍に屬するなり。軍事上の意味より云へば比律賓は、日露戰爭に於ける滿洲の海岸よりも一層日本に接近す、且つ軍隊の輸送を妨ぐべき艦隊を有せる旅順口なく、又其上陸に反對する廿五萬の兵卒なし、激烈なる寒氣なく、荒らき海波なく、黃海に起るが如き波濤なく、氷を以て塞がれ若くは上陸地が艇舟を以て辛く上陸したる如き困難なし、五十萬の兵卒を有して抵抗する所の遼陽と奉天となし、砂礫を鎔す如き驕陽に之を横斷する曠原なし、徒渉すべき幾多の河川なく、地雷火を伏設せる山腹を登攀する危險なし、千仭の山谷なく、屈曲の迷路なく、纔かに存在せる一團の軍隊がその防禦力を失へば忽ちに征服せられんのみ。

日本が比律賓を征服せんとするや、米國がキューバを占領したるよりも容易の業なり。蓋しキューバのサンチアゴは宣戰布告後、殆んど三ヶ月の後に陷落したるが、マニーラは三週間以内に占領せらるべし。即ちキューバの占領は、比律賓が日本に依りて占領せらるべき方法を、吾人に比較的確實に示すものなりとす。如何なる海軍も其戰鬪力にして日本の全海軍に匹敵するに足り、且つ開戰以前に比律

賓に根據地を有するに非ずんば、進擊者に對して何等の有効なる抵抗をなすこと能はず。されば米國の海軍が現狀を改めず、且つ比律賓群島に於ける其根據地なき時は、同島の防禦は不可能なりと謂はざるべからず。若し米國艦隊にして分離せられんには、比律賓海に於ける軍艦の運命は、セルベラの敗北を繰返へさんのみ。僅かに呂宋に屯在する陸軍にして、マニーラを守るの力を有する場合には、キユーバのサンチアゴたるを免れ得んのみ。

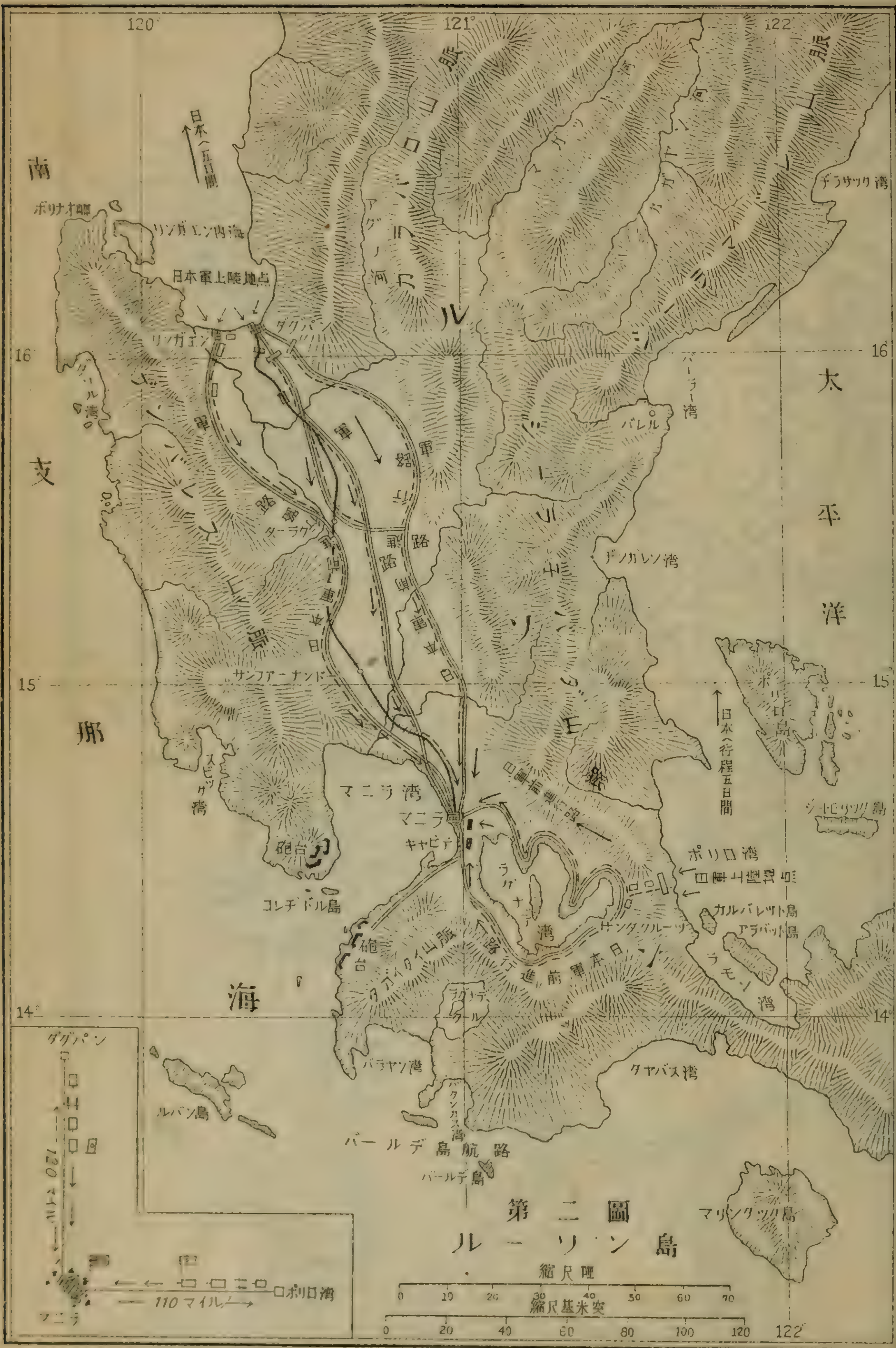
比律賓の港灣防禦にして、敵軍の輸送を阻止するに足るべき強き艦隊の根據地を作り、敵軍の攻擊を妨ぐに足るべき力を有する軍隊の保護あるに非れば、實際キユーバの防禦はモロ城の如く復た何等の防禦的價値なきに至らん。旅順口は永久的城砦として決して難攻不落にあらざるを示し、寧ろ是れを建造するの愚なることを暴露せり。國民の斯る石城は彼等の自負心の蜃氣樓たるに過ぎず。其城砦に立つものは妄想にして、其窓牖に集るものは幻影のみ。

マニーラ若くはスビグ灣、或は其他の砲臺は、若し砲臺の効力以外に其防禦に必要なる他の要素を缺く時は、日本軍が其比律賓諸島を占領するを妨げ、若くは止むること能はざるなり。キユーバの勝利は城砦より離れたる處に上陸したる陸軍の

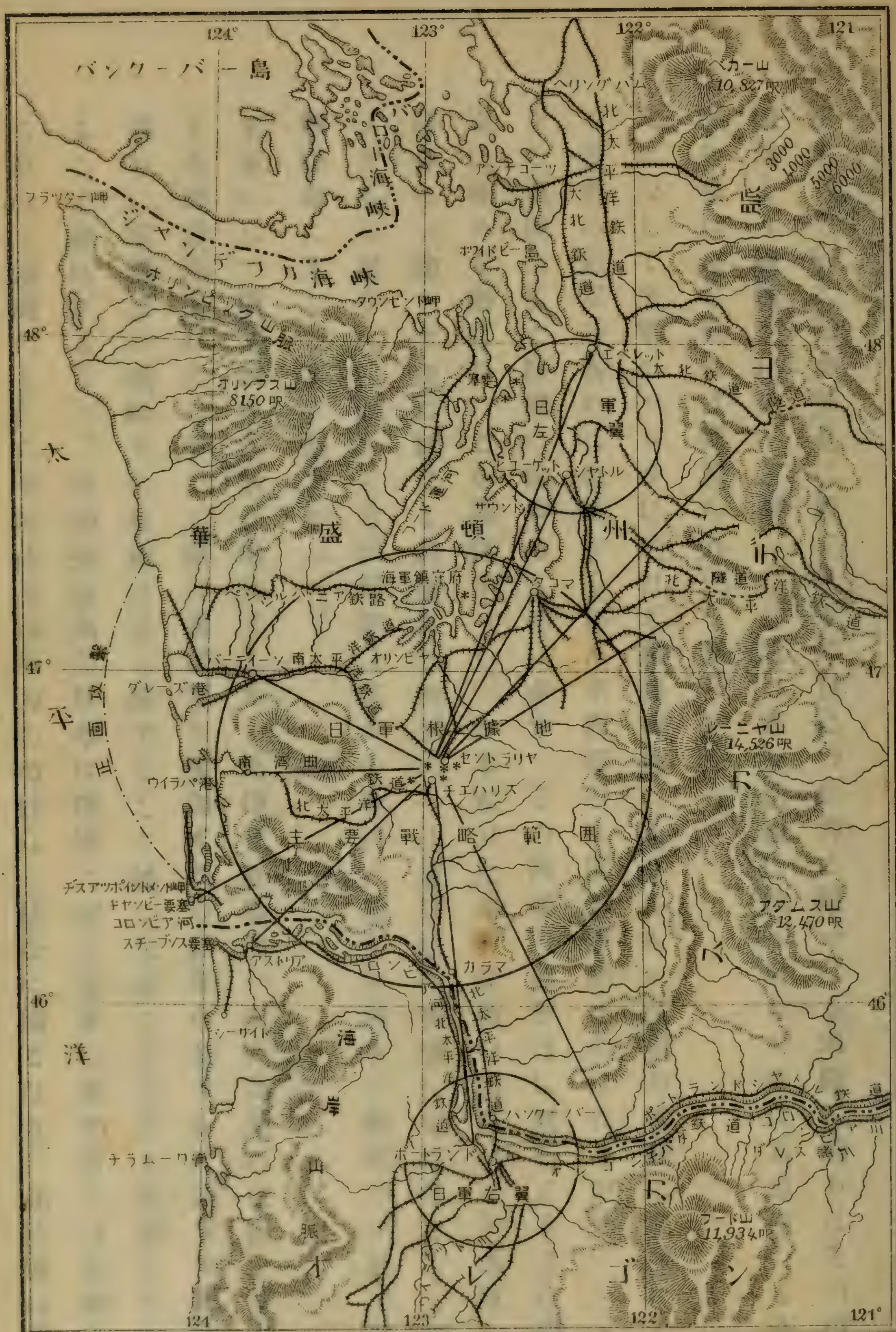
成功なりしが如く、比律賓も亦た同一の方法によりて陷落せん。呂宋の北岸にあるリンガヤン灣、或は東岸のポリロ、バイトは、日本人の爲にガンタナモ灣たるべし。比律賓群島の征服は、複雜せる軍事上の問題なれども、一方より之を見る時は、極めて單純にして數言を以て之を說明し得べし。

比律賓を護れる米軍の數は一萬四千に過ぎず、之に土民兵五千を加へて全部皆マニラに駐屯す、日本軍はダクパン(地圖二參照)に二萬人の一隊を上陸せしめ、又ポリロバイトに同數の一隊を上陸せしめんか、軍略上より云へば米軍の地位は維持し難きに至るべし。此等の上陸點は共に殆んどマニラより同距離にして、軍用の通路を以て連接せらるゝと共に、鐵道は又た首府とダクパンとの間に通ず。

現存する同島の兵力を以てマニラの防禦を爲すことの不可能なるは、日本軍の集中的攻擊に固有なる軍略上の卓越の點に依て明かなり。(第二圖參照)此等の二隊は米國の其れよりも殆んど二倍以上の兵力を以て直角にマニラに集合し來り、彼等は共に同一の速度を以て進むが故に、常に米軍の地位に對して兩者共に同一の距離を保つなり。若し米軍にして二隊中の何れをか迎擊せん爲めに進まんか、攻擊を受けざる他の支隊は其マニラを距ること、米軍と同一なるを以てその間に介


南支那海
太平洋
日本へ五日間
ボリナオ岬
リンガエン湾
日本軍上陸地点
ダグパン
リンガエン
スビック湾
サンフアーナンド
マニラ湾
マニラ
キャビテ
砲台
コレヒドル島
ラグナ湾
ポリロ島
日本へ行程五日間
ポリロ湾
カルバレット島
アラバット島
ラモン湾
タヤバス湾
バラヤン湾
ルバン島
バールデ島航路
バールデ島
マリンヅッケ島
デンガレン湾
バレル
バーラー湾
チラサック湾
アグノ河
サンタクルーツ
110マイル
120マイル

第二圖 ルーソン島




第三圖

縮尺哩程 0 10 20 30 40 50

縮尺基米突 0 20 40 60 80



在すべし(第二圖參照)是に於て米軍は自己の兵力と同一なる軍隊の爲めにその根據地より隔離され、殆んど同一なる第二軍を前面に控へ居るが故に、其地位たる全滅を免れんと欲せば降服の外、他に道なからん。

之に反して米軍がマニラに於ける戰鬪線內に止まらんか、宣戰布告後二週間にして多數の敵軍の爲めに包圍せられん、米西戰爭に依て證明せられたるが如く、マニラの戰線は長く防禦に堪ゆるものに非ず。その周圍の地を己に我有とする攻擊軍は、極めて短時日に之を陷落すべし。日本軍が比律賓群島を占領せんか、米軍の四分の一、即ち米國に於ける訓練兵の四分の一は、最早他の戰爭に從事すること能はざるに至らん。而して米國艦隊は其大小如何に拘らず、戰爭の繼續中は再び亞細亞海に入ることを得ざるべし。

米軍にして戰爭前に其數を增加するとも、比律賓群島の一般の防禦の設備をなさゝる時は、唯夫れ之に準じて敵の進擊軍を增加するの結果を呈するに過ぎず、之が爲めに軍事及び戰略上の狀態は毫も變ずること無く、又避く可らざる結果を止むること能はざるなり。比律賓群島の防禦は陸軍に非ず、海軍に非ず、若くは防禦せられたる港灣にもあらず、唯此等諸勢力の巧妙なる結合に賴るなり。此防禦は單

に突然發生すべき戰爭に對する應急の手段にのみ依賴すべからず。宜しく之を米國の國是、及び其多年の計畫に依る軍事的準備に適應せしめざるべからず。即ち之を以て豫期すべからざる戰爭の成行に放任せしめずして、須らく現下の狀勢、及び人類の智識と努力、並に兵學上より得る所の制度とに依りて以て之を決定せざるべからず。

# 第八章

日本が布哇及び比律賓群島を占領するは、事實上アラスカ並に他の島嶼的領土の占領、及び太平洋の海上權の確得を意味するものなり。然れども此等の占領は日本の大目的に非ずして、之に隨伴して起るべき出來事たるに過ぎず。換言すれば太平洋海岸を占領することは、此等の領土を直接に占領したると等しく日本の主權を確立することに就て同一の結果を生ずべし。

將棊の遊戲に勝つはその棊子の地位の如何によると等しく、將に來らんとする戰爭に日本の打つべき王手は太平洋海岸なり。されば日本が戰爭の始めに是等の領土を占領することは明かなり。其占領は日本に取りて多大の勞力を要せず、又日本が米國本土征服の爲に必要なる海軍力は毫末も殺減せらるゝなければなり。此等の領地を占領せんとするや、豫備軍の第二線と補助巡洋艦及び二等戰鬪艦の艦隊とを以てその目的を達し、主たる海陸軍力は他日のために之を保留することを得べし。

日本が布哇及び比律賓群島を占領する中に十萬の兵卒を載せたる運送船は、戰鬪

艦、裝甲巡洋艦、及び水雷艇の掩護の下に太平洋を橫斷すべし。然るに一時間十節の速力を以て航海する時は此艦隊は宣戰布告後四週間乃至、五週間以內に太平洋海岸に達せん。而して延長一千五百浬の海岸の何れの地點にか上陸し、以て米國の攻擊を開始すべし。（附錄第七表）

米國に取りて主要なる大問題は太平洋海岸の防禦なり。此海岸にして一たび日本の軍事的主權の下に屬せんか、太平洋及び其領地を失ふのみならず、米國の最も富裕豐饒なる土地は日本の手に歸せん。日本にして若し華盛頓、オレゴン、カリフオルニア等の諸州を占領せんか、此等の諸州は日本軍の爲に他の諸州との連絡を絕たるゝのみならず、其東境なる無人の荒地、及び其城壁たる山岳によりて兩者は全く分離せらるべし。かゝる場合に至らば如何に多數の兵力と、多額の費用とを以てするも到底其領地を回復すること至難なり。されば太平洋海岸の防禦は唯日本をして米國內に立脚地を得せしめざるの一點にあるのみ。此等の諸州を失ふとも又回復せらるべしとの希望に依賴するが如きは、是れ徒らに難を避け荏苒事を延さんとするものにして、盛んに米國に行はるゝ國家的虛榮心を表示するのみ。

太平洋海岸の防禦は第一に海軍に屬するものなり。然れども米國の必要なる海軍の擴張が、自負心と無智と社會の冷淡とに制せらるゝ間は、何時太平洋海岸が日本軍の攻撃を防ぐに足るべき絶大なる海軍力を以て防備せらるゝを得べきか、之を豫想すること能はざるなり。

米國が他國の海軍に對する現今の比例を以て其海軍を維持せんとする方針を繼續する期間は己に論じたるが如く米國の海軍は一の大洋に集中せられざるべからず。而して太西洋は米國に取りて最も必要なる海軍の活動範圍なるを以て、其儘此所に之を留め置かざるべからず。

日本にして一たび開戰を布告せば、米國の海軍狀態は左の二個の境遇中其一に居らざるべからず。即ち米國海軍が太平洋及び太西洋兩者の間に分割せらるゝか、或は其全體が皆太西洋に在るか是なり。而して何れにしても日本は直ちに海軍の主權を握ることを得べし。

抑も米國海軍の二分せらるゝことは、太平洋の海軍の破壞を意味す。而して太西洋に在る海軍は殘留の一部たると又は全部とを問はず、此戰爭には何等の効果を及ぼすものにあらざるなり。

平時最も都合よき情態の下に米國艦隊が太西洋の根據地を發してカリフォルニアに達せんと欲せば、數ヶ月を要するなり。然しながら不幸にも戰時は種々の障碍ありて、此移動を阻止せらるべし。宣戰中米國の艦隊は、曩きに太平洋に其戰闘艦を送りし場合の如くに、南米の諸港を利用することは能はざるなり。一時に局外中立港に軍艦三隻以上を送ることは、國際法の交戰國に對して之を禁ずる所なり。又彼等は二十四時間以上玆に止まること能はず。從て兵器、彈藥、其他の供給品を得る能はず。纔かに次の港にまで進行するに足るべき石炭を積込むことを得るのみ。又同一の船艦は三ヶ月以内に再び同一の港に入ることを得ず。此の如き禁制あるを以て米國海軍は其食料と石炭とを全然補助船に依頼せざる可からず。

今や吾人は一見不可思議なるも其實合理なる事實に逢着せり。即ち太西洋艦隊の出動力若くは戰闘力は、戰爭の舞臺が太平洋なる時は、其數の增加と反比例して減少するものなること是れなり。換言すれば今日の米國海軍力の現勢は、戰爭の際太平洋に移動することすら能はざるなり。現に最近十六隻の米國軍艦が世界周航の途に上るに當り、二十九艘の外國運送船を雇入れたるが如きは其一例にし

て、若し然らざれば到底太西洋を出發すること能はざりしなり。當時是れ以上の艦隊の出航せんには、運送船の數は軍艦の增加に準じて增加すべきのみならず、局外中立港をも使用し得ざるが爲め、更に此必要に應ずるだけの船數を增加せざるべからず。然れども戰時は局外中立國の船舶を借入るゝこと能はず。此禁制あるが爲め米國は海戰に運輸すべき必要なる方法を奪はるゝなり。

一國若くは其領地の一部分なる海軍の防禦力が缺乏するか、若くは兩交戰國の海軍力が平均せるかの時には、双方ともに領土の重なる防禦は陸軍の力に依賴せざるべからず。一國の海軍力が他國の海軍力に對して明かに優勢なるが故に、殆んど戰爭の危險を冐す必要なき場合にのみ、國民は其陸軍と陸上の防禦とを閑却して其損害を受けざるなり。

日本との戰爭に太平洋海岸の防禦は、米國の海軍力よりも寧ろ陸軍に依賴せざるべからず。縱し米國政府の方針にして太平洋に充分なる海軍力の維持を是認する場合に在ても尙ほ且つ然り。現今の狀態はワシントン、オレゴン及びカリフオルニアの防禦は全然陸軍に依らざるべからず、然るに實際太平洋海岸の陸軍防禦は海軍防禦と共に全然閑却せられ居るなり。

ワシントン、オンゴン及びカリフオルニアを日本の攻撃より防禦するは左の如き三個の明白なる特質を見ん。

一、長き海岸線は三個の防禦的區域を形成し、各自全然獨立せる程度に分離せられ、而して其軍隊は一の戰場より他の戰場に移動すること能はざるが故に、東部諸州と各自獨立の交通を維持せざるべからざること。

二、日本は短時日に其の陸軍を米國に輸送することを得、即ち日本は四週間に二十萬の軍隊を、四ヶ月間に、五十萬を十ヶ月間に百萬餘を、米國に輸送することを得べし。されば米國も亦之れに應ずるの準備と、急速なる動員の組織とを爲さざるべからず。

三、宣戰布告後一ヶ月以内に、米國は太平洋海岸の三防禦區域に對し、日本が一航海を以て輸送し得る、最多限の軍隊と戰ふに足るべき兵力を送らざる可らず。而して其兵力は二十萬以上ならざるべからず。若し其防禦力を海岸の一部分にのみ限るが如きことあらば、唯敵軍が其攻撃力を殘りの一區域、若くは二區域に轉ずるの結果を來たすに過ぎざるべし。

現今の狀態は此防禦區域の何れにも常備歩兵の一聯隊、若くは民兵の二聯隊を有

するものあらず、而して米國の全體を通ずるとも、聯邦陸軍の步兵は僅々一萬に過ぎず。

米西戰爭の時、宣戰の布告より數日の後義勇兵の募集ありしが、四ヶ月を經て僅かに二十一萬六千人の兵卒を募集し其訓練を開始せり。而して彼等は戰爭の終りに至りて、一部の訓練を經て陣營的生活の初步に通じたるのみ。

太平洋海岸第一の防禦は、合衆國陸軍の使用し得べき一部を以て之に當つべし。然るに現今の陸軍組織は其兵力纔かに三萬を出でず。此外尙ほ直に用ひらるべき六萬の民兵あり。即ち米國の軍隊は總數九萬の兵卒と一百五十門の大砲あるのみ。是れ即ち編成されたる民兵の六割七分なり。然れども米西戰爭には實際民兵の四割のみ就役したり、此計算に依れば信賴するに足るべき民兵は、僅かに四萬二千に過ぎざるべし。

此等の兵員は合衆國全體に散在せるを以て、之を召集し之に武裝して隊伍に編入し、其他幾多應急的の處理を爲すを要す。而して此等の準備にして完成するも尙ほ桑港金門より日本內海に達する以上の遠距離を、鐵道を以て輸送せざるべからず。

吾人が既に論述せし如く軍事上の意味よりすれば距離は哩數を以て計るものにあらず。輸送機關の速力と能力とを以て計るものなり。而して此手段の有効なると否とに依りて、軍隊及び供給品の通過すべき距離は伸縮するものなり。

太平洋海岸は亞米利加大陸を横斷する鐵道の集合點を有せざるなり。ワシントン及びオレゴンに達するものは、カリフォルニアに達するものと何等の聯絡なく、其出立の地を異にし、其通過する地も異なれり。されば太平洋海岸の戰爭には、軍隊は大北鐵道、北太平洋鐵道、若くはオレゴン、ショート鐵道を以て運搬することを得ず。又南部太平洋、或はサンタフエ鐵道に依りて、ワシントン、及びオレゴンに送ることを得ざるなり。然れば軍事上より見る時は太平洋海岸は二線以上の鐵道に依ること能はず。

ワシントン、及びオレゴンに送るべき軍隊は合衆國の各部分より之を徵集して其供給品と共にセントポールの附近に集め、茲に各軍隊の集合地を造るべし。之と等しく南部及び中部カリフォルニアに送るべき軍隊に對しては、他の根據地を選定せざるべからず。

太平洋海岸に軍隊供給品を運輸することは、日露戰爭に露國の遭遇したるよりは、

更に多大なる困難を感ずるならん。蓋し露西亞は合衆國の有せざる二個の利益を有したり。
第一、露國はシベリア鐵道、及び其設備を有したり。
第二、シベリア鐵道は人口稀少なる土地を通過す。其文明の程度低きを以て是等地方の人民は、生活上鐵道に依らざるなり。
然るに一國の文明發達して複雜となれること米國の如きは、人類相互間の關係も益々增加すべし。米國には獨立獨行他に關係なき社會團體は始んど存在せずして、合衆國の西部に於ける一農夫も町も郡も皆共に獨り其供給品のみならず、生活上の必要品を購買する爲に其資金を得んと欲せば孰れも鐵道に依らざるべからず。
ミスシッピー河の流域より太平洋に至るの距離は二千哩なり。然して其間の人民は皆此鐵道に依りて生活するが故に、其交通の機關を失ふときは殆んど生活に窮せんとす。彼等は其供給品を之に仰ぐのみならず、穀物、羊毛、家畜、鑛物、材木、及び其他の產物を東部の市場に送り、是に依りて產業及び其生活に必要なる物品を購買せざるべからず、故に政府は到底此交通を禁ずる能はざるを以て、戰時中軍隊及

び其供給品を大平洋海岸に運輸することは、露國の遭遇したるものよりも一層困難なる問題となならん。

戰爭の始めに當りて日本は米國の全然所有せざる土地の利益をも保有す。即ち其巨大なる艦隊により陸軍は大數を以て輸送せられ、且つ何れの地點を選ぶも自由なるに反して、米國は僅かに鐵道に依りて軍隊を輸送し能ふのみ。日本は太平洋海岸に向つて二十萬以上の軍隊を四週間以內に輸送し得れども、米國は宣戰布告前已に同一の兵士を有するとするも、之を太平洋海岸の戰場に出動せしめんとせば四週間以上を要す。

軍事上の意味より之を言へば、日本は米國の軍隊よりもワシントン、オレゴン及びカリフォルニアに對して三分の一の短距離の處に在り。而して大陸橫斷鐵道を悉く復線となし、戰時に於て政府は其線路を專用せざる限りは、何時までもかゝる狀態を繼續せざるべからず。吾人は斯の如く散布せる米國軍隊の動員、編成、武裝、運輸等に要する時間に就ては敢て之を論せず、寧ろ其歸着する所の如何を論せんとす、而して玆に取るべき二個の方法あり。

第一、米國は常備軍及び民兵を動員して之を訓練し、以て百萬の軍隊の基礎と

爲す期間、日本軍には其爲す所に任せて海岸を占領せしむること。

第二、此散漫せる常備軍及び四萬乃至六萬の民兵を海岸に送りて、日本人の上陸に對して戰鬪を開くこと。

吾人は米國の社會が第一の戰略を取るべしとは思惟せず。思ふに全國を通して異口同音に海岸に向つて進行すべしとの絶叫は起らん。果して海岸の如何なる部分に進擊すべきか。若し軍隊にして同州の中心なる南部カリフォルニアに進まんか、オレゴン及ワシントンは依然として防禦なき狀態にあると、毫も此等の軍隊の動員せざりし以前と異ならざるべし。彼等にしてサンフランシスコに進まんか、ワシントン、オレゴン及び南部カリフォルニアは、齊しく防禦なき境遇に立たざるべからず。若し又ピユージエットサウンドに向つて出兵せば、其南部は悉く防禦を失ふに至らん。而かも斯く兵力を分つは到底不可能のことたるや明らかなり。加之、彼の三防禦區域每に三萬の兵を配備することは、全體を犧牲に供するものにして戰爭の不可能なるは勿論、敵軍の侵入を遲延せしむることすら覺束なかるべし。

中部カリフォルニアの經濟的利益は南北カリフォルニア兩部を聯合したるもの

と殆んど相等し、されど軍略的の價値に至りては實に無限の大差あり。且つサンフランシスコ半島は七萬乃至九萬の兵が憑りて以て或る期間、日本の大軍を支ふることを得べき唯一の地位なりとす。サンフランシスコにして永久に保たれ東部との交通維持せられんには、米國は其兵力を茲に集中して南部カリフォルニア、若くはワシントン及び、オレゴンなる日本軍に對して適當の時期に出兵し得べけん。

以上の如く考究し來る時は米國の政府及び人民の輿論は、宣戰布告後直にサンフランシスコ半島に向つて現在の陸軍を集中するに傾くならん。勿論南北の海岸を防禦せずして之を放棄するは如何に危險なるにせよ、現今米國の軍事的境遇は桑港を以て眞個に兵力集中の好地點とするなり。

日本がワシントン及びオレゴンを攻擊するや、其周圍の境遇及び之を成就すべき方法は、最も簡單なる軍事上の問題たるのみ。コロンビア河口は三個の砲臺を以て防禦せらる、而して此等の砲臺は外寇に對するオレゴン州唯一の防禦力なり。然るにその砲力を悉く合するも唯だ一隻の日本のドレッドノート型に於ける大砲の力に及はざるなり。豈啻是のみならんや、砲臺なる大砲に兵員を充實せんに

は、六十七人の將校と千四百四十六人の兵卒とを要するなり。米國陸軍卿の報告に據れば此等の砲臺に於ける人員は、將校十八人兵卒二百四十六人に過ぎず。即ち設備せる大砲の六分の五は使用するを得ざるなり。若し單に此等の城砦に大砲と兵卒とを缺かざるのみならず、更に百倍以上の力ありとするも、オレゴンの攻撃を阻止すべき効力は殆んど有名無實なることは後章に之を論述せん。

次にワシントン州の防禦は、全くピユージエツト、サウンドに於ける三個の砲臺に委せらる。然るに此の砲臺はコロンビア河の砲臺よりも一層設備不完全なる狀態にあり。此砲臺の大砲に對する必要なる人員は將校一百二十九人、兵卒三千百八十人なるに、陸軍卿の報告に據れば實際は士官二十七人兵卒九百〇二人あるのみ。詳言すれば此等の大砲の五分の四は使用し能はざるなり。

外國の攻撃に對しピユージエツト、サウンドの砲臺は、コロンビア河の砲臺の如く全然無効なるものなり。而して同一の理由によりて此砲臺は、日本が最初の遠征に其兵卒を上陸せしむる爲に選擇すべき攻撃の根據地より大に隔離せり。思ふに其上陸點はグレース及びウイラパの二港ならんか、若し此港灣の入口に水雷を

布設せば、その上陸點は兩港の間に於ける海岸か、若くはグレース港の入口より北方なるべし。

日本軍隊の最初の目的地はピュージェット、サウンドの都市に非ず、ポートランドに非ず、又コロンビア河の都市にも非ざるなり。思ふに東方五十七哩に在る二個の小市街たるチェハリス及びセントラリアならん。此の二個の市街は互に相距ること四哩にして防禦軍の爲にも、又攻擊軍の爲にも二州の軍略的中心點を成すものなり。時間表に依ればグレース及びウィラパの二港は西に於て三時間、シアトルは北に向ひ三時間、ポートランドは南に當りて三時四十五分間の處に在り。又コロンビア河口の砲臺へは七時十五分間ピュージェット、サウンドの砲臺へは五時間半、タコマへは二時間、同州の首府オリンピアへは一時廿五分間、ブレマートンの海軍造船所へは四時間を要す、若し此等の場所に向ひて進軍することを必要なりとせば、鐵道時間表に依りて定りたる時間に之を爲すことを得るなり。

此中心點より汽車七時間の行程中にて、オレゴン州の人口五割八分あり、又ワシントンの人口六割一分は六時間以內の範圍中に在るなり、斯の如くオレゴン及びワシントンの人口の中心點に、此軍略的中心點は存在するなり。而して此等の諸州

を南北に横斷する唯一の鐵道線を左右する此中心點より三時間以內に陸地に包まれたる八個の深き港灣あり、即ち南方に二個、西方に二個、北方に四個とす、玆に造船所及び海軍貯炭所を設置しあり。

ポートランドは日本軍の右翼中心點を成すものなるが、東部オレゴン及びワシントンとコロンビア河、並に二個の平行鐵道線に依りて連絡せらる。

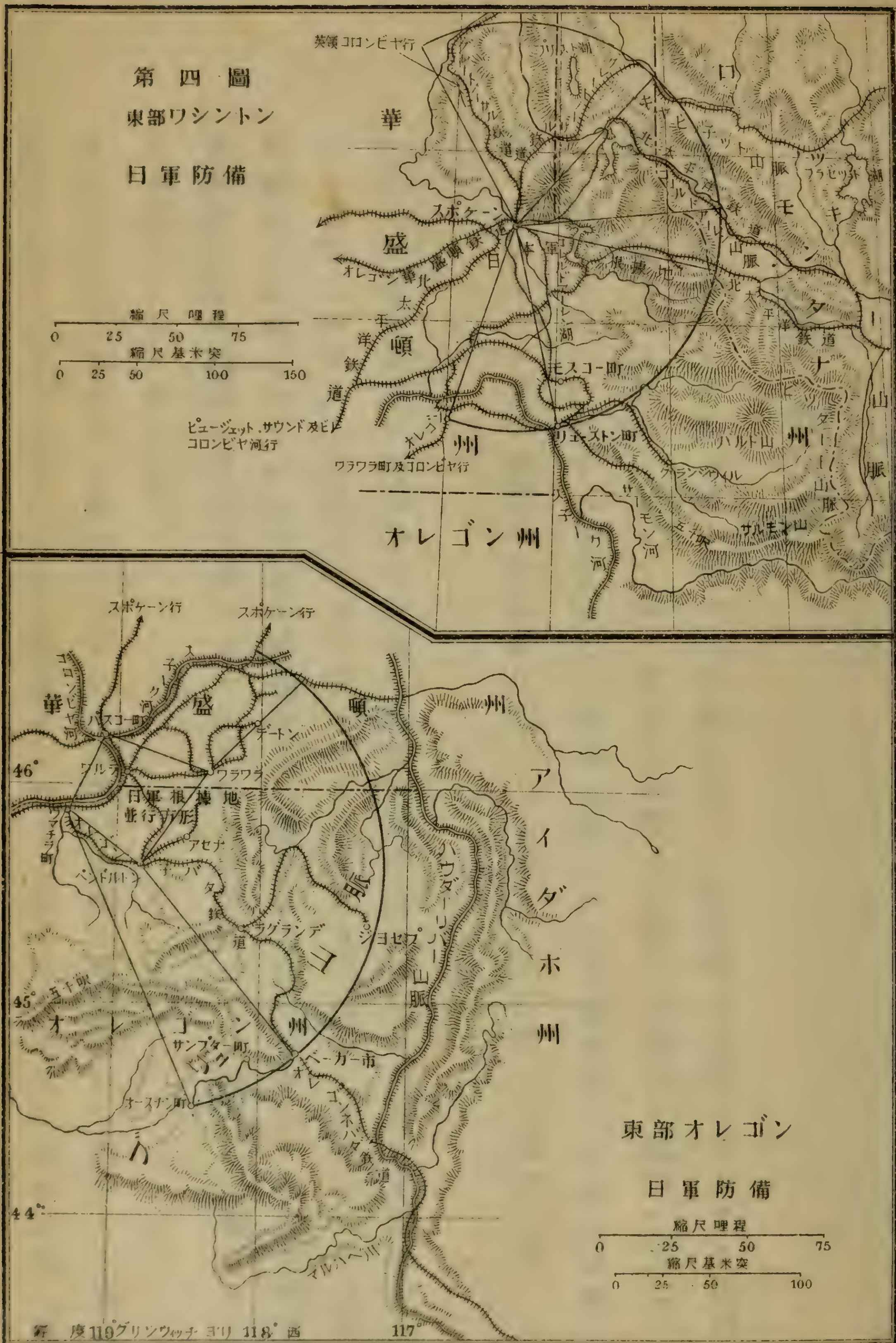
シアトル及びエベレットは、日本軍左翼の中心點を成し東方ワシントン及びオレゴンと三個の平行せる鐵道とに依りて連絡す。

此の軍略的中心點の占領を含有する意味は、具體的に其結果を觀察して後、始めて了解し得らるべし。されば米國軍にして其數も亦其力も日本軍と匹敵せざる時は、日本軍の上陸を妨ぐること能はざるべし。加之、米軍は宣戰布告後四週間以內に此土地を占領せざるべからず。コロンビア河口及びピユージエット、サウンドの砲臺は、此等の諸州の攻擊に就て何等の防禦的價値なし(第三圖參照)日本軍は此砲臺より五十哩若くは百哩の地域內に入らずして、其砲臺の防禦せんとする都市を占領せん。ポートランド及びピユージエット、サウンドの都市は、日本軍の占領する所と爲れるが故に、一發の彈丸をも放たずして是等の諸港は全然日本軍の掌

中に歸せん。

此一行動に依りて日本は單に軍事上の意味に於て此等諸州を占領するのみならず。經濟上及び政治上の意味に於ても亦然るべし。日本軍は一切の交通線路、港灣を左右し、日本帝國よりも一層大にして且つ富める地方の全部の富を左右するに至らん。

斯くして日本軍は一たび此地位を占領せんか、彼等は其住民を分離し、支配し、彼等と其活動とを左右し、其生產物を監督し、米國に於て未だ曾て見ざりし所の統一と專制主義とを以て之を統轄すべし。而してスポケーンの東なるビタールートー山岳を占領して城砦を築き。又東部オレゴンのブリユー山岳を占領せば、日本が米國の此二州に對する占領權は完全なるものとならん。


第四圖
東部ワシントン
日軍防備
縮尺哩程
0 25 50 75
縮尺基米突
0 25 50 100 150
英領コロンビヤ行
スポケーン
盛
頓
州
華
オレゴン州
モスコー町
リユーストン町
ピユージェット.サウンド及ビ
コロンビヤ河行
ワラワラ町及コロンビヤ行
モ
ン
タ
ナ
州
スポケーン行
スポケーンイテ
パスコー町
ワラワラ
日軍根據地
ペンドルトン
ラグランデ
ベーカー市
サンプター町
オースチン町
ア
イ
ダ
ホ
州
46°
45°
44°
東部オレゴン
日軍防備
縮尺哩程
0 25 50 75
縮尺基米突
0 25 50 100
117°



# 第九章

米國がワシントン及びオレゴンの防禦に對して無設備の狀態に甘んずる所以は、近代の科學及び發明によりて益々軍事上襲擊の可能なる程度を增加し、又之に準じて沿海諸州を防禦すべき手段にも變更を來したるを認めざるに在るが如く、南部カリフォルニアの防禦なき狀態に陷りしも、概して之と同一の理由に基くものなり。

是等の兩地方は太平洋海岸の兩翼の端を形成するものなるが、共に米國の中心點よりは遠く砂地及び山脈に依りて隔離せられ居れり。而して北部の城砦は其用を爲さゞる點に於てのみならず、外寇侵入の通路より距つるを以て何等の價値なきものなると同時に、南部カリフォルニアに至りては、かゝる城砦に依賴せんとする空想だもあらざるなり。

吾人は已にワシントン及びオレゴンの征服が、如何に單純にして然かも大切なるか、又如何に日本が速かに、殆んど戰爭をも爲すを要せずしてその目的を達し得べ

きかを論じたり。然れども南部カリフォルニアの占領は北部の諸州に比して更にその困難少かるべし。南部カリフォルニアはその面積に於てオレゴン州の一半に過ぎざれども、此面積の四分の三は砂地と荒野と山岳とに屬し、唯殘餘の四分の一のみ人民の住居する所なり。凡て都會及び耕作せられたる土地は海岸に接近し、全人口の九割以上は太平洋を距る三十哩内に居住し、全體の富の九割四分二厘五毛も亦海邊より同一の距離内に在り。(地圖第五參照)南部カリフォルニアの占領は其富及び人口が唯海岸の一部内に集中せるを以て洵に容易なり。此地方の人口の三分の二及び其富の三分の二以上は此一部内に於て見出さるべし。此の如き軍略地局の制限は遂に其周圍を都市の周圍にまで縮少し、太平洋南翼の勝利はロスアンゼルス市の占領に由つて左右せられんとす。然り同市のみに南部カリフォルニアの人口と富の半分以上を有するなり、且つ同市は此地方全體の政治、經濟、及び鐵道の中心點を成せるものにして凡て他の都市、町村、及び工業は皆之によつて生存せざる莫し。此地方の凡ての土地か敵手に落つることあるも、若しロスアンゼルスにして殘存


第五及第七圖
縮尺哩程
0 10 20 30 40 50 60 70
縮尺基米突
0 20 40 60 80 100 120
細線ヲ以テ示セルハ住民アル
開拓地
太平洋
サンタバーバラ海峽
サンミクエル島
サンタローザ島
サンタクルーツ
サンニコラス
サンタカタリナ
サンクレメント島
コンセプション岬
サンタバーバラ
ウエンチユラ
ロスアンゼルス市
サンタモニカ
サンタモニカ灣
レドンドー
サンピドロ
サンタアナ
サンデヤゴー
サンベルナルヂノ
サンヂヤシント
南太平洋鉄道
戰略根據地
サンタイネス山脈
サンラフエル山脈
不毛山脈
テハチヤッピー山脈
テハチヤッピー峰
テハチヤッピー峠路
ソウガス峠路
カヂヨン峠路
サンヂヤシント峠路
サンガブリエル山脈
クヤマ川
モシヤベ峠路
モハベ
鉄道
バスタウ
モハベ沙漠
サンゴーゴニオ峯
熔岩層
砂地
サンヂヤシント山脈
不毛ヤンヂヤキ山脈
120° 119° 118° 117° 116°
35° 34° 33°



せば、南部カリフォルニアは依然として軍隊上、政治上及び經濟上、米國の一部を成さん。然れども若しロスアンゼルスにして攻擊軍の有に歸せんか、南部カリフォルニアの全部は別に何等の打擊を加へずして敵手に落つべし。此地方の如何なる都市も町村もロスアンゼルスを敵の手中に委したる以上は、假令へ敵の攻擊を受けずとするも決して存在し能はざるなり。何となれば如何なる市街村落も畢竟ロスアンゼルスの廓外地たるに過ぎずして、一も能く獨立するものなければなり。

軍事上の意味に於けるサンデユゴーは、政治及び經濟上には比較的重要ならざるなり。此市は南部カリフォルニアの他の都邑と齊しく、一條の鐵道を以て聯絡せられたる隔りたるロスアンゼルスの廓外地なり。此聯絡にして一たび絕たれんか、そのサンデユゴーの北一哩の點にあるも、或はロスアンゼルスに於て一百二十七哩の外に於てするも其何れなるに係はらず、此市の運命や已に定まれりと謂ふべし。敵軍が太平洋を支配するに至ればサンデユゴーは全然孤立せん、此市は往古のカーセージの如く海及び砂地の會合點に建設せられ、西方には太平洋あり東南及び西北は、砂地を開拓して耕耘したる廓外の地、之を越ゆれば磽确なる山岳は

屹然として聳立せり。此市街の交通機關として一條の鐵道線路あり、海岸に沿ふて北に向つて七十四哩を走る而してその海上よりの距離は四百乃至九百ヤードに過ぎず。されば僅に一隻の軍艦を以て海陸共に此市街を封鎖することを得べし。サンデユゴーの地理的及び軍略的の地位は何れの方面より視るも全然孤立なり。故にジブラルタルの砲臺ありとするも、その軍事上の意味を增加すること能はず。又南部カリフオルニアの防禦に對しても何の加ふる所あるを見ず。此の如き場所は唯其存在を無視し、之を放棄せば自然に降伏せんのみ。之と同一の狀態は過去の戰爭に於て吾人の屢々目擊せる所なり。

ロスアンゼルスは南部カリフオルニアの依て安全なるべき唯一の軍略的地點なりと雖も、今日に至るまで攻擊に對して之を安全ならしめんとの計畫は一も之ありしを聞かず、今や僅に一聯隊の兵を以てするも何等の苦痛なく全市を占領するを得べく、纔かにその防禦の爲に致されたる努力は、サン、ピドロ港に於けるポイント、フアーミンの要砦建設に對する援助ありしのみ。然れどもかゝる提言こそ吾人が已に論じたる近代の戰爭に關して社會に行はるゝ無智無識を證明するものなりとす。


118°25′
118°20′
33°45′
マラガ入江
ロッキー岬
レリート岬
ヴィセント岬
ロング岬
ポーチュギース岬
ポーチュギース灣曲
大
平
洋
丘ニロドーピンサ
サンピドロ
ウィルミントン町
ビックスビー泥沼
モルモン島
サンピードロー灣
チームス岬
デッドマン島
ターミナル島
防波堤
ロスアンゼルス市
縮尺哩程
1 ½ 0 1 2 3
1 ½ 0 1 2 3 4 5

第六圖



吾人は已に米國現時の城砦に固有せる退歩の狀態と、又其海岸砲兵の人員不足にして是れか爲に大砲の五分の四は何等の用を爲さゝるを論じたり。若し米國の陸軍組織にして全然改革せられずんば、新たに城砦を設くるも啻に無益なるのみならず、國民は之が爲めに却て吾人より曩に其注意を促したる所の新なる危險に陷らん。

サン、ピドロ港の入口に砲臺を設くることは、ロスアンゼルスの防禦に對しては別に價値あるものに非らず。是れ彼等は陸上の防禦に屬せず海上の防禦に屬するを以て、此砲臺の建設は此海上に活動すべき艦隊の存在を豫想せざるべからざればなり。サンピドロ港は海軍の根據地とはならんも其れ以上には何等防禦的價値なし。かゝる城砦建設の目的は港灣其もの若くは此處に根據を有する艦隊の防護を以て目的とせざるべからず。這般の城砦に屬する防禦塞の範圍は、其直徑が砲力の有効範圍なる半圓形に依て定まるなり。現今の港灣要塞は自衛的のものにあらず、其保護は敵軍の輸送及び上陸を妨ぐるに足るへき十分なる艦隊を有するか、或はその城砦の近接せると遠隔せるとに區別なく、海岸の如何なる部分にも敵軍をして根據地を得ることを妨ぐるに足るべき陸軍を動員し得るにあるな

り。

吾人は已に太平洋海岸の海軍的防禦の不可能なるを説けり、開戰の初に當りて太西洋、或は太平洋の米國艦隊が、全日本海軍に劣る時は到底米國は海軍を以て太平洋海岸を護ること能はざるなり。されば サンピドロの城砦の建設は現今よりも數倍せる海軍の存在を豫想するものなり。而して太平洋艦隊の大さ及び効力は日本海軍の發展に依て之を定めさるべからず。敵國に讓らざる海軍力なき期間はサンピドロの城砦は無用の長物のみ。

抑もロスアンゼルスが敵の目的地なるを以て、敵軍は最も之に接近せる海岸に其上陸を求むべし。而して軍事上の意味より云へば、サンピドロのロスアンゼルスを距ることは、サンタ、モニカ灣の二倍の距離に在り。且つサンピドロ港は極めて狹きを以て水雷の危險あるが故に、如何なる場合にても日本軍は、其港灣及び周圍の土地を掌握せざる限りは之れを利用せざるべし。反之、サンタ、モニカ灣はロスアンゼルスに接近して、而かも二十哩に餘れる自由なる海岸を有するなり。ロスアンゼルスが攻撃軍の目的地たる以上は、如何なる境遇の下に於ても敵軍はサンピドロ港の二十哩以內の地に上陸せざるべし。而してロスアンゼルスの占領せ

らるゝと共に、その城砦は効力の如何に拘らず降服せざるべからず。陸軍の攻撃に對してサンピドロの如き城砦を維持せんとせば大なる陸軍なかるべからず、此陸軍あらば寧ろ初めに南部カリフオルニアの攻撃を遷延せしむることを得るならん。一たびサンタ、モニカ灣が敵手に落ちんか、サンピドロは其半島の特別なる地形の爲に已よりも劣れる敵軍に落さるゝか、然らざれば幾哩連續せる戰線に於て防禦せざるべからず。

サンピドロ半島を東西に横ぎりて不毛の山脈あり、その光景は宛然旅順口北方の山岳に類似し、その絶頂は不規則なる形を爲し、高さ一千呎長さ殆んど十二哩なり。建設せんとの議ある城砦の北方一千六百ヤードの地點に於て、地形は二百八十呎に高まり三千ヤードに於て五百呎に至り、又五千ヤードには九百呎に達せり、而して六千五百ヤードに於て山脈の絶頂に達す。是れその計畫せられたる砲臺を拔くこと千四百呎なり、此山脈は西走してサンタ、モニカ灣に達す。さればサンピドロの砲臺に對する攻撃は此灣より來り、敵軍は東方に展開して此山脈を占領せん。敵にして一たび此高地を占領せば灣も砲臺も到底之を維持することを難かるべし。而してサンピドロ攻撃の根據地はロスアンゼルスの攻撃根據地と等しくサンタ、

モニカ灣なるべし。

ロスアンゼルスにして一たび占領せらるゝ時は、南部カリフォルニアの全部は攻擊軍の掌中に歸すべきを以て、此地方防禦の爲に講ぜる凡ての手段はロスアンゼルス市、及び其周圍の土地と交通の安全とを計るために傾注せられざるべからず。ロスアンゼルスの攻擊せらるべき海岸は極めて廣くして且つ全市は海岸に接近せるを以て、敵の奪取を免るべく唯一の方法は(海上の支配權を失ひたる場合)戰爭以前に於て、組織的に且つ完全に近代戰術の要求に從ひ出動し得べき陸軍を以て、全部海岸防禦策を講ずるに在り。斯くして始めて安全なる地位に在ることを得ん、孤立の城砦、及び微弱なる兵力を以てせば此地方の攻擊は一日と雖も之を阻止することを得ざるのみならず、却て無益に人命を損ひ國土を荒廢にするに過ぎざるなり。

吾人は己に近代の戰爭が一般に短時期なることを論じたり。海軍の行動は殊に然り、宣戰の布告後間もなく比律賓、布哇、アラスカは占領せらるゝと共に、數週間の中にワシントン及びオレゴンは征服され了らん。是れと齊しく開戰後三ケ月以內に他の軍隊は南部カリフォルニア海岸に上陸せん。

是に於て讀者の心に當然起るべき問題は、此三ヶ月間に米國は如何なることを爲しつゝある乎と。忽にして讀者の思想は幾多の勝利に關する空想を以て滿たさるゝのみならず、漠然たる國民の希望の偉大なるものを以て充たされん。曰く軍隊は直に出動し、武器はその隱れたる場所より取り出され、大將軍は瞬間にして製造せられ、やがて此軍隊は羽毛を生じ、西部の山岳及び砂地を飛び越へんと。然れども宣戰の後に米國は實際如何なる狀態に陷るべきかは極めて明瞭なることなるを以て、吾人は敢て此處に混亂、無智、及び凡ての軍事上の準備、武器、供給、及び之を得る方法等の缺乏を論ずるの必要なきなり。

太平洋の海岸に於て日本軍隊と戰ふに當り米國の用意は恐らく過去に於ける如何なる戰爭にも、今日の如く開戰前の準備と實力とに缺乏したることはあらざるべし。米國人は恬然として其結果を顧みず、無智なる自負心に驅られ、軍事上の準備に對して甚だ冷淡なるを以て、三ヶ月乃至九ヶ月以內に南部カリフオルニアの海岸に日本軍隊の進行を、一日なりとも遲延せしむるに足るべき兵力だに出動せしむること能はざるべし。

然れども兵器及び戰爭の準備如何を問はず、米國が南部カリフオルニアへの侵入、

及び其占領に對して充分に之を防禦するに足るべき陸軍の動員を爲すこと能はざる他の條件あるを見ん。

宣戰の布告後直に米國か動員し得べき最大兵力は十萬人以下にして、その三分の二は民兵なり。而して此兵力は四十以上の小軍隊より成立して全國に散在し、各所の文武官吏の管轄の下にあり。是等幾多の要素を打て一丸となし、適當なる軍事上の一團體たらしめ以て戰場に輸送すべき準備を爲す時は、ワシントン及びオレゴンの諸州は已に業に優勢なる敵軍の爲に攻擊せられて、全く奪取せらるゝに至らん。國民は此戰爭の時も亦共和政體に固着せる弱點に遭遇せん。即ち人民か陸軍の運動を左右すること是なり。比律賓、布哇、アラスカの占領と共に國民の激動は極めて大ならん、然れども合衆國の分子たる二州の征服と共に米國人民の愛國心と憤怒の情とは一層高く燃え、人民は直に日本軍に向つて突進せずんば止まざらんとす。然るに日本軍の力如何、否、其如何なるものなるやをも知らず、又之を知らんともせず、只自己の勇氣と過去の勝利とを以て自負せるか故に、全國を通じて上は議會より下は僻陬の寒村に至るまで、ワシントン及びオレゴンを占領せる日本軍に對し、動員したる軍隊を派遣せんことを主張して已まざるべし。

人民の要求は果して米國の軍隊を此二州に向て進軍せしめ得べきか、否かは現今軍略上の立場より言へば重要なることにあらず。彼等が決して太平洋海岸の極端なる南翼に向て派遣せらるゝこと無きは確實なり。何となれば彼等が攻撃軍を去ることの遠きは恰かもミスシッピー河の以西に動員せざるに異ならず。而かも全海岸の中、唯僅かに一小部分を除く外は敵の攻撃に暴露せらるればなり。若し輿論にして行はれず、或は軍隊が東方に留められざる時は、その集中すべき唯一の地點は先きに論じたるが如く桑港なるべし、假し南部カリフォルニアの未だ攻撃せられざるに先ちて軍隊を其處に動員したりとも、此一翼は依然として防禦なき狀態にあらん。何となれば此等の軍隊が五百哩の南方に向つて出動する時は、必らずや日本軍は其方向をサンフランシスコに轉じて之を攻撃すべし。斯の如くして太平洋海岸の最も重要なる軍略上の一點は敵の奪取する所とならん。果して然る時は米軍は軍略上必要ならざる極端の一翼に集り、却てワシントン及びオレゴンを占領せる日本軍とサンフランシスコを占領せる日本軍との聯絡を其爲すが儘に一任するの外なけん。又た米國軍がワシントン及びオレゴンの日本軍に對して出動することを、人民の輿論の爲に餘儀なくせらるべき傾向あ

ることは次の如き不條理なる狀態を現出せん。即ち攻擊の際(海岸何れの點にもせよ)米國の陸軍が大なれば大なるほど、その兵力は此一點に向けらるゝこと愈々明白なり。而して之を定むるには左の二要素によるなり。

第一、最初の日本軍が米國の全陸軍に對して數の上に於て同等なるか或は優勢なる場合には、之に匹敵すべき軍隊と並に敵の侵入の恐れある他の地點に向け同時に之を出動せしむる事を得ざること。

第二、輿論の勢力は一般の軍事的地位、及び軍略的考慮の如何を問はず、攻擊軍に對して出來る丈け多くの兵力の出動をなさしむること。

日本にして常に此狀態を繼續せんと欲せば、唯其第一國の勢力を米國軍隊全體の勢力と匹敵するものと爲さしめざるべからず。而して米國の常備軍は假令へ當今の五倍の大さに達せしむるとも、尙ほ比較的に小なるを見るべし。されば米國現今の陸軍組織を改めざる限りは宣戰後一ケ年を經過するも、尙太平洋の一地點だも充分なる防禦を加ふる能はざるべし。宣戰の布告より三四ケ月の後に日本は米國の領土なる島嶼、ワシントン及びオレゴンを占領せん、而して或は東部に於て集合し、或は北方に於ける日本軍に對して進軍し、若くはサンフランシスコに集

中する米國は其數合して實に十萬に及ばざるなり。日本軍は此時に當りて南部カリアフォルニアの海岸に軍隊を上陸せしめ、何等の抵抗をも受けずして翌日此地方の軍略的中心點を占領し、斯くして南部カリフォルニアの勝利は日本の手に全からんとす。

今や吾人は日本の南部カリフォルニアの軍隊的占領に關する最も重大なる方面を考究せんとす。是れ敢て此地方固有の價値に關係を有せず、又其政治及び經濟上の意義にも關係なく、唯軍略上の價値と米國が太平洋沿岸諸州を恢復せんとする爾後の努力とに對して、其防禦の必要及び能力に就て論ぜんと欲するなり。合衆國の東方より太平洋海岸に軍隊を進めんとするに當り、取るべき三個の通路あり。而して南部カリフォルニアは其通路の一なり。故に戰爭の初期に此地方を占領することは、日本軍の支配權と安全とにとりて最も必要缺くべからざるものなり。

此部分の地勢は太平洋方面よりの有效なる防禦には特別に適當せり。（地圖第七參照）メキシコよりポイント、コンセプションに至る海岸は長形にして不規則なる半月形を呈し、僅かの例外（サン、ベルナルヂノ、リバアーサイド及びレッドランドの

市街や甘橘園を含める山谷の如き)を除きては人の住居せる地方は皆海岸に沿ひ其幅極めて狹し。此綠地の東北に當りて四個の重疊せる山脈あり、サン、ジャキントー、サン、ベルナルヂノ、サン、ガブリエル及びテハチャピー是なり。其海岸線は五千乃至一萬一千呎に亘る、而して是等の山脈を經て沙地あり、噴火口あり、死の谿谷あり。

南部カリフォルニアに入るにはサン、ジャキント、カヂョン、及びサウガスの三山路あり、而してサン、ジョーキン、ヴァレー及び中央カリフォルニアに達するにはテハチャツピーを通過せざるべからず。

太平洋海岸の南翼に於て日本軍が優勢を得ると否とは、是等の山路を扼すると否とにあり。又日本軍の爲に南部カリフォルニアの眞個の軍略的價値を得せしむるや否やは、其防禦に適するや否やに在るなり。

ロスアンゼルスは此の三個の通路の中心點を成し、其何れにも汽車にて三時間以内に達することを得べし。而してサンベルナルヂノは、カヂョン及びサンジャキント山路を防禦する兵力の直接根據地を形成する場所なるが、列車にて一時間を費せば他の兩山路に達し得べし。

南部カリフォルニアに於て人の居住する地方を圍繞せる山脈は、之を其高さ一千呎なる長城に譬ふべく、此州の名を天然の富と同一意義たらしめたる、凡ての豊饒なる土地は此範圍の內に在り。此等の山嶽は沙地の方面より通過せんとする時は頗る險阻にして、軍隊を率ひて近つき難きを以て、前記の三山路に依る以外は、實に難攻不落の險路なり。

サン、ゴルゴニオ若くはサン、アントニオの山上に立て遙かに西南に向つて展望すれば、耕作されたる土地、都府、農家、果園、葡萄畑、密柑林は一面に羅列し、吾人は幾億萬の富源と豊饒なる地域とを見ん、是れ日本軍隊が其山路を防禦すべき根據地なり、此山嶺の頂上を横ぎれる東北に當りて森林あり、又無數の河川あり、牧場あり、其外邊は俄然として植物消滅して無邊の砂地となれり。

モジャベは普通の意味に於ける砂地にあらず、他の土地の凡ての特色を備ふれども只此處には自然の枯死したる、若くは天地の最後の苦悶せる狀態を現はせり。山嶽は火山より噴出したる熔岩と降灰とを示し、曠原は萬丈の赤塵天に漲り、原上は枯れたる植物を以て蔽はる、泉水は砒石を以て毒氣を含み、其緣は青草を生ぜず、累々として白骨を堆積せり、而して其ユッカ(木の名)の瘦せたる森林は時に落寞た

る夕陽の風に戰げり。山嶽は太陽に曝されたる髑髏の如く、幾多の峰巒を以て區劃せられ、死者を入るゝ巨塚として見るべき谿谷あり、人は此死山の光景に對して種々に命名したり。曰く棺山、曰く葬禮峯、曰く死の溪、曰く亡者の谷、曰く死の熔解岩と、又死湖、死海ありて萬物皆死せり。是れ天然の塋域なり。而して米國の陸軍は南部カリフォルニアを回復せんと欲せば此の死原死山を通過して其根據地を得ざるべからず。抑も砂地の方面より之を攻撃せんとせば、是れ古今未曾有の困難を以て滿たされたる一大軍事的計畫なりと云はざるべからず。(附錄第十二表參照)南部カリフォルニアに於ける日本軍の軍略的地位は、人の住むべき區域の狹隘なると、其海岸に接近せる程度と、又其富と人口の三分の二が、海岸の或一部中に集中せることゝ、並にカジョン、サンヂヤキント及びサウガスなる三山通路の地位は、ロスアンゼルス及び三通路相互間接近の地位と、其內部各線の短きことゝ、其山中にある城砦の地位が東方よりの軍隊に近づくべからずして、其實堤は砂地の方面に向へども、其後方は米國に於て最も豐饒なる土地と稱せらるゝ等の諸點より生ずる軍略的利益に依て決定するものなり。

是れ等の山路を攻撃する米國の軍略的地位は恰かも之と正反對なり。日本軍の城砦は各種の財源の豊なる中に立てども、米國軍は何等の供給なき、否一聯隊を支ふる水さへも附近に見出し得ざる砂地よりして、其敵を攻撃せざるべからず。若し強てサン、ジャキントの山路を通過せんとする時は、軍隊の要求に充分なる飲料水を得る爲には、一百三十哩の地點に在るイムペリアル、ヴアレーに於てするの外あるべからず、若しカヂョンを攻撃せんとせば、軍隊使用に必要なる水の最近の供給地は二百二十哩の地にあるコロラード河なり。又テハチャッピーを攻撃せんとせば最近の水の供給は二百六十哩の地點に在り。

近代戰爭に於ては砲火の効力增加せるが故に、半永久的城砦に立籠れる軍隊に對しては、其防禦の性質と之を守る軍隊の効力如何によりて、攻撃軍は實に數倍優勢ならざるべからず。假りに兩軍の兵力同一なりとせんか、十萬の日本軍は少くとも數十萬の米國軍と匹敵するに足れり。然れども尙ほ此外に日本人は軍略上有利の地位にあるを以て、此比例は殆んど信ずべからざる程度にまで增加すべし。是等の山路を連絡し而してロスアンゼルスに於ける主なる根據地にて之を結合する其內部の諸線は、極めて狹きを以て迅速なる交通により少數の軍隊を以て、普

通大軍を要する目的を達し得るなり。

日本軍かカヂョンよりサン、ジャキント山路に軍隊、若くは兵糧を運搬するには、唯だ二時間を要す。然るに攻撃軍は數日を費さゞるべからず。サン、ヂャキントの日本軍とガヂョンを守れる日本軍との距離は僅かに四十哩なり。然るに米國軍が一點より他の一點に移らんとせば、殆んど一千四百哩の行程を踏まざるべからず。

日本軍の戰線の短くして米軍の戰線が極めて長きことは、其主なる攻擊を一山路に限らざるべからず、サウガスの谿谷もテハチャビの險路も、敵軍にしてカヂョンを有する限りは到底其目的を達せざるなり。米國軍にして其軍力强く假りに一方にはカヂョンを掩護しつゝ、此地位を奪ふべき力ある場合は必ずしも此限にあらず。然れども砂漠に於ては其の兵力の減少せるのみならず、此二條の山路は比較的緊要なるものにあらずして、其の價値及び占領の如何は、カヂョン、及びサン、チャキントの支配權の掌握に由て定まるなり。されば南部カリフォニアの往復は此等の重なる山路の一、若くは二に於て定むべし。

若し米軍がサン、ヂャキントに進軍せんと欲せば、彼等は水の便利ある土地を距る

一百三十哩の處に於て其城砦にある敵軍を攻めざるべからざるのみならず、供給の第一根據地との交通は一千哩の砂地鐵道の一線に限らるべし。一方に於て其重なる進軍がカヂョンに向はんには、米軍は二個の鐵道の便利を有す、此の如く交通の便あれども其一旅團の兵に充分なる水の便ある個處は、二百二十哩の距離を以て最近とするにより、其利益は消失せらるゝなり。

既に是等の山路に城砦を築きて、兵力を以て之を守る時は南部カリフォニアは、如何なる攻撃に對しても難攻不落たるべし。如何なる勇氣も、如何なる多數の勢力も、如何なる愛國心も、如何なる人類の巧智も、若し日本軍の如き有力なる敵軍が此山路を抗する時は決して之を犯すこと能はざるなり。

吾人は後章に於て尚ほ他の條件が此地位の難攻不落なる性質を增加し、到底攻擊を考ふるすら不可能なるに至らんことを示さんと欲す。

# 第十章

戰爭の長短を定むべき原動力は其適用に於て變化することなきも、繼續時期及び原因に至つては決して一定不變のものに非ず。近代の戰爭は此時期の長短を決定する條件を分つて左の三種の原則となすを得べし。

第一、列國間に於ける戰爭準備の狀態が平均的に發展し、爲に平和の時期繼續せる場合に起る所の戰爭は、其戰爭時期の長さに中位にして、生命及び財産の破壞に於ては最少率なりとす。

第二、列國民間の軍事上不準備の狀態か、平和の時と殆んど同一なる場合に生ずる所の戰爭の時期は長くして、人命及び財産の破壞は最大率なる事。

第三、軍事上の準備の狀態が一國民に於て非常の發達を爲し、他國民に於て缺乏したる場合には、戰爭の時期は短くして人命及び財産の破壞は一方のみに偏する事。

戰爭の方法が個人の殘忍なる勇氣より一轉して冷靜なる科學の領分に移るに從ひ、近代戰爭の結末に於て、以上に列記せる原則の適用は一層絕對的となるなり。

日米兩國に於ける戰爭準備の比較的狀態によりて之を視るに、米國が直に軍事的復興を爲すに非んば、來るべき戰爭の結果や千八百九十四年の日清戰爭、千八百七十年の普佛戰爭、千八百六十六年の獨墺戰爭、千九百〇四年の日露戰爭に依りて示されたる種類の衝突を惹起し、之を定むる條件は第三原則の適用を見るに至らん。日本との戰爭は其準備上他に若干の條件ありて、日本の勝利に迅速を加へしむ、即ち宣戰の正式に布告せらるゝに先ち、其海陸軍を戰爭の舞臺に近き地位に出動せしむるを得ることと是れなり。

巧みに機先を制することは日本海陸軍の活動の特徵なり、米國は軍事上の準備なき爲め自然此種の行動を爲すに適せずと雖も、然かも正式に宣戰の布告なくして戰爭を開始することは、獨り日本にのみ限れるに非らず。千七百九十年より千八百七十年に至るまで西洋に行はれたる百二十回の戰爭中、百十回は何等の通牒なくして開戰せられたり。惟ふに正式に宣戰の布告を爲すことは、唯中世封建の勳爵時代の戰爭の遺習たるに過ぎず。當時は儀式的に傳令使を敵の陣營に遣して挑戰するを禮としたるなり。然れども近代の戰爭而かも準備ある國民は此種の禮儀を無用とせり。唯斯る活動に對して苦痛を感ずるは準備なき國民にして、此卒

先的行動は之を行ふ國に取りて重大なる利益を與ふるものなりとす。斯の如く觀來れば、開戰に際し日本が米國の領地に出兵するの機敏なるは恐らく本書に吾人が指摘するよりも以上なるべし。

米國の領土たる島嶼、並にワシントン、オレゴン及び南部カリフォルニア等の占領を想像せは、寧ろ日本軍の實力と其輸送力とを過小に計量し、米國の防禦力を過大に計量したるものなり。斯くするも吾人は尙ほ米國の防禦力が全然無効たるべきを自白せざるを得ず。

今や殘れるものはサンフランシスコの占領なり、之を實行せば太平洋の米國の主權は最後の破壞を見、日本の勝利は玆に完成せん。而してサンフランシスコの占領が吾人の陳述せるよりも戰爭の初期に來るべきことは實情に通せる總ての軍略家の認むる所なり。勿論以上の論述は米國現在の陸軍狀態たる最高限の防禦を、サンフランシスコに爲さんがために全力を擧て其附近に集中するまで、敵軍は何等の攻擊を爲さゞるものと假定したるものなり、況んや時の點より云へば此の如き出兵は、米國の現狀にては假令不能ならずとするも、是れ大々的困難の事たるを免れざるに於てをや。サンフランシスコは商業政治軍略の點より見て太平洋海岸の最も樞要の一點なり。蓋し其中央太平洋に近くして大なる港灣を有する

ことは此地をして米國太平洋貿易の中心點たらしむるものなり。

海軍上の軍略より見る時はサンフランシスコは太平洋海岸の最も樞要の地位たり。敵軍がサンフランシスコの港を占領し且つ既に論じたる領地を占領せば、如何に大にして如何に有力なる米國艦隊と雖も戰爭中は太平洋に入ること能はざるべし。サンフランシスコ灣は太平洋方面の米國重要なる海軍根據地にして一旦之れを失はんか、太平洋の制海權を回復せんとする希望は永久に消滅すべきなり。

陸軍の點より見るも、サンフランシスコが軍略上樞要の地位に在ることは太平洋海岸の諸地に冠たり。此地は同海岸南北兩端の中央に位するを以て、敵軍が此地を占領する時は後方よりの攻擊に對しては殆んど安全なるのみならず、此地方に據守せる米軍を分割することを得、而して其聯絡を不可能ならしむるなり。サンフランシスコはサン、ジョーキン、サクラメント・サンタクララヴアレーの主權を握るを以て、中央及び北部カリフオルニア州の全體を支配すること猶ほロスアンゼルスが南部カリフオルニア州の支配權を握るが如し、されば サンフランシスコ灣にして一たび日本軍の占領に歸せんか、此全地方は悉く其掌中に落ちんのみ。日本にして吾人の己に論せし如く太平洋海岸の兩翼を占領し、而して米國にして

サンフランシスコと東方の交通線を維持せんか、米國は尙ほ軍略上より云へば日本と同等の地位を有するなり、されど左の諸條件を考量せざるべからず。

第一、米國の陸軍はサンフランシスコを防禦するに足る軍隊を、サンフランシスコ灣の周圍に出動せしめざるべからず。

第二 米國は此地方の南北に勢力の增加を得んが爲に、日本の勢力に對抗するに足る數と有効なる軍力とを有せざるべからず。

若し是等の諸條件にして戰爭以前に米國が之を爲せば、米軍の地位は日本軍の中心點を貫通し、其兩枝隊を分離せしめ、軍略上日本軍と同等の地位に立つを以て勝敗の決は之を戰鬪に依りて定むることとなるべし。

然るに不幸にして斯る假設は吾人の關する所に非ず、吾人は唯事實に據りて之を判斷するものにして、空想や希望や幻想は吾人の取らざる所なり。

然るに一般米人は確たる事實に本きて之を謂ふなり。サンフランシスコの防禦を以て啻に有効なるのみならず、如何なる攻擊をも避くるに足れりと信ずれども實際現今の軍備を以てしては、同處は到底防禦すること能はざるなり、而かも米國陸軍の不十分なる今日、此サンフランシスコの防禦を以て其所在地なる一半島の地方に放任せんか、サンフランシスコは戰はずして日本軍の掌中に歸せんのみ。

サンフランシスコの防禦は單に其城砦の維持に賴むべからず、同灣附近全體の地方に兵事上の支配權を維持するを要す、何となれば其特別なる地形によりて此市の弱點は全く軍略上に存し戰術に關せず、故に其運命は現在の城砦より數哩を隔てし土地の戰爭の結果に依りて定まるべきなり。サンフランシスコ現在の防禦は其灣口なる數個の要塞に依るのみ、其要塞の一部は海峽の北方に在り一部は南方にありて、海峽以外の攻擊に對しては自己の防禦をすら爲す能はず。又相互の防禦にも其効を添へざるなり。若し之に充分なる人爲の設備を爲し、其備付の大砲を操縱せんとせば、百七十五人の士官と四千二百六十二人の兵卒とを要するなり、然るに現下は四十二人の士官と一千四百人の兵卒を存在するのみ。人員の缺乏が斯の如くなるを以て、其大砲の三分の二は之を使用する能はず、而して殘餘三分の一の砲力は日本軍艦二隻にだも匹敵せざるなり。

世人は近代の戰爭の恒久的要塞に制限あるを理解せざるなり。是等の要塞は進んで攻擊を爲す能はず。唯敵の進軍に對して其方向を轉ぜしむるの効あるのみ斯る自由なる活動及び攻擊の行はれたるは昔時少數の軍隊に限られ且つ突進の

性質を帶びたるものなりき、而して一般の進軍若くは占領には先づ海軍力を以て要塞を占領するを必要としたり、然るに近代海運の發展は之を變化し、突賊若くは敵に隱れたる海岸に上陸することは二十萬の軍隊にても可能となれり。然れども亦近代の戰爭には固有の原動力ありて城塞の如何に係らず、海軍力を以て軍港を占領することを防止するに足るものあり、其原動力は左の如し。

一、敷設水雷の發達と其廣き使用法。

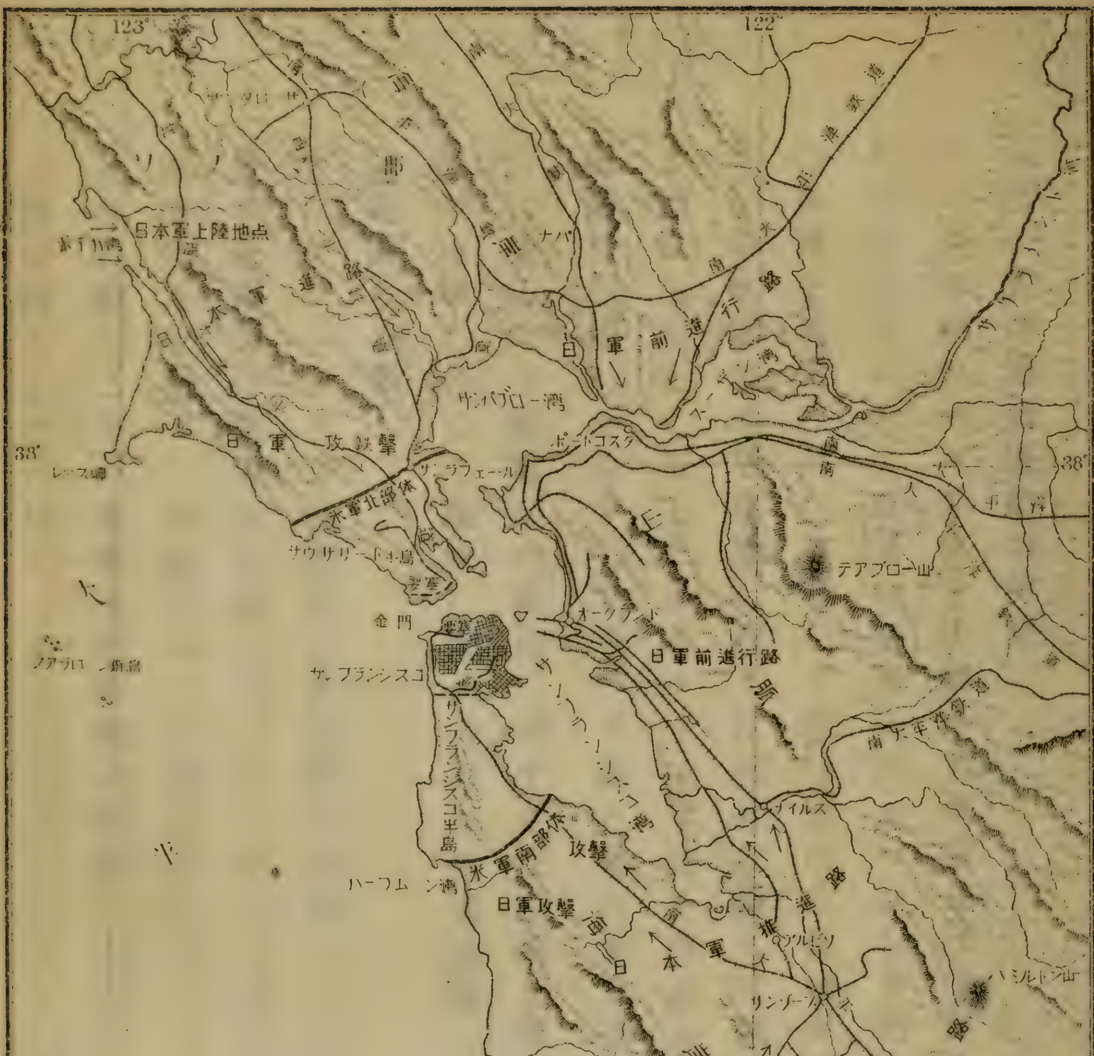
三、水雷艇の有效範圍の增大せること。

海戰には此二個の方法あるが爲に、海軍力を以て防備されたる港を占領せんには最初に其周圍の地點を占領せざるべからず、されぱサンフランシスコの防禦及び占領は其要塞の如何に影響せられざるなり。日本の海軍が金門に近づくに先ち彼等は其灣及び周圍の地點を占領すべければなり。

サンフランシスコの防禦は獨り出動せる陸軍に依りてのみ確保せられ、現在の要塞組織に關係なき三個の活動舞臺を有す。

一、サンフランシスコ半島の防禦。

二、ソウサリト半島の防禦。



123°
122°
日本軍上陸地点
日軍攻撃
サンパブロー湾
ポートコスタ
サンラフェール
米軍北部体
テアブロー山
金門
オークランド
日軍前進行路
サンフランシスコ
サンフランシスコ半島
米軍南部体
ハーフムーン湾
ナイルス
ハミルトン山
日本軍
サンタクルーズ
日本軍上陸地点
モンタレー湾
ピノス岬
38°
37°


第八圖



三、其內地交通線の防禦。

サンフランシスコ半島を防禦せんと欲せば、半島の南方五十哩の地點なるサンタクララ、ヴァレーに軍隊を配置せざるべからず、此地位は灣の東南なる內地交通線の保護を爲すに足れり、而して此地位の支配權を得たるものは攻擊に轉じ、サンフランシスコ半島を攻擊し若くは保有し、而して南方の交通線を奪取し又は支配するに至らん。之に反してソウサリト半島を防禦することは、バアリー及びベーカー砲臺の近傍にあらずして、ソノマ郡の北方五十哩の地點に配置せれらたる軍隊の力に依るなり、兩軍の中、此地に對する、支配權を獲たるものは、軍略上ソウサリト半島を攻擊し若くは維持し且つ其北方の交通線をも支配するに至るものなり。

(地圖第八參照)

サンフランシスコの近傍に米國軍を出動せしむるは、サンフランシスコ灣に接近せる全地方の防禦を目的とせざるべからず、何となれば是れ他の地方を棄てゝ一地方のみを限りて防禦すること能はざればなり。　此地方の地形に固有せる軍略上の困難は、二個の準獨立的軍隊の活動に依りてのみ之に打克つことを得べし其一軍は灣の北方に他の一灣は其南方に限りて活動す、若し此等の軍隊にして自立

することと能はず、又其隊力も各自の活動舞臺を防禦するに足らざる時は、全體としてのサンフランシスコを有効に防禦することも不可能なるべし、若しモンテレー灣より北方に進む日本軍にしてサンタクララ、ヴアレーなる米國軍より其實力大ならば、或は灣の北岸を防禦せる軍隊より援兵を受くるか、或は同北岸に退却するか、或は兩軍隊を全然破壞するに至らむ。若し援兵を受くる時はサンフランシスコ灣の北方とサンフランシスコはボデガより南進する日本軍枝隊の攻擊を受けむ。之に反して南方の軍隊が北方に退却する時は、灣の內部と半島とサンフランシスコ市街とは防禦なきに至るべし。

此假說を轉倒してボデガより東及び南に進軍する日本軍に當て箝めんか、前述と同一の狀態をソノマ及びサンフランシスコ灣の北方に見るならむ。

第一　サンタクララ、ヴアレーより援軍を受けば、其地方はモンテレーより北方に進む日本軍の攻擊を受け、サンフランシスコは日本軍の占領に委せられむ。

第二　東若くは南の海岸に退却すれば、ソウサリトは何等の抵抗なく占領せられサンフランシスコは砲擊せられむ。

第三　南北海岸の兩軍は全部破壞し了らむ。

故に米國軍の安全策は南北より同時に進行し來る日本軍枝隊に對し、米國の兩軍とも優勢なる地位を取るに在り。(地國第八參照)

現在の陸軍狀態を考察するに米國が總ての城塞を空うし、總ての民兵を利用して、戰爭開始後五ヶ月間にサンフランシスコの近傍に出動せしめ得べき兵數は十萬に下らず。而かも其三分の二は各州の民兵なり。

此全軍は常備步兵及び騎兵は一萬二千を超えず。野戰砲兵は四聯隊以下なり。されば此軍隊の大さと之を組織する要素は、前述の如く二個の獨立軍隊に分割することを得ざらしむ。卽ちサンフランシスコの北方五十哩の地點に一個、サンタクララの南方五十哩の地點に一個を配置することは不可能なり。斯る少數の兵力を以てしては之を二個の活動地に分割し得ざるのみならず、其狹き兩翼には保護を有せざる軍隊は戰場に在て、優勢の敵に對し開戰すること能はざるべし。此等軍隊の特別なる存在理由はサンフランシスコの防禦に在り。而して若し其數の平均せざるが故に、攻勢を執る能はず、分割する能はず、或は防禦の地に立つ能はずとせば、其執るべき方法は唯一のみ。曰く一の主要なる防禦地位の選擇是れなり。而して此主要地位は之を灣の北方にするも南方にするも、若くは東南方にす

るも、何れも皆敵の目的たるサンフランシスコ市及び半島は、之を防護するに足らずして敵の攻撃に委するなり。於是乎、選擇すべき二個の地位あり、サンフランシスコ半島若くばサンタクララ、ヴアレー是れなり。後者は南岸より上陸せる敵軍の攻擊に對しサンフランシスコの防禦地なれども米國軍の少數なるが故に、自由に枝隊を作るべき地位を取りて兵數の優れる敵に其根據地より遮斷せらるゝを防ぐこと能はず。故に陸地はサンフランシスコの南部に當る最後の主要なる地位を防禦せざるべからず、而して一の側面を太平洋の海岸に他の側面をサンフランシスコ灣に置き、半島を横斷して戰線を張らざるべからず。

包圍せられたる市街と之を防禦する軍隊に取りて最も必要なるものは飮料水の供給是なり、昔時は井水若くは噴水によりて其市街の附近に之を得たれども、近代殊に米國に於ては都府の飮料水の供給は遠く隔りたる地より之を仰がざるべからず。

サンフランシスコの水源地は市の南方三十哩乃至四十哩の間なるサンマテオの山中に在りて、主としてサンマテオ、クリーク、アラメダ、クリーク、クリスタル、スプリング湖より成るものなり。而して三個の瀦水池あり、卽ち第一はサンフランシス

コより三十二哩なるピラキトスにして十億ガロンの水を有す、第二はサンアンドリース瀦水池にして六十億ガロンの容積を有し、第三のクリスタルスプリング瀦水池は百九十億ガロンを有す。若し此等の瀦水池にして敵手に歸せんか、サンフランシスコは降伏するの外なきなり。

アンドリース及びピラキトスの瀦水池は、サンフランシスコに對する水の供給の三分の一以下を有するものなるが、之を保護せん爲には該瀦水池の南方に當り、戰線より殆んど三十哩の距離に於て半島を横斷し、其防禦線を張らざるべからず、蓋し此距離は恐らく防備さるべき位地の外線によりて定まるべく、而して此防禦線の中心點はサンフランシスコより三十五哩の地なるべし、若し全部の水源地を保護せんとせば防禦線及び塹濠はクリスタルスプリング湖の南方より半島を横斷して全部に亘らざるべからず。かくすれば半島は下部の廣がるが故に防禦線の範圍も益擴張せらるゝなり。(地圖第九參照)

サンフランシスコより斯く隔りたる處にて限りある、而かも無經驗なる軍隊に依て、此半島を防禦する困難は極めて大なりとす。半島の東側なる東はサンフランシスコ灣、西は山と並行せる狹き谷より成る。是等の山の東側及び下腹には處々

に生ずる柏樹と谷間に在る篠叢の外には樹木なき丘陵あり、山の頂上及び西側に至れば地形は不規則なる狀態を呈し、其處には繁茂せる矮槲林、叢林、毒槲、赤松、マンザニタ等の深林あり。概言せば米國の防禦線は是等に對して直角に設置せられざるべからず。而して灣に沿へる狹き谷と山の東側を除く外は、此半島の嶮岨なる性質によりて近代の武器が塹濠を以て圍まれたる地位の防禦に備ふる利益を奪はるゝなり。山の外部には塹濠中にある軍の防禦をして可能ならしむべき山腹なし、彼の南阿非利加のベルデ及びコプジエーがボーア軍に與へたるが如き、砲火の廣く開展せる場處なきが爲め、近代の武器をして十分に有効ならしむること能はず。

又一方は此山には其東側を除けば數百ヤードの露出せる個處を見ること困難なり。山の凹凸及び篠叢の連續せる爲め比較的に近代の砲兵を利用するを得ず、又步兵の砲火も最小限度にまで減少せらる。固より防禦者は其地位の探知せらるゝを以て多くの點に攻擊軍よりも不利の立場にあり。大凡そ是等山地の戰鬪の特徵たるものは、突喊及び擊退にあり。故に山地の戰爭には平素の訓練を以て成功の必要條件なりとす。




第九圖

縮尺哩程

1 ½ 0 1 2 3 4

縮尺基米突

1 ½ 0 1 2 3 4 5



されどサンフランシスコの防禦は市の南方なる半島を横斷して造設せらるゝ如き其線にのみ限られず。何時にても敵軍がソウサリト半島を占領する時には、其砲擊を免るゝこと能はざるべし。さればサンフランシスコの塹壕的防禦を考究するに當り、半島の北部に造設せらるゝ防禦線は、南部の其れと等しく必要あるものなりとせざるべからず。

半島の兩端に在るバアリー及びベーカー砲臺は陸上の攻擊に對しては堪ゆる能はず。是れ地圖の示す如く後方に次第に高き山ありて半島の北端なるタマルパイス山に至る其極に達するを以てなり。北方よりサンフランシスコの最後の防禦はサン、ラフエル市の東なる一點より半島の北端を橫斷して太平洋にまで西進せる一線の南方にて之を爲すこと能はず。此線は長さ約十二哩より十五哩にして若し日本人が之を破壞するが如きことあらば、サンフランシスコの運命や既に定まれるなり。(地圖第十、第十一參照

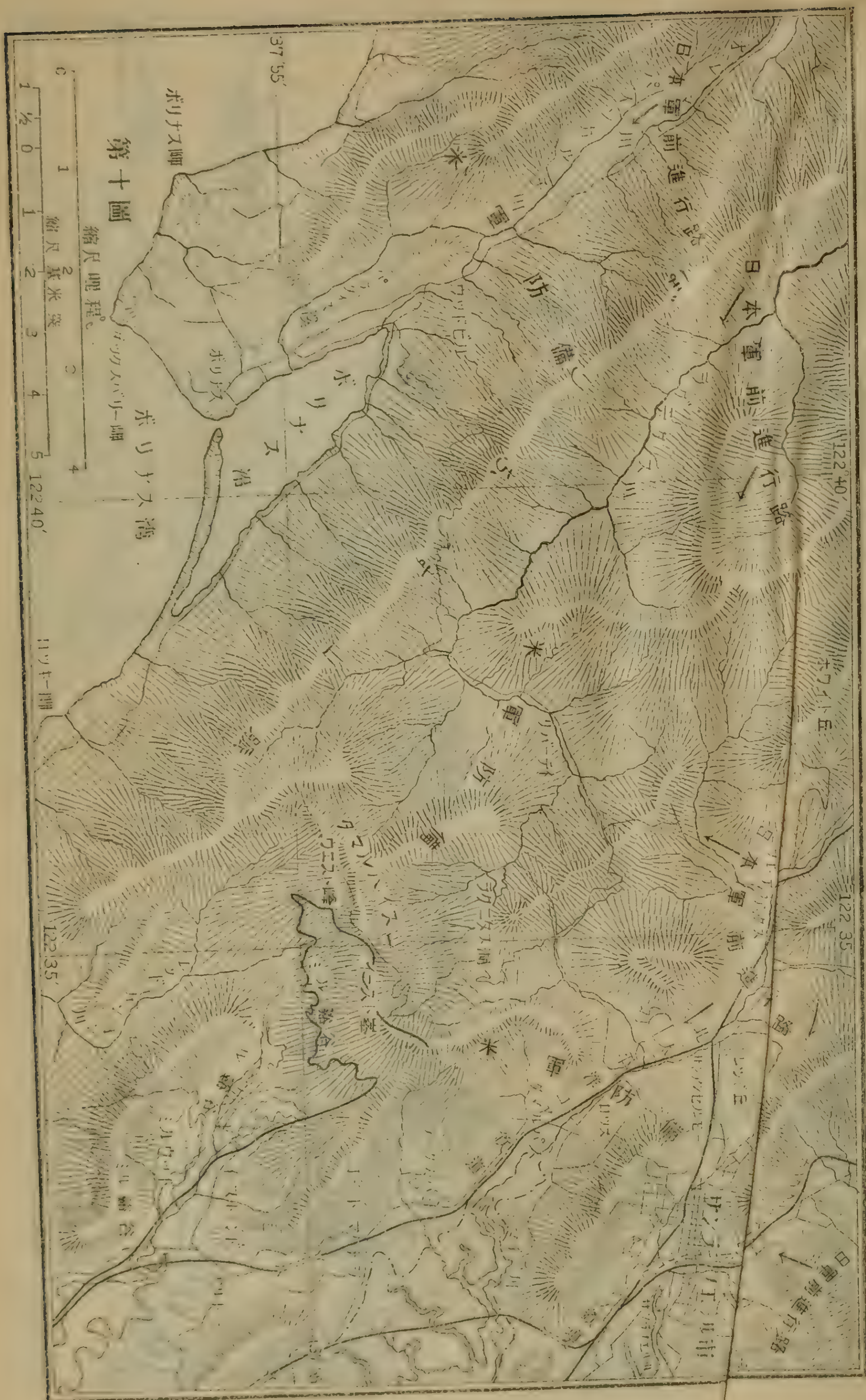
今や吾人はサンフランシスコの最後の防禦を支配する狀態を研究したり。是れ必ずしも其のことの眞個のものにあらず、然れども軍事に冷淡なる米國民が目下の防禦を僅々十萬の軍隊に限り、而かも軍隊は重に訓練なき民兵にして、指揮官は

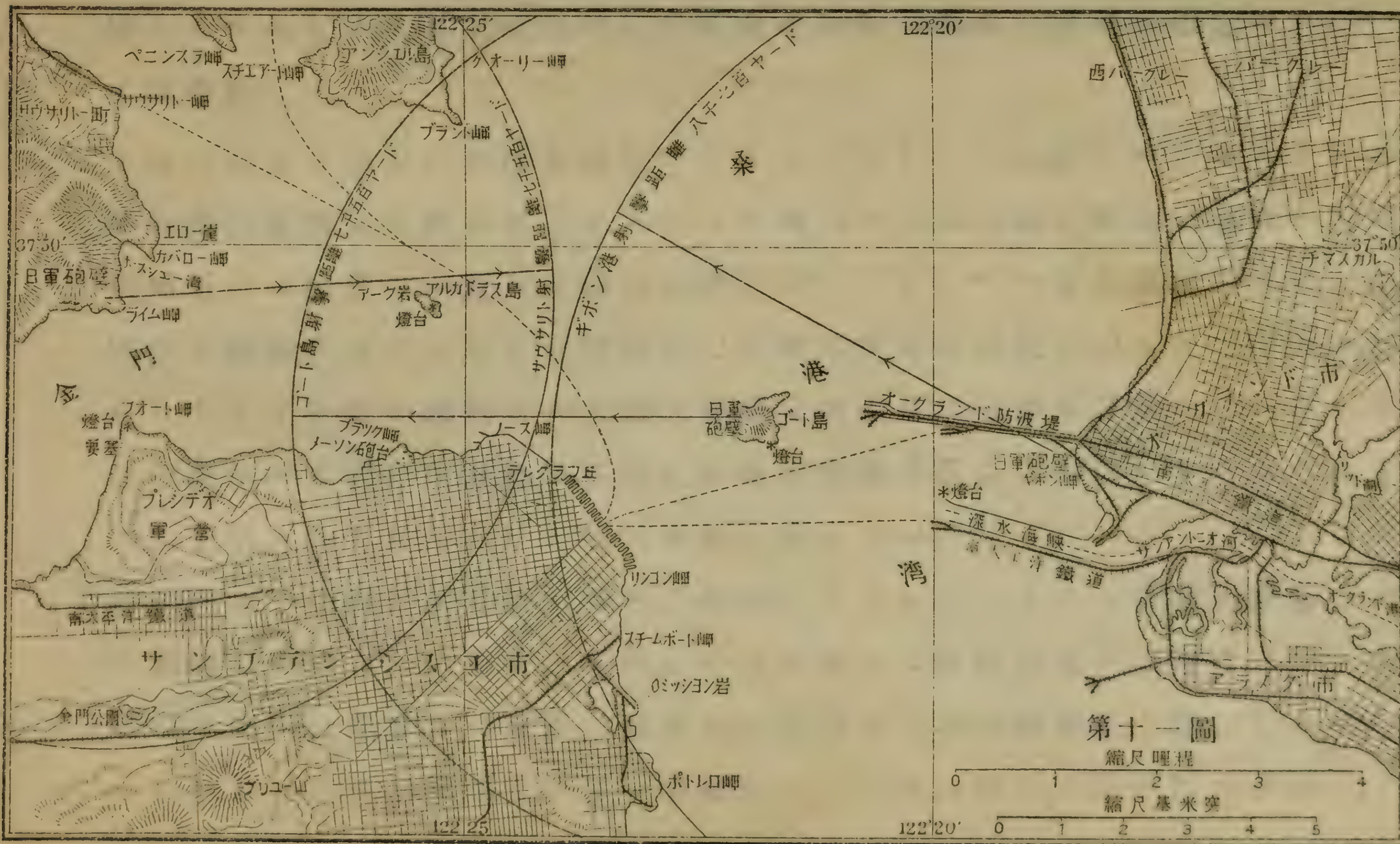
政治上の關係によりて任命せられ、防禦を單に無效なる砲臺に一任せば、其結果は以上の狀態に出ずるの外あらざるべし。而して米國常備軍の四分の一が比律賓群島占領の爲に減じ居るか故に、七萬乃至九萬は米、國の軍力として利用せらるべき全數なり。種々なる種類により成立し軍事上價値無きのみならず、兵數も亦不充分なるを以て戰鬪の場合に全滅を免れむと欲せば、サンフランシスコの防禦に取るべき地位は、塹壕的防禦の最後の一線あるのみ。是れ卽ちサンフランシスコの總ての防禦に於ける如く、灣の南北に防禦區劃を設置すること是れなり。

第一、約十五哩の前面を以て、ソーサリト半島の根據地を橫斷して、之を設くること。

第二、約三十哩の前面を以て、サンフランシスコ半島の根據地に接近して、之を設くること。

是れ卽ち合計約四十五哩の前面にして常備軍三師團と民兵三軍團以下の數に依て防禦せらるべし。而して斯る長き前面を優勢なる敵軍に對して長時期の間之を防禦することは、假令へ其地位接續的なりとするも殆んど不可能のことなりとす。然るに此場合に於て防禦線の三分の一が、他の三分の二に對し若くは三分の


第十圖
縮尺哩程
縮尺基米突
ボリナス岬
ボリナス湾
ボリナス沼
日本軍前進行路
米軍防備
ホワイト丘
37°55′
122°40′
122°35′



122°25′
122°20′
37°50′
ペニンスラ岬
スチエアート岬
エンゼル島
クオーリー岬
サウサリト岬
サウサリト町
ブラント岬
エロー崖
カバロー岬
ホースシュー湾
日軍砲壁
ライム岬
ゴート島射撃距離七千五百ヤード
サウサリト射撃距離七千五百ヤード
ギボン港射撃距離八千二百ヤード
アーク岩
アルカトラス島
燈台
金門
フオート岬
燈台
要塞
ブラック岬
メーソン砲台
ノース岬
テレグラフ丘
プレシデオ軍營
リンコン岬
南太平洋鐵道
サンフランシスコ市
スチームボート岬
ミッション岩
金門公園
ブリュー山
ポトレロ岬
桑港灣
日軍砲壁
ゴート島
燈台
オークランド防波堤
日軍砲壁
燈台
深水海線
南太平洋鐵道
サンアントニオ河
オークランド市
アラメダ市
西バークレー
バークレー
縮尺哩程
0 1 2 3 4
縮尺基米突
0 1 2 3 4 5

第十一圖

二が其三分の一に對する關係を有せざること宛かもオレゴンに於て三分の一、南部カリフォルニアに三分の二の防禦線を有するが如く極めて遠隔なりとす。（第八圖參照）

日本は米國の領地なる島嶼及びワシントン、オレゴン半島、カリフォルニアを占領せる後、宣戰後五ヶ月以内にモンテレー及びボデガに於て、同時に總數十七萬以上の熟練なる軍隊を上陸せしむるを得べし。ソウサリト島防禦線の北方三日乃至五日の進軍の地なるボデガ灣附近に五萬の兵卒を上陸せしめ、又其殘部をサンフランシスコ半島を横斷せる、米國防禦線の南方六日の進軍の地なるモンテレー灣に上陸せしめ、以て日本軍は五個の軍略的運動の何れかを以て、サンフランシスコ及び中央カリフォルニアと共に米軍を降伏せしむべし。

南方なる十二萬の日本軍は北方に進軍しサンフランシスコ半島を横斷せる米軍の戰線に對陣し、之と同時に北方にある五萬の日本軍は南方に進みて、サンラフェルより西方に開展せる米軍に對陣すと假定せんか、防禦軍は一哩に二千人を配置すとするも、米軍は南方にて約七萬、北方にて三萬を要するなり又日本軍は

第一、同時に南方の地位を攻擊するを得べし、北方には五萬の日本常備軍は、一萬

の米國常備軍と二萬の民兵と、十五哩の戰線にて對抗し南方には十二萬の日本常備軍は、二萬五千の米國常備軍と四萬五千の民兵と、三十哩の戰線にて對抗すべし。

第二、進擊的の行動を防ぎ退却の行動に乘せんがために、米軍の北線に對して十分なる兵力を殘し置き、北部にある日本軍の殘餘のポイント、コスタ、オークランド及びナイルスに於て南軍を援助し兩軍相合して南方の米軍防禦線を攻擊せん。（地圖第八參照）

第三、積極的の行動を防ぎ退却的の行動に乘せんがため、米軍の南方防禦線に對する充分の兵力を殘して、南部にある日本軍の殘餘は、北軍を援け兩軍相合して米軍の北線を襲擊せん。此運動に於て日本軍は米國の常備軍一萬と、民兵二萬に對し、十萬の常備兵を配置するを得べし。而して米軍の敗走はソウサリトー半島を日本軍の手に渡し、サンフランシスコ市は最近の地震と火事とに依れる以上の破壞を砲火に依て被るに至るべし。（地圖第十一參照）

第四、米軍の北部防禦線に對して殘れる日本の北軍及び南部の日本軍隊は、一軍團を除くの外は米國南部の軍隊に對抗す。而して此枝隊は大砲を率ゐてオー

グランド及び近傍の占領に從事す、オークランドモールを破壞したる後、ポイントギッボンに大砲を据付けてゴートアイランドを占領すべし、一たびゴートアイランドに大砲を据付たる時は、サンフランシスコ全市は再び砲火の破壞を免れざるべし。(地圖第十一參照)

第五、米軍の北線に對抗せる日本軍は、一師團を除く外は此處に止まり、米國の南方の防禦線に對する日本軍は二軍團を除く外は此處に止まる。其一軍はサンフランシスコの南岸を占領し、其一枝隊はヴアレジヨ、ジヤンクションに於て北軍の左翼と連絡し、其の一はアルビソに於ける南軍の右翼と接續し、全然サンフランシスコ灣を圍繞して一切米軍の交通を遮斷すべし。第二軍團はサクラメント灣を占領し、一はサクラメントに一はストックトンに排置せらるべし。北軍團よりの枝隊はユニオン、パシフイック鐵道を超えて東方に開展し、シーラス山の東北なるトラッキー山谷に城砦を連ねて、以てカリフオルニア及び太平洋海岸を全然孤立せしむるを得ん。若しサンフランシスコにしてゴートアイランド又はソウサリト島より砲撃せられなば、最近の地震及び火災に於て生じたる如き破壞と秩序の紊亂とは、一日にして再現せらるゝを見む。假令米國が其

全陸軍を擧げてサンフランシスコを防禦すとも、日本軍隊は大戰的規摸を以てするも、將た又一小鬪を以てするも、二週間以内に開城の餘儀なきに至らしめ、遂に米國をして非常の苦痛に陷らしむべし。

此時に至りては全米を通じて最早一聯隊の常備軍なく、將校なく、下士なく、而して日本軍に匹敵すべき軍隊を編制して其行進を見んまでには、數ヶ月、否、數ヶ年を要すべし。而かも是等の軍隊は、未だ曾て如何なる軍隊も通過したることなき荒凉たる沙地を越ゑ、又其沙地の周圍を形成する塹壕と、嶮岨なる要塞とを登攀し其無智の勇氣を奮つて、軍事上の不可能を企て、彼の山谷を變じて白骨の樞と爲し、沙地の風をして死者の靈魂を乘せて悲號せしめむ。斯くて是等壞敗せる軍隊は四方に散亂して、合衆國は茲に分裂し、内訌は到る所に生じ、一揆は隨所に起り、支離滅裂して拾收すべからず。於是乎、此共和國は其主義よりして全く破壞し去り、再建せられたる君主政治の掌中に其自負心と輕蔑心との通行税を拂はざるべからざるの運命に遭遇すべけんのみ。

## 日米必戰論下編終

# 附錄

## 第一表

### 日英同盟の繼續

日英同盟新協約（明治三十八年八月十二日 一千九百五年八月十三日）

日本國政府及大不列顛國政府ハ、一千九百二年一月三十日兩國政府間ニ締結セル協約ニ代フルニ、新約款ヲ以テセムコトヲ希望シ。

（イ）東亞及印度ノ地域ニ於ケル、全局ノ平和ヲ確保スルコト。

（ロ）清帝國ノ獨立、及領土保全、並ニ清國ニ於ケル列國ノ商工業ニ對スル機會均等主義ヲ確實ニシ、以テ清國ニ於ケル、列國ノ共通利益ヲ維持スルコト。

（ハ）東亞及印度ノ地域ニ於ケル、兩締盟國ノ領土權ヲ保持シ、並ニ該地域ニ於ケル兩締盟國ノ特殊利益ヲ防護スルコト。

ヲ目的トスル、左ノ各條ヲ約定セリ。

第一條　日本國又ハ大不列顛國ニ於テ、本協約前文ニ記述セル權利及利益ノ中、何

レカ危殆ニ迫ルモノアルヲ認ムルトキハ、兩國政府ハ、相互ニ充分ニ且隔意ナク通告シ、其侵迫セラレタル權利又ハ利益ヲ擁護セムガ爲メニ、執ルベキ措置ヲ協同ニ考量スベシ。

第二條　兩締盟國ノ一方ガ、挑發スルコトナクシテ、一國若クハ數國ヨリ攻擊ヲ受ケタルニ因リ、又ハ一國若クハ數國ノ侵略的行動ニ因リ、該締盟國ニ於テ、本協約前文ニ記述セル其ノ領土權、又ハ特殊利益ヲ防護セムガ爲メ、交戰スルニ至リタルトキハ、前記ノ攻擊又ハ侵略的行動ガ、何レノ地ニ於テ、發生スルヲ問ハズ、他ノ一方ノ締盟國ハ、直ニ來リテ、其ノ同盟國ニ援助ヲ與ヘ、協同戰鬪ニ當リ、媾和モ亦雙方合意ノ上ニ於テ之ヲ爲スベシ。

第三條　日本國ハ韓國ニ於テ、政事上、軍事上及經濟上ノ卓絕ナル利益ヲ有スルヲ以テ、大不列顚國ハ日本國カ該利益ヲ擁護增進セムガ爲メ、正當且必要ト認ムル指導、監理及保護ノ措置ヲ韓國ニ於テ執ルノ權利ヲ承認ス。

但該措置ハ、常ニ列國ノ商工業ニ對スル機會均等主義ニ反セザルコトヲ要ス。

第四條　大不列顚國ハ、印度國境ノ安全ニ繫ル一切ノ事項ニ關シ、特殊利益ヲ有スルヲ以テ、日本國ハ前記國境ノ附近ニ於テ、大不列顚國ガ其印度領地ヲ擁護セム

ガ爲メ、必要ト認ムル措置ヲ執ルノ權利ヲ承認ス。

第五條　兩締盟國ハ、孰モ他ノ一方ト協議ヲ經ズシテ、他國ト本協約前文ニ記述セル目的ヲ害スベキ別約ヲ爲サヾルベキコトヲ約定ス。

第六條　現時ノ日露戰爭ニ對シテハ大不列顚國ハ引續キ嚴正中立ヲ維持シ若シ他ノ一國若ハ數國ガ日本國ニ對シテ交戰ニ加ハルトキハ大不列顚國ハ來リテ日本ニ援助ヲ與ヘ、協同戰鬪ニ當リ、媾和モ亦雙方合意ノ上ニ於テ之ヲ爲スベシ。

第七條　兩締盟國ノ一方ガ本協約中ニ規定スル場合ニ際シ、他ノ一方ニ兵力的援助ヲ與フベキ條件及該條件援助ノ實行方法ハ、兩締盟國陸海軍當局者ニ於テ協定スベク、又該當局者ハ相互利害ノ問題ニ關シ、相互ニ充分ニ隔意ナク隨時協議スベシ。

第八條　本協約ハ第六條ノ規定ニ抵觸セザル限リ調印ノ日ヨリ直ニ實施シ、十箇年間効力ヲ有ス、右十箇年ノ終了ニ至ル十二箇月前ニ、兩締盟國ノ孰レヨリモ、本協約ヲ廢棄スルノ意思ヲ通告セザルトキハ、本協約ハ兩締盟國ノ一方ガ廢棄ノ意思ヲ表示シタル當日ヨリ、一箇年ノ終了ニ至ルマデ引續キ効力ヲ有ス。然レドモ、若シ右終了期日ニ至リ、同盟國ノ一方ガ、現ニ交戰中ナルトキハ、本同盟ハ媾

和ノ成立ニ至ルマデ當然繼續スベシ。

右證據トシテ下名ハ各其政府ノ委任ヲ受ケ、本協約ニ記名調印スルモノナリ。

一千九百五年八月十二日倫敦ニ於テ本書二通ヲ作ル。

大不列顛國駐劄
日本國皇帝陛下ノ特命全權公使
林　董印

大不列顛國皇帝陛下ノ外務大臣
ランスダウン印

## 第二表

非日本的感情の始めて顯はれしは千九百年に起れる桑港の群衆大會是なり。千九百四年米國の勞働組合(二、五〇〇、〇〇〇の會員を有す)は其第二十四年會に日本人を永久に合衆國及び其領地なる島嶼より排斥すべき決議をなせり。而して此決議は千九百五年及び千九百六年の年會に於て更に言明せられたり。又千九百五年に十二個の全國勞働大會は同一なる決議を採用し、其他自治團體、同胞協會

政黨及び勞働組合等無慮五百三十九團體も亦同一決議を爲せり。
千九百六年には日韓人排斥同盟組織せられたるが、加州なる該同盟會員は十二萬五千人と稱せらる、即ち左の如し。

| | |
|---|---|
| 勞働團體 | 一六九 |
| 同胞協會 | 一八 |
| 自治團體 | 一二 |
| 慈善組合 | 三 |
| 政黨及軍事協會 | 三 |
| 合計 | 二三二 |

以上の數は桑港以外の關係團體、及び其支部を含ます。
千九百八年には北部アメリカ亞細亞人種排斥同盟成立せり。即ち是れ千九百六年なる日韓人排斥同盟より生れ來れるものにして、其支部を西部諸州各處に有せり。
此同盟の要求は彼等が議會に提出せる建議書により明かなり。之に依て見れば西部諸州に於ては、此問題に關し條約の規定に對し直接反對の行動を取らんとす

ることは一般の感情なるを示す。

## 建議書

北米亞細亞排斥同盟第一年會は、千九百八年二月ワシントン州シアトル市に開かれたる定期開會に於て左の事項を議決せり。

建議者等は絶對的强制的に總ての亞細亞人種を合衆國の本土、及び其の領地なる島嶼より排斥する所の法律の直ちに制定せられんことを要求す。

建議者等は合衆國の行政官が外國の君主と協議し、合衆國に移民する目的の爲めに前記外國人の階級、及び其の數を定むる所の契約を爲すことに反對す。

建議者等は外國に對し斯の如き條約を締結することは、米國の傳說及び國是に背くものにして米國市民の權利に背くものなるを宣言す。

建議者等は更に米國々旗を掲げたる船舶に、米國の水夫と均しく、米國の法律に背きて亞細亞人種を使用することに反對す。故に吾等は迅速に法律の制定せられて、米國々旗を掲げたる總ての船舶、若くは官衙の何たるに關はらず、亞細亞人種を使用することを禁止せられんことを希望す。

且つ建議者等は亞米利加人の高尙なる愛國的論據に基き、亞細亞人種の移民の繼續に反對す、其理由左の如し。

第一、此等の亞細亞人種の米國に來るや我國に對する生國的感情、及び愛國心を全然知らずして來れるを以て、米國市民の義務を果すには、全然不適當にして能力なきものなり。

第二、米國の國民的生活の中に此不適當なる同化し難き要素を入るゝことは、我が愛する諸制度と吾人の社會生活を終局的に破壞せずとするも、之れを棄損退步せしむることは已むを得ざるなり。

第三、此等の亞細亞人種は愛國心、道德、眞實、其他基督敎的文明の最高なる觀念を知らざるものなり。

第四、亞細亞人種が米國に在ることは、米國社會生活の最良の方面に對し、墮落汚穢的の感化力を與ふるものなり。

第五、亞細亞人種の生活程度低く、其周圍は不道德にして勞働費の廉なるを以て、我米國の組織、我文明の誇り、及び光榮に對し、恐るべき激烈の競爭を爲すなり。故に有効なる法律を以て禁止するにあらずんば、米國の勞働は退步して回復

すべからず。

第六、亞細亞人種の大團體が我等の中に生存し、其最大部分は武裝を爲し、自已の政府に忠實にして、我國民に對しては假令、敵對はせざるも信頼せず、我政府及び諸制度に對しては忠實ならず、平時に於て米國人民の生活を遵奉せず戰時に於ては常に自國の召集に應ぜんとす。かゝる諸點を考ふる時は亞細亞人種は、米國共和國即ち白晳人種の社會各方面に於ける勞働者、愛國者、及び英雄の强き手と忠實なる心とに依て得たる莊嚴なる成効に對する恐るべき威嚇なること。

上院議員ロッヂ氏はボストン市に於ての演說中、合衆國より日本人を排斥せんとする運動を大に贊成して左の如く云へり。

斯の如き人民の運動は夫れ自身に於て偉大なる歷史上の出來事なるを以て、最も注意して研究を爲すの價値あり、吾人の顧慮せる所のものは此運動が合衆國の人民、及び其將來に如何なる影響を與ふべきやと云ふに在り。

と、綿密なる調査に依れば太平洋岸には人民は經濟的競爭に就て、排日主義なるのみならず彼等は今や人種上の反對を爲すに至れり。日本の移民及び歸化に就て

は人民は左の四階級に分たる。

| | |
|---|---|
| 百分の八 | 日本人賛成 |
| 百分の二十二 | 無頓着 |
| 百分の三十 | 反對 |
| 百分の四十 | 戰爭論者 |

## 第三表

合衆國に於ける日本人排斥に關し、官吏として最初に其態度を示せしは加州知事ヘンリー、チーゲーヂ氏なり。氏は千九百年加州議會に對する教書（教書は隔年に一次發するもの）の中に日本人排斥の必要を說けり、知事の提議に從て議會は兩院とも同決議案を可決して、之を米國議會に提出し日本人排斥を主張せり。又千九百五年三月二十二日之と同一なる決議は、更に加州立法部に於て採用せられ、上下兩院共に滿場一致を以て無制限なる日本移民は同州に取りて危險なりとの宣告を爲せり。

ネバダ州の上下兩院も亦同一なる議決を滿場一致を以て可決せり。爾來太平洋

沿岸の全部に於て州、郡、市、の各團體は同一の行動を取り、終に桑港の敎務部は日本人を公立學校より排斥し、之か爲に重大なる國際的葛藤を惹起せんとせり。是等行動は外國との總ての條約に反對なるや明かなれども、加州の高等法院は之を憲法に適へるものなりと宣言したり。是れに由て視るも州の輿論にして中央政府の方針に反對なる時は、米國は外國に對し正義にして平和的の關係を維持し能はざるを示せり。

千九百六年十二月大統領ルーズヴェルト氏の敎書中、日本との爭議に關しての言明に對し、加州知事パーデー氏は千九百七年一月加州議會に敎書を送りて答辯を試み、人民の感情の一部分を發表せり。曰く大統領が桑港學校に於ける日本人の待遇に關する其敎書の部分を筆にせし時は、太平洋岸殊に加州の狀態を十分知らざりしと云ふことを得べし……大統領は日清兩國人及び白人間の人種的區別を知らざるなり……米國の法律及び習慣は白人と彼等との結婚を雜種結婚と看做すなり、此亞細亞人及び白晢人種に伴ふ宗敎、思想、風俗、習慣上の人種的區別が到底消滅し得べきものとせば、米人が彼等に對する薄遇も大に減少するなるべし。然れども斯の如く人種的特徵を異にし文明を異にする人民か我人民と混和し遂

に社會に同化せらるゝことは、之を期待するも無益なり、彼等は善良の米人たる能はす彼等をして斯の如きものたらしむる企ては無益ならんのみ。

斯る輿論と政府の態度はやがて太平洋沿岸に於ける政黨の希望と合體し而して此等の感情が西部諸州の政治に滲入せる時は、終に一定不變の方針となりて大なる政黨の綱領の中に含まれん、然り、實際に此事は起り來りて其感情は局部的よりして終に中央政府の問題とはなれり。千九百年以來市、郡、州に於ける各種政黨の會議は太平洋岸の總ての部分に於て、其決議の中に日本人を絶對的に排斥すべしと云ふ提議を含めり、此感情は西部の政治的團體にも深く滲入せしを以て、二個の政黨の綱領にも之を網羅したり。

## 獨立黨の宣言書

千九百八年七月二十八日全國集會に於て議決せるもの左の如し。

吾人は我か人民と融和せず、人種問題を惹起し、排米的狀態を生じ賃銀を低減し生活の程度を低め、米國文明の維持したる道德の高尙なる標準を低むる所の亞細亞人種の移入に反對す。

吾人は亞細亞人種排斥法の制定を要求す。斯る法律により米國勞働者と亞細亞人種の廉價なる勞働者の競爭とに對して、米國勞働者を保護し、米國の文明を亞細亞的狀態に汚されざらんことを希望す。

## 民主黨の宣言書

千九百八年七月十日全國大會に議決せられしもの左の如し。

吾人は中央及び各州政府に於て、合衆國と條約を結べる總ての外國民にして米國に居住するものを充分に保護することを賛成す。されど吾人は我人民と同化せず、反て人種上の爭を生し、東洋諸國と外交上の爭論を生せしむる所の亞細亞人種の移入に反對す。

千九百七年日本の外務大臣林伯爵は、日本人排斥及び歸化反對に關して米國に答書を送りて曰く『日本帝國は條約の規定に依りて米國に居住し、又居住せんとする日本人に對しては、他の外國人と均しき權利特權及び自由を要求す』と述べたり。

千九百八年より同千九百九年間に各州中排日的決議をなせしもの左の如し。

カリフォルニア。オレゴン。ワシントン。ネバダ。アリゾナ。コロラード。ウィオミング。ア

イダホ。ハワイ。

## 第四表

各國海軍力の比較に對する確實なる標準を發見することは蓋し困難なり、徒らに海軍の艦數を云々するは無意味のものたるに過ぎず、何となれば其船舶及び之に要する乘員は各自其性質の異なれる故を以て、到底比較の標準とはならざるなり。又武裝せる船艦の標準に依るも無効なり。 單に防禦力のみ有する艦隊、即ち甲鐵艦隊(低舷にして巨大なる回轉砲塔を有する艦)の如きは近代の戰爭に其効力少なく、又は速力の比較も誤謬少なからず、輕快なる速力を以てし、而かも比較的に裝甲の少なき巡洋艦は戰闘艦と相對しては戰闘力甚だ少なし、且つ又船艦の比較を爲さんと欲せば、今日建造せられたる戰艦は數年前のものと比較して四倍の勢力を有することを記臆せざるべからず、對島海戰以來新狀態の發生し來るありて、之によつて艦隊の戰闘力の比較を正確ならしむるに至れり。 將來海戰の勝利は最も多數の巨砲を戰線區域の最近なる場所に送致し得る海軍に歸せん。 今茲に試みんとする此比較の巨砲の内には五千ヤードの距離に於て甲鐵板を貫穿するもの

あり。即ち五〇口徑九吋二分の一砲、四五口徑一〇吋砲、四〇口徑一一吋砲、三五口徑一三吋砲、三五口徑一二吋砲、及び一三口徑二分の一吋砲なりとす。

日露戰爭前に建造せる日本の戰鬪艦、及び露國より拿捕せる軍艦は、此理想に基きて改造せられ、其の武器も亦變改せられたる結果は、戰鬪力を二倍に增加せり。三笠型の戰鬪艦は從來一二吋砲四門、六吋砲十四門を艦載したるに過ぎざりしが、今や六吋砲に代ゆるに十吋砲四門を以てせり、即ち其重なる武裝は重口徑砲八門に該當す。而して露艦も日本と等しく重口徑砲八門に改めたり。

左記の表は日米兩艦隊の戰鬪力を示すものなり。

### 千九百九年に於ける日本一等戰鬪艦

| 艦名 | 排水噸數 | 巨砲數 | 速力 |
|---|---|---|---|
| 敷島 | 一五〇〇〇噸 | 十二吋砲四門、十吋砲四門 | 一八、三節 |
| 朝日 | 一五〇〇〇 | 同　同 | 一八、〇 |
| 石見 | 一三五六六 | 同　同 | 一八、〇 |
| 肥前 | 一二七〇〇 | 同　同 | 一八、〇 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 周防 | 一二六七四 | 同 | 同 | 一九、〇 |
| 相摸 | 一二六七四 | 同 | 同 | 一九、〇 |
| 富士 | 一二三〇〇 | 同 | 同 | 一八、五 |
| 丹後 | 一一〇〇〇 | 同 | 同 | 一八、〇 |
| 三笠 | 一五二〇〇 | 同 | 同 | 一八、〇 |
| 香取 | 一六四〇〇 | 同 | 同 | 一九、五 |
| 鹿島 | 一六四〇〇 | 同 | 同 | 一九、二 |
| 薩摩 | 一九二〇〇 | 同 | 十吋砲十二 | 二〇、五 |
| 安藝 | 一九八〇〇 | 同 | 十吋砲十二 | 二一、五 |
| フキ(?) | 二一〇〇〇 | 十二吋砲十二、 | | 二一、五 |
| 合計 | 十四隻 | 巨砲百三十二門 | | |

千九百九年に於ける米國一等戰鬪艦

| 艦名 | 排水噸數 | 巨砲數 | 速力 |
|---|---|---|---|
| ニュー、ハンプシア | 一六〇〇〇噸 | 十二吋砲四門 | 一八、〇節 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| アラバマ | 一一五五二 | 十三吋砲四 | 一七、〇 |
| コン子クチカット | 一六〇〇〇 | 十二吋砲四 | 一八、〇 |
| ジョージア | 一四九四八 | 同上 | 一九、〇 |
| アイダホー | 一三〇〇〇 | 同上 | 一七、〇 |
| イリノイス | 一一五五二 | 十三吋砲四 | 一七、〇 |
| アイオワ | 一一三四八 | 十二吋砲四 | 一七、〇 |
| カンサス | 一六〇〇〇 | 同上 | 一八、〇 |
| カーセージ | 一一五二〇 | 十三吋砲四 | 一七、〇 |
| ケンタッキー | 一一五二〇 | 同上 | 一七、〇 |
| ルイジアナ | 一六〇〇〇 | 十二吋砲四 | 一八、〇 |
| メーン | 一二五〇〇 | 同上 | 一八、〇 |
| ミシガン | 一六〇〇〇 | 十二吋砲八 | 一八、〇 |
| ミ子ソタ | 一六〇〇〇 | 十二吋砲四 | 一八、〇 |
| ミスシッピー | 一三〇〇〇 | 同上 | 一七、〇 |
| ミツゾリー | 一二五〇〇 | 同上 | 一八、〇 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ネブラスカ | 一四九四八 | 同上 | 一九、〇 |
| ニユージヤージー | 一四九四八 | 同上 | 一九、〇 |
| オハイオ | 一二五〇〇 | 同上 | 一八、〇 |
| ルード、アイランド | 一四九四八 | 同上 | 一九、〇 |
| サウス、カロリナ | 一六〇〇〇 | 十二吋砲八 | 一八、〇 |
| バーモント | 一六〇〇〇 | 十二吋砲四 | 一八、〇 |
| バージニア | 一四九四八 | 同上 | 一九、〇 |
| ウイスコンシン | 一一五五二 | 十三吋砲四 | 一七、〇 |
| 合計二十四隻　巨砲百〇四門 | | | |

以上の表に依て比較を試むれば、日本海軍巨砲の數は米國海軍より三割以上の優勢を示せり、而して其艦數は僅かに米國の半ば以上に過ぎず。

## 千九百九年に於ける日本裝甲巡洋艦

| 艦名 | 排水噸數 | 巨砲數 | 速力 |
|---|---|---|---|
| 常磐 | 九七〇〇噸 | | 二三、〇節 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 淺間 | 九七〇〇 | | 二二、一 |
| 出雲 | 九七五〇 | | 二二、〇 |
| 岩手 | 九七五〇 | | 二二、〇 |
| 八雲 | 九八五〇 | | 二〇、〇 |
| 吾妻 | 九四三六 | | 二〇、〇 |
| 阿蘇 | 七七二六 | | 二二、〇 |
| 春日 | 七二二九 | 十二吋砲一門 | 二二、〇 |
| 日進 | 七七〇〇 | | 二〇、〇 |
| 筑波 | 一三七五〇 | 十二吋四 | 二一、〇 |
| 生駒 | 一三七五〇 | 同上 | 二〇、¾ |
| 鞍馬 | 一四六〇〇 | 同上 | 二〇、〇 |
| 伊吹 | 一四六〇〇 | 同上 | 二三、〇 |
| 、、 | 一八〇〇〇 | 同上、十吋砲八 | 二五、〇 |

合計拾四隻

巨砲二拾九門

# 千九百九年に於ける米國裝甲巡洋艦

| 艦名 | 排水噸數 | 巨砲數 | 速力 |
|---|---|---|---|
| ブルックリン | 九二一五噸 | | 二二、〇節 |
| カリフォルニア | 一三六八〇 | | 二二、〇 |
| コロラード | 一三六八〇 | | 二二、〇 |
| メーリーランド | 一三六八〇 | | 二二、〇 |
| モンタナ | 一四五〇〇 | 十吋砲四 | 二二、〇 |
| ニューヨーク | 八一五〇 | | 二一、〇 |
| ノース、カロリナ | 一四五〇〇 | 十吋砲四 | 二二、〇 |
| ペンシルヴァニア | 一三六八〇 | | 二二、〇 |
| サウス、ダコタ | 一三六八〇 | | 二二、〇 |
| テンネッシー | 一四五〇〇 | 十吋砲四 | 二二、〇 |
| ワシントン | 一四五〇〇 | 同上 | 二二、〇 |
| ウエスト、バージニア | 一三六八〇 | | 二二、〇 |
| 合計拾貳隻 | | 巨砲拾六門 | |

日米兩海軍水雷艇及水雷驅逐艦

| | 日本 | 米國 |
|---|---|---|
| 水雷艇 | 七九隻 | 三六隻 |
| 水雷驅逐艦 | 五四 | 一六 |

## 第五表

左の表は英國、佛國、獨逸、日本及び米國の各海軍に於ける現役將官、及び艦長の年齡及び各階級の義務年限の平均を示せるものなり。

| 國名 | 現役將官 年齡 | 現役將官 各階級ニ於ケル義務年限 | 艦長 年齡 | 艦長 各階級ニ於ケル義務年限 |
|---|---|---|---|---|
| 英國 | 四五 | 八、〇 | 三五 | 一一、二 |
| 佛國 | 五三 | 一四、二 | 四七 | 九、五 |

| | | |
|---|---|---|
| 獨逸 | 五一 | 六、〇 |
| 日本 | 四四 | 一一、〇 |
| 米國 | 五九 | 一、五 |

| | | |
|---|---|---|
| 獨逸 | 四二 | 六、二 |
| 日本 | 三八 | 八、〇 |
| 米國 | 五五 | 四、五 |

## 日米兩海軍乘組員總數

| 名稱 | 日本 | 米國 |
|---|---|---|
| 現役將官 | 四九人 | 一八人 |
| 司令又ハ艦長 | 一八五 | 一八二 |
| 其他ノ士官及ビ機關將校 | 一四五一 | 六九七 |
| 軍醫 | 三一一 | 二五四 |
| 主計 | 二四〇 | 一八八 |
| 下士 | 一〇六四 | 六二四 |
| 水兵 | 三五三一二 | 三二〇〇〇 |

# 第六表

イ、

米國の戰闘艦の中十二隻には其上部艦尾に全然甲鐵を以て覆はれざる部分あり、而して此部分は後塔の前面にあるを以て、即ち五十平方呎に亘れる武裝せられざる部分あるが故に、補助彈藥庫に達するの塔頂は、敵彈に向つて開放せらる。

ロ、

凡て米國戰闘艦は重要なる甲鐵帶は武裝を全備し、航海出發に際しては水上六吋以上に浮出せず。今斯の如く重要なる武裝が水平以下に沈める狀態にありしを以て、露艦は對島に於て多大に擊沈せられたるなり。即ち此甲鐵帶は重なる列國の海軍に於けるが如く吃水面上數呎に出づべきものなり。佛國軍艦は吃水面上五呎乃至八呎に達し、英國近造の戰闘艦は八呎以下五呎なり。

ハ

米國戰闘艦は砲門極めて大なるが故に、大砲並びに是に從事する砲員は容易に敵彈の災禍を受く。カーセージ及びケンタッキー兩艦の小塔は極めて大なるが故に、數多の十二吋砲彈を同時に之に射入するを得へきなり。又是等の砲塔には大砲の上下に十呎平方の空隙あり。或艦の舷側砲は六呎の面積に及ぶを以て其雨

下し來る敵彈の標的となるべし。他國の海軍は威力少なき砲門を一對宛、其砲塔に備へ、又一門づゝ船窓に裝置すれども、米國艦隊は最近の五隻の外には此設備なし。カーセージ及びケンタッキーは一區劃に十四門の巨砲あり、此區劃を砲擊せられんか、凡ての砲は全然破壞さるゝのみならず、之に從事しつゝある百四十人の兵員は死傷を免かる能はざらん。

ニ、

太西洋艦隊の近時の演習に於て、大洋を航行すべき水雷艇又は水雷驅逐艦が、戰鬪艦隊と相見ゆる時、之を破壞すべき地位にまで近づき得らるべきことを發見せりと云ふ。而して此艦隊を保護せんが爲には敵の驅逐艦の攻擊に對して、四十八隻の驅逐艦の一隊を要すと計算せらる。(第四表最後の一節參照)

ホ、

戰鬪艦の太平洋航海に關するエバンス大將の報告に據れば、米國戰鬪艦の低き(水上に現はれたる部分)ことは其戰鬪力を減ずるや甚だ大なり、即ち三隻の戰鬪艦は其艦首を海面に露出すること十一呎にして他の二艦の如きも十三呎のみ、最近建造せられたる戰鬪艦すら僅かに十八呎にして、又最近の巡洋艦は二十呎に過ぎず

然るに他國の戰鬪艦は孰れも其前面の甲板を海面二十二呎乃至二十八呎に存せり。而して裝甲巡洋艦は二十五呎乃至三十二呎の高さを有すと。

急速力を必要とする實戰に下甲板の低き爲めに生ずる困難は、最近米國艦隊の試みたる航海中、バージニア艦に依て其例を示されたり、同戰鬪艦は十九節〇四の速力を以て航海中、前面に當れる海浪は十五呎の高さに達し更に風濤相激する時は水烟濛々として海面上四十呎に騰れり、於是乎、同艦は曾て玖馬島よりハンプトン、ローズに到る航海に際しては、凡ての砲門を甲鐵を以て密鎖し、尙ほ浸入し來れる百二十噸の海水を前面の砲塔に向つて汲み送りしことあり、若し同艦の砲門にして砲擊の爲めに開かれん乎、更に多量の海水は浸入し來り、前砲塔の巨砲をして無効たらしめしなるべし。太平洋航走の經驗によれば、戰鬪艦を稍々穩やかなる海上に、全速力を以て航走し、又怒濤中を中間の速度を以て航走する場合には、前砲塔の巨砲は之れを使用することを得ず、斯る場合に際し米艦の四巨砲の半數は前砲塔に艦載せるが故に、其の砲力を半減するに至るべきなり。米國戰艦の補助武裝艦たる艦砲は下甲板よりも一層低き所にあり、卽ち最近建造されたるニューハンプシア、コンネクチカット、カンサス、アイダホー、ルイジアナ、ミネソタ、バーモント、ジ

ヨージヤ。ミスシツピー。バージニア。ネブラスカ。ニユージヤージー等の十二戰鬪艦は、其艦身は海面僅かに十一呎を露出するのみ、十四新造巡洋艦の內、十艦は其中型砲は同一の高さにあり。されば是等の砲門は、艦隊が靜かなる波上に實戰の如き急速力を以て駛走するか、若くは激浪の際中間の速力を以て駛走する時は、風に逆らつて發射することを得ず。反之、他國の戰艦の舷砲は一般に米國艦隊の二倍にして、或ものは三倍の砲力を有するものすらあり。

## 第七表

### 日本戰時軍隊輸送船

（一千九百九年に於ける主要船舶）

（船名上に×印を附せる船は貨物船なる爲め軍隊輸送力少なし）

| 船名 | 總噸數 | 輸送將卒數 |
|---|---|---|
| 天洋丸 | 一四〇〇〇噸 | 四六〇〇人 |
| 地洋丸 | 一四〇〇〇 | 四六〇〇 |
| 、、丸 | 一四〇〇〇 | 四六〇〇 |

| | | |
|---|---|---|
| 加茂丸 | 八六〇〇 | 三五九四 |
| 平野丸 | 八六〇〇 | 三五九四 |
| ミヤザカ丸(?) | 八六〇〇 | 三五九四 |
| 熱田丸 | 八六〇〇 | 三五九四 |
| 北野丸 | 八六〇〇 | 三五九四 |
| 三島丸 | 八六〇〇 | 三五九四 |
| 丹後丸 | 七四六三 | 三一六八 |
| 常陸丸 | 六七一六 | 二八八六 |
| 安藝丸 | 六四四四 | 二八四二 |
| 信濃丸 | 六三八八 | 二九一六 |
| 伊豫丸 | 六三二〇 | 二九六五 |
| 阿波丸 | 六三〇九 | 二八五四 |
| 加賀丸 | 六三〇一 | 二八七二 |
| 若狹丸 | 六二六五 | 二七一七 |
| 備後丸 | 六二四七 | 二八〇五 |
| 佐渡丸 | 六二二七 | 二七四〇 |

| | | |
|---|---|---|
| 因幡丸 | 六一八九 | 二八一六 |
| 神奈川丸 | 六一七〇 | 二八三二 |
| 博多丸 | 六一六一 | 二四一五 |
| 丹波丸 | 六一三四 | 二七九四 |
| 鎌倉丸 | 六一二六 | 二六七〇 |
| 讃岐丸 | 六一一二 | 二七〇〇 |
| 河内丸 | 六一〇一 | 二五三二 |
| 香港丸 | 六〇〇〇 | 二六〇〇 |
| 亞米利加丸 | 六〇〇〇 | 二六〇〇 |
| 日本丸 | 六〇〇〇 | 二六〇〇 |
| 土佐丸 | 五八二三 | 二八八五 |
| 日光丸 | 五五三九 | 二四〇〇 |
| 熊野丸 | 五〇七六 | 二三九六 |
| 錫蘭丸 | 五〇六八 | 二三〇〇 |
| 旅順丸 | 四八〇六 | 二八四〇 |

| | | |
|---|---|---|
| 高崎丸 | 四七四七 | 二一七六 |
| 若宮丸 | 四七二三 | 二三九二 |
| カゲシマ丸(?) | 四六八七 | 二〇七〇 |
| 擇捉丸 | 四一六六 | 二一八五 |
| ×古倫母丸 | 四七〇九 | 一〇〇〇 |
| ×孟買丸 | 四六二九 | 一〇〇〇 |
| 合計 四〇艘 軍隊輸送力 一一四二三五人 | | |

## 同上第一補助船(船名上に×印を附せる船は貨物船なる爲め軍隊輸送力少なし)

| 船名 | 總噸數 | 輸送將卒數 |
|---|---|---|
| 鹿兒島丸 | 四四〇五噸 | 一七二六人 |
| 天津丸 | 四一七三 | 一六七〇 |
| 烏帽子丸 | 四〇九八 | 二一四〇 |
| 春日丸 | 三八二〇 | 一八〇〇 |
| 八幡丸 | 三八一七 | 一九〇〇 |

| | | |
|---|---|---|
| 藻寄丸 | 三七七三 | 一七九〇 |
| シオタビ丸(?) | 三七五五 | 一八四二 |
| 辨天丸 | 三六六八 | 一六八〇 |
| ×遠江丸 | 三四一二 | 九〇〇 |
| 三池丸 | 三三六五 | 一七九〇 |
| 山口丸 | 三三二一 | 一八四五 |
| 廣島丸 | 三二八三 | 一五〇〇 |
| 松山丸 | 三〇九九 | 二〇一〇 |
| ×三河丸 | 二九三二 | 八〇〇 |
| 西京丸 | 二九〇四 | 二四〇〇 |
| 神戸丸 | 二八七七 | 一六八〇 |
| 立髪丸 | 二七〇三 | 一六四〇 |
| 武島丸 | 二六七三 | 二三七二 |
| 傅愛丸 | 二六三六 | 一七五〇 |
| 弘濟丸 | 二六三五 | 一九〇九 |

| | | |
|---|---|---|
| 小倉丸 | 二五九六 | 一五二〇 |
| 山城丸 | 二五八一 | 二四八〇 |
| ×筑前丸 | 二五七八 | 七〇〇 |
| ×筑後丸 | 二五六三 | 七〇〇 |
| 和歌浦丸 | 二五三七 | 一五〇〇 |
| 榮城丸 | 二五〇六 | 二二六〇 |
| 近江丸 | 二五〇一 | 一八〇〇 |
| 横濱丸 | 二三七三 | 二五六〇 |
| ×新潟丸 | 二一八四 | 六五〇 |
| ×淡路丸 | 二〇四五 | 六〇〇 |
| 山東丸 | 二〇三二 | 一八〇〇 |
| 營口丸 | 一九六六 | 一六四〇 |
| 酒田丸 | 一九六三 | 一九四四 |
| 薩摩丸 | 一九三九 | 二二六八 |
| 相模丸 | 一九三四 | 一六〇〇 |

| | | |
|---|---|---|
| 芝罘丸 | 一九三四 | 一六七〇 |
| 長門丸 | 一八八四 | 一七一八 |
| ×伏木丸 | 一八三九 | 六〇〇 |
| 高砂丸 | 一七八九 | 一四七七 |
| 小樽丸 | 一五七一 | 一八二三 |
| 花咲丸 | 一五七〇 | 一八二三 |
| ×上川丸 | 一四六五 | 五五〇 |
| ×弘前丸 | 一四六〇 | 五五〇 |
| 玄海丸 | 一四四七 | 一九五二 |
| 兵庫丸 | 一四三八 | 一八九〇 |
| 住ノ江丸 | 一四二五 | 一九九〇 |
| 肥後丸 | 一四二〇 | 一七三五 |
| ×高松丸 | 一三三五 | 五〇〇 |
| ×大隅丸 | 一三三五 | 五〇〇 |
| ×石狩丸 | 一三一二 | 五〇〇 |

| 船名 | | |
|---|---|---|
| 越後丸 | 一二八〇 | 一〇〇〇 |
| 伊勢丸 | 一二五〇 | 一四八〇 |
| 十勝丸 | 一一一〇 | 一六四二 |
| 釧路丸 | 一〇七六 | 一一九〇 |
| 濟州丸 | 二二一七 | 一六三七 |
| 合計　五十五艘 | 軍隊輸送力　八五二九一人 | |

主船合計　四十艘　軍隊輸送力　一一四、二三五人
第一補助船合計　五十五艘　同上　八五、二九一人
總計九十五艘　軍隊輸送力　一九九、五二六人
（第二補助船を略す）

千八百九十八年より千九百年に至る米國輸送船（比較表）

| 船名 | 總噸數 | 輸送將卒數 |
|---|---|---|
| ニッカーボッカー | 一六四二噸 | 九四五人 |

| | | |
|---|---|---|
| バッホード | 三〇三九 | 一〇五二 |
| ケロキー | 二五五七 | 一〇〇〇 |
| グラント | 五五九〇 | 一九〇九 |
| ローガン | 五六七二 | 一七九六 |
| ワーレン | 四三七五 | 一二九二 |
| トーマス | 五七九六 | 一七八一 |
| シャーマン | 五七八〇 | 一八八八 |
| シェリダン | 五六七三 | 二〇〇〇 |
| ミード | 五六四一 | 二〇七五 |

一人の米人が必要とする同一の場所に、四五人若くは其れ以上の日本人を容るゝを得べしと雖も、此事實は茲に日本海軍の輸送力を比較せんとするに當り餘り多く計算に加へず。是れ噸數に對して乘組員の數を對照するの方法を取りしにより自から明らかならん。

米國最大輸送船の一なるミード號(五千六百四十一噸、軍隊輸送力將卒二千七十五人)を日本輸送船の天洋丸型(一萬四千噸、輸送力、將卒四千六百人)に比較する時は、米

國の輸送船は二噸九五に對し一人の割合にして、日本は三噸〇四に對して一人を輸送し得るなり。乃ち米船は日本と比較して此噸數に對してより以上の比較的多數の兵員を輸送するを示す。

次に米國の輸送船ワーレン號(總噸數四千三百七十五噸、輸送力、將卒一千二百九十二人)を日本の加茂丸型の輸送船(總噸數八千六百噸、輸送力、將卒三千五百九十四人)を比較するときは、米船は約三噸、三八に對し一人を乘せ、日本は二噸四に一人を乘するの割合なり。乃ち日本輸送船は米國の夫れと對照して兩者の差は極めて少なれども、一噸に對し比較的多數の人員を輸送し得る割合なり。

次に米國の輸送船バッフホード號(三千〇三十九噸、輸送力、將卒一千〇五十二人)を六千噸以上の日本の第三位輸送船に比較せんに、米國の輸送力は二噸八に對して一人なるに、日本は二噸四四に對する一人の割合なり。

乍併日本の噸數少なき船は比較的噸數の割合に多くの搭載力を示すを見る。即ち一噸に對し兵士一人の割合なるものあり。是等の小船は全然東洋人種の便宜に適すべく造られたるものにして、日本人生活の狀態を利用し、最も僅少なる場所及び噸數に對し、最も多數の人員を輸送するを得るなり。

試に日本が是等二個の輸送船隊により、一米人に必要なる場所と噸數に對し、二人の日本人を乘船すと假定せんか、是等二個の輸送船隊の一航海に於て三十萬の將卒及び其兵器輜重を輸送し得べきなり。而して是等の兵員に取りて必ずしも苦痛ならざるは、日露戰爭中滿洲冬陣の狀態に就て見るも明白なり。然るに吾人は此點を計算に加へず、日本船の輸送力を論ずるに歐洲式の計算を以てしたるなり。

## 第八表

イ、

左に掲ぐる統計は南北戰爭に北軍より餘議なく退職されたる將校の數なり

| 兵科 | 諭旨免職者 不名譽 | 諭旨免職者 無能 | 諭旨免職者 理由を示さずして | 免職 | 辭職 |
|---|---|---|---|---|---|
| 常備軍 | | | | | |
| 騎兵 | | 一人 | 二五人 | 一人 | 九七人 |
| 砲兵 | | | 一八 | | 五〇 |

| 歩兵 | 合計 | 義勇兵 騎兵 | 義勇兵 砲兵 | 義勇兵 歩兵 | 合計 | 黒人軍 騎兵 | 黒人軍 砲兵 | 黒人軍 歩兵 | 合計 | 總計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 一二人 | 一五 | 一五九 | 一八六 | | | 一八 | 一八 | 二〇四 |
| 一 | 二 | 三三〇 | 一五九 | 二五六九 | 三〇五八 | | 八 | 一五八 | 一六六 | 三二二六 |
| 七九 | 一二二 | 三九四 | 一六三 | 一五八六 | 二一四三 | 五 | 九 | 一四四 | 一九八 | 二四二三 |
| 五 | 六 | 三八 | 一四 | 二〇〇 | 二五二 | | | 一六 | 一六 | 二七四 |
| 二五三 | 四〇〇 | 三〇五五 | 九九九 | 一七〇三六 | 二一〇九〇 | 三四 | 六八 | 六七九 | 七八一 | 二二二七一 |

總人員二一萬八千三百九十八人

前表最後の一段に示せる辭職は、多くは他の數段に示したる免職と、事實上殆んど異なることなし。即ち是等の辭職は常に二個の理由に依れり。

第一、他の四項目に依て免官せられんことを避けんが爲め先んして、辭職したること。

第二、大敗戰の後には毎に多くの辭職者を出せしこと是れなり。

カール、シュルッは其手記にフレデリックスベルグの敗戰後、北軍の聯隊將校にして辭職したるもの丶甚た多かりしことを記せり、無能なる士官を罰せずして單に辭職を許可したることは、當時軍規怠慢の特色なりき。此軍規怠慢の狀態は更に最も明らかに察知せらるべきは戰時に在て、死に値すべき逃走者に對する處置に現はれたり、即ち北軍の逃走者は總計二十萬人に達したるも、其の中にて死刑に處せられたるものは僅かに七人のみ。

ロ、

フレデリックスベルグ敗戰後、間もなく八萬五千の兵卒は逃走せり、此事實は短期義勇兵が逃走する動機を示すと共に、戰場の敗北か如何なる災厄を國家に來すべきかを示すものなり。

凡て聯邦的組織の政府は、隆盛なる成功の時代にのみ其基礎堅固にして、一たび國難に遭遇せば聯邦間の結合を緊縮せずして、却て分裂するの傾向を助長するものなり。若し米國軍隊にして日露戰爭若くは千八百七十年の普佛戰爭の如き連戰連敗の境遇に立たしめんか、やがては合衆國聯邦的制度は破壞するに至るやも計られず。

## 南北戰爭中の逃走者

| 兵科 | 逃走者數 將校 | 逃走者數 兵卒 |
|---|---|---|
| 常備軍 | | |
| 騎兵 | 二人 | 一八六六人 |
| 砲兵 | | 三一六二 |
| 歩兵 | 三 | 一一三三二 |
| 合計 | 五 | 一六三六〇 |
| 義勇兵 | | |
| 騎兵 | 三四 | 三一八五六 |

| | | |
|---|---|---|
| 砲兵 | 四 | 一一九四二 |
| 歩兵 | 一四九 | 一二六二三一 |
| 合計 | 一八七 | 一七〇〇二九 |
| 黒人軍 | | |
| 騎兵 | 四 | 六七四 |
| 砲兵 | 二 | 一八四三 |
| 歩兵 | 一八 | 九二三 |
| 合計 | 二四 | 三四四〇 |
| 總計 | 二一六 | 一八九八二九 |
| 總員十九萬四十五人 | | |

南北戰爭の狀態を見れば、民兵及び義勇兵の無効なるは明白なり、而して米西戰爭及び比律賓鎭壓に至りては、一層甚だしきを見るなり。

然しながら米國陸軍組織の無効なることは、豈啻是等最近の戰爭に於てのみ見るべけんや、抑も合衆國の創立當初より然りしことはエフ、エル、フイデコーパー氏の「北米評論雜誌」に記載せる左の表に依て明了なり。

## 逃走民兵

| 戰場 | 年月日 | 編成及出兵 |
|---|---|---|
| ロング、アイランド | 千七百七十六年八月二十七日 | パーソンス旅團 |
| ニユーヨークの撤兵 | 千七百七十六年九月十五日 | パーソンス及フエムース旅團 |
| ブランヂーワイン | 千七百七十七年九月十一日 | サリバン師團 |
| カンデン、サウスカロリナ州 | 千七百八十年八月十六日 | バージニア及サウスカロリナ旅團 |
| ギルフチード、コートハウス、ノースカロリナ州 | 千七百八十一年三月十五日 | ノースカロリナ聯隊 |
| インヂアナ州フホートツエーン近傍印度村 | 千七百九十年十月二十二日 | ハーマー、マイアミ遠征隊 |
| ダークカウンチーオハイオ州 | 千七百九十一年十一月四日 | セント、クレーア遠征隊 |
| フレンチタウン及レイシン川、ミシガン州 | 千八百十三年一月十八日－廿日 | ウインチエスター隊 |
| サツケツト、ハーボア | 千八百十三年五月二十九日 | ブラウンス大將統卒隊 |
| フレンチ、クリーク、ニユーヨーク州 | 千八百十三年十一月一日－五日 | ハンプトン大將隊 |
| クリスラー原、カナダ | 千八百十三年十一月十一日 | ウイルキンソン大將隊 |
| フホートジヨージ撤兵ナイアガラ川 | 千八百十三年十二月十日 | マツクリユーア大將統卒ニユーヨーク民兵 |
| バツフハロー及ブラツクロツクの燒失、ニユーヨーク州 | 千八百十三年十二月卅日 | 同上 |
| ブラデンスバーグ、メリーランド州 | 千八百十四年八月廿四日 | ウインダー大將統卒メリーランド、バージニア及コロンビアの一部の義勇兵及民兵 |
| ニユーオルレアンス、ルイジアナ州 | 千八百十五年一月八日 | ミスシツピー左岸に滯陣せるモルガン大將統卒民兵八百人 |

| | | |
|---|---|---|
| ガキチョビー湖、フロリダ州 | 千八百三十七年十二月二十五日 | ミッヅリー義勇兵及間諜 |
| ブールラン、バージニア州 | 千八百六十一年七月廿一日 | マクドーウェル大將統卒完全軍隊 |

上記の表は合衆國創立の初より南北戰爭の時に至るまで、常に多くの逃走兵ありしことを示すものにして、南北戰爭後の狀態は玆に擧證するの必要なし。同戰爭に於て記臆すべき事實は其戰場に勇壯なる働をなしたる評判の立ちし時は是れ已に其關係軍隊が二三年の實地訓練を經たる結果として、民兵は已に民兵たらず義勇兵は已に常備軍と化したる後のことなるを知るを得べし。
未だ學術及び發明が戰爭に多大の關係を有せざる米國獨立戰爭時代にても、當時の先輩は已に民兵及び義勇兵の無能なることを認めたり。華盛頓は實に左の如く云へり。

> 攻擊並に防禦ともに近代の戰爭に有効なるは只常備軍あるのみ。若し他種の軍隊を以て之に代用せんと欲せば必ずや空望と失敗とに了らん。如何なる民兵も常備軍に抵抗するに必要なる習慣を養成し得るものにあらず。實戰に必要なる精神の堅固は間斷なき訓練と服務とによりてのみ到達すべきなり。吾人は是れに異なれる意見を正當とすべき一例だも見ざるなり、米國の自由を斯

の如き薄弱なるものに依賴せられざらんとは、予の最も熱心に希望する所なり



## 民兵の暴動

| 場所 | 年月日 | 同盟能戰者 |
| --- | --- | --- |
| モリスパウン、ニュージャージー州 | 千七百八十一年一月一日 | ペンシルバニア隊（六聯隊）一千三百人 |
| ホンプトン、ニュージャージー州 | 千七百八十一年一月二十四日—廿八日 | ニュージャージー隊 |
| ランカスター、ペンシルバニア州 | 千七百八十三年六月 | 千七百八十三年六月二十一日、八十人の補充兵と二百人の他の不平分子がフヒラデルヒヤに進軍中、其俸給支拂を要求し、議員を補虜とせり |
| オハイオ州ウルバナよりミシガン州デトロイトに至る進軍中 | 千八百十二年六月 | フール大將統卒民兵 |
| デトロイト、ミシガン州 | 千八百十二年七月 | フール大將統卒百八十人のオハイオ民兵 |
| インジアナ州フホートハリソンよりウエーバッツス及イリノイス川に至る進軍中 | 千八百十二年十月十九日 | ホプキンス將軍統卒四千人のケンタツキー騎乘民兵 |
| モーミー河急流の途中 | 千八百十二年十月 | ハリソン大將統卒ケンタツキー、バージニア及オハイオ民兵 |
| ニューヨーク州プラツツバーグより加奈太に至る途中 | 千八百十二年十一月 | デアボン大將統卒三千人に近き民兵 |
| クインスタウンの戰爭 | 千八百十三年十月十三日 | レンセラー大將及ウヂツヅウオース大將統卒ニユーヨーク民兵 |
| フホートストローザー、フロリダ州 | 千八百十三年十一月 | テンチツシー民兵及義勇兵 |
| フホートジョージ撤兵後バツハアロー進軍中 | 千八百十二年十二月 | マツクリユーア大將統卒ニユーヨーク民兵 |
| ウイスラクチー川フロリダ州 | 千八百三十五年十二月卅一日 | コール知事引卒のフロリダ民兵及義勇兵のクリンチ導征 |
| チヤールスタウン、ウスエトバージニア州 | 千八百六十一年七月十六日—十八日 | シエナンドー民兵 |

## 中央府政府に對し民兵供給を拒みし各州

| 州名 | 知事 | 年月日 | 拒絶せし理由 |
|---|---|---|---|
| マサチユセッツ | ストロング | 千八百十二年四月 | 民兵召集の必要時機到來せしや否やを定むる權利は各州司令長官の有する所なるを以て大統領及議會は其權利なし |
| コンネクチカット | グリスウオード | 千八百十二年四月 | 殆んど上記と同一の理由 |
| バーモント | チッテンデン | 千八百十三年十一月十日 | 一州の兵力は絶對的に其州の防備の爲に保存せらるべきもの也 |
| 同上 | 同上 | 千八百十四年九月 | マコム大將が敵を防がんとするに際し民兵を出すが故に之に援助せず |
| バージニア | レッチヤー | | |
| ノースカロリナ | エリス | | |
| ケンタツキー | マゴフイン | 千八百六十一年四月 | 謀反 |
| テンネッシー | ハリス | | |
| ミツズリー | ジヤクソン | | |
| アルカンサス | レクター | | |

## 第九表

華盛頓の民兵及び義勇兵に對する所見左の如し。一七七六年九月二十四日、米國下院議長に宛てたる教書。

民兵に依頼することは猶ほ折れたる杖に依頼するが如し。家庭團欒の裡より徴發し來れる兵卒は固と干戈に熟れず、軍事上の訓練なければ臆病にして己れの影にも驚きて逃走せんとす、何となれば彼等は正則に訓練、若くは組織せられず、智識に於ても武裝に於ても自己より卓越せる軍隊に對抗する時は自信の念を缺けばなり。

且つ其生活の狀態、殊に宿舍の移動は幾多の病者を出し、各自其家庭に歸らんとの念燃ゆるが如く盛なるを以て恥べき逃走を敢てするのみならず、此感化を他人にも及ぼすなり。又無限の自由に慣れたる人々は、軍隊の秩序と其統御に必要なる制裁力に堪ゆる能はず。而して斯る制裁力なき場合には軍隊は放縱に陷り、凡ての不規律的行爲は盛んに行はるゝに至るなり。而して適當なる程度に軍人を服從せしむることは、一日一月、若しくは一年の能く爲し得べき所に非ざるなり。然り、五萬乃至十萬の常備軍を有して常給を支拂ふことは其半數の常備軍を置き他の一半は之を軍兵に待つよりは一層廉價なるべきは吾人の確信する所なり、民兵が民營にある間及び其以前の準備を合せて、給料の支拂を受くる時間、募集、及び募集の費用、彈藥の消費兵糧の消耗(議會の決議及び要求の如

何に關はらず是れ中央政府より供給せざるべからず、然らざれば釋放して家庭に歸らしめざるべからず)加ふるに他の必要なる附帶費用の支拂等を計算せば、實に意想外に出づ、而して民兵の參加は常備軍中に於ける秩序と經濟とを破壞すべし。若し此組織を繼續せんか、予の考へにては之れ米國の滅亡を來すべきは疑はざる所なり。

# 第十表

イ、

南北戰爭に於ける病死者は送還後に死せるもの多數なるを以て、詳細に其の數を知る能はず、綿密なる調査によれば病死者の統計中、戰場及び戰地病院にて死せるものは其一半に外ならずして少くとも他の一半(若しも一半以上ならずとするも)は其後に死せること明らかなり。即ち軍籍に在りて疾病に罹りて死せるものゝ數は左の如し。

將校兵士十九萬九千七百二十八

ロ、

米西戰爭の死傷は左の如し。

| 場所 | 戰死 | 病死 |
| --- | --- | --- |
| ヒリッピン | 一七人 | 二〇三人 |
| ポートリコ | 三 | 二六二 |
| 玖馬 | 二七三 | 五六七 |
| 米本土陣營 | | 二六四九 |
| 合計 | 二九三 | 三六八一 |

此戰爭に於ける米國陸軍平均數は約十七萬人にして、千八百九十八年九月十日の入院患者は十五萬八千人(即ち全軍の九割)の多きに達せり。

此等の兵卒は數月前に軍醫の體格檢査を行ひ合格したるものにして、其疾病及び死亡の多數なるは、身體虛弱にして無能なる爲にあらず、寧ろ米國軍事組織の價値なきか爲めのみ。 凡そ三萬八千人は米西戰爭に干與し、此死傷者は極めて少なかりしにも係はらず、四萬三千人に對する恩給金の要求は、合衆國の恩給事務所に提出せられたり。

八、

日本帝國海軍豫備軍醫總監高木男爵の病兵に關する報告左の如し。

吾人は疾病よりして兵士を失ひしと雖も、世界の歴史を通じて考ふるに我軍の記錄に匹敵するものは他になからん。 即ち戰死者四人に對して病死者一人の割合に過ぎざりしなり、是れに反して米西戰爭にては、戰死者一人に對し避け得べき病の爲に斃れたるもの十四人あり、左表は日清戰爭及び日露戰爭に於て、千人に對する病死者の比例なり。

| | 日露役 | | 日清役 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 病名 | 病者 | 死者 | | 病者 | 死者 |
| コレラ | 八二、八七 | 五〇、九六 | | ナシ | ナシ |
| チブス | 三七、一四 | 一〇、九八 | | 九、二六 | 五、一六 |
| マラリヤ | 一〇二、五八 | 五、二九 | | 一、九六 | 〇、〇七 |

日本は日露戰爭に於て百五十萬人の軍隊動員したるが、熱病に罹りし員數は九千七百二十二人にして其死者は四千〇七十三人なり。 赤痢は僅かに七千六百

四十二人にして、死亡者の數は千八百四人なり。

## 第十一表

日本人の合衆國に移住する者は同一なる待遇を受けたり。又每十年の移民數は左の如し。

| | |
|---|---|
| 一八九一年――一九〇〇年 | 二四八〇六人 |
| 一九〇一年――一九〇五年 | 六四一〇二人 |
| 一九〇五年――一九〇六年 | 一四二四三人 |
| 一九〇六年――一九〇七年 | 三〇二二六人 |
| 合　計 | 一三三三七七人 |

過去六年間に於ける合衆國の移民局の報告によれば、九萬百二十三人の日本男子は合衆國に來れり。カリフオルニアに於ける日本人は適齡に達せる男子七分の一以上を占む。

適齡に達せる白晳人種の男子。

二六二、六九四人

適齡に達せる日本の男子。　四五、七二五人

ワシントンに於ては適齡に該當する日本男子は、全男子の人口の九分の一に當る。

適令に達する白晳人種の男子。　一六三、六八二人

適齡に達する日本男子。　一七、〇〇〇人

## 第十二表

著者は軍事上の觀察點より探究をなしつゝ約七ケ月間を、サン、ジャキント。サン、ベルナルヂノ。サン、ガブリエル。テハチャピー。モジャベ。及び其附近の沙地に費やし、其旅程實に一千哩乃至二千哩に上れり。是等の結果は本書に於て論述したるが如し。

日米必戰論附錄 大尾

明治四十四年二月十日印刷
明治四十四年二月十三日發行



著者　米國　ホーマー、リー

譯者　望月小太郎
兼發行者　東京市芝區車町五十四番地

印刷者　三村勘市
東京市麴町區飯田町二丁目六十八番地

印刷所　公木社
東京市麴町區飯田町二丁目六十八番地

發行所　英文通信社
東京市京橋區八官町十八番地
電話新橋　四五九〇番　九一二三番